地上權、永小作權、或ハ外國法人ノ名義等ニ依リマシテ、土地所有權ノ實ハ擧ゲテ居ッタノデアリマス、今日マデ眠ッテ居リマシタ明治四十三年法律第五十一號ニ魂ヲ吹込ミマシテ、茲ニ法律トシテ實施セラレントスルニ至リマシタコトニ付テハ、外務當局ニ於テ何カ動機ガアッタノデハアルマイカト云フ御質問ガ委員會ニ於テアッタノデアリマスルケレドモ、既ニ當局ハ世界ノ大勢ニ順應シ、文運ノ慶昌ニ趨クニ伴ハレテ、大國ノ日本ガ此法律案ヲ公布シ、實施スルコトノ必要ニ迫ラレ居ル以外ニ、何等動機理由ハ無イト云フコトヲ聲明セラレタノデアリマス、併ナガラ今日マデ我ガ國人ニ外國ニ於テ土地ノ所有ヲ禁ジ、若クハ制限ヲ致シテ居リマスル國若クハ州ハ、何レモ我國ガ外國人ニ對シテ土地ノ所有權ヲ與ヘテ居ラナイト云フコトヲ口實ト致シテ居ルコトハ確ナル事實デアリマスルガ故ニ、此外國人土地所有法ト云フモノヲ公布致シマシタ曉ニ於テ、少クトモ是等ノ國若クハ州ガ此唯一ノ金城鐵壁タルベキ口實ト云フモノヲ失フコトダケハ事實デアラウト思フノデアリマス、委員ノ中ニ於キマシテモ、又我ガ國民ノ一部ノ間ニ於キマシテモ、我國ノ歷史的ニ、傳統的ニ、國士ヲ愛寵スル精神、此精神ヲ本法ノ發布ニ依テ傷ケルコト無キヤ否ヤト云フコトハ、頗ル懸念ニ堪ヘナイモノガアルト云フコトノ議論ハ、國民ノ間ヨリモ又委員ノ中ニモアッタノデゴザイマス、英國ガ印度ヲ領有致シマスル時ハ、東印度會社ナル一法人ヲシテ徐々ニ印度ノ土地ト云モノヲ所有セシムルコトニ端ヲ開イテ、遂ニ彼ノ印度ヲ滅ボシタノデアリス、亞米利加ガ布哇ヲ領有致シマスル時ニモ、同ジク私人ヲシテ順次ニ土地ヲ私有セシムルコトヲ段階トシ、遂ニ彼ノ布哇ヲ併セ有スルニ至ッタノデアリマス、是等ノ轍ニ鑑ミマシテ、政治的ニ、經濟的ニ、若クハ宗教的ニ野心ヲ逞ウシ、陰謀ヲ運ラシテ、我ガ今日經濟上ニ於テ甚ダ逼迫セル私人ノ土地ヲ徐々ニ、順次ニ大キナル占領ヲシテシマフト云フガ如キ實ヲ擧グルコトガアルマイカト云フコトハ、確ニ國民ノ間ニ橫ッテ居ル所ノ心配デアルコトハ相違ゴザイマセヌ、併ナガラ時運ハ進歩致シマシタ、斯ノ如キ事ガ今日ノ世界ニ行ハルベクモアラザルコトハ、正シク此一種ノ愛國ノ精神ニ富メル諸君ト雖モ深思熟慮セラレタナラバ、ソレハ杞人ノ憂ニ外ナラヌコトヽ信ズルノデアリマス、唯併ナガラ確ニ愛國者流ノ中ニハ、斯樣ナル考ヲ懷イテ居ラレル人ノ在ルコトハ相違ナイノデアリマスルカラシテ、政府ガ本法ヲ實施セラルルニ當リマシテハ、能ク斯ウ云フ一部ノ愛國者、國民諸君ニ對シ、諒解ヲ得ルノ途ヲ執ラレルコトハ必要デアラウ、同時ニ此法律案ノ精神ヲ發揮セラレマシテ、我ガ國人ガ海外ニ雄飛スルノ途ヲ開カレンコトヲ一同ノ委員ハ望ンダノデアリマス、貴族院ガ本法ニ加ヘマシタ修正、卽チ第二條ニ第二項ヲ加ヘマシタコト、第五條ニ第二項ヲ加ヘマシタコト、無記名株式ノ發行ヲ許シマス會社ノ資本總額、竝ニ議決權ノ數ヲ測定致シマスニ付テ、極メテ緊要ナル修正ト認メテ、是モ委員ハ贊成スルコトニ致シマシタ、以上ノ見地ノ下ニ、外國人土地所有法案ニ於ケル委員會ハ、出席員一致致シマシテ、貴族院ノ修正通リ本法案ニ贊成致スコトニ可決致シマシタ次第デアリマス、以上御報告致シマス

右ニ關シ津崎尙武君ハ左ノ如ク贊成演說ヲ爲ス

本案ハ形式ハ極メテ小サイヤウデアリマスケレドモ、案其モノ、實質ハ大キイ案デアリマス、精神的ニハ重大ナル法案デアルコトハ、只今委員長報告ノ通リデアリマス、吾ヽハ本案ニ固ヨリ贊成スルノデアリマス、ソレハ只今委員長ノ御報告ノ通リ、我國ニ於キマシテハ外國人ニ土地ヲ所有セシメルト云フコトハ、實質上許サレテ居ルノデアリマスカラ、實質上許サレテ居ルノヲ形式上ニ許スト云フコトニ反對スル譯ハナイノデアリマス、ソレト共ニ事實上外國人ガ日本ノ經濟ノ貧弱ナル爲ニ、廣大ナル土地ヲ有スルニ至リハセヌカト云フ只今委員長ノ御話ノヤウナ事ハ、明治初年以來、明治ノ末期ニ至ルマデ國民ノ大部分ガ之ヲ憂ヘテ居タノデアル、然ルニ今日ノ實情ハ、既ニ日本ガ經濟的ニモ斯ノ如キ憂ヘノナイコトヲ證明シテ餘リアルト思フノデアリマスカラ、此點カラ云ヒマシテモ吾ヽハ本案ニ贊成シテ差支ナイト思フノデアリマス、唯茲ニ願ミルベキコトハ、精神的ノ方面デアル、ソレハ只今委員長カラモ詳シク報告ガアッタノデアリマスガ、今日モ我國ニ於キマシテハ此問題ニ付テ相當ニ憂慮シテ居ラルヽ方ガアルノデアリマス、是ハ尤ナ事ト思フノデアリマス、併ナガラ吾ヽハ飜ッテ考ヘ

マスルト云フト、日本ノ國是ハ積極進取ガ國是デアル、開國進取ガ國是デアルノデアリマス、既ニ今日ハ日本ノ内地ノ土地ガ外國人ニ依テ廣ク所有セラレル憂ノナイ以上ハ、進ンデ海外ニ向ッテ發展ヲシテ行クト云フコトガ、日本ノ國是デナケレバナラヌノデアリマスカラ、之ヲ外國人ニ形式上土地ノ所有ヲ許スベキハ許シテ、サウシテ日本ノ國是ヲ遂行シテ行クト云フコトガ帝國當面ノ急務トシテ、吾ゝハ本案ヲ認メテ、サウシテ日本ノ國是ヲ遂行ニ資シタイト思フノデアリマス、隨テ此機會ニ於キマシテ、國民ノ中ニ從來憂ヘラレタコトハ之ヲ取去ッテ、積極的ニ日本ノ傳統ノ精神ニ從ッテ海外發展ヲ遂行スルト云フコトニ、政府ノ御努力ヲ願ヒタイコトデアル、又此機會ニ於キマシテ從來障碍トナッテ居ッタ、例ヘバ米國其他ニ於ケル邦人ノ土地所有ガ禁止或ハ制限セラレタコトニ對シマシテハ、之ヲ機會ニ政府ニ於キマシテ相當ノ措置ヲ講ゼラレ、此日本人ニ對スル土地所有ノ禁止ニ對シテ相當ノ緩和策ヲ講ゼラレルコトヲ切望致スノデアリマス、ソレト共ニ其他ノ外國ニ對シマシテモ、日本ニ於キマシテ歷史ノアルムヅカシイ此外國人土地所有ニ關スル問題ニ付キマシテ、其制限ヲ解キマシタ以上ハ、其他ノ外國ニ向ッテ日本人ガ發展シテ行クコトニ付キマシテハ、從來ハ此障碍ガアッタ爲ニ、亞米利加其他ニ於ケル如キ外交上ノ日本人ノ發展ヲ妨害スル如キ缺陷ガアッタノデアリマスケレドモ、今後ハ其口實モ既ニ無クナルモノデアリマス、無クナル機會ニ於キマシテ政府ハ相當ノ考慮ヲ拂ハレテ、此日本人ノ海外發展ニ關スル目的ヲ十分ニ到達スルコトニ努力セラレンコトヲ切望致スノデアリマス、其他國民ノ外國人土地所有ニ關スル憂ニ付キマシテハ、先程委員長ノ御報告モアリ、又只今申上ゲタ通リデアリマスカラ、此事ハ適當ナ方法ヲ以テ、更ニ國民ニ何等憂フル事ガナイ、憂フル事ガ無イト共ニ、國民ガ我ガ土地ヲ好愛スルコトガ強イナラバ、ソレヲ何處マデモ守ルベキハ守ルト共ニ、寧ロ積極的ニ海外ニ向ッテ發展スルコトヲ國民ニ指導セラレンコトヲ吾ゝハ切望シテ、本案ヲ贊成スルノデアリマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決確定シ卽日裁可ヲ奉請シ同時ニ其ノ旨ヲ貴族院ニ通知ス四月一日法律第四十二號ヲ以テ公布セラル

五二　議院法中改正法律案

（小字ハ貴族院修正）

議院法中左ノ通改正ス

第四十條ニ左ノ一項ヲ加フ

豫算案カ貴族院ニ移サレタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ二十一日以內ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ　但シ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ貴族院ハ議決ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得其ノ期間ハ通シテ七日ヲ超ユルコトヲ得ス

五三　貴族院令第六條ノ議員選擧ニ付衆議院議員選擧法中罰則ノ規定準用ニ關スル法律案

（——ハ貴族院修正）

貴族院令第六條ノ議員選擧ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ衆議院議員選擧法中罰則ノ規定ヲ準用ス但シ第百三十六條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本法ハ大正十四年ニ於テ行フ通常選擧ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際大正十四年ノ改正ニ係ル衆議院議員選擧法未タ施行セラレサル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ同法ハ既ニ施行セラレタルモノト看做ス

右兩案ハ孰レモ十四年三月九日貴族院ニ之ヲ提出ス同院ハ三月二十五日兩案ヲ修正議決シ卽日之ヲ本院ニ送付ス本院ハ卽日議事日程ヲ變更シ兩案ヲ一括シテ其ノ第一讀會ヲ開キ江木政府委員ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

御承知ノ如ク、現行制度ニ於キマシテハ、豫算案ハ衆議院ニ提出セラレマシタ場合ニ於キマシテハ、其院ニ於テ之ヲ受ケマシタ日ヨリ二十一日以內ニ審議ヲ了シテ、本會議ニ報告スルコトニナッテ居ルノデゴザイマスガ、是ト彼此權衡ヲ得セシメル爲ニ、貴族院ニ於キマシテモ同樣ノ規定ヲ設クルノ必要ヲ認メテ、改正案ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、更ニ從來多額納稅者議員ノ選擧ニ關スル犯罪處罰ニ付キマシテハ、現行ノ制度ニ於キマシテハ、僅ニ舊刑法ノ規定ノミガ存在致シテ居ルノデゴザイマスガ、如何ニモ不十分ノ憾ミガアルノデゴザイマシテ、他ノ多クノ議員選擧、例ヘバ府縣會議員、或ハ市町村會議員ノ選擧ノ場合ト同樣ニ、此多額納稅者議員ニ付キマシテモ、衆議院議員選擧法ノ罰則ノ規定ヲ準用致シタイト考ヘマシテ、之ニ關スル法律案ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、何レモ極メテ簡單ナル法律案デゴザイマスノデ、速ニ御審議ノ上協贊アラムコトヲ希望致シマス

作間耕逸君ハ左ノ動議ヲ提出ス

兩案ヲ一括シテ議長指名特ニ十八名ノ委員ニ付託シ、而シテ會期本日ニ盡キルノ折柄デアリマスカラ、特ニ議長ハ直ニ其ノ指名ヲ爲シ、續イテ直ニ委員會ヲ開キ、其結果ノ報告ヲ卽時本會議ニ爲スノ手續ヲ孰ラレムコトヲ望ミマス

院議異議ナク右動議採用ノ結果兩案ヲ一括シテ議長指名（十八名）ニ決シ直ニ議長之ヲ指名ス委員ハ直ニ委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末第一案ハ之ヲ修正議決、第二案ハ可決スヘキモノト決シ卽日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（第一案委員會報告書）

（——ハ委員會修正）

議院法中左ノ通改正ス

第四十條ニ左ノ一項ヲ加フ

豫算案カ貴族院ニ移サレタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ二十一日以內ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ但シ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ貴族院ハ議決ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得其ノ期間ハ通シテ七日ヲ超ユルコトヲ得ス

午後八時三十八分再會休憩前ニ引續キ會議ヲ開キ兩案ヲ一括シテ其ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長小山松壽君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今議題トナリマシタル兩案ニ付テノ委員會ノ經過竝ニ結果、其他內容ヲ御報告申上ゲマス、先ヅ議院法中改正法律案、此委員會ノ審議ヲ申上ゲマス、本案及規定準用ニ關スル法律案ハ、卽チ

貴族院改革ニ伴フ所ノ法律案デアリマス、本案ニ對シテ委員トノ間ニ質問應答ヲ盡シマシテ、審査ヲ經マシテ、現ハレマシタル理由ハドウデアルカト云フ御質問ガアリマシタ、其但書ヲ御參考ノ爲ニ朗讀致シテ見マス、即チ豫算案ガ貴族院ニ移サレテカラ、二十一日以内ニ審議ヲ終ッテ院議ニ報告スルト云フ此原案ニ對シテ、貴族院ハ「但シ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ貴族院ハ議決ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得其ノ期間ハ通シテ七日ヲ超ユルコトヲ得ス」トノ但書ノ修正ヲ致シタノデアリマス、之ニ對シテ政府委員ハ、豫算案ノ審議ト豫算關係ノ法律案ハ、貴族院ニ於テハ豫算審議以前ニ於テ其法律案ヲ審議スルノ慣例ニナッテ居ル、又豫算ヲ受取ッテカラ後ニ、會期差迫ッタ場合ニ於テ法律案ノ審議ヲスルコトモアルガ故ニ、彼此レ此點ヲ考ヘテ必要トシタモノデアラウト云フコトノ答辯デアリマシタ、此ニ於テ委員ヨリ然ラバ此修正ニ對シテ政府ハ同意ヲシタルモノデアルカト云フコトノ質問ガアリマシタガ、政府ハ明瞭ニ同意ヲセズト答ヘマシタ、結局左ノ論議ニ依リマシテ多數ヲ以テ可決致シマシタ、其要點ヲ申上ゲマス、第一ハ貴族院改革ハ國論デアル、豫算審議期間ヲ附シタルハ改革ノ意義ヲ有意味ナラシムルモノデアル、第二ハ衆議院貴族院兩院ノ機能ノ權衡ヲ保チ、政機ノ運用ヲ滑カニスル上ニ於テ必要デアル、第三ハ豫算ノ先議權ハ言フ迄モナク我衆議院ニ有スルモノデアル、第四ハ但書ニ對スル貴族院ノ理由ハ、只今政府ノ答辯致シマシタ其說明ハ意味ヲ成サヌモノデアル、而シテ政府ハ法律案ノ提出ニ付テハ、從來ノ慣習トモ見ラレテ居ル所ノ其舊弊ヲ打破シテ、其提出ヲ嚴ニスルナラバ審議期間ヲ延長スルト云フヤウナ但書ノ如キハ自ラ消滅スベキモノデアル、斯樣ナ希望ヲ述ベラレマシタニ付キマシテ、政府ハ御同感デアルト云フコトノ言明ガアリマシタ、右ニ依テ本案ハ只今申上ゲマシタ通リ多數ヲ以テ可決致シマシタ、而シテ之ニ對シテノ可決ニハ、卽チ貴族院ノ修正致シマシタル但書ヲ削除スベシトノ動議ガ出マシテ、之ニ贊成アリ、卽チ其贊成ニ依テ可決セラレタルモノデアリマス、次ニ貴族院令第六條ノ議員選擧ニ付衆議院議員選擧法中罰則ノ規定準用ニ關スル法律案、是ハ政府提出ノ原案ヲ認メテ滿場一致可決致シマシタ、唯此場合ニ御參考ノ爲ニ附加ヘテ申シ置キタイト思ヒマスルノハ「貴族院令第六條ノ議員選擧ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ衆議院議員選擧法中罰則ノ規定ヲ準用ス但シ第百三十六條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス」トアリマスル其但書ハ、卽チ連坐ノ規定デアリマスガ、是ハ勅令ノ定ムル所ニ依ルコトヽシテ、貴族院ハ削除致シタノデアリマスガ、我ガ衆議院ニ送付セラレマシタル原案ハ此但書ガ無イノデアリマス、右御了承ヲ乞ヒマス

可決致シタノデアリマス、仍テ只今申上ゲマシタ通リ滿場一致ヲ以テ本案ヲ

右ニ對シ岩崎勳君ハ左ノ如ク委員長ニ釋明ヲ求ム

委員長小山松壽君ノ釋明

一寸委員長ニ釋明ヲ求メテ置キマスガ、議院法中改正法律案ハ、要スルニ貴族院ノ附シタル但書ヲ削除スル、第二案ノ方ハ貴族院ノ但書ヲ削ッタ其修正通リニ委員會ハ決シタ、斯ウ云フ事ニ承ッテ宜シイノデアリマスカ

大體要ヲ摘ンデ簡單ニ御報告申上ゲヤウト致シマシタガ爲ニ、意味ノ徹底セナカッタ所ガアッタカト思ヒマスガ、只今岩崎君ノ御發議ノ通リデアリマス

院議異議ナク兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ第一案ハ委員會報告ノ通修正議決、第二案ハ可決確定シ卽日第一案ハ之ヲ貴族院ニ囘付シ第二案ハ裁可ヲ奉請シ其ノ旨貴族院ニ通知ス五月五日第二案ハ法律第四十八號ヲ以テ公布セラル

三月二十五日貴族院ハ第一案ニ對スル本院ノ修正ニ同意セサルニ決シ翌二十六日議院法第五十五條ニ依リ兩院協議會開催ヲ要求セリ

三月二十七日兩院協議會委員選擧ノ件ヲ院議ニ付ス作間耕逸君ハ委員ノ數ヲ十名トシ議場ニ於テ選擧スヘシトノ動議ヲ提出シ院議之ヲ採用ノ結果直ニ其ノ委員ヲ選擧ス委員ハ卽日議長及副議長ノ互選ヲ行ヒ引續キ兩院協議會ヲ開キ審査ノ末三月二十八日其ノ成案ヲ議長ニ提出セリ

（兩院協議會成案）

議院法中改正法律案兩院協議會成案

貴族院議決案ノ通トス

三月二十九日貴族院ハ右成案ヲ可決シ卽日本院ニ之ヲ送付ス卽日本院ハ同案ヲ院議ニ付シ兩院協議會議長武藤金吉君ハ兩院協議會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今議題ニナリマシタ兩院協議會ノ成績ヲ御報告致シマス、選擧セラレマシタ吾々協議員ハ、互選ヲ以テ議長、副議長ノ選擧ヲ行ヒマシテ、議長ニ私、副議長ニ横山金太郎君當選ヲ致シマシテ、直ニ兩院協議會ニ臨ミマシタ二十七日、二十八日ノ兩日ニ亙リマシテ、貴族院竝ニ衆議院交代ニ議長ノ任ニ當リマシテ、二十七日ニ於キマシテハ先以テ貴族院ニ於ケル所ノ但書ヲ加ヘマシタ說明ヲ要求シマシテ、岡野敬次郎君ヨリ說明ヲ承リ、且ツ質問應答ヲ續行致シマシタ、又一昨日ニ於キマシテハ、筆記ヲ止メマシテ懇談ニ移リ、更ニ質問ヲ繼續致シマシテ、昨日ハ討論ヲ致シ其結果御報告ノ通リ兩院協議會ハ貴族院議決案ノ通リ成案ヲ得タノデアリマス、其質問及討論ノ要旨ニナリマシタ大要ヲ御報告ヲ致シマスレバ、削除說ヲ唱ヘマス本院ノ側カラハ、四十條ノ豫算審査ノ二十一日ノ期間ト云フモノハ、兩院對等ガ相當デアル、又政機運用ノ上カラ之ヲ圓滑ニスルノ必要ガアル、又衆議院ハ建議案其他ノ質問等ガ輻輳ヲ致シマシテ、貴族院ヨリモ幾多ノ案件ヲ持ッテ居ルノデアルカラ、此二十一日ノ審査期間ト云フモノハ、兩院共ニ同日ニスル必要ガアル、又豫算審議權ノ事ニ付キマシテハ豫算先議權ガ衆議院ニアル、又豫算先議權ハ俗ノ言葉デ譬ヘテ申シマスレバ、衆議院ハ先客デアッテ貴族院ハ後客デアルト云フヤウナコトノ御答ガアリ、又討論ガアッタノデアリマス、又衆議院ガ豫算ノ審査ガ濟ンデ、貴族院ノ方ニ廻リマスカラ、貴族院ノ方ハ大體ノ上ニ於テ此審査濟ニナッテ居ルモノヲ參考トスルカラ、期日ハ延サナクテモ宜シイト云フコトニ對シマシテ、貴族院側デハ之ニ對シテ尙更ニ一ノ參考ニスルノガ殖エタノデアルカラ、日限ヲ餘計要求スル、併ナガラ貴族院側ニ於キマシテハ決シテ之ヲ濫用ハセナイ、又貴族院ノ方ニハ二十一日掛カラヌデ、二十日間デ豫算ノ審査ヲ終ッタコトモアル、近來第四十四議會、四十五議會、四十六議會、又當五十議會ニ於テハ、此二十一日ヲ越エタ豫算審査ノ日延ベヲ致シテ居ルガ、其前マデハ二十一日ヲ越エタコトハナイ、此規定ハ——但書ハ此通リ書イテ置キマスケレドモ、成ベク之ヲ濫用シナイコトニスルカラ、ドウシテモ此但書ノ必要ガアル、此已ムコトヲ得ザル事由ト云フコトニ付キマシテ如何ナル事ガ已ムコトヲ得ザル事由ダト申シマスルト、之ニ就キマシテハ貴族院側ニ於キマシテハ、近時豫算ノ膨脹ト共ニ此審査ニ暇取レル、又問題ガ輻輳スル爲ニ偶々豫算ノ審査期間ヲ延ス必要ノアル場合ニ、已ムヲ得ザル場合ニ使フノデアッテ、始終使ハウトスルノデナイト云フ說明及討論デアリマシタ、此問題ハ極メテ簡單ナ問題デアリマシテ、討論ノ結果貴族院案ヲ表決ニ付シマシタ所、當日ハ議長ガ衆議院ヨリ出テ居リマシタ爲ニ、貴族院案ハ十名、是ガ可決サレマシタ、念ノ爲メ更ニ採決ヲ致シマシテ、衆議院側ハ九名デ此成績ヲ得タ次第デアリマス、此段御報告ニ及ビマス

討論ニ入リ小山松壽君、濱田國松君及松田源治君ハ孰レモ成案ニ反對ノ演說ヲ爲ス

小山松壽君ノ反對演說

議院法中改正法律案政府提出ノ趣旨ハ、衆議院ノ豫算審査ト同樣、貴族院ヲシテ速ニ豫算ノ審査ヲ議了セシメ、由テ以テ國務ノ運用ヲ滑カナラシメントスルニ在ルノデアリマス、然ルニ貴族院

ハ但書ヲ追加シテ七日間ノ審査期限ヲ延長セントスルノ修正ハ、全ク提案ノ趣旨ヲ無意義ニスルモノデアルト思ヒマス、故ニ只今報告セラレマシタ兩院協議會ノ成案ニハ反對ヲ致シマス

濱田國松君ノ反對演說

本員ハ革新俱樂部同僚ヲ代表致シマシテ本案ニ反對ノ意味ヲ表明致シマス

松田源治君ノ反對演說

吾ミハ**遺憾**ナガラ兩院協議會ノ成案ニ反對致シマス

院議反表決ヲ以テ起立採決ノ結果全會一致ヲ以テ本成案ヲ否決セリ

第二　本院提出法律案

一　市町村義務教育費國庫負擔法中改正法律案

市町村義務教育費國庫負擔法中左ノ通改正ス

第二條中「四千萬圓」ヲ「六千萬圓」ニ改ム

附　則

本法ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

右兩案ハ孰レモ大正十三年十二月二十六日第一案ハ床次竹二郎君外二十名、第二案ハ增田義一君外四名之ヲ提出ス

翌十四年二月三日兩案ヲ一括シテ其ノ第一讀會ヲ開キ第一案提出者（元田肇君）、第二案提出者（增田義一君）ハ各案ニ付左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

第一案ニ對スル元田肇君ノ趣旨辯明

私共ノ提案致シテ居リマスノハ、市町村義務教育費國庫負擔法中第二條「四千萬圓」トアリマスヲ「六千萬圓」ト改メマシテ、附則ヲ「大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」ト云フ改正デゴザイマス、市町村義務教育費國庫負擔增加ノ必要ハ各政派多年ノ主張デゴザイマシテ、今ハ其得失ヲ論ズベキ場合デハナイト私ハ思ヒマス、今日論ズベキハ唯其實行ノ一日モ速ナランコトノ一點ニ在ルノデアリマス、ソレ故ニ私ハ本案提出ノ理由ヲ述ブルニ方リマシテ、義務教育費國庫負擔金ノ增加ヲ必要トスル根本趣旨ニ付キマシテハ、各派多年ノ主張ニ讓リマシテ、茲ニハ贅言ヲ致シマセヌ、茲ニハ唯其實行ノ一日モ速ナラシメナケレバナラヌト云フ次第ニ付テ一言致スノ

デアリマス、抑本問題ガ本院ノ議題ニ上リマシタノハ十數年以前ノコト、記憶致シマスガ、爾後國庫ニ於キマシテハ幾分ノ負擔ヲスルコトニナッテ居リマス、併ナガラ國民ノ負擔ハ益增加致シマシテ、之ニ加フルニ近時中央、地方共ニ民間經濟ノ不振ハ數年前ニ此問頭ノ起リマシタ當時ニ比スレバ、幾倍致シテ居ル、隨テ國民ガ負擔ノ重荷ニ苦ンデ居ルト云フコトハ益甚シクナッテ居リマシテ、是ガ爲ニ大切ナル義務教育ニ缺陷ヲ生ズルコト、ナリマシテ、國民教育上ニ容易ナラザル事態ヲ釀シツヽアルト云フコトハ、皆樣御同感ノコト、存ジマス、此實情ハ諸君總テ御周知ノ事デアリマスガ故ニ、諸君ハ現內閣ノ成立以前、卽チ昨年五月ノ總選擧ニ於キマシテ此事情ノ切迫シタルニ鑑ミマシテ、普ク天下民衆ニ向ヒマシテ義務教育費國庫負擔ノ增加ヲ實行スルト云フコトヲ聲明セラレタト存ジテ居リマス、勿論現內閣諸公始メ與黨諸君ガ、當時天下ニ聲明サレタ所ノ事項ハ、或ハ行政財政ノ整理、普選ノ卽行、貴族院ノ改革綱紀ノ肅正等多々アリマスルガ、普選問題トカ貴族院問題ノ如キハ、其成案如何ハ姑ク措キマシテ孰レモ直ニ國民ノ生活ニ觸ルモノデハナイト私ハ考ヘマス、固ヨリ大切ナ問題タルコトハ承知致シテ居リマスルガ、直ニ國民ノ生活ニ觸ルヽノ結果ヲ生ゼシメナケレバナラヌノデアリマス、行政財政ノ整理ニ至リマシテハ直ニ國民生活ニ觸ルヽノ結果ヲ生ゼシメナケレバナラヌノデアリマス、行政財政ノ整理ノ必要ナル理由ハ固ヨリ多々アリマセウ、併ナガラ整理ヲ斷行シタル結果ト致シマシテ、積極的ニ國民ノ福利ヲ增進スルノ施設ヲ立ツルカ、然ラザレバ國民負擔ノ輕減ヲ圖ルト云フコトニナラナケレバ、整理ノ目的ハ殆ド沒却サレタリト言ハナケレバナラヌノデアリマス、隨テ行政財政ノ整理ノ結果ヲシテ、少クトモ、國民全體ヲ通ジテ積極的ニ其惠ニ浴セシメ、若クハ消極的ニ其負擔ノ重荷ヲ輕カラシムルノ實アッテ、初メテ國民今日ノ慘狀ニ對應スルモノト信ジマス、義務教育費國庫負擔ノ增加ハ、一面ニ於テハ將來帝國ヲ荷フ所ノ青少年ノ品性ヲ陶冶シ、眞ニ立憲國民タルノ資格ト智能ヲ具ヘ其教育ヲ完全ナラシムベキ優良ナル教員ヲ得ルニ於テ、又其統一ヲ完ウスル上ニ於キマシテ、一日モ閑却スルコトノ出來ナイ喫緊ノ理由ガアリマス、同時ニ地方費負擔ノ重

荷ニ堪ヘザル國民ノ慘狀ヲ救フ最モ適切ナル所ノ政策デアルノデアリマス、サウ云フ譯デアリマスカラ、現內閣諸公ハ其公約ヲ履行スル上ニ於キマシテ、第一ニ之ヲ爲サナケレバナラヌ事デアルト私ハ信ズル、又與黨諸君ハ豫テ天下ニ聲明シタル事ヲ實ニスルノ公德ニ顧ミマシテ、現內閣ヲシテ之ヲ實行セシムルト云フ所ノ重大ナル責任ヲ諸君ハ持ッテ居ラレルコト、思ヒマス、諸君、私ハ諸君ガ全然之ヲ閑却シタリト決シテ申シマセヌ、考モ致シマセヌ、斯ノ如キハ諸君ノ國民ニ對スル德義ニ顧ミマシテ想ヒ得ナイ所デアリマス、併ナガラ世上傳フル所ニ依リマスレバ、諸君ハ濱口藏相ノ財源無シトノ拒絕ニ對シマシテ、加藤首相ノ慰諭ニ一任シテ止ンダト云フコトヲ傳ヘテ居リマス、濱口藏相ハ鐵道建設費ニ於キマシテモ財源ガ無イト云フコトデ固ク拒マレタ、又逓信現業員ノ優待費ニ付キマシテモ同一ノ主張ヲサレタ人デアリマス、然ルニ與黨諸君ノ熱烈ナル急迫、及犬養遞相ノ强硬ナル抗議ニ逢ヒマスルト、其主張ヲ飜シタルヲ見マスレバ、濱口藏相ノ財源ナシトノ抗辯ハ之ヲ信ズルコトガ出來ヌノデアリマス、況ヤ濱口藏相ハ首相ノ指揮ニ一任シタト云フコトデアル、財源ナキモノヲ大藏大臣ノ局ニ當ッテ首相ニ一任スルト云フコトハ斷ジテナイト私ハ思フ、既ニ任セルト云フナラバ、首相ガヤレト言ヘバヤルノデアッタラウト私ハ思フ、隨テ財源ナシト云フコトハ益信ズルコトガ出來ナイノデアリマス、加之其後ニ承ル所ニ依リマスレバ、濱口藏相ハ後ニハ十四年度ハ既ニ豫算ヲ編成シタコトデアルカラ、十五年度以降ニ於テ之ヲ考慮スベシト言フニ至ッタト云フコトデアル、此事ハ眞實ダラウト思ヒマス、果シテ眞實ト致シマスルナラバ、十五年度以降ニ之ヲ考慮スベキ所ノ經常財源ガアルナラバ、十四年度ヨリ之ヲ支出シテ、今日ノ國民ノ急ニ處スルノ手段ナシト云フコトハ、本員ノ斷ジテ信ズルコトノ出來ナイ所デアリマス、濱口藏相ガ他ノ各閣僚ノ要求ト與黨諸君ノ熱烈ナル請求ニ依リマシテ、逓信現業員優待費及鐵道建設費ニ於キマシテ、上ニ申シタ如キノ措置アルヲ見レバ、眞ニ國民ヲ救フノ誠意アランカ、斷ジテ十四年度ヨリ之ヲ支出スルノ途ナシト云フコトハ信ズルコトガ出來ナイノデアリマス、若シ然ラズト致シマシテ、漫然ト濱口藏相ノ來年度ヨリ考慮スベシトノ說ヲ信ジマシタナラバ、濱口藏相ハ實ハ申シタクハアリマセヌケレドモ、現內閣成立ニ直

前致シマシテ、而シテ時ノ政府ニ肉薄ヲ致シテ主張シタコトガアル、而モ濱口藏相ノ專門的事項トモ謂フベキ問題デアル、卽チ解禁問題デアリマスルガ、斯ノ如ク時ノ政府ニ肉薄シタル自己ノ專門的問題デアルニモ拘ラズ、其朝ニ立ツヤ忽チ其說ヲ飜シタノデアリマス、而シテ先日來此壇上デ議員ノ諸君カラ之ヲ責問致シマスト云フト、色ヽ言辭ヲ設ケテ一時ヲ糊塗シテ顧ミラレヌ有樣デアリマス、諸君ハサウ御覽ニナラヌカ知レマセヌガ、敢テ私ハ濱口君ヲ攻擊スルノデハアリマセヌ、濱口君ノ先日ノ答辯ハドウシテモ一時ヲ糊塗スルノ態度ヲ免レヌコトヲ認メタノデアリマス、斯ノ如キ次第デアリマスカラシテ、若シ本問題ニ付テ來年度ニ於テ考慮スベシト云フコトヲ諸君ガ信ジテ、其儘ニ放ッテ置ク云フコトナラバ、俗言ニ言フ鬼ガ笑フト云フコトガアルガ、其愚ニ陷ラヌト云フコトヲ誰ガ保證ガ付クモノデアリマスカ、斯ク申シマスルナラバ、濱口君ニハ甚ダ失禮デアル、甚遺憾ナコトハ……藏相ガオキデ寔ニ光榮ニ存ジマス、濱口藏相ガ出席セラレタコトハ甚ダ光榮ニ存ジマスガ、失禮ノヤウデアリマスケレドモ、私ハ政治的意見ニ於キマシテハ濱口藏相ト見解ヲ異ニスルコトハ多々アリマス、併ナガラ是ハ別ト致シマシテ、年來濱口藏相ハ私信ジテ居ッタ、私一人デアルト云フコトヲ信ジテ居ッタ、少クトモ私一人デアリマスマイ、至誠鯁直ニシテ眞ニ大臣ノ大節ヲ誤ラヌ大藏大臣ノ衝ニ當ッテ以來ノ經過ニ見マシテ、又本院ニ於テ答辯セラルヽ所ヲ見マシテ、私ハ甚ダ失望ヲ致シ、且ツ君ノ爲ニ痛惜致シテ居ルノデアリマス、顧フニ此事ハ不肖私一人ノ感ジデハアルマイト思フ、私ハ玆ニ濱口藏相ニ誠意ヲ披瀝致シマシテ一言致シマスガ、君ノ手腕ニシテ一タビ本問題ヲ斷行シヤウト欲スルナラバ、何ゾ十四年度一年度ノ財源無キヲ憂ヘンヤデアリマス、君ノ與黨中ニモ必ズヤ其財源ヲ提供スル人ガアルト云フコトヲ私ハ信ジテ居リマス、成程豫算編成後ニ於テ斯ル問題ノ追加豫算ヲ出サレルト云フコトハ、體面上大ニ考慮スベキコトハゴザイマセウ、併ナガラ此體面ト國民今日ノ慘狀ニ顧ミマシテ、之ヲ救フト云フコトニ比シマシタナラバ決シテ同日ノ談デナイノデアリマス、私ハ固ク信ジマスル、濱口君ガ本案ニ贊成シテ吾ヽノ希望ヲ通過スルト云フコトニナリマシタナラバ、君ノ體面ハ本案ヲ容レザルヨリ更ニ一層ノ光

ヲ放ツト云フコトヲ私ハ信ズルノデアリマス、更ニ內閣諸公ニ向ッテ一言ヲ致シマス、諸公ハ此國民ノ慘狀ヲ如何ニ見ラレルノデアルカ、今日ノ地方ノ慘狀、敎育費ノ多端ナルコトニ付テノ事柄ハ御同感デアラウト思ヒマス、此有樣ヲ內閣諸公ハドウ見ラレルノデアリマスカ、又國民ガ熱烈ニ希望シテ居ル所ノ此要求ヲ無視シテ、平然タルコトヲ得ルノデアリマセウカ、私ハ決シテ出來ナイコトデアラウト思ヒマス、殊ニ文部大臣、內務大臣、農商務大臣ノ如キハ最モ密接ノ關係ヲ持テオキデニナル御方デアリマスガ、諸公ハ如何ニ之ニ對シテ考ヘラレルデアラウカ、此等ノ諸公ハ何故ニ犬養遞相ガ部下ノ現業員ノ優遇ニ對シテ執リタル態度ニ倣ウテ、強硬ニ其目的ヲ達スルト云フ誠意ト勇氣ハ無イノデアルカ、更ニ犬養遞相ニ一言致シマスガ、君ガ遞信部下現業員ノ爲ニ努メラレタコトハ私ハ之ヲ多トシ致シマス、併ナガラ國務大臣トシテ國民全體ノ休戚ニ關スル本問題ニ付キマシテ、更ニ一步ヲ進ムルト云フ誠意ハ無イノデアラウカ、更ニ又加藤總理大臣ニ一言致シマスガ、首相ノ一斷、直ニ本問題ヲ解決スルノデアリマス、藏相ハ唯々トシテ之ヲ聽クニ相違ナイ、閣僚ハ喜ブ、喜バザルヲ得ヌ、文部大臣デモ、內務大臣デモ、農商務大臣デモ、喜バザルヲ得ヌ閣僚ハ之ヲ喜ブ、與黨ノ諸君ハ滿足スル、更ニ國民ノ其惠ニ浴スルヲ多シトスルノデアリマス、而シテ此斷ヲ下ストキニ當リマシテハ、內閣諸公、私ハ諸公ガ入閣以來今日ニ及バヌノデアリマス、內閣諸公、私ハ諸公ガ入閣以來今日云フコトガ一擧手一投足ノ勞モ費スニ及結果、其內外ニ對スル施爲措置ニ對シマシテ、決シテ滿足シテ居マデニ實行シタル整理ノ方針及結果、其他ノ事ニ於キマシテ、私共憂ル者デハアリマセヌ、內政ニ於テ、外交ニ於テ、將タ國防ニ於テ、其他ノ事ニ於キマシテ、私共憂慮ニ堪ヘヌコトハ一ニシテ足ラヌノデアリマスルガ、併ナガラ私ハ此問題ヲ議スルニ當リマシテ、諸公ヲ攻擊センガ爲ニ言辭ヲ費スノデハアリマセヌ、願クハ諸公、此問題ニ付キマシテハ國民ノ意思ニ副ハシメラレンコトヲ熱望スルノデアリマス、幸ニ諸公ガ飜然トシテ既往ノ計畫ヲ一擲ナサッテ、本案ニ贊成セラルヽト云フコトニナリマシタナラバ、獨リ本員ノミノ仕合セデハナイノデアリマス、更ニ與黨三派ノ諸君ニ申述ベマス、義務敎育費國庫負擔ノ理由ニ付キマシテハ、私ハ諸君ニ於テモ私等ト同感ナルコトヲ信ゼント欲スル者デアリ

マス、殊ニ多年此問題ニ付テモ盡瘁ヲ共ニシタル所ノ政友會諸君ニ於テ然リデアリマス、私ノ所信ニシテ果シテ達ハヌト云フコトデアリマスナラバ、諸君ノ希望ヲ全ウスルコトハ容易ナ事デアルノデアル、卽チ諸君ノ他ノ問題ニ於テ内閣ニ肉薄シタル其熱烈ヲ、本問題ニ傾注スルノ一事アルノデアリマス、而モ今日ニ於キマシテハ何等煩雜ナル手續ヲ要スルノデハナイ、卽チ諸君ハ唯本議場ニ於テ内閣諸公ニ同意ヲ促シ、白票ヲ投ゼラルレバソレデ濟ムノデアリマス、諸君、諸君ハ多年農村振興ヲ絶叫シテオキデニナルノデハアリマセヌカ、農村振興ノコトハ、先以テ國民普通ノ教育ヲ全ウシテ、其品性智能ヲ向上セシメ、其負擔ヲ輕減致シマシテ、農業發展、産業發展ノ餘力ヲ存セシムルニ在ルコトハ、何人モ異議ナキ所デアラウト思ヒマス、成程今日提案ニナリマシタ農商務大臣ノ提案ヲ見マスレバ、二百萬圓デアリマシタカノ基本金ヲ向ケルト云フコトデアリマス、洵ニ結構デアリマス是ダケデモ思出シニナツタ、コトヲ多ト致シマス、併ナガラ地方農民若クハ商工業ノ人々ガ背負ッテ居ル所ノ負擔ト云フモノハ、僅ニ二百萬圓位ノ金ヲ以テ今日救濟スルコトハ是ハ斷ジテ出來ヌ譯デアル、農村振興ノ聲ヲ大ニシテ、吾々ハ諸君ト共ニ數年來努メ々ミテ建議等モ致シテ居リマスガ、如何ニ其聲ヲ大ニ致シマシテ産業ノ不振ヲ痛慨致シマシタ所ガ、其實ガ之ニ伴ハズシテ、單ナル問題ノ如キモノデスラ之ヲ他日ニ讓ッテ平然タリト云フ有樣デアリマシテ、果シテ農村振興産業興隆ニ何ノ益ガアルデアリマセウカ、諸君、帝國數千萬ノ各階級ノ國民ハ、諸君ノ本案ニ贊成セラレンコトヲ環視熱望シテ居ルノデアリマセヌカ、願クハ諸君、一段ノ考慮ヲ費サレマシテ、滿場一致本案ヲ可決セラレンコトヲ切ニ望ム次第デアリマス

第二案ニ對スル增田義一君ノ趣旨辯明

義務教育費國庫負擔增額ヲ大正十四年ヨリ二千萬圓ヲ增額セントスル理由ヲ玆ニ說明致シマス、本員ハ昨年夏、特別議會ニ於キマシテ、全國小學校教員ノ俸給全額ヲ國庫ヨリ支辨シタガ宜カラウト云フ建議案ヲ提出致シマシタ、當時幸ニ諸君ノ拍手喝采ヲ受ケタノデアリマスガ、當時

ノ考デハ現内閣ハ財政、行政ノ根本的大整理ヲスルト云フコトヲ聲言サレマシタカラ、ソレナラバ十五億ノアノ大ナル豫算ノ中カラ、小學校教員待遇ノ意味、教育振興ノ意味、且ツ農村負擔ノ輕減、農村振興等ノ點ヨリ考慮シテ、此内閣ハ必ズヤ之ヲ實行サレルモノデアルマイカト申スノハ小學校教員ノ俸給全體デ一億二千九百萬圓デアル、其中既ニ四千萬圓ハ國庫デ支出ニナッテ居リマスカラ、アト八千九百萬圓デアル、是位ナコトハ此内閣ニ於テ必ズ爲シ得ラレルコト、確信シテ建議案ヲ提出致シタノデアリマス、然ルニ現ニ此教育費ノ國庫負擔增額ノ提案ヲ見ルヲ得ナイノハ甚ダ遺憾ニ堪ヘナイノデアリマス、半額ト云ヘバ實ハ六千四百五十萬圓デアリマスルノ俸給全額ノ約半額ニ達スルノデアリマスガ、僅ナコトデ約半額ニ近イ金額ガ國庫カラ支出サレルト云フコトハ、小學校教員ヲシテ精神的ニ非常ナ慰安ト滿足ヲ與ヘルノデアリマス、卽チ國家ガ認メテ教員優遇ノ發露ガ玆ニ現レタコトニナルノデアリマス、元來義務教育費ノ國庫負擔ノ教育上ニ於ケル重大意義ハ――國民教育ヲ受ケルコトガ國民ノ義務デアルノデアル、萬人ヲシテ平等ニ教育ノ機會均等ヲ得セシメルコトガ、實ニ國家ノ義務デアルト共ニ社會安定ノ第一歩デアル、家ノ貧富、市町村ノ貧富ニ依ッテ教育ノ程度ヤ内容ニ差等ノアルコトハ、是ハ教育上許スベカラザルコトデアル、何人モ教育ヲ受ケル機會均等ヲ國民トシテ有スルニ拘ラズ、現在ノ狀態ハ如何デアルカト申シマスレバ、市町村ノ經濟ノ富裕ナル所ハ優良教員ヲ迎ヘルコトガ出來マスガ、之ニ反シテ財政ノ貧弱ナル町村ニ於テハ、優良ナル教員ヲ迎ヘルコトガ出來ナイノデアリマス、教員ノ善イト惡イトハ兒童ノ成績上ニ重大ナル關係ガアルノデアリマス、此意味カラ致シマスレバ、國家ガ國民教育ノ費用ヲ負擔スルコトハ當然ノ義務デアルノデアリマス、現在新聞紙ノ傳フル所ニ依レバ、山梨縣ニ於テ小學校教員ニ俸給ヲ支拂フコトガ出來ナイト云フ町村ガアルデハアリマセヌカ、國民ノ基礎教育ヲ掌ル小學校教員ハ、兒童ニ向ッテ偉大ナ感化力ヲ持ッテ居ル、又一面ニ地方青年ヲ指導スル地位ニ立ッテ居ルノデアリマス、此教員ノ善クナルト惡化スルトデ

ハ、地方ノ青年ノ指導ニ影響スルコト極メテ重大デアルノデアリマス、或ル意味カラシテ成ベク小學校教員トシテ比較的優良ナル人格者ヲ迎ヘルコトハ最モ急務中ノ急務デアルノデアリマス、小學校教員ノ精神的獨立ヲ保ツ上ニ於テハ、ドウシテモ全額國庫支辨デナクテハナリマセヌケレドモ、今日ノ財政ノ狀態ニ鑑ミマシテ、直ニ全額負擔ト云フコトハ出來ナイカラ、二千萬圓增シタイト云フノハ意味ハ其所ニ在ルノデアリマス、一體帝國將來ノ繁榮ヲ圖ル根本策ハ何デアルカト云フト、國民教育制度ヲ完全ニシテ、優良ナル兒童ヲ造ル、卽チ帝國將來ノ發展ヲ決定スルモノハ現在ノ小學校兒童及將來ノ小學校兒童デアル、此人間ヲ造ル所ノ小學校教員ニ優良ナル人物ヲ迎ヘ、一面ニ於テ彼等ニ完全ナル教養ヲ與ヘルト共ニ、強キ人格的ノ印象ヲ與ヘテ、立派ナル人間ニ造ルト云フコトガ最モ必要ナノデアリマス、ソレニハ國家ガ教員ヲ優遇スル途ヲ開イテ、優良ナル人物ヲ教育界ニ迎ヘルヨリ外ニ名案ガナイノデアリマス、近年地方經濟ガ膨脹致シマシテ、農村負擔ノ增加著シキコトハ論ノナイコトデアル、其大部分ハ教育費ノ負擔デアル、今ヤ農村ハ負擔ノ重キニ苦ンデ、是ガ輕減ヲ望ンデ居ルノデアル、農村ノ振興ノ聲盛ナノハ是ガ爲デアル、義務教育費ノ國庫負擔ノ增額ハ言フマデモナク農村ノ負擔ヲ輕減シ、同時ニ農村振興ニ對スル卽效藥デアリマス、此位一般的デアッテ、全國町村ニ良キ影響ヲ與ヘ、極メテ普遍デアルノハ此以上ノモノハアリマセヌ、假令或ル租稅ヲ輕減致シマシテモ、ソレハ或ル部分ニ於テ、或ル範圍ニ止ッテ廣クハナイ、獨リ此小學校教育費ノ國庫負擔ノ增加ハ、一般的ニ、普遍的ニナルカラ、茲ニ效果ガ偉大デアルト云フコトヲ斷言スルノデアル、無論、現內閣ハ本案ニ御贊成デアル、現ニ濱口大藏大臣ハ此壇上ニ於テ、大正十五年度カラ約半額ニ近イ二千萬圓見當ヲ增額スルト云フ恆久的財源ヲ御持チデアルナラバ、何故ニ十四年度カラ剩餘金ノ中カラ支出シナイノデアリマスカ、尤モ大藏大臣ハ恆久的歲出ハ恆久的財源ニ據ラネバナラヌト云フ極メテ純理論ニ立脚セラレテ居ル、成程學理トシテ、殊ニ濱口藏相ハ自己ノ主張ニ忠實ニシテ、理論ニ對スル所ノ說ヲ固持セラルヽ所ノ人格、識見ニ對シテハ、敬意ヲ表シマス、併ナガラ活キタル政治ヲ施ス政治家ト云フモノハ左樣ニ頑固

デハナイダラウト思ヒマス、剩餘金ハドウデアルカト云ヒマスト、大正十四年度以降豫算計畫上歲入不足ノ補塡ニ充當スベキ見込額トシテ二億二千百七十萬圓計上サレテアリマス、此中ニ色色追加豫算ヲ出サレルノデアリマセウガ、是ハ將來ノ歲入不足ノ補塡ニ充ルト云フ見込デアル、將來果シテ歲入不足ニナルデアルヤ否ヤ、私ハ敢テ言フ、財源ト致シマシテハ、十四年度ノ豫算中デ所得稅ハ大正十一年度ノ實收ニ比シテ七百萬圓少ク見積ッテアル、何故ナレバ現ニ數字ハ之ヲ示スノデアル、大正十四年度ノ豫算ノ專賣收入ハ十二年度ノ實收ヨリ六百萬圓少ク見積ッテアルデヤアリマセヌカ、酒造稅ニ至ッテハ其持越ガアルト云フ理由ノ下ニ、二千百萬圓少ク見積ッテアルデハアリマセヌカ、ノミナラズ現ニ日露交涉ガ成立致シマシテ、樺太駐屯軍ガ五月マデニ引揚ゲルト云フコトニナッテ居ル、是ガ一年ニ五百萬圓計上シテアリマスガ、恐クハ引揚費等ヲ差引マシテ三百萬圓位殘ルデアラウト想像サレルノデアル、斯樣ニ財源ヲ調ベテ見ルト相當ニアルデハナイカ、從來大藏省ノ屬僚諸君ノ歲入歲出ノ計算ハ、歲出ハ餘分ニ見積リ、歲入ハ內輪ニ見積ルト云フ習慣デアルカラ、年々歲々剩餘金ガ澤山出ルノデアル、現ニ大正十二年ト云フアノ震災ノ時ハドウデシタカ、アノ十二年ノ大震災ニ於テ所得稅、地租、營業稅等ノ收入ハ減リマシタニモ拘ラズ、斯ル巨額ノ剩餘金ガ出ルト云フコトハ、從來歲計ノ見積ガ歲出ヲ餘分ニ見積リ、歲入ヲ內輪ニ見積ッテ居ルト云フ證據デアル、尤モ現內閣ハ幾分カ其點ハ實行豫算ニ近イ數字ヲ調ベラレタトハ承ッテ居リマスケレドモ、本員ガ以上述ベル所ニ依ッテ、此財源ハ捻出セラレルト信ズルノデアル、大藏大臣ハ無イ袖ハ振レヌト仰シヤイマシタ、私ハ茲ニ大藏大臣ノ鐵道建設費ニ千三百萬圓捻出サレタコトヲ敢テ咎ムル者デアリマセヌ、又遞信省ノ從業員優遇ノ爲ニ五百萬圓捻出サレタコトヲ、是モ敢テ咎ムル者デアリマセヌ、所デ大藏大臣ガ無イ袖ト思ッテオキデニナル袖ハ、何ゾ圖ラン內ノ方ヘ折返シテアッテ、ソレニ御氣附ガナイノデアリマセヌカ、出セバ出ル袖ヲ內輪ヘ折込シデアルト、私ハ思ハレルノデアリマス、想ヒ起ス西曆千九百九年ニ「ロイド、デヨーヂ」氏ガ大藏大臣トシテ英國ノ財政政策ニ

根本的大革新ヲ加ヘ、社會政策ヲ加味シタル所ノ大抱負ヲ以テ議會ヘ臨マレタコトヲ諸君ハ記憶スルデアリマセウ、私ハ濱口藏相ニ「ロイド、デヨーヂ」氏ガ始メテ大藏大臣トナッタ時ノ、アノ抱負ヲ實現サレルコトヲ實ハ望ンデ居ルノデアル、又更ニ想ヒ起スノハ、歐洲大戰中ニ英國ニ於テ彼ノ「アスキス」內閣ノ下ニ於テ「フイッシャー」文部大臣ガ教育改善案ヲ提出シタコトハ、諸君ハヨモヤ御忘レニナラヌデアラウト思フノデアリマス、此事ヲ私ハ岡田文部大臣ニ申上ゲ見タイ、其「フイッシャー」ノ教育改善案ガ議會ニ採用サレタノハ、最モ當時世界ノ人心ヲ非常ニ緊張セシメタノデアリマス、彼ノ改造案ノ中デ最モ注目スベキハ教員待遇ノ一條デアル、即チ同案ニ於テハ小學校教員及中等學校教員ニ優秀ノ人物ヲ入ルヽニハ、須ク高給ヲ出シテ之ヲ迎ヘナケレバナラヌト云フノガ根本主義デアルデアル、最モ重要ナモノデアル、ソコデ此事情ノ下ニ國庫補助金ノ增額ヲ要求シタノデアリマス、時恰モ戰時多端ノ折柄デアルニ拘ラズ、上下兩院共ニ熱心ニ之ヲ歡迎シテ、ソシテ教員優遇ヲ實現シタノデアリマス、斯ノ如クシテ千九百十九年ニ其教育費豫算ノ上ニドウ現レタカト云フト、四億千二百萬圓デアリマス、ソレハ前年ニ比シマスト一億五千八百萬圓ノ增加デアル、卽チ四億千二百萬圓ノ此總額——巨額ノ中ニ三億八千七百萬圓、卽チ九割四分ガ初等及中等教育費デアリマス、我ガ文部省ノ十四年度ノ大學以下總テノ總豫算ノ費用ハ幾ラデアリマスカ、九千八百萬圓デアリマス、之ヲ中等及初等學校ノ爲ニ三億八千七百萬圓ノ國庫負擔ヲ出ストイフコトニ比シテハ、天地霄壤ノ差ガアルト思フノデアリマス、我ガ岡田文部大臣ハ目下我國社會ノ狀態ニ鑑ミテ「フイッシャー」ノ考ニ對シテ、嘸ヤ御考ガアルコトヽ思フノデアリマス、私ハ大藏大臣、文部大臣共ニ思ヲ深クヽヽ茲ニ致サレンコトヲ切望スル、更ニ又列國ト日本トノ義務教育費ノ國庫負擔ノ割合ニ比ベテ見ルト、英吉利ハ八割三分デアル、佛蘭西ハ七割三分、亞米利加ハ六割一分、獨逸ハ六割、我ガ日本ハ僅ニ一割六分ニシカ過ギナイノデアリマス、我國ノ全國市町村ノ教育費ノ總額ハ二億四千萬圓デアリマス、此中小學校、高等女學校、中學校等ノ市町村及縣費ト合セテゞアリマスガ、其二億四千萬圓ノ市町村教育費ノ總額ノ中デ、國庫ヨリ四千萬圓シカ補助ヲシテ居リマセヌカラ、卽チ六分ノ一デアル、二億四千萬圓ニ對シテ、四千萬圓ノ國庫支出ハ卽チ一割六分ニシカ過ギナイノデアリマス、國庫負擔ノ增額スベキコトハ當然過ギル當然デアリマス、以上述ベ來ッタ理由ニ照シマシテ、義務教育費國庫負擔ヲ增額シ、近キ將來ニ於テハ、小學校教員ノ俸給金額ヲ國庫支辨ニシタイト云フ私ノ理想ノ下ニ、先ヅ取敢ヘズ十四年度ニ於テ二千萬圓ヲ支出セラレンコトヲ希望シテ止マヌ者デアリマス

右ニ關シ田淵豐吉君、菊池謙二郎君、高田耘平君ハ提出者竝政府ニ對シ質疑ヲ爲シ元田肇君、增田義一君、岡田文部大臣及加藤內閣總理大臣之ニ應答ス

田淵豐吉君ノ質疑

諸君本問題ハ非常ニ重大ト考ヘルノデアリマス、其考ヘ方ニ於テ違ッタ所ガ無イカ知ラヌト思ッテ、茲ニ提案者ニ對シテモ質問ヲシタイ、殊ニ元田君ニ對シテ質問ヲシタイ、又進ンデハ政府ノ此教育ニ對スル點ニ付キマシテ質問ヲ致シタイト考ヘルノデアリマス、暫クノ間御淸聽ヲ願ヒマス、一面カラ申シマスレバ此問題ハ諸君ガモウ殆ド滿場ノオ方ガ御贊成ノ案デアルヤウニモ聞イテ居ルノデアリマス故ニモウ提案スル者モ亦提案サレタ者モ、既ニ大體分ッテ居ル等デアル、故ニ之ヲ又此處デ私ガ之ニ質疑スルト云フ事ヲ考ヘテ見マシタケレドモ、質疑シテ提案者及ビ政府ノ意思ヲ確メテ置ク云フコトガ國家ノ上ニ重大ナル影響ヲ及ボスト云フ、他ノ觀念カラ私ハ此ニ立ッタノデアリマス、ソレハ何ヲ申スカト云ヒマスルト云フト、諸君モ御承知ノ通リ物ハ其物ノ必要ノ程度ニ從ッテ、其物ヲ作ル所ノ度合ガ違ッテ來ルノデゴザイマス、一方カラ申シマスレバ政治デモ總テノ問題デモ其目的トスル所ノ其目的ヲ遂行スル所ト云フモノト、互ニ密接ナル關係ヲ有ッテ居ル、故ニ教育ト云フモノガドレ程必要アルカ、國民教育、普通教育ト云フモノガドウ云フモノダト云フ事ガ分ラナケレバ、之ヲ如何ニシテヤルカト云フ所ノ根柢ガ定マラナイ故ニ一寸聞ケバ本無ノ元田君ノ言ハレタコトガ分ルヤウデアリマスケレドモ、間違デハゴザイマスマイケレドモ、念ノ爲ニ私ハ聞イテ置キタイ、ソレハドウデアルカト云

フト、第二ノ提案者ノ說明ニ於テ幾分カ其意義ノアル所ガ分ッタガ、徹底的デナイ憾ミガアルノデ、之ヲ徹底シタイト云フ私ノ考デアル、詰リ大キク申セバ此國民教育ト云フモノガ果シテ國家ノ義務ニ屬スルヤ否ヤト云フコトノ問題ヲ、強ク鋭クソレヲ聽カウトスルノガ私ノ質疑ノ一ツノ如何ニ依ッテ是カラ生マレテ行クモノガ違フコトニナッテ來ル、金ガ無イト申シマスケレドモ、今日戰爭ガ起レバ日ニ千萬圓ヤ二千萬圓ノ金ハドウシテモ搾リ出サナケレバナラヌト云フコトニナッテ來ル、其必要及ビ切迫ノ度合如何ニ依ッテ是ガ定マル問題デアッテ、ソレガアヤフヤデアレバ一年待ッテモ宜イデヤナイカ、後デ出セバ宜イデヤナイカト云フコトニナッテ、問題ノ根柢ハドウカト云フ、其根柢ヲ質サナイカラ安イトカ高イトカ云フコトハ言ヘナイコトニナルノデアリマス、惡ク言ヘバ水掛論、斯ウ云フ譯デアリマス、此根柢ヲ明ニスル必要ガアルノデ私ハ此壇上ニ登ッタノデアルガ、諸君、一般選擧ト云フヤウナ事ガ起ッテ來テ居ル、一般選擧トハ何デアルカト云フト普通選擧デアル、此內容ヲ充實スル爲ニハ教育ノ力ニ俟タナケレバナラヌト云フコトヲ申サレテ居ル、故ニドウシテモ此教育ト云フ事ニ重キヲ置カナケレバナラヌ、又進ンデハ其他強制ノ兵役、卽チ負擔ノ勞役ノ義務ヲ有ッテ居ル、日常勞役ノミデハナイ、戰爭ノ時ニハ生命ヲ賭シタ所ノ大ナル國家的奉仕ヲシナケレバナラヌト云フ「コンパルシーブ」、強制的ノモノヲヤッテ居ルノデアリマス、聞ク所ニ依リマスルト小學校ノ教員ハ誰ヲ使ヘ、俸給ハドウセイ、學校ハドウ造レト云ッテ悉ク之ニ向ッテ制肘ヲ加ヘ、國家ト云フ定規ニ向ッテ之ヲヤラウトシテ市町村ノ意嚮等ヲ顧ミナイラシイ、山梨縣デアッタト思ヒマスガ、教員ニ給料ヲ拂ッテ寃レナイカラ教員自身ガ村役場ノ取立テルモノヲ直接ニ他カラ取ッタト云フヤウナ事實ガアルヤウニ報ゼラレテ居ル、斯ノ如キコトヲ英國ノ人ミガ見タナラバ、之ヲ何ト言ヒマセウカ、是ハ一面教員ガ惡イノデモナケレバ、其市町村ガ惡イノデハナイカモ知レヌ、教員ヤ役場ノミヲ責ムルノハ酷デアルト思ヒマス、卽チ國家ガ大責任ヲ負ハセナガラ其責任ヲ果ス所ノ準備ガ出來テ居ナイカラデアルト私ハ信ジテ疑ハヌノデアリマス、是ハ實ニ大ナル醜態デアル、サウ云フヤウナ意味カラ私ハ思フノデアリマス、ソレカラ御存ジノ通リ此義務教育ノ年限ノ延長ト云フコトハ重大問題トナッテ居ル、私等ハ此義務教育ノ年限ヲ延長シテサウシテ國民ニ良イ環境ヲ與ヘ、教育ヲ與ヘテ改善ヲスルト云フコトハ產業、或ハ經濟、或ハ思想、或ハ人格ノ上ニ於テノ根本的議論デアリマス、教育ハアルモノヲ創造スル力ヲ與フルコトモ多イコトハ明ナル事實デアル、之ヲ等閑ニ附シテ綱紀肅正ダトカ、奢侈關稅ダトカ言ッテ見タ所ガ、ソレハ枝葉末節デ何等核心ニ觸レタモノデハナイト云フコトハ宜クナイト思ヒマス、獨逸ノ諺ヤウニナッテ居リマシタ、卽チ「ウエヤシユタンド、ネヤースタンド、レアーシユタンド」卽チ軍備ト云フモノト、經濟ト云フモノト、教育ト云フ、此三種ノモノハ一國ノ根本デアルト云フコトニナルノデアリマス、然ルニ我爲政者ハ之ニ對スル所ノ計畫及ビ態度ハドウカト云フト、東京市デモサウデアル、東京市ハ震災ニ遭ッテ氣ノ毒デアルカラ金ヲ出シテヤル、建築會社ニ金ヲ出ストカ云ッテ其方ニハ持ッテ行クガ、此國家ノ義務ニ屬スルモノヲヤラヌト云フコトハ、國民ノ大ナル不滿ヲ買フ所以デアルト私ハ信ズル、故ニ元田君其他ノ人ミ、或ハ增田君、及ビソレヲ「サツポート」スル、卽チ支持スル人ミガ果シテ是ガ國民ノ義務デアルカラ、ドウシテモ果サナケレバナラヌモノデアルト云フコトノ見解カラ御起チニナッテ居ルノカドウカ農村振興トカ、或ハ地方ノ救助トカ、國民ノ熱望ト云フコトニ向ッテ立脚サレテ居ルカ否カト云フ事ヲ聽キタイノデアリマス、私カラ見レバ是ハ枝葉末節ノ問題デアルトモ見エマス、成程教育ノ爲ニ都市ニ於テハ二割或ハ三割或ハ農村ニ於テハ六割、七割、八割モ教育費ニ取ラレ、餘力ガナイカラ產業ハソレガ爲ニ萎微沈滯シテ振ハヌ、東京ノ百圓ト田舍ノ百圓トハ其ノ價値ガ違フト云フヤウナコトデ、サウ云フ狀態デ今日農村ノ振興ト云フコトハ必要デアリマセウ、殊ニ小農保護ト云フコトハ必要デアリマス、之ヲ救濟スルコトノ實ニ適切ナルモノガアリマス、併ナガラ此義務ニ屬スル所ヲ以テ唯補助ヲヤッタラ救濟ニナルト云フヤウナ意味カラデアルナラバ、二千萬圓今ヤッテモ又三年ニ三千萬圓トチク〳〵小出シニシテ、其都度喧嘩シナケレバナラヌコトニナリハシナイカト云フコトヲ私ハ虞レルノデアリマス、農村振興ニ付テハ私ハ反對スルノデハナイ、私ハ紀州ノ者デアリマス

ガ紀州ノ或村ノ人ガ地租委譲ヲヨリモ此教育費國庫負擔額ノ增加ニ依ッテ町村ガ助カルト云フコトヲ言ッテ居ルノヲ聞キマシタ、實ニ今日農村ノ狀態ハ慘メナモノデゴザイマス、銀行デモ總テノ金融機關デモ中央ニ金ヲ送ル、政府ノ設備デモ、鐵道改良事業デモ、悉ク都市ダケデ、復興事業デ多數ノ金ガ集マルケレドモ、町村ニ行ッタラ實ニ慘メナモノデアル、國家ガ當然ノ義務ヲ負擔シナイデ之ヲ人委セニシテ居ル、唯々諾々タル彼等ニ向ッテ教育設備ヲ强ヒテ其金ヲ充分出サヌト云フノハ如何ナル狀態デアルカ、故ニ私ハ元田君ニ向ッテ農村振興結構デアルガ、其意味カラ云ッテ國家ノ義務ニ屬スルカ否カト云フコトヲ聞キタイノデアリマス、元田君其他ノ人ハ今日二千萬圓增シテモ又玆ニ數年ノ彼ニドウ云フ態度ニ出ルデアラウカト云フコトヲ恐レルカラ、是ハ義務ニ屬スルカ否カ、唯氣ノ毒ダカラ負擔ヲスルト云フノデアルカ、ハッキリシナイカラ一寸聞イタヤウナ次第デアリマス、ソレカラ第二點ハ此二千萬圓ト云フ金ハ何處カラ割出シテ來タ金デアルカト云フコトヲ聞キタイ、詰リ國家ガ金額ヲ出サレナケレバナラヌノデアルケレドモ、現在ノ財政經濟狀態デハ旨ク行カヌカラト云フノデ、ソレデ二千萬圓ニスルノカドウカ、其財源ガ見付カッタラソレデヤルト云フノカ、或ハ又政府ノ當然ノ義務ニ屬スルカラ何トカ財源ヲ見付ケテヤレト云フノカ、ソコノ答辯ヲ願ヒタイ、大分ソコカラ、問題ガ違ッテ來ルト思フノデゴザイマス、私ガ斯ウ云フコトヲ申スノハ現在ノ小學校教員ヲ優遇シナイ或ハ地方ヲ涵養シナイデ枝葉末節ニ馳ッテ色々ノ政策ヲ此所デ爭ッテモ、ソレハ上ッ面ノ問題デアル、根本問題カラ決メナケレバナラヌト思フカラ、之ヲ言フノデゴザイマス、政友會モ矢張此增額ニ就テ是迄贊成ヲシテ居ッタ、革新俱樂部モ贊成ヲシテ居ッタ、然ルニ唯現在ハ金ガ無イカラヤレナイ、依久財源ガ無ケレバヤレナイト云フケレドモ、一年ヤ二年ハ借入金デモ出來ル、問題ハ必要デアルカドウカ、義務ニ屬スルカ否カト云フコトニ依ッテ大ナル問題ガアル、サウ云フ點ヲ考慮シナイデ色々喧嘩シタ所ガ結局水掛論デアル、謂ハバ町村デヤッテ居ルデハナイカ、教育ヲヤラヌノデナイカラ宜イデハナイカト云フ議論モアル、併シ一方カラ云ヘバ義務ニ屬スルモノデアルカラ國家ガ出シテモ國家ノ金ガ減ル譯ハナイ、貧村モアレバ富村モアル、富豪

モアレバ貧者モアルカラ、社會政策ト云フ見地カラ見テモ之ヲ平均シタ所ノ率ヲ以テ國家教育デアルカラ、一般ニソレヲヤッテ、一般ニ最モ有效ニ最モ精神的ニ將來ノ國家ニ大ナル關係ヲ及ボス所ノ教育上ニ之ヲ使ッタ方ガ宜シイト云フコトヲ認メナイノデアルカ、綱紀肅正ト云ヒ、或ハ又大ニ官紀ノ紊亂ヲ防イデ大ニ國民ノ心氣ヲ新タニスルト云フケレドモ、國家ノ大切ナルモノハ軍人デアルカモ知レヌガ、永久的ニ云ヘバ寧ロ教員又ハ小學兒童デアルカモ知レヌ、此重大ナ根本ヲ忘レテ枝葉末節ノ問題ニ就テ言ッテ居ルト云フコトハ如何ニモ解セヌノデゴザイマス、私ハ此與黨ノ諸君モ大ニ考ヘラレナケレバナラヌト云フコトデハイカヌト思フ、政府ハ二年モ、三年モ續キハシナイ、今年カ來年ノ初メニ罷メル、先キノ事バカリ言ッテ居ルト云フコトハ宜クナイト思フ、先ヅ最モ健實ナル所ノ方策ヲ執ッテ、ドウシテモ斯ンナチッポケナ金額デハイケナイ、モット澤山出サナケレバナラヌ問題デハナイカ、斯ウ云フモノガ帝國議會ノ大問題ニナルト云フコトハ之ハオカシイノデ、譯ノナイコトデアル、故ニドン〳〵出シテ必要ナルモノハドン〳〵出シテ、仕方ガナケレバ借入金デモシテヤレバ宜イ、幾ラモヤッテ居ルノデアル、ソレデ又農村デモ段々枯レテ居ルト云フコトヲ知ラナイ、國ガ危ナイノハ外カラ來ルカラ危ナイノデアル、之ヲ知ラナケレバナラヌ、其問題ノ根柢ニ觸レナイノハ駄目デアルト思フ、故ニ諸君モ大ニ考ヲ改メルト共ニ、提案者モ能ク此國家ノ義務ニ屬スルヤ否ヤト云フコトニ付テ、後來本黨ノ諸君ガ政權ヲ執ルカ執ラヌカ知ラヌケレドモ、其意味カラ大ニ聞イテ置カナケレバ、又今旨イ事ヲ言ッテ置イテ、後デドウ云フコトヲスルカ分ラヌカラ聞キタイノデアル、ソレカラ第二ニ政府ニ向ッテ聞キタイノハ政府ハ此國民ニ斯ウ云フヤウナ義務ヲ負ハセナガラ、一方ニハ徵兵ノ事ヲヤッテ、農民ガ澤山來ル、身體ガ丈夫ダカラ戰爭ニ行ク、惡ク言ウト戰爭ノ爲ニ農民ヲ使ッテ、其ノ利益ハ資本家達ガ得ルト云フヤウナ說ガ段々出來ルカモ知レヌ、血ヲ流ス時ニハ農民ヲ使ウ、サウシテ中央集權主義ハ日本ノ傳統デアル、是モ或程度マデハ宜イダラウケレドモ、此窮狀ヲ救ウト云フヤウナ意味カラシテモ、又義務ヲ履行スルト云フ點カラシテモ、此教育費ト云フモノハ出來ルダケ支出シナケ

レバナラヌ、故ニ私ハ聞キタイ、之ハ御情デスル補助デアルカ、義務ニ屬スルモノデアルカト云フコトヲ本黨ニ聞クト同ジヤウニ、ドウ云フ藤君ニ之ヲ聞キタイ、ソレカラ第二ニ何故ニ何故ニ他ノモノハ偖置イテモ此緊急ナル問題ヲ御片付ニナラヌカト云フコトヲ、内閣諸公ニ之ヲ聞キタイト思フノデアリマス、文相ハ國家ノ最モ人格ノ正シキ博學ノ有德ノ人ヲ以テ文相ノ位置ニ置カナケレバナラヌノニ、伴食大臣ヲ以テ之ヲヤラシテ居ルト云フコトハ抑國民敎育ヲ蔑視シタモノト謂ハナケレバナラヌ、吾々ハ斯ウ云フヤウナ意味ニ於テ此二點、三點ヲ内閣諸公ニ聞イテ、又本黨ノ提案者及幾分カ增田君ニモ明確ナル答辯ヲ願ッテ、此壇ヲ降ルヤウナ次第デアリマス

元田肇君ノ應答

田淵君ノ私ニ對スル御尋ハ二點アッタカト聽取リマス、一點ハ國家ガ之ヲ負擔スル、國庫ガ負擔スルト云フコトハドウ云フ譯デ出來タノカ、今日ノ國民ノ經濟狀態ノ窮狀ニ顧ミテ、之ヲ救ウト云フ意味カラ來タノカ、當然小學敎員俸給ト云フモノ、幾分ヲ此國家ガ負擔スルノガ當然デアルカト云フ御尋デアッタト思ヒマスガ、ソレカラデ止メルノカドウカト云フヤウナ御尋ノヤウニ諒解致シマシタ、私ハ先刻本問題ヲ御紹介致スニ當リマシテ、此問題ハ既ニ全會一致デ屢決議ヲシテ居ル所ノ問題デアルカラ、根本ノ必要ナリトカ云フヤウナ事ニ付テハ、玆デ略シマスト云フ意味デゴザイマセウガ、唯今日ノ民間ノ窮狀ヲ救フノミニ依ッテ國庫ニ負擔サセルト云フノデハナイ、兩々相俟ッテ敎育上ニ斯クスベキ所ノ必要ガアッテ、之ヲ是認スベキ必要ガアルカラ、本院ノ諸公ガ何派ヲ問ハズ、一致シテ、數年來此事ヲ決議シテ居ルノデアリマス、負擔ト云フコトニナレバ是ハ義務ニナッテ居ル、是ハ國家ガ負フベキ所ノ相當ノ理由ガアル、必要ト云フコトハ無論義務ガアッテ必要ダカラ出スト云フ事デアリマス、ソレカラ二千萬圓ニ付テ御答致シマスガ、

是ハ二千萬圓ニ限ッタモノデハアリマセヌ、少クモソコマデハト云フコトニナッテ、其以上從前ノ經過ニ依リマシテ、俸給半額位マデ是非ヤルト云フコトニ經過ハナッテ居ッタト信ジテ居リマス、私共ハ是非ソコマデハ行キタイト思ヒマス、最初ニ四千餘萬圓ノ時ニ、二千萬圓ダケ出ハヤウニシタト云フコトハ、往年私共ハ研究シタ事ガアリマシタガ、其後ニハ一億萬圓以上ニ俸給ガ越エルコトニナッテ、今日デハ甚ダソコニ達スルコトガ少ナウゴザイマスカラ、更ニ少クトモ二千萬圓ヲ加ヘタイト云フノデアリマス、尙ホ田淵君ニ御話申シマスガ、提案ノ說明者タル私共ハ、甚ダ淺學或ハ經驗ニ淺サウゴザイマシテ、議論ノ點ニ於テハ妥當ナラヌコトハアルカモ知レマセヌガ、ソレハ諸君ガ此敎育費ノ中デ、義務敎育費ト云フコトヲ必要トシテオキデニナルコトニナッテ居ル話デアリマスカラ、之ヲ極メテ完全ナルモノ、基礎ノ上ニ立ッテ、完全ナル所ノ配給ヲスルト云フコトハ、委員會ニ於キマシテ膝ヲ竝ベテ諸君ト共ニ攻究致シマシテ、最善ノ努力ヲ致シタイト思ヒマス、是ダケ御答致シマス

岡田文部大臣ノ應答

只今田淵君ノ御尋ハ二點アリマシタ、第一ハ此小學校敎員費ヲ國カラ出スノハ國ノ義務デアルヤ否ヤト云フ問題デアリマシタガ、是ハ大體今日マデノ小學校規定ノ立方ハ、市町村ハ小學校ヲ設立シ又之ニ對スル俸給ヲ支辨スル義務アルモノハ、其經費ハ市町村ニ負ハシテ居ルノデアリマス、而シテ從前ハ是ハ全部市町村デ支辨致シテ居ッタノデアリマスガ、然ルニ大正七年ニ至リマシテ、始メテ國庫負擔法ナルモノヲ設ケマシテ、義務敎育ニ關係致シテ居リマスル敎員ノ俸給ノ一部ヲ國庫ノ負擔トスルト云フコトニ致シタノデアリマス、卽チ俸給ノ一部ガ國庫ノ義務ニナル譯デアリマス、而シテ其割合ハドレ程カト申シマスト、是ハ年々豫算ヲ以テ定メルコトニナッテ居ルノデアリマス、而シテ當局者ノ標準ト致シテ居リマスノハ、俸給ノ半額ト云フモノヲ標準ト致シテ居ルノデアリマスケレドモ、是ハ年々ノ豫算ニ依ッテ定メルコトデ、豫メ之ヲ定メテ置クト云フコトハ財政計畫上困難デアリマスカラ、其時ニ依ッテ是ハ定メルノデアリマス、ソレカ

ラ第二ノ御尋ハ僅ニ千萬圓、二千萬圓ノモノヲ國庫ガドウシテモ支出ガ出來ヌカ、斯ウ云フ御尋デアッタカト思ヒマスガ、是ハ千萬圓、二千萬圓ト云フ金ハ決シテ少額ノ金デハアリマセヌノデ、大正十四年度ノ豫算ヲ編成スルニ當ッテ、當局者ト致シマシテハ少カラヌ苦心ヲ致シマシタ、何トカ是ハ支出致スコトニシタイ、其途ハ種々攻究致シタノデハアリマスガ、遂ニ其途ヲ得マセヌノデ、若モ是ガ尚ホ極メラ少額ノ金額デアリマシタナラバ、何トカ途モ付キマシタラウガ、決シテ我國ノ財政ニ於テ少額トハ申サレヌ、是ニ於テ已ムヲ得ズ十四年度ハ之ヲ見合セニ致シマシテ、十五年度カラ、之ニ對スル支出ヲ全力ヲ擧ゲテ努力スル考ニ定メタ次第デアリマス

增田義一君ノ應答

田淵君ノ質疑ニ御答致シマス、私ノハ明瞭ニ此義務教育費ハ國庫ガ負擔スベキモノナリト云フ前提ノ下ニ述ベタノデアリマス、其趣意ハ義務教育トハ國家ガ國民ニ強ユルノデアリマス、自分ノ家ガ貧困デアルカラ學校ヘ遣ルコトガ出來ナイト云ッテモ、社會ハ所謂無學ノ者ガアッテハ困ル、不就學兒童ガアッテハ共存共榮、社會ノ安寧ノ上ニ於テ害ガアルカラ強ユルノデアリマス、國家ガ強ユル以上此費用ヲ國家ガ負擔シテ宜イ、固ヨリ徵兵トハ違ヒマスケレドモ、丁度徵兵ヲ強エル、血稅ヲ強ユルガ如ク國民ニ不就學兒童ヲ無カラシムルト云フコトガ目的デアル以上ハ、之ヲ負擔シテ當然ナリト思ヒマス、無論義務教育費ハ全部負擔シテ宜イ、但シ財政ノ狀態ニ鑑ミテ先以テ小學校教員ノ俸給全部ヲ支出スルノデアリマス、ソレカラ二千萬圓トシタノハ、現在ノ財政狀態ニ鑑ミテ十四年度ニ於テ少クトモ二千萬圓ヲ支出シテ、將來ハ多々益辨ズル積リデアリマス

田淵豐吉君ノ再質疑

私ハ此間大問題ニ付テ、根本的ノ問題ニ付テ加藤首相ガ御立チニナルコト、思ッテ居ッタ、或ハ立タレルカ立タレヌカモ知レマセヌガ、只今岡田サンガ此所ニ御立チニナッテ言ッタコトハ法律ノ歷史ヲ語ラレタヤウニ思ヒマス、併ナガラ此大キナ意味カラシテ私ハ法律ノ根源ニ遡ル所ノ憲法ノ問題、或ハ此所デ議論ヲスル所ノ重要ナル役目ヲ爲ス所ノ政治問題、此法律ノ根本ヲナス所ノ此政治ノ態樣ニ向ッテ之ヲ問ハンストスルノデゴザイマス、然ルニ唯過去ノ歷史ヲ述ベラレタニ過ギナイ、ソコニ一ツノ矛盾ガアルカ、矛盾トハ何デアルカ、一方ニハ強制的ニ之ヲ強制シナガラ、一方ニハ其金ノ拂ヘヌ者ヲモ無理ニ拂ウト云フヤウナコトニナル、之ヲ一々命令デコチラガ指定シナガラ、向フデ勝手ニヤッタラ許サヌト云フコトハ茲ニ矛盾ガアルノデアル、其立脚點ハ何レニ立ッテ居ルノデアルカ、義務ニ屬シナイノデアルケレドモ、サウ云フヤウニシタノデアルカ、義務ニ屬スルカラヤル積リデアル、財政狀態ガ許サヌカラサウ云フコトニナッタノデアルカ、其國家ノ義務ニ屬スルカ屬シナイカト云フコトヲ明確ニ聞キタイ、而シテ此義務ヲ遂行スル爲メ金錢ヲ國家ガ支辨スル義務ガアリヤ否ヤト云フコトノ、二ッノ問題ニ付テ御尋致シタイト思フノデアリマス

岡田文部大臣ノ應答

義務教育ノ費用ハ是ハ國ガ命ジテ教育ヲ强制スルノデアルカラ國デ負擔ヲシナケレバナラヌト云フ御論モアルヤウデアリマスガ、國政ノ事務ヲ地方團體ニ命ジテ之ヲ行ハセマスルコトハ、獨リ教育バカリデナイ、國ノ事務ヲ市町村ニ命ジテヤラセルコトハ、明ニ例ガアル、デアルカラ教育ト云フモノハ義務教育デアルカラ國デヤラナケレバナラヌト云フ理窟ハ出テ參ラヌノデアル、併ナガラ市町村バカリニ命ジテ置キマシテモ、市町村ノ力ガ之ニ堪ヘ得ザルト見マシタトキハ、國庫ガ之ヲ一部負擔スルコトハ已ムヲ得ヌコトデアリマス、今日ノ制度ハ、原則トシテハ國ガ市町村ニ命ジテ之ヲ行ハセルモノデアル、唯負擔ニ堪ヘザルコトヲ虞レテ國ガ其俸給ノ一部ヲ擔任スルト、斯ウ云フコトニナッテ居ルノデアリマス

菊池謙二郎君ノ質疑

諸君、私ハ此問題ニ關聯ヲシマシテ、政府ニ簡單ニ質問ヲスル者デアリマス、ドノ内閣モ又政黨モ、教育ト云フモノハ重大ナルモノデアル、之ヲ重要視セナケレバナラヌト云フコトハ、何レモ言ッテ居ル、然ルニ實際ニ臨ムト云フト、動モスレバ教育ヲ輕視スル傾ガアル、現ニ此内閣ニ於キマシテモ、鐵道大臣ハ大正十四年度ノ建設費ニ三千三百萬圓ヲ計上シテ居ッタ、然ルニ與黨三派ノ要求ニ依ッテ之ヲ四千六百萬圓ニ增加シタ、此簡單ナル事實ノ中ニ何ヲ含ンデ居ルカ、一言スルバ教育ヲ輕視シテ居ルノデアリマス、諸君、鐵道大臣ハ三千三百萬圓デ十四年度ノ鐵道建設ハ足レリト己ノ所信ヲ披瀝シタノデハアリマセヌカ、然ルニ其己ノ經綸ヲ拋ッテ、與黨三派ノ要求ニ依ッテ千三百萬圓ヲ增加シタノデアル、千三百萬圓ト二千萬圓ハ僅ニ七百萬圓ノ隔リガアルバカリデアル、若シ當時ニ於キマシテ内閣總理大臣ヲ始メ鐵道大臣ニ至ルマデ、茲ニ平日ノ公約ヲ履行スル義務教育費國庫負擔額ヲ二千萬圓增加シナケレバナラヌト云フ考ガ念頭ニ浮ンダナラバ、千三百萬圓ノ增加ヲスル必要ハナカッタデアラウト思フ、然ルニ常ニ教育ヲ眼中ニ置キナガラ、而モ鐵道費ヲ增加シテ、教育費國庫負擔額ヲ增加シナイト云フ結果デアルト私ハ信ジマス、總理大臣ニ御伺ヲシタイ、其當時見ハ、詰リ教育ヲ重ンジナイト云フ點ニ在ッテ大臣ハ少シモ教育費ニ考ヲ及ボサナカッタノデアルカドウカト云フコトヲ質問シタイノデアリマス、又文部大臣ハ負擔額ノ增加ヲ要求サレナカッタノデアルカドウカ、又第二ハデス、此帝國議會ト云フモノハ大正十四年度ノ豫算案、茲ニ十四年度ヨリ效力ヲ發生スル所ノ法律案ヲ審議スベキ議會ナルコトハ言フ迄モナイ、然ルニ加藤總理大臣ハ施政ノ演說ノ中ニ於テ、大正十五年度ヨリハ義務教育費ノ負擔額ヲ增加スルコトニシヤウト云フコトヲ聲明シテ居ル、何等大正十四年度ニハ關係ガナイ、又此議席ニ於テ小川君、濱口君ハ相共ニ質問應答ヲシテ居ル、質問應答ヲシテ審議ヲ進メタノデアルカ問題デアル、何等十四年度ノ豫算ニ關係ガ無イノデアル、是ハ如何ナル權能ニ依ッテ爲サレタノデアルカ問題デアル、ラ、法理論ニハ堪能デアルケレドモ、常識ヲ以テハ到底斯ノ如キ權能ハ無イト言ハナケレバナラヌノデアル、縱シ又一步ヲ讓ッテ、百歩モ讓ッテ斯ノ如キ權能ガアルトシテモ、何故ニ此大正十四

年度ノ豫算ヲ議スル時ニ、是ト少シモ關係ガナイ繼續費ヲ議スルノデナイノニ當ッテ、何ノ必要ガアッテ斯ル聲明ヲ爲スノデアルカ、何ノ理由アッテスルノデアルカ、諸君少シク政界ノ内面ヲ考ヘテ見レバ、吾ミハ知ラズ、斯ノ如キ審議ヲ此議場ニ於テスルト云フ事ニハ、何カ極メテ祕密ナル事情ガアルニ相違ナイト私ハ考ヘル、ソレハ卽チ多年國民ニ公約シタル所ノ義務負擔額ヲ十四年度ニ於テ增額スルコトヲシナイガ爲ニ、國民ヲ一時瞞著セシムルガ爲ニ斯ノ如キ事ヲ發表シタノデアルト思フ、諸君、併シナガラ人ノ命モ内閣ノ命モ今日明日ヲ測ラレヌノデアル、此内閣ガ十五年度ヨリ假令增額スルト言ウテモ、國民ガ信ズルカ否ヤ、内閣總理大臣ハ斯ノ如キ事ヲ信ズルト云フ御考デアルカドウカ、諸君、政治ト云フモノハ公明正大デアル、公明正大ナル政治デアルカラシテ、如何ナル理由ガアッテ斯ノ如キ事ヲ此議場デ聲明スルカト云フ理由ヲ國民ニ徹底スルヤウニ、決シテ一時國民ヲ瞞著スルヤウナコトデハ相成ラヌト私ハ考ヘル、十分所信ヲ披瀝セラレンコトヲ希望スル者デアリマス

加藤内閣總理大臣ノ應答

只今菊池謙二郎君カラノ御尋ガアリマシタガ、教育費ノ國庫補助ノ事ハ大ニ愼重攻究シタノデアリマス、愼重攻究シタ結果殘念ナガラ此年度ニ於テハ實行ハ出來ナイト云フノデ已ムヲ得ズ計上シナカッタノデアリマス

高田耘平君ノ質疑

私ハ此法律改正案ニ大體ニ於テ反對ノ意見ヲ持ッテ居ル者デアリマスルガ、其反對ノ意見ヲ申上ゲル前ニ、提案者ノ說明ヲ煩ハシタイ點ガアルノデアリマス、ソレハ只今提案者ヲ代表シテ元田肇君ヨリ縷々御說明ガアリマシタガ、一言モ二千萬圓ノ財源ヲ何所ニ求メルカト云フコトニ付テノ御話ガ無イノデアリマス、本年ノ一月政友本黨ノ議員ノ有志ト稱シテ全國町村長ニ配付シタル書面ノ一端ニ依レバ……

此ノ時高田君ノ發言中穩當ナラサル言辭アリタル爲議長ヨリ取消ヲ希望シ同君之ヲ取消シタルモ尙議場騷擾セル爲議長ハ休憩ヲ宣告ス

其ノ後議場擾騷ノ爲再度休憩シ午後九時二十七分再開議長ハ高田耘平君、小橋藻三衞君ハ質疑ノ通告ヲ取消サレタル旨ヲ告ケ直ニ討論ニ入ル旨ヲ宣告ス高田耘平君ハ左ノ如ク兩案ニ付反對ノ演說ヲ爲ス

只今議題ニナッテ居リマスル義務教育費國庫負擔金增額ノ法律案ニ付キマシテ、其趣旨ニ付テハ勿論贊成デアルケレドモ、大正十四年度ヨリ二千萬圓ヲ增加スルト云フ此改正案ハ、我國現下ノ財政上實行不可能ノモノデアリマスカラ、甚ダ遺憾ナガラ之ニ反對スル次第デアリマス、先程政友本黨ヲ代表シテ元田肇君ヨリ御意見ガアリマシタ、併ナガラ其財源論ニハ更ニ觸レナイノヲ遺憾トスルノデアリマス、又中正俱樂部ヲ代表シテ增田義一君ヨリ多少財源論ニ觸レマシタガ、是モ明確ヲ缺イデ居ルノデアリマス、或ハ大正十四年度ノ增收ヲ見込メト云ヒ、或ハ國庫剩餘金ヲ支出セヨト云ヒ、其何レデアルカ歸著スル所ヲ知ラナイノデアリマス、要スルニ提案者ハ財源ニ付テ確定的ノ意見是レ無キモノト斷定シテ差支ヘナイノデアリマス、或ハ剩餘金ヲ以テ大正四年度ノ支出ニ充テヨトノ議論ヲナス者ガアリマスケレドモ、十四年度ノ所謂十二年度ノ確定剩餘金四億六千二百萬圓ノ中、其大部分ハ既ニ支出濟ニナッテ居ルノデゴザイマス、殘リ二億二千萬圓ハアリマスルガ其中七千八百萬圓ハ大正十四年度ノ豫算ノ財源ニ充當シテ居ルノデゴザイマス、殘リ一億四千四百萬圓ハ是ハ十五年度以降ノ財源ニ充當シテ居ルノデゴザイマシテ、之ヲ以テ大正十四年度義務教育費ノ國庫負擔ニ充當スルガ如キコトアレバ、是既ニ定マッタル財政ヲ根本ヨリ破壞スルコトニナルノデアリマス、加之此一億四千四百萬圓ガナケレバ、大正十四年度ノ定マッタル總豫算ハ、十五年以降實行不可能ニナルノデゴザイマス、故ニ此一億四千四百萬圓ノ剩餘金ト云フモノハ、到底義務教育費國庫負擔金ニ充當スル餘地ガ一錢モ無イノデアリマス、加之言フマデモナク義務教育國庫負擔ノ增加ハ、是ハ恆久的財源ニ依ラナケレバナラヌノデアリマス、恆久的財源ニ依ルト致シマスレバ、經常部ノ歲入ニ於テ之ヲ得ナケレバナラヌノデゴザイマス、是ハ決シテ我黨ノ政策デアリマセヌ、我國ノ豫算ノ立テ方上傳統的ノ政策デゴザイマシテ、若シ一時的ノ剩餘金アルガ故ヲ以テ、之ヲ財源トシテ恆久的ノ支出ヲ決定スルガ如キコトアラバ、我國ノ財政ノ基礎ハ玆ニ破レ、將來ニ向ッテ惡例ヲ貽スモノデアリマスカラ、吾々ハ絕對ニ之ニ同意スルコトガ出來ナイノデアリマス、更ニ此事柄ヲ立證スル爲ニ、第四十四議會ニ於テ吾々ガ義務教育費國庫負擔增加ノ建議案ヲ出シタ時ニ、其委員會ニ於テ樋口秀雄君ヨリ一時剩餘金ヲ以テ支出シテ置イテモ宜シイデハナイカト云フ質問ヲ致シマシタ所ガ、時ノ政友會內閣ヲ代表シテ三土政府委員ハ、剩餘金ヲ以テ經常部ノ恆久的ノ支出ノ財源ニスルト云フコトハ、我國ノ豫算ノ立テ方ニ於テ絕對ニナイト云フコトヲ主張シテ居ルノデアリマス、更ニ又大正十四年度ノ歲入見積ヲ增加セヨトノ議論モアリマス、併ナガラ大正十四年度ノ豫算ハ大正十三年度ノ實行豫算ニ比シテ、經常部臨時部ヲ通ジテ、否租稅及官業收入ヲ通ジテ約八千餘萬圓ノ增收ヲ見積リテ居ルノデゴザイマス、故ニ此以上ノ增收ヲ見積ルト云フコトハ、今日ノ經濟界ノ狀況ヨリ決シテ吾々ノ首肯スルコトノ出來ナイ問題デアリマス、又大正十三年度ノ國庫剩餘金ガ幾分出來ルダラウカラ、之ヲ充當セヨトノ議論モアル、或ハ又將來租稅ノ收入ノ增ス見込ガアルカラ、其見込ヲ以テ大正十四年度ノ豫算ヲ增加スベシト云フ議論モアリマス、併ナガラ吾々ノ考フル所ニ依レバ此豫算ヲ編成スルニ當ッテ、大藏大臣ガ其手中ニ在ル所ノ金、及ビ確實ニ同該年度ニ於テ收入ヲ見込ミ得ベキモノヲ財源トスルコトガ、最モ適正ナル所ノ豫算ノ編成方法デアル、然ルニ十三年度ノ剩餘金、或ハ將來ノ自然增收ヲ見込ンデ、大正十四年度ヨリ二千萬圓ヲ增加セヨトノ議論ハ、是モ國ノ財政ヲ根本ヨリ破壞スルコトデアリマシテ、假令政府ガ斯ノ如キ事ヲ爲サントシテモ、財政監督ノ責任アル議會ハ斷乎トシテ之ヲ破ラナケレバナラヌ責任ガアルト思フ、斯樣ニシテ增額論者ノ主張スル國庫剩餘金ハ無シ、加之國庫剩餘金ヲ以テ支出セントスルハ財政

ノ基礎ヲ破壊スルモノデアル、更ニ又大正十四年度ノ増收ヲ見込マントスルモノハ、是亦無謀ノ擧デゴザイマス、卽チ大正十四年度ヨリ二千萬圓ヲ增額スルコトハ、現在ノ我國ノ財政上絶對ニ不可能デアルガ爲ニ、之ニ反對スルノデゴザイマス、尙ホ吾ニハ詳細意見ヲ述ベタイコトモゴザイマスケレドモ、時間モ切迫シテ居リマスカラ、私ハ大體ニ於テ國庫剩餘金ハ無シ、國庫剩餘金ヲ以テ支出スルコトハ國家財源ノ基礎ヲ破壞スルモノデアル、斯ウ云フ理由ヲ以テ本案ニ反對スル者デゴザイマス

右終ルヤ作間耕逸君ハ討論終局ノ動議ヲ提出シ起立採決ヲ爲シタルモ異議アリタル爲記名投票ヲ以テ採決シタル結果百三十五ニ對スル二百五十九ノ多數ヲ以テ討論ハ玆ニ終局ス

次テ兩案ヲ一括シテ其ノ第二讀會ヲ開クヤ否ニ付記名投票ヲ以テ採決シタル結果二百六十四ニ對スル百三十一ノ少數ニテ兩案共第二讀會ヲ開カサルニ決ス

三　違警罪卽決例中改正法律案

違警罪卽決例中左ノ通改正ス

第二條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ言渡ヲ爲シタル時ハ之ト同時ニ之ヲ被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬、配偶者、被告人ノ屬スル家ノ戶主若クハ辯護人ノ中適當ト認ムル者ヘ通知スヘシ

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ請求ハ被告人ノ爲ニ前條第二項ニ揭クル者ヨリモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第七條ノ二　警察官署ニ檢束引致セラレタル者及ヒ拘留處分ヲ受ケタル者ノ接見及ヒ信書ニ關シテハ刑事訴訟法第四十五條第百十一條第百十二條監獄法及ヒ同施行細則中接見及ヒ信書ニ關スル規則ヲ準用ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十三年一月二十七日横山勝太郎君外四名之ヲ提出ス十四年一月三十一日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者（横山勝太郎君）ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

違警罪卽決例ハ明治十八年ノ制定ニ掛リマシテ、爾來四十年ノ間人民ノ權利自由ニ對シテ非常ナ制限ヲ加ヘテ居リマス、隨テ違警罪卽決例ノ內容ヲ點檢致シマスレバ不備ナル點、不當ナル點洵ニ多イノデアリマスルガ、就中全國ノ警察署ニ於キマシテハ或ハ行政執行法ニ依リ、或ハ犯罪ノ嫌疑ニ依リ、人ヲ拘禁致シマシテ、親族故舊ノ面會ヲ拒絶シ、又正式裁判ノ申立ヲ仰グノ道ナカラシムルノ弊決ハ、全國到ル處ニ頻々トシテアルノデアリマス、斯ノ如キハ警察官ノ極メテ簡單ナル取調ノ結果爲サレタル裁判ニ對シテ、不服ノ申立ヲ爲スノ途ヲ拒絶スルモノデアリマシテ、人權擁護ノ立場カラ甚ダ遺憾ノ事デアルト思ヒマス、斯ノ如キハ全ク警察專制ノ弊風ヲ物語ルモノデアリマシテ、法治國ニ於ケル大ナル恥辱デアルト考ヘマス、吾ニハ斯ノ如キ警察政治ニ服スルコトハ出來マセヌカラ、警察署ニ拘禁サレマシタル者ハ、其原因ノ如何ナルヲ問ハズ、親戚故舊ニ於キマシテ面會ヲ求ムル時分ニハ、警察官ハ之ヲ許スノ必要アルコトニ致シタ

イ、又其略式裁判ニ對シテハ、斷シテ不服ノ途ヲ拒絶スルコトハ相成ラヌト云フコトニ致シタイト考ヘルノデアリマス、本案ノ趣旨ハ極メテ簡單ナ事柄デアリマス、ドウゾ御審議ノ上デ御贊成ヲ仰ギタイト考ヘマス

原夫次郎君ハ提出者及政府ニ對シ質疑ヲ爲シ横山勝太郎君及熊谷、鈴木兩政府委員之ニ應答ス

原夫治郎君ノ質疑

只今横山君ヨリ御提案ニナリマシタル本案ノヤウニ考ヘラレル、ソコデ私ハ、先ヅ提案者ニ私ノ質疑ノアル所ヲ伺ヒ、次デ此違警罪即決例ナルモノガ一面内務省ノ所管ニ屬シ、他面司法省ノ所管ニ屬スルガ故ニ、内務大臣竝ニ司法大臣ニ御伺ヲ致スノデアリマス、此法案ヲ見マスルト云フト、提案者ハ五名ニナッテ居ッテ、筆頭ガ横山君、ソレカラ作間君高木益太郎君ト云フヤウナ、在野法曹ノ錚々タル方ノミデアッテ、同君等ハ、常ニ司法權發展ノ爲ニ努力ヲ致サレテ居ル方ゝデアル、然ルニ本案ハ何事デアリマセウカ、只今横山君ノ提案ノ趣旨ヲ承ッテ居リマシテモ、實ニ驚入ッタ話デアル、一體此違警罪即決例ナルモノハ、我國ノ議會政治以前、彼ノ太政官ノ布告、布達ノ時代ニ於テ發布セラレタモノデアル、即チ明治十八年ノ公布ニ係ル法律デアリマス、爾來歳月ヲ閲スルコト三十有幾年ノ間デアリマス、此法案ハ吾ゝノ聞ク所ニ依ルト云フト、是ハ獨逸ノ專制政治ノ遺物ヲ取來ッテ、明治十八年ニ制定セラレタル所ノ法律デアルト云フコトヲ豫テ承ッテ居ルノデアル、其後實施セラレタル所ノ我ガ憲法政治ノ運用ニ鑑ミマシテモ、憲法ニ規定スル所ニ鑑ミマシテモ、我ガ司法權ハ天皇ノ名ニ於テ之ヲ行ハナケレバナラヌ、又司法判事——裁判官ノ任用ニ付テハ法律ニ依テ之ヲ規定シナケレバナラヌ、又裁判ナルモノハ決シテ秘密ニヤルベキモノデハナクシテ、必ズ公開ヲシナケレバナラヌ、又司法裁判以外ノ特別裁判所ノ構成ニ付テハ、特別ナル法律ヲ以テ制定シナケレバナラヌト、斯ウ云フ風ニ憲法ニ規定シテ居ルノデアリマス、又憲法ニ規

定シテ居ル所ノ人民ノ權利義務ノ側カラ考ヘテ見マスルナラバ、日本臣民ハ法律ニ定メタル所ノ裁判官ノ裁判ヲ受クル權利ヲ奪ハルヽコトハナイト、斯ウ云フ風ニ規定シテ居ルノデアル、然ルニ横山君以下ノ人ゝノ提案ニナリマシタル所ノ此明治十八年ノ違警罪即決例ナルモノハ、如何ナルモノデアリマスカ、此規定ヲ見ルト云フト、第一條ニ於テ拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ警察署長又ハ分署長、又ハ其代理タル警部ニ於テ即決ヲ以テ裁判スルト斯ウナッテ居ル、而シテ其即決ノ言渡ニ對シテハ、裁判所ニ正式裁判ヲ請求スルコトガ出來ル、正式裁判ノ請求ガアッタ時ニハ、即決ノ事ハ當然其言渡ハ消滅ヲシテ、訴訟ハ區裁判所ニ繫屬スル、斯ウ云フ規定ニナッテ居ル、マルデ本末ヲ顚倒シタル法律デアリマシテ、今日此法律ノ制定以後ニ於テ既ニ刑法ハ改正セラレ、刑事訴訟法ハ改正セラレ、而シテ其刑事訴訟法中ニアリマシテモ彼ノ區裁判所ノ事件タル罰金、科料ニ該ル罪ニ付テハ、往年當議會ニ於テ協贊ヲ與ヘタル所ノ略式命令法ニ依テモ、裁判所ノ裁判ヲ受クルコトニナッテ居ルノデアリマス、然ルニ此違警罪即決例ナルモノハ、今日刑法ガ改正ニナリ、警察犯處罰令ニ總テヲ網羅致シテアルニ拘ラズ、違警罪デハ罰金ハ十錢以上二十圓以下、又自由刑ニ於テハ一日以上三十日以下ニ處スルト云フ規定ガアル、其規定ノ種類ハ殆ド六十箇條バカリノモノデアル、ソレヲ以テ吾ゝ人民ニ臨ンデ居ルノデアル、然ルニ彼ノ略式命令ニ付テハ唯罰金ト科料ダケデアッテ、吾ゝ人民ノ自由ヲ束縛スル拘留ト云フモノニ付テハ斷然之ヲ許サナイト云フ法制ニナッテ居ル、此拘留ナル事件デアッテモ區裁判所ノ裁判ヲ受ケシメナケレバナラヌト云フヤウニナッテ居ル、然ルニ此違警罪即決例ナルモノハ如何デアルカト申スナラバ、先程申上ゲマシタガ如ク、憲法ノ規定ニ非常ナル矛盾ヲ致シテ居ル、先ヅ第一番ニ此裁判ヲ爲ス所ノ者ハ何デアルカト云ヘバ警察署長、分署長、又ハ警部デアル、而シテ是ハ公開ノ裁判デハナイ、普通ノ事件ニ在リマシテハ檢事ガ起訴シ、必ズ判事ガ裁判スル、所謂彈劾主義ニナッテ居ル、然ルニ此違警罪ニ在リマシテハ、唯警察官ガ違警罪ノ違反者デアルト言ッテ、殆ド六十ニ垂ントスル、五十八箇條ノ規定ニ違反シタ者

デアルト言ッテ、道路カラデモ何處カラデモ一寸來イト云ッテ引張込ンデ置イテ、サウシテ警察デオ前ハ違警罪ノ違反者デアル、拘留ニ處スル、罰金ニ處スル、科料ニ處スルト言ッテ、直ニ裁判ヲ致スノデアル、斯ノ如キハ甚ダ不都合デアルト云ッテ、提案者ニ於テハ常ニ是マデ高唱ヲ致シテ居ッタ、是ハ憲法違反ノ法制デアルト如何デアリマセウ、唯些末ナル事柄、違警罪即決例其モノハ存置キナガラ、今日ノ提案ヲ見ルト在セシメテ置イテ、唯言渡ヲ受ケテカラ後ニ親族或ハ故舊ニ通知ヲシナカッタトカ何トカ云フ枝葉ノ問題ノ改正デアル、何タル姑息ナル方法デアリマセウカ、横山君ハ既ニ憲政會ノ政務調査委員長デアルト云フコトヲ承ッテ居ル、又此贊成者諸君ハ何レモ憲政會ノ黨議デアリマスナラバ、恐クハ憲政會ノ黨議ガアリマセウガ、斯ンナ黨議ガアリマスナラバ、私ハ先ヅ提案者ニ御伺致シタイノハ、何デ百尺竿頭一歩ヲ進メテ違警罪即決例ノ廢止法ヲ提出セザルカト云フ點ヲ、第一番ニ提案者ニ伺ッテ置クノデアル、次ニハ司法大臣ニ伺フ點ガアリマスガ、是ハ委員會ニ讓ル、次ニハ司法大臣ト内務大臣ヲ以テ任ジテ居ル人デアル、然ルニ今日マデ先程ノヤウナ裁判所構成法中ノ改正法案ナント云イテ立憲大臣ヲ以テ任ジテ居ル人デアル、然ルニ今日マデ先程ノヤウナ裁判所構成法中ノ改正法案ナント云ハ、吾ミト同意見ノ筈デアルト言ウタ人デアル、然ルニ其人ノ下ニ於テ日々フモノヲ打切ッテ居ッテ、今日立憲政治ノ治下ニ於テ許スベカラザル所ノ違警罪即決例ノ廢止ヲ何故提案セザルノデアル、ソレカラ内務大臣デアル、今日内務大臣ハオヰデニナッテ居ナイノデアッテ、片岡次官ガオヰデニナッテ居ルト云フコトデアルガ、是ハ片岡君ニ聞イテモ一體違警罪ノ「違」ノ字ハ御存知デアルカ、調査ノ上御答辯ヲ願ヒタイト思フノデアルガ、一體全國ノ警察署長、分署長ニ斯ノ如キ重大ナル權限ヲ委託シテ置イテ、内務省ハ如何ナル監督權ヲ行使致シテ居ルカ、現ニ内務省ノ長官タル若槻君ハ、往年ノ陪審法案ニ付テスラモ、現在行ハレントスル所ノ陪審法、是ハ憲法違反デアルトシテ反對致シタ人デアル、其立論ノ根據ハ私ガ曩ニ申上ゲマシタ憲法ノ規定ヲ捉ヘ來リ、之ヲ數ヘ來ッテ陪審法ハ憲法違反デアリマスルガ故ニ、是ハ斷ジテ贊成スルコトハ出來ナイト言ウタ人デアル、然ルニ其人ノ下ニ於テ日々

全國デ數千萬ノ此違警罪即決例ヲ行使シテ居ル所ノ、斯ノ如キ憲法蹂躙ノ一人權蹂躙ノ事項ヲ遂行セシメテ置イテ、今日如何ナル監督權ヲ有シテ居ルモノデアルカ、内務大臣ニ於テハソコマデ手ガ及バナイト云フナラバ格別デアルガ、一體立ロニ此違警罪即決例ト云フモノハ廢止シナケレバナラヌノニ拘ラズ、斯ノ如キモノヲ存在セシメテ置イテ、此貴族院ノ改革ヲ叫ビ、或ハ普通選擧ヲ行ハントスル、現ニ總理大臣ノ如キハ先達モ此議場ニ於テ、貴族院令ハ明治二十二年以來餘リ手ヲ著ケナイ、ソレダカラ改正ノ必要ガアルナント云フコトヲ言ウテ、此明治十八年ニ斯ノ如キ憲法違反ノ事項ヲ規定シテ居ナガラ、之ヲ廢止シナイノハ何タル事デアルカ、吾ミ議員トシテハ之ヲ默視スルコトハ出來ナイノデアル、仍テ司法大臣並ニ内務大臣ハ此違警罪即決例ナルモノヲ廢止スルノ意思ハナイカ、若シ意見アリトスルナラバ、何時之ヲ提案シヤウトスルノデアルカ、又是ハ憲法違反ノ法律デアルト云フコトヲ認メナイノカドウカ、之ヲ伺ッテ置クノデアリマス、

横山勝太郎君ノ應答

只今原君ハ違警罪即決例ヲ憲法違反ナリト云フ意味ノ御議論デアリマス、本員ハ憲法違反ナリトハ認メマセヌ、隨テ憲法第七十六條ノ規定以前ノ規則デアリマスカラ、今日尚ホ效力ヲ有スルモノデアル、憲法違反デナイト斯様ニ考ヘテ居リマス、而シテ廢止案ヲ出スカドウカト云フ議論ガアリマシタガ、吾ミハ今日ノ現狀ニ於キマシテ、憲法以上有效ナル違警罪ノ卽決例ヲ直ニ廢止スルコトハ出來ナイト斯様ニ考ヘテ居リマス、隨テ其不備不完全ヲ補フ爲ニ本案ヲ提出致シタノデアリマス、原君ノ憲法違反論ヲ外ニ致シマシテハ縷々論ゼラレタル所ハ、本員ノ言ハントスル所ト略ボ同樣デアリマス、ドウカ本案ニ御贊成アランコトヲ切ニ希望致シマス

熊谷政府委員ノ應答

原君ノ御問ニ對シマシテ政府ノ所見ヲ述ベマス、本案ノ違警罪即決例ハ第一ニ於テ憲法違反ニアラズ、第二ニ於テ政府ハ未ダ之ヲ廢止スルノ意思ナシ、此二點ダケヲ述ベテ置キマス

鈴木政府委員ノ應答

内務大臣ハ豫算委員會ニ行ッテ居リマスカラ、私ガ代ッテ――内務大臣ハ違警罪即決例ヲ廢止スル意思ナキヤト云フ御尋デアリマシタケレドモ、今日ノ情勢ニ於キマシテ之ヲ廢止スルコトハ出來マセヌ、其理由ハデス、毎年此罪ニ當ル者ガ可ナリ澤山ニゴザイマス、大正十二年ノ調ニ依リマスルト三十七萬三千許リ件數ガアリマシテ、其中正式裁判ヲ申立テル者ガ五百許リアルト云フヤウナ情勢デアリマスルカラ、之ヲ一々司法裁判所ニ送リマスルト非常ニ繁雜ニナリマス、ノミナラズ司法裁判所ニ於キマシテハ判事ヲ殖ストカ、檢事ヲ殖ストカシナケレバナリマセヌカラ、隨テ財政上ニモ非常ナ苦痛ヲ感ズル次第デゴザイマス、斯樣ナ譯デアリマスルカラ、當今今俄ニ廢止スルト言フ譯ニハ參リ兼ネルノデアリマス、此點ヲ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ人權蹂躙云々ト云フ御言葉ガアリマシタケレドモ、内務當局ハ斯樣ナ事ハ斷ジテナイコトヲ確信致シテ居リマス、ケレドモサウ云フ風ナ非難ハ兎角有リ勝デゴザイマス、是マデト雖モ内務大臣ハ屢或ハ訓令、或ハ通牒ヲ以テ斯樣ナ事ノ無イヤウニ警戒ヲ致シテ居ル次第デアリマス、デ憲法違反デナイト云フコトハ只今申シタ通リデアリマス、此條文ヲ能ク御覽下サレバ分ルノデアリマシテ、不服デアレバ正式裁判ノ申立ガ出來ル、不服ヲ申立テレバ其際初メテ裁判所ニ繫屬スルノデアリマスカラ、其際ニ天皇ノ名ヲ以テ裁判スレバ宜シイ、デアリマスカラ決シテ是ハ憲法蹂躙デモ何デモナイト云フコトヲ御諒承ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、尚ホ詳シイコトハ何レ委員會ニ於キマシテ詳シク申述ベルコトニ致シマス

原夫次郎君ノ再質疑

横山君竝ニ熊谷君ノ御答辯ニ至ッテハ、是ハ又驚入ッタ次第デアル、唯徒ニ自己ノ不完ノ見解ヲ以テ憲法違反ニ非ズト言フ、吾輩ノ問ウテ居ルノハ、ソレ〴〵憲法ノ條文ヲ示シテ、是デアルカラ憲法違反デヤナイカト云フノニ對シテ、唯是ハ憲法違反ニ非ズト云フコトノ見解ヲ持ッテ居ルナラバ、其理由ヲ何故示サナイカ、之ヲ御尋スルノデアル、ソレカラ次ニ鈴木君ノ答辯ガアリマシタガ、鈴木政府委員ノ答辯ニ依レバ、違警罪即決例ナルモノガ憲法違反ニ非ズト云フコトノ其根據ト致シマシテ、同君ハ唯違警罪即決例ニ依テ處分ヲ受ケタル其處分ニ對シテ、正式裁判ヲ受ケレバ、正式ニ裁判ガ出來ルノデアルカラ、是ハ憲法違反デナイ、同ジ事デアル、サウ云フ說明ハ何ト致シテモ承服ガ出來ナイノデアル、即チ正式裁判ヲ申立ヲシナイ場合ニ於テハ、同君ノ言ハレタ年々三十七萬幾ラノ此事件ニ對シテ正式裁判ヲ申立ヲシナイ者ニ對シテハ、其裁判ガ確定シテ拘留ノ處分ヲ受ケ、若クハ罰金ヲ納メナケレバナラヌノデアルト云フコトハ、是ハ憲法違反ニ非ズシテ何デアルカト云フコトヲ、私ラレ、吾々ガ刑罰ヲ受ケルト云フコトハ、斯ノ如ク行政官ノ行政處分ニ依テ吾々ノ自由ガ拘束セラレ、吾々ガ刑罰ヲ受ケルト云フコトハ、是ハ憲法違反ニ非ズシテ何デアルカト云フコトヲ、私ハ再ビ御問ヒ申スノデアル

次テ本案ハ政府提出裁判所構成法中改正法律案（本項第一（一一））委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ二月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書）

違警罪即決例中左ノ通改正ス

第二條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第一項ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テ言渡ヲ受ケタル者未成年者、禁治產者、準禁治產者又ハ妻ナルトキハ之ヲ其法定代理人、保佐人又ハ夫ニ通知スヘシ

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ被告人ノ爲獨立シテ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第七條ノ二　第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ留置セラレタル者ノ接見及ヒ信書ノ授受ニ關シテハ刑事訴訟法第百十一條及ヒ第百十二條第一項ノ規定ヲ準用ス

附　則

本法ハ大正十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

二月二十六日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長榊原經武君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

私ハ違警罪即決例中改正法律案ノ委員會ノ經過及結果ニ付テ御報告申上ゲマス、本案ニ付キマシテ委員會ヲ開キマシタコトハ三回デアリマス、此案ハ議員横山勝太郎君外四名ノ御提案ニナッタモノデアリマス、提案ノ趣旨ハ、從來全國ノ警察署ニ於キマシテ人民ヲ檢束シ或ハ犯罪ノ嫌疑ヲ以テ引致シ、若クハ拘留處分等ヲ致シマシタ場合ニ於キマシテ、往々親族故舊ヨリ接見ヲ申出タ場合ニ之ヲ許サナイコトガアル、又違警罪即決例ニ於キマシテ言渡ヲ受ケタ者ガ、正式ノ申立ヲスルニ方リマシテ、其機會ヲ失セシムル所ノ弊害ガアリマス、此弊害ヲ矯正シ、大ニ人權ヲ擁護シテ、刑事訴訟法ノ精神ヲ一貫セシメントシタイト云フノガ提案ノ趣旨デアリマス、委員會ニ於キマシテハ審査ノ結果、此案ニ對シマシテ修正ヲ致シマシテゴザイマス、其修正案ハ簡單ナモノデアリマスカラ、玆ニ於テ朗讀ヲ致シマス「違警罪即決例中左ノ通改正ス、第二條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ、第一項ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テ言渡ヲ受ケタル者未成年者、禁治産者、準禁治産者又ハ妻ナルトキハ之ヲ其法定代理人、保佐人又ハ夫ニ通知スヘシ、第三條ニ左ノ一項ヲ加フ、被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ被告人ノ爲獨立シテ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得、第七條ノ二、第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ留置セラレタル者ノ接見及ヒ信書ノ授受ニ關シテハ刑事訴訟法第百十一條及ヒ第百十二條第一項ノ規定ヲ準用ス、附則、本法ハ大正十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス」此修正ノ趣意ハ、原案ハ餘リニ廣汎ニ亙リマスノデ、即チ第二條及第三條ハ無能力者ニ限定致シマシタノデアリマス、第七條ハ別ニ原案ノ趣意トハ變リハアリマセヌケレドモ、唯字句ノ修正ヲ加ヘマシタ次第デアリマス、而シテ此施行ノ期日ヲ即日ト致シマセヌデ、大正十四年六月一日ヨリ施行スト致シマシタノハ、全國警察署ニ於キマシテ此法律ヲ施行スル準備ノ爲ニ、斯ノ如ク六月一日ヨリ施行スルト云フコトニ致シマシタ、此修正ニ對シマシテハ、政府ニ於テモ同意ヲ致シマシタ次第デアリマス、即チ修正ノ大要ハ以上申上ゲマシタ通リデアリマス、詳細ハ速記錄ニ就テ御承知ヲ願ヒタイノデアリマス、委員會ハ此修正案ハ本院ニ於テ可決セラルベキモノナリト、大多數ヲ以テ決議ニ相成リマシタ次第デアリマス

右ニ對シ原夫次郎君ハ反對、横山勝太郎君ハ贊成演說ヲ爲ス

原夫次郎君ノ反對演說

私ハ只今委員ノ御報告ニナリマシタ修正說ニ對シテ、反對ノ意見ヲ開陳セントスル者デアリマス、先ヅ第一ニ反對ノ理由ト致シマシテハ、我ガ日本國ニ於テ違警罪即決例ニ依リテ處分セラレル者ノ統計デアリマス、私ノ調ベマシタ所ニ依リマスト云フト、明治三十八年ガ五十萬餘件、三十九年ガ五十四萬餘件、四十年ガ六十萬餘件ニ達シテ居ル、四十二年ニハ五十萬二千二百三十七件、大正十二年ノ大震火災ノアリマシタ年ニ於テスラモ、殆ド四十萬ノ多キニ達シテ居ルノデアリマス、而シテ此四十萬、五十萬、六十萬ノ處分ヲ受ケタル者ノ中デ、正式裁判ノ申立ヲスル

者ガ僅カ五百人カ四百人ニ過ギナイ、尚ホ此申立ヲナシタル四百人若クハ五百人ノ中デ、正式ニ申立ヲスルト云フト、多クハ裁判所ニ於テ無罪ニナッテ居ル、此ノ事實ガアル、今日我國ノ人口ハ普通ニ六千萬人ト申シテ居ルノデアリマス、此六千萬人ノ中デ違警罪ノ處分ヲ受クルコトノ出來ナイヤウナ老人デアルトカ、女デアルトカ、子供デアルトカ云フ者ヲ除キマシテ、眞ニ達者ナ人間デ違警罪處分ヲ受ケ居ル人間ハ幾ラデモアリマセウガ、ザット六千萬ノ半分ト致シマシテモ三千萬人デアル、此ノ三千萬人ノ日安カラ年々歲々五十萬、六十萬ノ違警罪處分ヲ受ケル人間ガアルトシマシタチラバ、年々百人ノ中二人ハ必ズ此違警罪ノ奇禍ニ遭フノデアリマス、斯ウ云フ事實ニ相成ルノデアリマス、又第二ニハクハ其中デ寃罪者ガ多イノデアリマス、今日違警罪即決例ノ適用ヲ受ケル所ノ警察デノ處分ノ統計ヲ見ルト云フト、多クハ是ハ他ノ目的ニ之ヲ警察ガ使ッテ居ル、即チ或ハ大ナル犯罪ヲ檢擧センガ爲ノ手段トシテ、違警罪ニ名ヲ藉ッテ警察ニ拘束ヲ致シ、サウシテ著々トシテ取調ヲシナケレバナラヌ、何トナレバ人ヲ拘束スル場合ニ於テハ、刑事訴訟法ノ規定ニ從フト、憲法デ保障シテアル所ノ人權ハ容易ニ拘束スルコトガ出來ナイノデアリマスカラ、斯ウ云フ便法ヲ設ケテ人ヲ拘束スルノニ方便ニ使フ場合ガ多イ、又ソレ以外ニ於テハ彼ノ警察官ノ或ハ感情ヲ害シ、或ハ或種ノ目的ニ依テ例ヘバ檢束ヲシナケレバナラヌトカ、或ハ集會若クハ騷擾ヲ釀ス虞ガアルト云フヤウナ場合ニ於テ、能ク警察ガ之ヲ取鎭メヲスルガ爲ノ前提要件トシテ檢束ヲ致ス、併ナガラ行政執行法ニ依ルト、檢束ハ一晝夜シカ出來ナイノデアリマスカラ、名ヲ檢束ニ藉リテ置イテ、サウシテ次ニハ此違警罪即決例ニ依テ二十日デモ三十日デモ警察ノ拘留所ニ留メ置ク、斯ウ云フ事例ガアルノデアリマスカラ全ク此違警罪即決例ノアル爲ニ、警察官ハ犯罪ヲ製造スルヤウナ形ニナッテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ危險ナル實際ノ事ガアルノデアル、而シテ一旦此拘留處分ヲ受ケルト云フト、只今ノ提案ニナッテ居ル提案者諸君ノ憂慮セラル、如ク、何人モ警察ヘ面會ニ行クトカ、或ハ其拘留者ニ文通ヲシヤウト云ッテモ、警察デハ之ヲ許サナイ、斯ウ云フ亂暴ナ遣方ヲヤッテ居ルノデアリマス、是ハ提案者自身此

法案ノ提案ノ趣意ニ照シテモ、斯ノ如キ亂暴ナル趣意デアルカラ、之ヲ直サウト云フノガ本案ノ提案デアル、私ハ曩ニ此提案ト併行致シテ、斯ノ如キ非立憲ナル、明治十八年憲法施行ノ前ニ於テ發布ニナッタル、獨逸ノ專制政治ノ糟ヲ持ッテ來タ所ノ此違警罪即決例ガ今日ニ存シテ居ルト云フコトハ、是ハ大正年間ノ不祥事デアル、デアルカラ是ハ廢止シナケレバナラヌト云フ提案ヲ致シタノデアリマスガ、憲政會諸君ノ此提案ガアルガ爲ニ、私ノ案ハ遺憾ナガラ否決ニナッタノデアリマシテ、其ノ代リニ斯ウ云フ修正說ガ出タノデアリマスケレドモ、此提案自體ヲ見マシテモ、以上申述ベタヤウナ次第デ、是ガ若シ刑事訴訟ノ本旨ニ副フ所ノモノデアリマスナラバ、何ヲ苦ンデカ斯ンナ修正ノ條項ヲ設クル必要ハ無イコトニナル、併シ私ノ此違警罪即決例ノ廢止ニ反對スル人ノ口實トスル所ハ、年々歲々我國ニ五十萬六十萬ノ違警罪ヲ處分シナケレバナラヌノニ拘ラズ、實際ニ於テ之ヲ廢止シタナラバ、之ヲ區裁判所ヘ持ッテ行カナケレバナラヌ、併ナガラ區裁判所ヘ持ッテ行ッタ所ガ、判事檢事ノ數ガ足リナイノデアルカラ、到底出來ヌ仕事ヲ言フノデアル、斯ウ云フ大雜把ナ議論デアリマスガ、併ナガラ、私ガ先程來事實ヲ掲ゲテ申上ゲマシタ通リ、現ニ違警罪即決例ニ罹ル者ハ警察官ノ手ニ依テ、都合次第ニソコ等ノ道路カラ引張ッテ來テ、或ハ浮浪罪デアルトカ云フヤウナ、罪ヲ犯サナイノニ犯シタルモノトシテ、他ノ方便ノ爲ニ引張ッテ來ルノデアルカラ、斯ノ如キ犯罪ヲ製造シサヘシナケレバ、正シキ違警罪ニ觸ルヽ所ノ人間ハ非常ニ數ガ少クナルノデアル、若シ斯ノ如ク數ガ少クナルトスルナラバ、是ハ區裁判所ヘ持ッテ行ッタ所ガ何モ害ノ無イコトデアッテ、又區裁判所ノ正則ナ手續ニ依テ判事檢事ヲ僅カ殖セバ、是ガ片付ク問題ニナルノデアリマス、一體他面ニ於テ若シ是ガ經濟論カラ申シマスナラバ、私ガ先程申上ゲタヤウナ年々歲々五十萬、六十萬ノ人間ヲ斯ノ如ク寃罪ニ依テ警察ノ拘留所ニ拘留ヲスルト云フ事自體ガ、既ニソレダケ國家ハ費用ヲ支出致シテ、ソレダケ人間ヲ養ハナケレバナラヌ、又之ヲ監視スルガ爲ニハ非常ナ警察官ノ手數ヲ要スルノデアリマス、然ルニ若シ斯ウ云フ法ヲ無クシテ刑事訴訟法ノ正則ナ途ニ依テ行クト云フコトデアリマスルナラバ、此拘留處分ニ處スベキ若イ人間達ヲ世間ニ出

シテ居ッタナラバ、ソレ相當ナ仕事ヲ爲スノデアル、若イ盛リノ仕事ヲ爲ス所ノ人間ヲ仕事ヲサセナイデ置イテ、拘留所ヘ打込ンデ、サウシテ國家ハ拘留ノ費用ヲ使フノデアル、斯ノ如キ矛盾ナル結果ヲ生ズルノデアリマス、又刑事訴訟法ノ本旨カラ申シマシテモ、裁判所構成法ノ所謂司法權ノ憲法カラ申シマシテモ、現ニ違警罪ト云フモノハ區裁判所ノ管轄ニナッテ居リマスルガ故ニ、若シ是ガ區裁判所ノ手ニ掛リマシタナラバ、必ズ區裁判所デ處分ヲ爲シテ、決シテ警察官署ニ之ヲ移牒スルト云フヤウナコトハ斷ジテ出來ナイコトニナッテ居ル、然ラバ違警罪卽決例ノ處分スル所ノ違警罪ナルモノハ、原則ト致シマシテハ我ガ司法權ノ系統ト致シテハドウシテモ區裁判所ノ管轄事項デアル、此點カラ言フト、此違警罪ノ處分ト云フモノハ、ドウシテモ裁判ノ處分、司法處分ノ性質ハ何所マデモ失フモノデハナイノデアリマス、然ルニモ拘ラズ、是ガ若シ裁判所ニ掛ル前ニ警察官ノ手ニ掛ッタ場合ニ於テハ、以上申述ベタヤウニ亂暴ナ裁判ニ非ザル——裁判機關ニ非ザル警察署長ノ處分ヲ以テ、斯ノ如キ處分ヲ受クルノデアリマス、洵ニ言語道斷ナ事デアッテ、今日ノ立憲政體、法治國家ニ於テハ到底是ハ看過スコトハ出來ナイノデアリマスガ、何ト云フ勇氣ヲ以テ此違警罪卽決例ト云フ武器ニ依テ、之ニ依テ或ル方便ヲ考ヘテ居ル者デアリマスカラ、容易ニ之ヲ取去ルト云フコトハ出來ナイ、私ハ委員會ニ於テモ忌憚ナキ言葉ヲ以テ申シタル案セラレ、又治安維持法ガ制定セラレントスル今日ニ於テ、何タル事デアリマセウカ、年々歲々五十萬六十萬ノ人間ヲ、マルデ人間扱ヲシナイ、私ハ委員會ニ於テモ忌憚ナキ言葉ヲ以テ申シタルモノデアリマスガ、恰モ此違警罪卽決例ナルモノハ、彼ノ禽獸虫魚ヲ駈スルヤウナ法律デアッテ、斷ジテ立憲治下ニ於ケル、法治國ニ於ケル法律トハ言得ラレナイ、然ルニ拘ラズ本案ガ根本ヲ其儘ニシテ、而シテ其枝葉デアル所ノ言渡ヲ受ケタナラバ、之ヲ親族デアルトカ、或ハ直系卑族ノ何トカ、是等ノ者ニ通知ヲシナケレバナラヌトカ、或ハ是ハ刑事訴訟法ノ手續ト違ッテ洵ニ不都合ナ手續ヲ規定シテ居ルノデアルカラ、ドウカ刑事訴訟法ノ手續ノ通リニ之ヲ則リタイト云ウテ、茲ニ第二條ノ第一項カラ第三條、第七條ト云フ此三箇條ノ修正說ガ出テ居ル、何タル矛盾ナル事デアリマウセカ、是ガ憲政會ノ案デアッテ、而シテ一面ニ於テ普選案ヲ出シテ、普選案デナケレバナラヌト、國民ニ參政ノ權利ヲ與ヘナケレバナラヌト絶叫スルノハ、何タル矛盾ナ事デアリマセウカ、私共斯ンナ案ニ到底贊成スルコトハ出來ナイノデアル、一體立憲治下ノ國民ニ對シテ、斯ンナ亂暴ナル法律ヲ存シテ置イテ、而シテ此案ノ如ク枝葉ヲ修正シテ、何所マデモ警察官ヲシテ非ヲ遂ゲシメルト云フコトヲ、此修正案ニ依テ未來永劫之ヲ確認スルト云フヤウナ法律ハ、斷ジテ矛盾ナル政策デアルト考ヘルノデアリマス、仍テ私ハ斷乎トシテ此法案ニ反對ヲ表スル者デアリマス

横山勝太郎君ノ贊成演說

原君ヨリ色々ト反對ノ御議論ヲ拜聽致シマシタ、其反對セラレル理由ハ、吾々提案者ノ側カラ申シマスレバ、全ク反對ノ理由ニナッテ居リマセヌ、本案ハ御承知ノ如ク全國ノ警察署ニ於テ、吾々國民ノ自由ヲ制限スルコト甚シク、全國ノ人權ニ關スル重大ナル問題デアリマスカラ、少シク原君ノ御意見ニ對シテ辯駁ヲ加ヘテ置キマス、其冒頭ニ申上ゲテ置キタイコトハ、只今原君ノ議論ヲ聽瞭ニ承ハルコトガ出來マセヌカッタガ原君ノデアルカラ、自分ハ全然之ヲ廢止スベシトノ自分ノ提案ハ否決セラレタ、其結果トシテ本案ノ提案者カラ違警罪卽決例ノ改正問題ガ出タノデアル、斯樣ナ意味ノ御發言ガアリマシタガ、ソレハ原君ノ大ナル間違デハアリマセヌカ、而モ御承知ノ如ク我黨ノ黨議ヲ以テ之ヲ提出致シマシタノハ昨年十二月二十七日デアリマス、而モ十二月二十七日ニ提案ヲ致シマスルノニハ、去年ノ夏頃カラ我黨政務調査會ノ議ニ上リ、司法部會ニ於テ之ヲ審査シ、更ニ總會ニ於テ之ヲ認メ、次デ議員總會ニ於テ之ヲ可決シタヤウナ次第デ、極メテ愼重ナル審議ヲ致シテ、我黨ノ黨議トシテ殆ド全員之ニ贊成ヲ致シテ出シテ居ルノデアリマス、決シテ原君ノ御說ノ如ク、原君ノ廢止案ガ否決セラレタル爲ニ、其代リトシテ之ヲ出シタト云フ意味デハ斷ジテアリマセヌ、原君ノ提案ハ御承知ノ通リ本年二月二日デアリマス、本員ガ一月三十一日ノ本會議ニ於テ初メテ此問題ヲ議シタル場合ニ、原君ハ初メテ此問題ハ違憲デアルト云フ質

問ヲ提出セラレテ、サウシテ、二月二日ニ至ッテ漸ク廢止案ヲ出シタ、其廢止案ガ委員會ニ於テ否決ニナッテ居ルノデアリマス、決シテ原君ノ案ト本案ガ併行シテ居ルノデモナイ、元來カラ申シマスレバ、原君ノ廢止案ガ委員會ニ於テ否決セラレタル爲ニ、我黨ガ之ヲ出シタト云フ意味デハ斷ジテアリマセヌ、決シテ原君ノ案ガ否決ニナッタト云フコトハ、委員長ヨリシテ此席ニ於テ御報告アルベキ筋合ノモノデアリマス、然レドモ否決ニナッタト云フコトヲ此席ニ於テ紹介スルコトハ、多少原君ノ名譽ノ爲ニ委員長モ考慮セラレタルモノトシテ、私ハ寬大ナル取扱ヲ致シタモノト思ウテ居ルノデアリマス、然ルニ自分ノ案ガ否決セラレタルコトハ多ク之ヲ論ゼズシテ置イテ、而シテ此即決例ノ改正案ノ修正說ニ付テノミ反對ヲ爲サルト云フコトハ、原君ノ矛盾デアルト考ヘル、委員會ニ於テ否決セラレタル廢止案ヲ、何ガ故ニ此壇上ニ運ブベク努力セヌノデアリマス、運ンデ置イテサウシテ大ニ根柢カラ此問題ニ付テ憲法上ノ問題トシテ論議ナサルト云フノガ、原君ガ公人トシテノ責任デアルト私ハ考ヘル、否決セラレタルモノハ默シテ問ハズ、而シテ我黨ノ修正案ニ對シテ徒ニ反對ヲ爲サルト云フノハ、是ハ全ク空論デアルト申シテ憚ラヌノデアリマス、此席ニ於テ申上ゲテ置キマスガ、原君ノ御承知ノ通リニ、違警罪即決例ハ明治十八年ノ制定ニ係ルモノデアリマス、爾來三十年間我國ニ於テ立派ナル法制トシテ行ハレテ居ルノデアリマス、此違警罪即決例ガ憲法違反デアルナドト云フヤウナ机上ノ空論ヲ唱ヘル者ハ、世ニサウ多クハナイノデアリマス、原君及原君ニ屬スル少數ノ諸君ガ申サルヽダケデアリマス、此故ニ憲法違反ノ論ガ既ニ議場ニ於テ認メラレズ、又此法制ハ官民上下ノ者ガ違憲ニ非ズトシテ今日之ヲ適用致シテ居リマス以上ハ、此法制ハ憲法上適當ナルモノトシテ吾ミハ之ヲ尊重スルノ義務ヲ持ッテ居ルノデアル、併ナガラ此法制ハ前段申述ブル通リ既ニ三十年前ノ立案ニ係リマシテ、其内容ニハ多少改正スベキモノガアリマスルカラシテ、之ヲ改正シヤウト云フノガ吾ミ提案ノ趣旨デアリマス、而シテ改正ノ趣旨ハ年々多數ノ違警罪即決ト云フモノガアルガ、之ニ對シテ正式裁判ノ申立ヲ爲シタル者ハ極メテ少數デアル、其少數ノ正式裁判ノ申立ヲ爲シタル者モ、多クハ無罪ニナッテ居ルノデアル、即チ此違警罪即決例ハ警察官ノ爲ニ從來濫用セラレテ、警察官ガ正式裁判ノ申立ヲ阻止スルト云フ傾向ガアッタノデアル、此點ハ原君ノ意見ト私ノ考ト全ク同樣デアリマス、全國多數ノ警察官ガ謂ハレナク、時ニ或ハ犯罪ノ嫌疑ヲ以テ人ヲ引致致シマシテ、正式裁判ノ申立ヲ爲サントスル者ガアル場合ニ於テ、警察官ハ之ヲ許サナイ例ガアルノデアリマス、又被告ヨリ親戚故舊ニ向ッテ面會ヲ求ムベク郵便ヲ出スコト、或ハ電話ヲ掛ケルコトヲ警察官ニ交涉致シマシテモ、警察官ハ之ヲ肯ジナイノデアリマス、又親戚故舊ノ者ガ違警罪即決例ニ依テ拘留處分ノ言渡ヲ受ケタト云フヤウナコトヲ聞附ケマシテ、外部ヨリ面會ヲ求メテモ、又警察官ハ阻止スルノデアリマス、斯ノ如クニシテ正式裁判ノ申立ヲ爲スベキ三日ノ期間ハ、遂ニ經過シテ、不服ノ申立ヲ爲スノ機會ヲ失フノ餘儀ナキニ至ル例ハ、全國到ル所ニアッテ警察界ノ一大時弊デアルト云フコトヲ吾ミハ認メテ居ルノデアリマス、內務當局及司法當局ハ此點ニ付テ明言ヲ致シマセヌケレドモ、原君ノ發言ナリ吾ミノ此點ニ對スル發言ニ對シテハ、別ニ之ヲ否定スル程ノ意見モ述ベテ居ラヌノデアリマス、斯ノ如キ次第デアリマスカラ、此法制ガ既ニ違憲ニアラズ、又三十年來適用ヲ見テ居ルノデアルカラシテ、其內容ノ不備不完ナル點ニ對シテ、相當ナル改正ヲ加ヘルト云フコトハ、當然ノ事柄デアル、而シテ今回本案ニ於ケル改正ノ趣旨ハ、吾ミハ此警察界ノ時弊ニ鑑ミマシテ、苟モ警察署ニ於テ、即決例ニ依ル略式裁判ヲ受ケマシタ場合ニ於テハ、或ハ法定代理人デアルトカ、保佐人デアルトカ、直系尊屬、直系卑屬、斯樣ナ人ミガ獨立シテ正式裁判ノ申立ヲスルコトノ出來ルヤウニ致シタイト考ヘマシテ發案シタノデアリマスケレドモ、禁治產者、準禁治產者、妻ノ如キ民法上ノ無能力者ニ對シテ、刑事訴訟法ト同樣ニ其法定代理人保佐人、若クハ夫ヨリ正式裁判ノ申立ヲ爲スコトガ出來ルト云フコトニ付テハ、刑事訴訟法ト同樣ノ精神ニ基キマシテ政府モ之ニ反對セラレナカッタノデアリマス、故ニ政府ノ此意向ト云フモノヲ參酌致シマシテ、政友會ノ修正說ニ同意致シタ筋合デアリマス、然ラバ無能力者ノ場合ニ今日ノ如ク警察官ガ外部ノ面會ヲ遮斷シ、或ハ正式裁判ノ申立ヲ受理シナイト云フヤウナ場合ニ、ドウシテ之ヲ救濟スルカト云フコトガ第二段ノ問題デアリマス、之ニ就テハ本案ニ於テハ第七條ノ二ヲ追加シテ面會及信書ノ授

受ニ關シテハ刑事訴訟法第百十一條ヲ準用スルコトニ致シマシタ、結果トシテ、警察官ハ濫ニ外部トノ交通ヲ遮斷スルコトハ出來マセヌ、外部カラ來ッテ面會ヲ求ムル時ニハ、之ニ應ズル義務ガアルト同時ニ、內部カラ信書、電報、電話ヲ發スルト云フ場合ニ、警察官ハ之ヲ拒ムコトハ出來ナイト云フコトニナルノデアル、卽チ警察官ガ外部トノ交通ヲ遮斷スルコトガ無イト云フコトニナリマスレバ、其卽決ノ言渡ヲ受ケタル者ハ固ヨリ能力者デアリマスカラシテ、完全ニ權利ヲ行使スルト云フコトハ想像ガ出來ルノデアリマス、故ニ法律ノ明文ヲ設ケテ、能力者ガ卽決裁判ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ、親族故舊ガ獨立シテ正式裁判ノ申立ヲ爲スコトガ出來ルト云フ規定ヲ設ケズトモ、從來ノ時弊ヲ破リマシテ卽決言渡ヲ受ケタル者ハ、外部トノ面會ガ容易ニ出來マスル以上ハ、被告人ハ完全ニ正式裁判ノ申立ヲ爲スコトガ出來ルコトニナリ得ルデアラウト私ハ考ヘルノデアリマス、ソレデモ尙且ツ警察官ガ外部トノ面會ヲ禁ジ、正式裁判申立ノ機會ヲ阻止スルト云フヤウナ事ハ、吾ミハ今日之ヲ想像スルコトガ出來ヌノデアリマス、或ハ原君御憂慮ノ如ク多少ノ危險ハアルカモ存ジマセヌガ、大體ニ於テハ間違アルマイト思フノデアリマス、若シ此法案ガ通過致シマシテ、尙且ツ警察署ニ於テ斯ノ如キ時弊ヲ繰返スト云フコトガアリマスヤウナ場合ニハ、原君モ吾ミモ共ニ此壇上ニ立ッテ、再ビ二ビ改正案ヲ出スコトハ、決シテ吾ミハ躊躇致ス者デハナイノデアリマス、故ニ今日ノ程度ニ於キマシテハ、既ニ三十年ノ適用ヲ爲シ來ッテ官民上下多數ノ者ガ違憲ニ非ズト認メテ居ル所ノ違警罪卽決例、殊ニ年々三十七萬件有餘ノ事件ガアルノデアル、之ヲ廢シテ他ニ特別ノ機關ヲ作リ、特別ノ方法ヲ設ケルコトノ對案モ發見セザル今日、或ハ反對者ノ側カラ御覽ニナレバ、此改正ハ姑息デアルト云フコトノ御議論モアルカモ存ジマセヌケレドモガ、私ハ今日ノ場合此程度ノ修正ニ贊成ヲスルト云フコトガ、最モ時宜ニ適シタル事デアルト考ヘマス、仍テ此修正案ハ我黨ノ提出致シマシタ原案カラ見マスレバ、甚ダク制限ヲ受ケテ居リマスケレドモ、我黨ノミノ意見ヲ此議場ニ於テ通ス云フコトハ出來マセヌカラ、政友會諸君ノ修正ヲ尊重シ、全然同意ヲ致シタ次第デアリマス、殊ニ政府ニ於テモ同意セラレタノデアリマスカラ、原君ニ於テモ色ミ議論モアリマセウガ、君ノ憲法違反論ハ現ニ破レテ居ルノデアリマスカラ、次善ノ策トシテドウカ本案ニ御贊成下サルヤウニ、切ニ希望致シマス

他ニ通告者ナク討論ハ玆ニ終局ス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ委員會報告ノ通修正議決ヲ爲シ引續キ第三讀會ヲ開キ第二讀會議決ノ通修正議決ヲ爲シ卽日之ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ハ議決ヲ爲スニ至ラサリキ

四　所得稅法中改正法律案

所得稅法中左ノ通改正ス

第二十三條第一項但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ山林ノ所得ハ山林以外ノ所得ト之ヲ區分シ其ノ稅額ハ所得金額ノ十分ノ一ノ所得ニ相當スル所得稅額ノ十倍トス

五　造林助成法

第一條　私有林及社寺有林ノ造林ヲ奬勵スル爲主務大臣ハ本法ノ定ムル所ニ依リ其ノ造林者ニ助成金ヲ交付スルコトヲ得

第二條　助成金ハ左ニ揭ク造林ニ要スル費用ニ對シ之ヲ交付ス但シ一箇所ニ於ケル植栽面積五反歩ニ充タサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　本法施行以前ヨリ木竹ナキ原野山岳又ハ荒蕪地ニ於ケル木竹ノ植栽

二　天然林ノ伐採跡地ニ於ケル植栽

三　立木散生地ニ於ケル植栽

第三條　前條ニ依リ助成金ヲ受クヘキ造林費ハ左ノ費用トス

一　新植費

二　前號新植地ノ下刈費但シ新植後三年ヲ經過シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　助成金ノ額ハ前條各號ノ費用ノ三分ノ一又ハ當該地方ニ於テ普通ニ要スト認ムヘキ前條各號ノ費用ノ三分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條　助成金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ前年度十二月末日迄ニ造林費用見込書ヲ事業終了後三月以內ニ事業決算書ヲ添ヘ助成金交付申請書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

附　則

本法中前年度十二月末日トアルハ大正十四年度ニ限リ之ヲ當該年度六月末日トス

右兩案ハ孰レモ十四年一月二十四日村山喜一郎君之ヲ提出ス一月三十一日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者ハ兩案ニ付左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

只今議題ニナッテ居リマスル所得稅法中改正法律案ニ付テ簡單ニ提案ノ理由ヲ說明致シマス、御承知ノ如ク所得稅法中山林所得ニ關スル現在ノ法制ノ不合理ナルコトニ付キマシテハ、其改正ヲ爲サンガ爲ニ第四十五議會、第四十六議會、此三回ヲ通ジマシテ、政友會ノ岩本平藏君ヨリ此改正案ガ提出サレテアルノデアリマス、卽チ第四十四議會、第四十五議會ハ本院ハ通過致シマシタナレドモ、貴族院ニ於テ之ヲ審議スルノ暇ガナカッタノデアリマス、第四十六議會ニ於テ貴族院ハ委員會ヲ開キ、愼重審議ノ結果或ル希望ヲ附シテ此案ヲ否決スルト云フコトニ相成リマシタ、デ私ノ提案ノ趣旨目的ハ矢張岩本君ノ趣旨ノ如ク、現在ノ不合理ヲ矯メテ、其課稅ノ公平ヲ得ントスル趣旨目的デアリマス、唯其內容ニ於テ聊カ異ナル點ガアリマスカラ改メテ說明スル次第デアリマス、御承知ノ如ク山林所得ノ現在ノ取扱ガ頗ル不合理デアリマスルガ爲ニ、當業者ハ頗ル苦痛ヲ感ジテ居ルノデアリマス、卽チ私ノ見ル所ニ依レバ所得稅法ノ本質ハ卽チ所得ニ對シテ適當ナル稅率ヲ課スル、卽チ稅法ノ本質ハ每年生ズル所ノ其年ノ所得ニ對シテ——卽チ連年生ズル所ノ所得ト云フモノヲ基本トシテ、之ニ或ル稅率ヲ課スルト云フノガ現行所得稅法ノ精神デアリマス、然ルニ山林所得ノ實際ト云フモノハ果シテ如何ナルモノデアルカ、御承知ノ如ク私有林ノ如キハ左樣ニ每年々々繼續シテ收入ヲ生ズル性質ノモノデアリマセヌ、三十年ニ一回收入ヲ得ルカ、若クハ五十年ニ一回收入ヲ得ルカ、其山林自體ヲ伐採シテ金ニ代ヘタトキニ初メテ收入ヲ得ルノデアリマス、卽チ其例ヲ申上ゲマスルナラバ一町歩ノ山林ヲ所有シテ居ル、而モ其樹齡ハ五十年ナノデアル、樹齡五十年ノ杉林ヲ一町歩所有シテ居ッテ、初メテ其人ガ之ヲ伐採シテ收入ヲ得タ金額ガ五千圓デアルト假定ヲ致シマス、而モ其人一代ニシテ五十年目ニ初メテ山林ノ收入ヲ得タ、斯樣ナコトニ相成リマスルナラバ、一年ニ相當スル所得ト云フモノハ如何ヤウデアリマスルカ、五十年ニシテ初メテ五千圓ヲ得タナラバ、之ヲ每年ニ平均致シマスレバ、一年ニ對シテ百圓ヨリシカ收入ヲ得テ居ラヌノデアリマス、斯ク申シマシタナラバ、大藏當局ハ五千圓ト云フモノヲ現實ニ現金ノ收入ヲ得タ

デハナイカ、卽チソレハ所得デアルカラ、課稅ヲスル卽チ五千圓ニ對スル稅率ヲ適用スルト云フノガ現行法ノ精神デアリマス、豈圖ランヤ、大正十三年ニ於テ五十年ノ杉林ヲ伐採シテ五千圓ヲ得タ、ソレガ十四年度ノ課稅標準ニナルノデアリマスガ、卽チ十三年ノ所得ト云フモノヲ控除致シマセヌ、一年ダケニ相當スル百圓ダケシカナイ、五千圓ヨリ十三年度ノ百圓ト云フモノヲ控除致シマシテ、其殘リ四千九百圓、是ハ何デアラウカト申シマスルナラバ、一年ヨリ四十九年ノ間每年百圓宛蓄積シ來ッタル所ノ木材ノ蓄積ト云フモノデアリマス、卽チ其四千九百圓ガ五十年目ニ伐採シタトキニ資產ガ金ニ變ッタト云フダケノコトデアリマス、決シテ五千圓ハ大正十三年ニ於テ一年ニ是ハ生出シタル所謂利益ト云フモノデハナイノデアル、百圓ヨリシカ收入ガナイノニ對シテ、現行法ハ直ニ五千圓ノ稅率ヲ適用スルト云フコトハ頗ル不合理デアル、如何ニ之ヲ改正スルカト云フコトニ付テ、色々私共民間林業家ノ間ニ學者、實際家ノ意見ヲ綜合シ其改正案ヲ幾通リモ作ッタノデアリマス、併ナガラ其改正案ハ凡ソ五通リニ分レテ居ルノデアリマスルガ、甲ノ地方ニ合理的デアルトスレバ、乙ノ地方ニハ不合理ト云フ結果ヲ來ス、又杉林或ハ檜ト云フ百年、八十年ト云フ長イ伐期ヲ仕立テルモノニ適當スルモノヲ作レバ、十年或ハ十年以下ニ伐採スル薪炭林ト云フモノニハ、不適合ナモノニナル、或ハ靜岡縣ノ如キ四十年、五十年ヲ以テ皆伐作業ヲ以テ收入ヲ圖ル地方ニ適當スルト思ヘバ、奈良縣ノ如キ八十年若クハ百年ノ伐期ヲ仕立テ、而シテ多クハ間伐收入ニ依テ其作業ヲ爲スト云フ地方ニハ又不合理ナモノガ出來ル、斯樣ナコトニ相成リマシテ、各地各樣ニ山林ノ取扱ガアリマスガ故ニ、之ヲ綜合シテ何レノ地方ニモ適當スル成案ヲ得ルト云フコトハ、極メテ困難ヲ見タノデアリマス、此故ニ姑ク現行法ノ伐採ノトキノ其年ニ至ル所得ナリトシテ、直ニ其金額ニ適應スル稅率ヲ課スルト云フコトハ不合理デアルカラシテ先ヅ此點ダケヲ改メヤウデハナイカ、斯ウ云フコトニ相成ッタノデアリマス、此故ニ吾々ハ何ヲ標準トスルカト云フコトヲ求メマシタトキニ、山林局ノ調査ニ依リマスル所ノ我ガ農村ニ於テ山林ヲ經營シテ居リマスル一人宛ノ所有面積ト云フモノハ、一體幾ラ平均シテ持ッテ居ルカ、中等ノ所謂林業者ニハ幾ラ持ッテ居ルカト云フコトヲ以テ求メマシタ、其結果トシテ二十町步

以上ヲ所有スル者ハ、是ハ大林業家デアル、ソレカラ五反步以下ヲ所有シテ居ル者ハ是ハ小林業者デアル、五反步ヨリ二十町步マデノ間ヲ所有シテ居ル者ヲ中等林業家ト看做シタノデアリマス、其平均ヲ求メマスレバ、大林業ト小林業ヲ除キマシテ、中等林業ニ於テ各自ノ所有シテ居ル平均面積ト云フモノハ四町四畝ト云フ數字ガ現レル、卽チ中等林業ノ經營者ト云フモノハ平均四町步ヲ所有シテ居ル、斯樣ナ次第デアリマス、而シテ其伐期ハ何レニ定ムルカ、杉、檜或ハ松ト云フヤウナ喬林作業ノ場合ニ於テハ、如何ニ早クトモ三十年、長クバ百年、三十年ヨリ百年、又矮木作業、卽チ薪炭林ハ早イノハ十年、長ケレバ三十年、斯樣ナ次第デアリマス、此平均ヲ求メマシタ結果、用材ヲ仕立テル所ノ喬林作業ト云フモノハ六十年ヲ以テ伐期ト看做シ、薪炭材ヲ造ル所ノ矮林作業ハ二十年ヲ以テ伐期ト看做ス、斯樣ナ次第ニ相成リマス、卽チ二十年ト六十年ヲ合シマシテ、其數字トシテ現レル平均ト云フモノハ四十年デアル、四十年伐期ヲ以テ卽チ四町步ヲ所有シテ居ルト云フ見地カラ參リマスレバ、十年ニシテ一回ノ收入ヲ得ルト云フコトニ相成リマス、卽チ林業ト云フモノハ中等林業ヲ標準ト致シマスレバ、十年ニシテ一回ノ收入ヲ得ルト云フコトニナリマスカラシテ、其收入金額ニ十ヲ乘ジテ其稅率ヲ求メル、其稅率ニ依テ或ル稅額ヲ定メテ之ヲ十倍シテ卽チ其者ノ所得トスル、斯ウ云フコトニ改正ヲシタイト云フ意見ナノデアリマス、卽チ其意味ニ於テ本法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマスカラ、願クバ御審議ノ上速ニ本案ノ通過スルヤウ御取計アランコトヲ偏ニ御願スル次第デアリマス、次ニ造林助成法案ニ付テ說明ヲ致シマス、私共近來ニ於テ最モ憂フベキ事ト思フモノハ、我ガ國民生活ニ必要ナル所ノ物價ガ米ト云ヒ、木材ト云ヒ、其他天然ノ資源ト云フモノハ漸次缺乏ヲ告ゲツヽアルト云フコトデアリマス、古來ヨリ我國ハ瑞穗國ト稱シマシテ、農業立國ト云フモノヲ本位ト致シテ居リマスルガ、卽チ農村ニ於テハ生產スル所ノ主要產物タル米ト云フモノハ、是ハ我ガ國民ノ食糧ニ供スルニ足ラナイ年々幾百萬石ト云フモノヲ海外ニ仰グト云フ事實デアリマス、又木材ノ一段ニ至ッテハドウデアルカト云フト、是亦年々缺乏ニ傾キッヽアル、斯ウ云フコトヲ見マシテ、速ニ之ヲ救濟スル策ヲ樹テルト云フコトハ極メテ肝要ナ事デアル、斯樣ニ考ヘルノデアリマス、卽チ吾々

ノ生活ニ於テ食料ニ次グベキ所ノ第二ノ必要ナル モノトシテハ御承知ノ如ク建築、其他工業用ニ用キマス木材、竝ニ日常家庭ニ於テ毎日消費致シマスル所ノ薪炭ト云フモノデアリマス、此生産狀態ハ果シテ如何ニ今ナリツヽアリヤト云フコトヲ考察スル必要ガアラウト思ヒマス、我ガ國民ガ年々消費スル所ノ木材ノ數量ト云フモノハ一體ドレ位デアラウカ、卽チ建築用材ニセヨ、若クハ工業用材ニセヨ、其他薪炭各種ノ木材ト云フモノヲ通ジテ一年ノ消費量ハ幾許ナリヤト云フコトヲ計算スル必要ガアリマス、是ハ帝國森林會ニ於キマシテ、大正八年ニ於ケル內地及北海道ニ於ケル其消費高ヲ調査シタノデアリマス、ソレニ依リマスレバ大正八年度ニ於テ我國ノ木材消費量ト云フモノハ、其數量ガ立木石ニ致シマシテ三億六千萬石ト云フモノヲ消費致シテ居ルノデアリマス、然ラバ現在我國山林ニ於ケル所ノ立木ノ蓄積、竝ニ其成長量ト云フモノハ果シテ此三億六千萬石ノ消費ニ對シテ自給自足ノ力アリヤ否ヤト云フコトヲ考察スルノ必要ガアリマス、卽チ今日ニ於テ我國ノ森林ノ蓄積ト云フモノハ、內地北海道ヲ合セテ其數量約六十一億四千萬石ト云フ蓄積ヲ持ッテ居ルノデアリマス、六十一億四千萬石デアリマス、而シテ我國ノ森林ガ御承知ノ如ク二千二百萬町歩ノ面積ヲ持ッテ居リマスガ、是カラ無立木地、竝ニ原野ト云フモノヲ除キマシテ、森林用地トシテ用キラレルモノハ約千九百萬町歩デアル、斯樣ニナリマス此千九百萬町歩ニ對シテ毎年幾許ノ一體成長量ヲ擧ゲテ居ルノデアラウカ、勿論優良ナル林地ハ一町歩ニ付テ或ハ二十石或ハ三十石ト云フ計算モアリマセウガ、大部分今ハ荒廢ニ傾キツヽアル、若クハ老齡ニ傾キツヽアル結果ヨリシテ、平均之ヲ十石ト見ルト云フコトガ最モ相當デアラウト思フ、卽チ此結果ニ依リマスレバ、一千九百萬町歩ノ面積ニ對シテ毎年十石ノ生產アリトスレバ一億九千萬石ヨリ生產ガ無イノデアリマス、一億九千萬石ノ生產ニ對シテ三億六千萬石ト云フモノヲ消費致シマスルカラ、其不足一億七千萬石ト云フモノハ、現在持ッテ居リマスル六十一億トン云フモノヽ蓄積ヲ毎年喰込ンデ行クト云フ結果ニ相成ル、斯樣ニ致シマスレバ、若シ外國材ノ輸入ト云フモノガナカッタナラバ、我國ノ生產量ダケデ間ニ合セルト致シマスルナラバ、今後我國森林ト云フモノヽ蓄積ハ三十六年ヨリシカ持ツコトガ出來ナイト云フ結果ニ相成ル、卽チ此結

論ヨリ致シマスレバ、三十六年後ノ我國ト云フモノハ木材皆無ノ時代ガ到來スルノデアリマス、卽チ此意味ニ於テ三十六年ノ後ハ皆無ニナリマスガ、此半バヲ喰込ムト云フコトハ今ヨリ十八年ノ後デアル、現在ノ蓄積ガ半バニ減ジマシタナラバ、恐ルベキ玆ニ木材缺乏ト云フコトノ爲ニ、國民ガ生活ノ脅威ヲ感ズルト云フ一段ト相成ルト思ヒマス、而モ諸君、我國林野ノ大半、約其五割ヲ持ッテ居リマスル所ノ私有林ト云フモノハ如何ヤウデアリマスルカ、大正七年ヨリ大正十一年ニ至リマスル薪炭材ヲ除キマシテ、用材トシテ毎年私有林カラ採伐セラルヽ面積ハ平均十萬三百六十町歩ト云フモノヲ伐採シテ居リマス、而シテ是ハ伐ル方デアリマスガ、更ニ之ニ對シテ植栽ハドウ云フ風ニナッテ居ルカ、伐ッタ跡、必ズ植栽スルト云フコトハ當リ前ノ事ナノデアリマスカラ、植栽ノ面積ハ之ニ伴ッテ居ルカト云フト、約其半額ヨリ植栽何ガ出來テ居ラヌ、卽チ平均一年ニ五萬七百三十町歩ト云フモノダケガ植栽サレテ居ル、十萬三百何十町ノ伐採ニ對シテ、植栽サル、モノハ五萬七百三十町歩デアル、斯樣ニ相成リマスナラバ、現在ニ於テ大正十一年ノ調査ニ依リイ荒廢ニ傾キツヽアル面積ト云フモノハ約百二十萬町歩アル、然ルニ今又每年伐採セラルヽ所ノ十萬町歩ニ對シテ、五萬町歩ヨリ外植栽セラレナイトスレバ、殘リ五萬町歩ハ每年無立木地ニナッテ行クノデアル、斯樣ナ次第ナノデアリマス、寔ニ是ハ將來吾ニノ國民生活ヲ脅ス所ノ第一是ハ禍デアルト思フ、而モ諸君、斯ノ如ク我國ノ木材蓄積ト云フモノハ年々減少シテ行クノデアリマスガ、之ニ對シテ消費ハ年々增加ノ傾ガアル、而モ昨今ニ於テ外材ノ輸入ト云フモノハコノ數年來如何ニ驚クベキ趨勢ヲ以テ激增シツヽアルカト云フコトハ、諸君ハ數字ノ上ニ於テ能ク御承知ノ事デアラウト思ヒマスケレドモ、簡單ニ之ヲ申上ゲマスレバ、我國ハ今ヨリ十年程以前ハ木材輸出國デアッタノデアリマス、然ニ大正五年ニ於テ外材ノ輸入ト云フモノハ、金額ニ致シマシテ二百三十六萬四千圓ト云フモノハ今ヨリ九年前、卽チ大正五年ノ是ガ輸入デアリマスガ、二百三十六萬四千圓デアリマス、ソレガ諸君如何デゴザイマセウカ、大正十三年、而モ九年間ニシテ幾許ノ增加ヲ見タト思召スデゴザイマセウカ、大正十三年ノ木材輸入額ハ一億二千九百

萬圓、約一億三千萬圓ナノデアリマス、卽チ既往九年ノ間ニ於テ我國ノ木材輸入ノ激增ノ額ト云フモノハ五十四倍ト云フ大ナル額ニ達シタノデアリマス、九年間ニ於テ五十四倍ニナッタノデアリマス、此趨勢ヲ見テ吾々ハ如何ニ考ヘルデアリマセウカ、我國ノ木材蓄積ガ年々減少スル、而モ外材ノ輸入ハ年ヲ逐ウテ加ハル、勿論此一億三千萬圓ノ內其約九割迄ハ亞米利加材デアリマス、亞米利加材ハ約一億圓ノ金額ニ達シテ居ル、然ラバ亞米利加材ノ此輸入ト云フモノハ將來ニ於テ長ク幾十年間我國ニ供給スル力アルヤ否ヤト云フコトヲ考察スル必要ガアル、亞米利加モ亦我國同樣ニ生產量以上ヲ伐採シテ居ルノデアリマスカラ、今ノ儘ニ經過致シマスレバ、亞米利加モ亦今日ヨリ四十年後ニハ森林皆無ノ時代ガ到來スルト云フコトヲ言ッテ居リマス、卽チ四十年ニシテ亞米利加ハ森林皆無ニナリマスルト云フコトヲ前提ト致シマスレバ、其半額ノ蓄積ヲ喰込ミマスルト云フコトハ今ヨリ二十年後ニナリマシテ亞米利加ノ木材蓄積ガ半額ニナッタナラバ、到底我國ニ供給スル力ノ無イト言フコトニ立至リマス、斯樣ナコトヲ綜合致シマシテ考ヘマスレバ、一日モ早ク我國林野面積ノ大半ヲ所有シテ居リマスル所ノ私有林野ノ造林ニ對シテ、何等カ政策トシテ之ヲ助成スル必要ガアルト思フノデアリマス、此意味ニ於テ私ハ昨夏ノ特別議會ニ於テ、私有林野造林ニ對シテ國庫補助ヲ爲スベシト云フ建議案ヲ提出致シテ置キマシタガ、政府ハ未ダ之ニ對シテ、豫算ノ上デ拜見致シマスレバ、何等ノ施設ガナイヤウデアリマス、卽チ本法律案ヲ提出シテ此目的ヲ達成スル所以デアリマス、尙又私ハ如何ニシテ此私有林野ノ荒廢ヲ救濟スルカト云フコトヲ考察致シマスレバ、先以テ私有林野ノ造林ノ顧ル振ハナイ所以ハ一體何デアリマセウカ、何故ニ私有林野ガ斯ク荒廢ニ傾キツヽアルカト云フコトヲ考ヘル必要ガアル、ソレハ統計年鑑ニ依テモ御承知デアリマセウガ、大正六年カラ每年段々ニ此造林面積ト云フモノハ下リ坂ニナッテ居リマス、此事ハ一ニハ我國ニ於テ造林或ハ植林ト云フヤウナ事業ニ對シテ其金融ヲ求メル所ノ機關ガ皆無デアル、卽チ資金ノ缺乏ト云フコトガ第一ナノデアル、資金ノ缺乏ニ對シテ何等カ森林ノ金融ノ途ガ開ケテ居ルカト云ヘバ、絕對ニナイト言ッテ宜イ、卽チ幾十年間資金ノ固定スルモノニ對シテ其金融ノ途ナシ、而モ自分ノ總テノ力ヲ以テシナケレバナラヌト云フコトデアリマスガ故ニ、自ラ玆ニ資金ノ固定ヲ避クル結果トシテ、成ベク造林ヲ手控ヘシヤウト云フコトニ相成ッタノガ一ツノ原因デアル、第二ハ御承知ノ如ク先程所得稅改正案ニ於テ申述ベマシタガ如ク山林ハ幾十年目ニ始メテ二萬圓トカ三萬圓トカ纏タ收入ヲ得ルコトガアリマスガ、之ニ對シテ所得稅竝ニ所得稅ニ對スル縣稅及町村稅ノ附加、竝ニ所得稅ヲ基本トスル所ノ戶別割、課稅標準等ノ公課ガ所得稅ヲ基本トスル所ノ戶別割、課稅標準等ノ公課ガ年々嵩ンデ來ルノデアル爲ニ、地方ニ於テハ幾十年目ニシテ二萬圓カ若クハ三萬圓ノ森林收入ガアッタト致シマスレバ、其三割若シクハ四割近イモノハ悉ク公租金ニ差出サナケレバナラヌト云フ結果ニ相成ル、公租公課ト云フモノガ年々激增スル結果トシテ、追々造林ヲ手控スルト云フコトニ相成ッテ來タノデアリマス、第三ハ外國材ノ輸入ト云フモノガ御承知ノ如ク每年斯ノ如ク激增ノ趨勢ニ在ル、之ニ對シテ內地市場ヲ壓迫スルコトハ大ナルモノデアリマス、卽チ現在ノ木材ノ價格ハ外材ニ依テ殆ド支配セラレテ居リマス、此市場價格ヲ基本ト致シマシテ、木材生產業者ガ收支ノ計算ヲ致シマスレバ、現在ノ如キ高キ勞銀ト高キ物資ヲ用キテ安キ木材ヲ得ルト云フコトハ到底引合ハナイ、卽チ外材ノ輸入ニ對シテ最早競爭ガ出來ナイカラ、造林ヲ手控スルト云フコトニ相成ッタノガ第三ノ原因デアル、第四ノ原因ハ何デアルカト申シマスレバ、我國ハ今日ニ至ルマデ家族制度ヲ以テ立ッテ來テ居リマス、造林ノ如キ五十年或ハ百年ノ長期ニ亙ル事業ヲ營ムニハ、將來子孫ノ爲メト云フ矢張家族觀念カラ出發致シテ居ルノデアリマスガ、昨今ノ社會思想ノ變化トシテ、動モスレバ一時其刹那ノ享樂ニ追ハレテ、將來永遠ノ計ヲ講ジナイヤウナ傾向ガ多少增加シツヽアルノデアリマス、此意味ニ於テ是亦造林ノ如キ將來永遠ニ亙ル事業ハ、漸次衰頹致スト云フコトガ第四ノ原因デアリマス、此意味ニ於テ私ハ私有林野ニ對シテ政府ハ宜シク助成ノ方策ヲ講ズベシト力說スル者デアル、而モ諸君、政府ハ等シク林野ノ中公私ヲ區分ヲ致シマシテ、公有林野ニ對シテハ、農商務省ハ治水費ト云フ名義ヲ以テ卽チ其造林ノ費用ヲ補助シテ居ルノデアリマス、卽チ公有林野、市町村有林野ノ造林ニ對シテハ、國庫ヨリ三分ノ一、地方ハ又ソレト連帶シテ三分ノ二、國地方連帶ノ金額ガ造林費ノ三分ノ

二ト云フモノハ補助セラレテ居ルノデアル、然ルニモ拘ラズ等シク治水上ノ效果ヲ奏スル所ノ私有林ニ對シテハ、國ハ一厘半錢ノ補助ヲ與ヘテ居リマセヌ、卽チ町村有ト云ヒ、若クハ私有ト云ヒ、治水ノ目的ヲ達成スルト云フコトニ於テハ同一ノ價値アルニモ拘ラズ、私有林ニ對シテハ一厘モ補助ヲ拂ハナイト云フコトハ、願ル公平ヲ缺クモノデアルト思フ所以デアリマス、況ヤ今日農村振興ト云フ問題ハ極メテ世ノ中ノ注意ヲ惹ク問題デアリマス、我國ノ農村ト云フモノハ其大部分ハ半バ山林ヲ兼營シテ居ル、此意味ニ於テ單ニ普通農事ノ奬勵ヲノミ圖リマシテモ、其兼業デアリマスル所ノ山林ト云フコトニ相成リマスレバ、是亦農村振興上由々シキ問題デアラウト思フ、卽チ私共ノ地方ニ依テ見マシテモ、單ニ米作或ハ畑作ト云フ農事一方デ立ッテ居ル村落ト又農業ト林業ト兼營致シテ居リマスル農村、卽チ半バ、林業ノ收入ニ依テ立ッテ居ル村落トヲ比較致シマスルニ、其經濟狀態ハ著シキ相違ガアルノデアリマス、卽チ農事一方デアリマシテハ或ハ米價ノ低落、若クハ凶作ト云フ場合ニハ著シキ恐慌ニ襲ハルヽノデアリマス、併ナガラ傍ラ林業ヲ經營致シテ居リマスレバ、農業ノ不作或ハ米價安ト云フコトヲ、林業收入ニ依テ或ル程度マデハ補フコトガ出來ルノデアリマス、卽チ林業ノ振興ト云フコトハ、農村振興ノ要素トシテ、是亦最モ肝要ナル位置ヲ占メテ居ルモノデアルト云フコトヲ御諒承願ヒタイノデアリマス、本案ハ從來無立木地デアリマス所ニ、造林ヲ奬勵シ、若クハ樹種ノ改良ヲ圖ルト云フ者ニ對シテ其造林費ナリ其手入費ノ約三分ノ二ヲ補助シテ、サウシテ此造林發達ノ目的ヲ達成セシメルト云フノデアリマス、斯ク申シマシタナラバ、目的ハ結構デハアルケレドモ、之ニ要スル所ノ金額ハ幾何ヲ要スルデアラウカト云フ御尋ガアルカモ知レヌ、私ノ推算ニ依リマスレバ、此法律實行ノ結果トシテ約百萬圓乃至百五十萬圓ノ支出ヲ要スルト思ヒマス、之ニ對シテ或ハ目下財政緊縮ノ折柄、左樣ナ財源ハ何所ニ在ルノデアラウ、此法律ヲ實行スル所ノ恒久財源ガ如何ニ在ルカト云フ御尋ガアルカモ知レヌ、私ハ考ヘマス御承知ノ如ク我國ノ外材ノ輸入ハ一億三千萬圓ニ達シテ居ル、此中ノ約一割ト云フモノハ卽チ有稅品デアリマス、一割ノ關稅ガ課セラレテ居リマス、併ナガラ殘ル所ノ約一億圓ノ木材ト云フモノハ、全ク無稅品トシテ之ヲ輸入サレテ居ル、無稅デ以テ一億圓ノ木材ガ輸入サレテ居ルノデアリマス、之ニ對シテ若シ關稅改正ノ機會ニ於テ、一割ノ從價稅ヲ課スルコトニ相成リマスレバ一千萬圓ノ增收ヲ得ルコトニナル、成程外材ノ輸入ハ關稅改正ノ結果トシテ一割ハ其關稅ニ對スルダケ、市場價格ガ高クナルカモ知レマセヌ、若シ一億圓ノ輸入ガ五千萬圓ニ減ズルカモ知レヌ、若シ一億圓ノ輸入ガ五千萬圓ニ減ジマスナラバ、我國ニ取ッテ是ハ喜ブベキ事デアリマス、又一割ノ關稅アルニ拘ラズ、輸入ハ依然トシテ其儘ニ入ルト云フナラバ、一割ダケノ增收ガアル、斯ウ云フコトニナル、卽チ一千萬圓ノ增收ニナリマス、單ニ一割ノ增收ガアルバカリデナク、尙ホ間接ニ又增收ガアルト云フコトヲ指摘致シマス、御承知ノ如ク我國國有林ノ森林收入ト云フモノハ、豫算ニ現レテ居ル數字ヲ見マスレバ三千三百萬圓ト云フモノガ國有林カラ得テ居ルノデアリマス、若シ外材ニ一割ノ輸入關稅ヲ課シタ結果トシテ、價格ガ一割以上上ルト致シマスルナラバ國庫ノ收入三千三百萬圓ノ一割、三百三十萬圓ト云フ森林收入ガ增加スルト云フコトニ相成リマス、之ヲ合セマスレバ約千三四百萬圓ノ增收ガアル、斯ノ如ク關稅政策若クハ其他ニ於テ此法律ヲ實行スルダケノ財源ガ、綽々トシテ餘裕アルモノト本員ハ信ジマス、何卒以上陳述致シマシタル趣旨ニ鑑ミマシテ、速ニ御審議ノ上ニ、本法律案ガ本院ヲ通過スルヤウナ御取計ニ預リタイト云フコトヲ偏ニ希望致シマシテ此壇ヲ降ル次第デアリマス

次テ兩案ハ一括シテ議長指名（九名）ノ委員ニ付託スルニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ二月二日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末第一案ハ之ヲ可決ノ第二案ハ之ヲ修正スヘキモノト決シ期レモ三月十七日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書）

造林助成法案中左ノ通修正ス

第二條第一項中「五反歩」ヲ「三反歩」ニ改ム

三月十九日兩案及後ニ併セ付託セラレタル家祿引直處分法案(二四)ノ三案ヲ一括シテ其ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長阿由葉勝作君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程致サレマシタル所得稅法中ノ改正法律案、山林助成法案、家祿引直處分法案、此三案ニ付キマシテ、委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス、此所得稅法中改正法律案竝ニ山林助成法案ノ委員會ハ、八回ノ多キニ上ッテ會ヲ開イタノデアリマス、先ヅ第一ニ提案者ノ御說明ヲ願ヒマシタ所、所得稅法ニ付キマシテハ、現在ノ山林ノ所得ハ他ノ一般ノ所得ト別ニ、山林ニ對スル所得ダケハ其稅率ヲ此法案ノ如ク爲シテ貰ヒタイ、斯ウ云フ提出者ノ御趣旨デアリマス、之ニ就テ詳細ノ說明ハ速記錄ニ依テ御承知ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、政府ノ意見ヲ尋ネマシタ所、政府ニ於キマシテハ、此山林所得稅ノ現行法ハ最モ適切ナルモノトハ認メテ居ラナイ、大藏當局ノ說明ニ依リマスレバ、此山林所得稅法ノ改正ノ必要デアル此提案ノ趣旨ニハ贊成デアル、併ナガラ大藏省ニ於テモ、今行政財政等ノ整理ノ結果ヲ待ッテ、サウシテ此山林所得稅法ニ付テハ適切ノ方法ヲ取リタイト思フノデアル、現在ノ所デハ此改正案ニ同意ハ困難デアルト云フ大藏當局ノ御說明デアリマス、又農商務當局ノ方ニ於カレマシテハ、此改正案ニハ頗ル同感デアッテ、現在ノ山林所得稅法トスレバ甚ダ不十分デハアル、何トカシテ相當改正シナケレバナラナイモノデアル、殊ニ農商務大臣ノ如キハ此山林所得稅等ニ付テハ其稅金ヲ全部免除シテモ宜イデハナイカト云フ意見ヲ曾テ懷カレテ居ッタコトガアル、併シ現在尙ホ其意見ヲ有シテ居ルカドウカハ分ラヌ、併シ財政上ノ都合ヲ大藏當局デ考慮サレル以上ハ、農商務當局トシテモ之ニ同意スルコトハ出來ナイ、斯樣ナ答デアッタノデアリマス、ソレカラ山林助成法案ニ付キマシテハ、是モ說明者ノ十分ナル提案ノ理由ヲ聽取シマシテモ、政府ハ矢張直ニ同意ヲ表スルコトハ出來ナイト云フ意見デアリマス、是等ノ詳細ニ付キマシテハ、速記錄ニ依ッテ御承知ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、ソレカラ家祿引直處分法案ニ對シテハ、是亦提案者ノ說明ヲ承リマスト、明治二年ノ家祿制ノ制定セラレタ當時、舊和歌山藩ニ於ケル士族ノ人ベガ家祿ノ引直ヲ致サレタ當時ニ、最モ苛酷ナル所ノ方法ヲ取ラレタノデアル、此度此苛酷ナル扱ヲ受ケタ所ノ和歌山藩ノ士族ニ對スル家祿引直ヲ法案トシテ致シタイ、斯樣ナ提案者ノ說明デアリマス、政府當局ハ成程和歌山藩ガ其當時ニ於ケル功勞、總テニ於テ率先特ニ和歌山藩士ニノミ此法案ヲ是認シテ、家祿ノ引直ト云フコトニ同意スルコトハ出來ナイ、仍テ此法案ニハ反對デアル、斯樣ニ答ヘラレタノデアリマス、併ナガラ委員會ニ於キマシテハ、先ニ申上ゲマシタ所得稅法中改正法案モ、造林助成法案モ、又家祿引直處分法案モ、全會一致ヲ以テ提案ノ通リ、卽チ原案ノ通リ、可決致サレタノデアリマス、以上經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス、尙只今御報告ヲ致シマシタ中ニ訂正ノ箇所ガ一箇所アリマスカラ、此點ヲ御報告致シテ置キタイト思ヒマス、造林助成法案ノ第二條ニアリマス、「助成金ハ左ニ揭ゲル造林ニ要スル費用ニ對シ之ヲ交付ス但シ一箇所ニ於ケル植栽面積五反歩ニ充タサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス」斯樣ニナッテ居リマスモノヲ「植栽面積三反歩ニ充タサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス」ト云フコトヲ三反歩ト云フコトニ、委員會ニ於テ修正ヲサレタノデアリマス、此點ヲ申上ゲマス

院議異議ナク兩案(第三案ノ結果ニ付テハ本項(二四)參看)ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通第一案ハ之ヲ可決、第二案ハ之ヲ修正議決シ卽日兩案全部ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ハ議決ヲ爲スニ至ラサリキ

六　所得稅法中改正法律案

所得稅法中左ノ通改正ス

第十六條第一項中「不具癈疾者」ノ下ニ「又ハ中學程度以上ノ學校在學者」ヲ加ヘ、同項第一號乃至第三號ヲ左ノ如ク改ム

一　所得千圓以下ナルトキ　一人ニ付百圓
　年齡十八歲未滿若ハ六十歲以上ノ者又ハ不具癈疾者　一人ニ付二百圓
　中學程度以上ノ學校在學者　一人ニ付二百圓
二　所得二千圓以下ナルトキ　一人ニ付七十圓
　同　一人ニ付百五十圓
　同
三　所得三千圓以下ナルトキ　一人ニ付五十圓
　同　一人ニ付百圓
　同

右ハ十四年一月二十九日菊池謙二郎君之ヲ提出ス二月十日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、此法案ノ趣旨ハ極メテ簡單デアリマス、或ル條件ノ下ニ三千圓以下ノ所得者ニ對シテ所得稅ヲ輕減シタト云フノガ此法案ノ趣旨デアリマス、或ル條件ト申シマスノハ、三千圓以下ノ所得者ノ子弟ガ中等學校、若クハソレ以上ノ學校ニ在學シタル場合ヲ云フノデアリマス、其場合ニ於キマシテ、三千圓以下、若クハ二千圓以下、若クハ一千圓以下ノ所得者ニ對シテ、ソレ〴〵學資金ノ幾分ヲ所得ヨリ控除シマシテ、所得稅ヲ或ハ免ジ或ハ輕クスルト云フコトデアリマス、今日我國ニ於キマシテ三千圓以下ノ所得者ガ、其子弟ヲ中等學校ニ在學セシムルト云フコトハ、生計上極メテ困難デアルコトハ、諸君御承知ノ通リデアルト考ヘマス、此苦痛ヲ忍ンデモ、衣食ヲ節シテモ、子弟ヲ中等學校以上ノ學校ニ在學セシムルト云フコトハ、我國ノ美風ノ一ツデアリマス、世間ニハ薄資者ガ其子弟ヲ中等學校以上ノ學校ニ在學セシムルト云フコトハ、或ル意味ニ於キマシテ贅澤デアル、今日中學校以上ノ學校ニ入學シ得ナイ者ガ多數デアッテ、入學競爭試驗ト云フモノガ激烈デアルカラシテ、國家ガ十分之ニ對シテ同情ヲ表サネバナラヌト思フノデアリマス、抑我國ニ於ケル所得稅ノ基準ト云フモノハ極メテ低イ、之ヲ亞米利加ノ二千弗、英吉利ノ八百五十磅ニ比較スルト、我ガ國民ハ僅カ、百圓デ所得稅ヲ納メナケレバナラヌノデアリマス、既ニ所得稅賦課ノ基準ト云フモノガ低イ、斯ウ云フ場合ニ於キマシテハ所得稅ノ改正モ必要デアリマセウガ、先以テ其子弟ヲ在學セシムル所ノ所得者ニ對シ、所得ノ幾分ヲ控除シテ、其稅ヲ輕減シタト云フコトガ國家ノ方針デアラネバナラヌト思フノデアリマス、ノミナラズ諸君モ御承知ノ通リ如何ナル資產家ト雖モ、保險加入者ハ二百圓マデハ其所得ヨリ控除セラレルト云フ規定デアリマス、又所得稅法ノ中ニハ、學資ト云フモノニ對シテハ留學生トカ、委託生トカ研究生トカ云フ者ガ受クル所ノ學資金ニ對シテハ、所得稅ヲ賦課シナイト云フ規定ガアル、斯ウ云フモノカラ比較シマスト、是等ノ權衡カラドウシテモ三千圓以下ノ所得者ニ對シテハ學資ノ幾分ヲ控除シテ、所得稅ヲ輕減スルト云フコトハ最モ公平ナル處置デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、諸君、三千圓以下ノ所得者ノ中ニハ、中學校ノ教師、小學校ノ教師或ハ官

吏、一定ノ收入ノミヲ有スル者ガアリマシテ、是等ノ者ハ其子弟ヲ中學校若クハソレ以上ノ學校ニ在學セシムルト云フコトハ、非常ニ困難デアルニモ拘ラズ、斯ノ如キ人ニハ相率キテ輕減運動ヲスルヤウナコトヲ今日マデ敢テシナカッタノデアリマス、デアリマスカラ吾ニハ斯ノ如キ人ニノ苦痛ヲ察シテ、此案ヲ通過サシテ、之ヲ法律ト爲シテ、是等ノ人ニヲ救濟スルノモ社會政策ノ一端デアルト考ヘルノデアリマス、ドウゾ諸君ノ御贊成ヲ得テ無事ニ此案ノ通過ヲ希望スル次第デアリマス

次テ本案ハ政府提出教育改善及農村振興基金特別會計法案本項第一（一三）外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ニ著手シタルモ報告ヲ爲スニ至ラサリキ

七　商業會議所法中改正法律案

商業會議所法中左ノ通改正ス

第九條第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

六　營業稅ヲ納ムル旅館業者

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十四年一月三十一日增田義一君之ヲ提出ス二月十日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案提出ノ理由ヲ簡單ニ述ベマス、本案ハ旅館業者ニ商業會議所ノ選擧權ヲ附與スルト云フノ法案デアリマス、旅館業者ハ交通機關ニ深イ關係ヲ持ッテ居ッテ、一般商工業ト密接ノ交涉アルハ勿論ノコト、社會樞要ノ一機關デアル、然ルニ此旅館業者ハ相當ナル營業稅ヲ納メテ居ルニモ拘ラズ、從來商業會議所ノ選擧權、被選擧權ヲ持ッテ居ラヌノデアリマス、何ガ故デアルカト聞イテ見マスト、娛樂ノ目的ヲ以テ客ヲ集ムル營業ト認メラレテ居ッタト云フノガ、今日マデ此商業會議所ノ選擧權ヲ獲得シテ居ラナカッタ理由デアルサウデアリマス、何人モ此旅館營業ハ娛樂ノ目的デ客ヲ集メルモノデナイト云フコトハ、明瞭ニ認メテ下サルコトト思フノデアリマス、此旅館業者又ハ「ホテル」經營者ハ處ニ依リマシテハ、商工業者ノ相談對手トナッタリ、或ハ或ル意味ノ民間外交官ノ仕事モシタリ、社會デハ相當ニ重キヲ置イテ居ラルヽ業務デアル、瑞西ノ如キハ國費ヲ以テ「ホテル」ヲ保護シテ居ル位デアルノデアル、然ルニ我國ニ於テ今マデ此旅館業者ニ同情ノ乏シカッタト云フコトハ、何等カ錯誤ガアッタコト、思フノデアリマス、今商業會議所法ヲ見マスト、第九條ニ「帝國臣民又ハ帝國法律ニ依リ設立シタル法人ニシテ商業會議所ノ地區內ニ營業所又ハ事務所ヲ有シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ議員ノ選擧權ヲ有ス」トアリマス、サウシテ列擧主義デ一號カラ五號マデアル、第五號ニ「賣藥營業稅ヲ納ムル賣藥營業者」、其次ノ六號ニ「營業稅ヲ納ムル旅館業者」、此十一文字ヲ挿入スレバ、他ノ條文ヲ改正セズシテ完全ニ旅館營業者及「ホテル」經營者ガ、商業會議所議員ノ選擧權及被選擧權ヲ得ラレルノデアリマス、此選擧權ヲ與ヘラレルコトニ依テ、全國各地ノ商業會議所ガ之ヲ喜ブノデアリマス、何故ナラバ財源ガ殖エルノデアル、旅館營業者ノ營業稅ニ對シテ商業會議所ガ稅ヲ徵收スルコトガ出來マスカラ、商業會議所ニ於テ之ヲ歡迎シ、營業者ニ於テモ此權利ヲ望ンデ居ルノデアリマスカラ、何等反對スル所ハナイト思フノデアリマス、而モ此案ハ幸ニ各派有力ナル諸君ノ贊成署名ヲ願ッテ居リマスノデ、ドウゾ滿場一致ヲ以テ本案ニ贊成セラレンコトヲ希望致シマス

次テ本案ハ議長指名（九名）ノ委員ニ付託スルニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ二月十二日委員會

ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末後ニ付託セラレタル（一一）案ノ二案ヲ一括シテ其「商業會議所法中改正法律案」ニ改メ修正スヘキモノト決シ二月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書）

商業會議所法中左ノ通改正ス

第九條第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

六　營業稅ヲ納ムル旅館業者

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二月二十六日本案及後ニ付託セラレタル商業會議所法中改正法律案（一一）案ノ二案ヲ一括シテ其ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長山本芳治君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

委員會ノ經過ヲ極メテ簡單ニ御報告申シマス、本案ハ增田義一君提出ノ分、山本厚三君外二名提出ノ分ト兩案ニナッテ居リマスガ、內容ハ全然同一デアリマシタカラ、委員會ニ於キマシテハ一括シテ審議ヲ致シタノデアリマス、各委員ニ於キマシテハ、現行法ニ依ルト客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ取引ヲ業トスル者、是ハ總テ娛樂ノ設備ヲ營業トスルモノデアルト云フ趣旨ニ依リマシテ、商業會議所ノ選擧權ヲ持タナイト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、併ナガラ旅館營業ハ現在ニ於キマシテハ廣義ニ於ケル交通機關デアル、娛樂機關デハナクシテ生活上必要ナル機關デアルノミナラズ、之ヲ經營スルニ付キマシテハ、多額ノ資本ヲ要シ、且ツ多額ノ納稅ヲ致シテ居ルノデアリマス、現在ノ實際ニ付テ考ヘマスレバ、此營業者ニ商業會議所ノ選擧權ヲ持タナイト云フコトハ甚ダ不合理デアル、斯樣ナ趣旨ニ於テ本案ニ贊成スルト云フ各委員ノ言明ガアッタノデアリマス、尙ホ委員會ニ於キマシテモ、本案ニハ贊成デアルト云フコトノ聲明ガアリマシタ、結局委員會ニ於キマシテハ、滿場一致ヲ以チマシテ原案ノ趣旨ニ贊成スルト云フ趣意ヲ以テ、二案ヲ一括シテ可決シタノデアリマス、以上御報告申上ゲマス

院議異議ナク兩案ヲ併合シテ一案ト爲シ其ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決確定シ卽日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月十九日可決奏上シ三月二十八日法律第十號ヲ以テ公布セラル

八　違警罪卽決例廢止法律案

違警罪卽決例ハ之ヲ廢止ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

九　裁判所構成法中改正法律案

裁判所構成法中左ノ通改正ス

第七十一條ノ二　削除

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右第一案ハ十四年二月二日原夫次郎君外三名、第二案ハ同年二月五日原夫次郎君外五名之ヲ提出ス二月十日兩案ヲ一括シテ其ノ第一讀會ヲ開キ提出者(原夫次郎君)ハ兩案ニ付左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ只今議題ト相成リマシタ、違警罪即決例廢止法律案ニ付テノ提出ノ理由ヲ開陳セントスルモノデアリマス、御承知ノ如ク違警罪即決例ナルモノハ、我ガ帝國憲法實施前ノ發布ニ係ル法律デアリマシテ、即チ明治十八年ノ布告デ發布ニナッテ居ル法律デアリマス、其規定スル所ハ拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テ、警察官ニ之ガ裁判權ヲ附與シテアル點デアリマス、憲法ノ精神カラ申シマシテモ、又刑事訴訟法ノ如キ現今ノ法律ノ本旨カラ申シマシテモ、此違警罪即決例ナルモノノ如キ非立憲的ナル、非法的ナル法律ハ他ニハ存在致シテ居ナイノデアル、先ヅ憲法ノ精神カラ申スナラバ、一體我ガ帝國ノ臣民ハ法律デ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クル權利ヲ奪ハルヽコトハナイコトヲ保障致シテアルノデアル、又刑事訴訟法ノ趣旨カラ申シマスナラバ、今日彈劾主義ヲ執ッテ居ッテ、即チ起訴スル者ガアリ、此起訴ニ對シテ公平ナル嚴正ナル裁判ヲ下ス、之ニ對シテ被告人ノ辯解ヲ求ムル爲ニ、ソレ〴〵證據ヲ提出スル爲ニハ、辯護人ノ選定ヲ附スルコトニ相成ッテ居ルノデアル、但シ此刑事訴訟法ノ本旨ヲ全ウスル簡略ナル手續ト致シマシテ、往年略式命令法ナルモノガ制定シテアル、併シ此略式命令デアリマシテモ、矢張刑事訴訟法ノ本旨ニ從ッテ彈劾者、裁判官、辯護人ト云フヤウナ、ソレ〴〵規定ノ趣意ヲ全ウシテ居ルノデアル、而モ此略式命令ハ往々ニシテ人權ヲ蹂躙スルノ嫌ガアル爲ニ、拘留ニ對シテハ此略式命令ハ之ヲ適用ヲセナイ事ニナッテ居ル、唯罰金ト科料ノミト云フコトニナッテ居ルノデアル、斯ノ如ク刑事訴訟法

ニ於テハ極メテ法律的ニ人權ヲ擁護スル爲ニ、憲法ノ精神ニ基イテソレ〴〵立法シテアルノデアリマス、然ルニ何事デアリマセウカ、違警罪即決例ナルモノハ啻ニ罰金科料ニ付テ警察官ガ裁判スルノミナラズ、最モ國民ニ取ッテ大切ナル所ノ自由ノ拘束、即チ拘留處分ニマデ立入ッテ、警察官ガ權力ヲ發揮スルト云フ法律ニナッテ居ル、曩ノ本會議ニ於キマシテモ、私ガ横山君ノ提案ニ對シテ政府當局ノ答辯ヲ求メタ場合ニ於テ、内務當局ノ答辯ト致シマシテハ、現ニ今日去ル大正十二年ノ統計カラ見マシテモ、此違警罪即決例ニ依テ處分ヲ受ケテ居ル者ガ三十七萬三千人アルト云フコトデアル、而シテ之ニ對シテ不服ノ申立ヲ致ス者ガ僅ニ五百人デアルト云フ、斯ノ如キ亂暴ナル法律ノ施行ガ今日行ハレテ居ルノデアリマス、此違警罪ナルモノハ違警罪法ニ依テ規定シテアル所ノモノガ殆ド六十ニ近イ所ノ、ソレ〴〵犯罪事項ガ規定致シテアル、此六十餘リノ犯罪事項ニ對シテ今日警察官ハ、此違警罪即決例ト云フ武器ヲ以テ、ソコ等ノ路傍カラ色ト無ナク者ヲ引連レテ來テハ、直ニ之ニ對シテ自分ガ起訴シ、自分ガ其處デ直グ裁判ヲ致ス、甚シキニ至ッテハ此違警罪即決例ノ爲ニ、今日我ガ國民ノ三十幾萬ノ人間ノ殆ド全部ガ人權ヲ蹂躙致サレテ居ル現狀デアリマス、何レモ是ハ犯罪ノ檢擧ノ爲ニ機械ニ使ハレラ居ル、犯罪檢擧ノ爲ニ警察官ガソレ〴〵刑事訴訟法ノ規定ニ基イテ正當ナル權利ヲ行使シテ、犯罪ヲ搜査シナケレバナラナイニ拘ラズ、何時モ此違警罪即決例ナルモノヽ、武器ヲ以テ、ソコ等ニアル者ヲ拘留處分ニ處シテ、サウシテ之ニ對シテ警察ノ拘留所ニ於テ之ニ糾問ヲ致シ、之ヲ拷問ヲ致ス道具ニ供シテアルノデアリマス、是ニ於キマシテカ此違警罪即決例ニ付テハ從來在野法曹ノ間、又此帝國議會ニ於テモ度〻其非立憲ナルコトガ唱ヘラレテ來タノデアリマス、而モ何故ニ歷代ノ内閣ガ此非立憲ナル違警罪即決例ナルモノヲ廢止セナイノデアルカト申スナラバ、是ハ即チ私ガ先程申上ゲマシタ如ク此君主專制時代ノ遺物デアル所ノ此非立憲ナル法律ニ依テ、重大ナル犯罪ノ搜査ノ用ニ供スルガ爲ニ極メテ便宜デアルカラ、今日俄ニ之ヲ廢セナイト云フ裏面ノ消息ガアルノデアリマス、洵ニ吾〻國民ニ取ッテハ危イ限リト謂ハナケレバナラヌ、又此違警罪即決例ハ歷代ノ内閣ハ何時モ若シ之ヲ廢シタナラバ、是ガ裁キヲ付ケル爲ニ、或ハ判事ナリ檢事ナリノ

増員ヲシナケレバナラヌト斯ウ云フ理由、而モ其財源ノ無キヲ如何ニセント云フ答辯ニ終ッテ居ル、併ナガラ今日陪審制度ハ既ニ設ケラレ、普通選擧法ガ提案セラレントスル今日デアリマス、然ルニ拘ラズ、此非立憲ナル法律ヲ現存セシメテ置イテ、年々三十七萬餘人ノ人權ヲ蹂躙致シテ置イテ、是デ立憲政治ガ行ハルヽト云フコトハ洵ニ怪シカラナイ事ニ考ヘルノデアル、之ヲ外國ノ例ニ鑑ミマシテモ、斯ノ如キ非違ヲ遂グルト云フ法律ハ、世界各國何レノ國ニモ存在致シテ居ナイノデアル、此違警罪即決例ニ付テハ、曩ニ憲政會カラ改正案ガ出テ居ルノデアリマスルガ、其當時私ガ質問致シタ如ク何故憲政會ノ提案者ハ百尺竿頭一歩ヲ進メテ、斯ノ如キ非立憲ナル法律ヲ廢止スルト云フ提案ヲ爲サラナカッタカト云フコトヲ質問致シタノデアリマスルガ、要スルニ是ハ憲法違反ニ非ラズトト云フヤウナ辯解カラ遂ニ其儘ニ相成ッテ、マダ委員會ハ開會ニ至ッ居ナイノデアリマス、是ニ於テカ私ハ本案ヲ提出致シテ、憲政會ノ法案以上ニ、斯ノ如キ非立憲ナル非法ナル法律ハ全然之ヲ廢止シ、而シテ政府ハ之ヲ補フノニ新ナル手續ヲ設ケテ、而シテ此非ヲ補フコトニ致サナケレバナラヌト云フノガ本案提出ノ理由デアリマス、次ノ議題ト相成ッテ居ル裁判所構成法中改正法律案ノ理由ヲ開陳シマス、此裁判所構成法中ノ第七十一條ノ二ニ於キマシテ、往年判事ノ停年法ガ制定致サレタル際ニ、一面ニ於テ構成法ニ規定シテアル所ノ、大審院ノ判事ニナルノニハ十箇年間判事ノ職ニ居ナケレバナラヌ、控訴院ノ判事ニ於キマシテハ五箇年間ノ在職年限ガナケレバ、或ハ參事官デアルトカ、或ハ參事官デアル法省ノ局長デアルトカ云フ者ハ、常ニ法律ニ携ッテ居ルノデアルカラ、此者ニシテ若シ裁判官ニ採用ノ資格ノアル者デアルナラバ、司法省ノ局長若クハ參事官デアル年限ヲ、大審院判事、若クハ控訴院判事ノ資格ノ年限ニ通算スルコトガ出來ル、斯ウ云フ法律ヲ設ケタノデアリマス、所デ今度ハ參事官ト云フ制度ガ無クナッテ書記官ト云フモノハ只今申上グルヤウニ大審院判事若クハ控訴院判事ノ五年、十年ト云フ此資格ノ中ニハ入レナカッタノデアル、ソレハ何故デアルカト云フト、參事官以外ノ書記官トナル

者ハ、比較的法律ノ審議等ニハ關係シナイノガ本則デアルガ故ニ、是等ノ者ハ資格ガ無カッタノデアル、所デ今度ハ參事官ガ廢止ニナッテ、一般ノ法律審議等ヲ掌ラナイ所ノ書記官ト云フヤウナ名義ニナッタノデアリマスカラ、ソコデ司法省ハ曩ニ提案ヲ致シテ、參事官ノ制度ガ無クナッテ書記官ニナッタノデアル、ソレナラ矢張曩ニ參事官トカ局長トカ云フモノニ期間ノ利益ヲ均霑セシメタノデアルカラ、ソレト同一ノ趣意ニ依ッテ書記官全部ニ此利益ヲ均霑セシメナケレバナラヌト云フ提案ヲ致シテ居ル、併シ是ハ大ナル間違デアッテ、若シ斯ノ如ク法律ノ審議ニ關係シナイ——法律ニ關係ノ無イ所ノ會計課長デアルトカ云フナラバ、代議士デモ何デモ其資格ガアルト謂ハナケレバナラダケノ利益ヲ均霑セシメルト云フノデソレ〳〵系統ガ存シテ居リマシテ、裁判所ニモ人材極メテ多イノデアル、大學ヲ卒業シタル人事ニナル、斯ノ如キ間違ッタル法律ノ提案ニ相成ッテ居ルノデアリマス、加之一體裁判所ハ裁判所ガ區裁判所カラ地方裁判所ヲ經テ、林ノ如ク澤山ニ多イノデアル、然ルニ拘ラズ其資格ノアルト云フ人ガ司法省ノ役人ニナッタ爲ニ、一面ニ於テハ裁判官ノ待遇ト一般行政官ノ待遇トハ非常ニ懸隔ガアルノデアル、ソコデ裁判官カラ司法省ノ一般ノ行政官ニナル場合ニ於テハ、裁判官デ居ッタ時カラ見テハ官等俸給ト云フモノガズット上ニ昇ル、其上ニ昇ッタ司法省ノ役人ニナッテ、即チ役人ニナッテ居ッテ更ニ今度潰シガ利クト云フ場合ニ於テハ、五年ナリ十年ナリノ資格ガ出來タ場合ニ於テ、大審院ナリ控訴院ナリノ判事ニソレヲ向ケルト云フ場合ニ於テハ、曾テ自分ガ同僚デアッタ所ノ判事タリシ人ガズット階段ガ下デアル、司法省ニ唯飛ンデ行ッタト云フコトダケヲ以テ、ソレ等ノ人ト云フモノハ大審院或ハ控訴院ニ行クト云フト、ズット上ノ方ノ地位ニ任命サレルノデアリマス、斯ノ如キ不公平ナル事ヤレバ、從來裁判官デ居ッタ經驗ノ積ンデ居ル人ガ後カラ進ンデ行ク進路ヲ妨ゲルコトニナル、而シテ一面ニ於テ判事ノ停年令ノ趣意ハドウ云フ所カラ制定セラレテ居ルカト申シマスレバ、是ハ能力問題デナイ、是ハ卽チ先輩ガ後輩ノ進路ヲ遮ルノデアルカラ、何トカシテ之ニ退職ヲ命ジナケレバナラヌト云フノガ停年法ノ趣意デアル、若シ其趣意ヲ完ウスルト云フコトニナレバ、司法省ニ居ッタ所ノ役人ハ一旦行政官ニナッテ自

分ノ地位ヲ獲得シテ、俸給モ官等モ高イ所ニ行ッタノデアルカラ、更ニ逆戻リヲシテ參リマストキハ、裁判官ノ進路ヲ非常ニ妨ゲルト云フコトニナル、サウ云フ不公平ナ結果ヲ生ズルノデアリマス、デアリマスガ故ニ、此裁判所構成法中ノ七十一條ノ二ノ法律ニナルモノハ、結局人ノ爲ニ――唯司法省ノ役人ノ爲ニ憲法附屬ノ法律ヲ改正スル、斯ウ云フ結果ニナル、唯司法省ノ役人、僅ニ局長トカ或ハ參事官トカ云フ數名ノ者ノ爲ニ、此重大ナル法律ヲ改正シナケレバナラヌ、法律ガ制定ニナッテ居ルト云フコトニナレバアッテ、一面ニ於テ裁判官タル者ノ進路ヲ妨ゲ、百害アッテ一利ノ無イ法律デアルカラ、是ガ本案提出ノ理由デアリマス、ドウゾ御協贊ヲ願ヒマス

右ニ對シ横山勝太郎君ハ質疑ヲ爲シ原夫次郎君之ニ應答ス

横山勝太郎君ノ質疑

違警罪即決例ノ廢止案ニ付テ極メテ簡單ニ質問ヲ致シテ置キタイト思ヒマス、本員ノ提出致シテ居リマスル違警罪即決例ノ改正法律案ト至大ノ關係ヲ持ツノデアリマスカラ、原君ノ御意見ノ在ル所ヲ腹藏ナク承ッテ置キタイト思フ、第一ニ御尋ヲ致シマス點ハ、原君ハ去月三十一日ノ違警罪即決例改正法律案ノ上程サレマシタ時ニ、本員ニ對シテ質問ヲ發セラレマシタ、其質問ノ要旨ハ、違警罪即決例ハ憲法違反デアル、何故ニ憲法違反ノ法律ニ改正ヲ加ヘルノデアルカ、何故ニ進ンデ之ヲ廢止セヌノデアルカト云フ御意見デアリマス、之ニ對シテ本員ハ憲法違反ニ非ズト云フコトヲ、極メテ明確ニ申上ゲテ置キマシタ、又司法當局及內務當局モ同ジク憲法違反ニ非ズト明瞭ニ答ヲ致シテ居リマス、原君ハ此政府竝ニ本員ノ答辯ニ滿足ヲセラレタノデアルカドウカ存ジマセヌガ、本案ノ提出ノ理由書ヲ拜見致シマスレバ、憲法違反ト云フ文字ヲ避ケテ、憲法ノ精神ニ副ハザル法律ト云フ意味ニ御訂正ニナッテ居ルヤウデアル、又本日此席ニ於ケル原君ノ趣旨ヲ詳細謹聽致シテ居リマシタガ、憲法違反ト云フコトハ御言明ガ無カッタヤウニ記憶致シマス、併シ遠方ニ居リマシタカラ、或ハ本員ノ聽間違デアルカモ存ジマセヌガ、原君ハ去月三十一日ノ本議場ニ於テ憲法違反ナリト明言致シタルモノヲ、本日ハ何ト御考ニナッテ居ルカ、此點ノ辯明ヲ明確ニ承ッテ置キタイト考ヘマス、第二ニ承リタイノハ縷々御陳辯ノ如ク、此即決例ニ依テ支配ヲ受ケテ居ルモノハ、數字ニ現レテ居ルノダケデモ三十七萬有餘件ニ達シテ居ルノデアリマス、是ガ正式ノ裁判ヲ受ケタモノハ眞ニ僅デアッテ、吾々ノ人權自由ノ上ニ至大ナ影響ヲ持ツト云フコトハ原君モ本員モ同論デアリマス、然ルニ現ニ三十幾萬ノ事案ヲ警察官ニ於テ處理スベキ必要ガ目下ト雖モ存在致シテ居ルコトハ、原君ト雖モ御認メデアラウト考ヘル、今突然違警罪即決例ヲ廢シテ、如何ナル手續ト方法ニ依テ此三十萬、四十萬ト云フ多數ノ事件ヲ處理セントスルノデアリマスカ、別ノ機關ヲ設ケヨト云フノデアリマスカ、其點ニ付テノ意見ヲ承ラナケレバ、容易ニ原君ノ意見ニ贊同スルコトハ出來マセヌ、第二ニ承リタイノハ新シイ刑事訴訟法ノ中ニハ、御承知ノ如ク略式手續ト云フ規定ガ二百五十三條以下ニ規定致シテアリマス、此略式手續ハ單行法デアッタモノヲ、現行刑事訴訟法ノ中ニ挿入致シタノデアリマス、其精神ニ於テハ單行法ト現行法ト何等相違ハナイノデアリマス、此略式手續法ハ原君御承知ノ如ク、正式ノ裁判ニ依ラズシテ檢事ノ請求ニ依テ裁判官ガ豫告命令ヲ發スレバ、略式手續ニ依テ裁判ヲスルノデアリマス、之ヲ憲法違反ナリト認メヌト云フ理由ハ一體何所ニ在ルカ、違警罪即決例ニ依ルモノモ、略式手續法ニ依ルモノモ、共ニ正式裁判ヲ許シテ居ルノデアリマスカラ、憲法ノ所謂吾々ノ權利ト云フモノヲ剝奪致シテハ居ラヌノデアリマス、結局ニ於テ異存ガアルナラバ、法律ニ依ル裁判官ノ裁判ヲ受クル權利ト云フモノハ、兩者共ニ之ヲ保留致シテ居ルノデアリマス、然ルニ原君ハ單ニ違警罪即決例ノミニ對シテハ違憲デアリト言ヒ、非立憲ナリト言ヒ、或ハ之ヲ廢スルノ必要アリト言ハル、ガ如キハ、其議論ニ於テ甚ダ一貫セヌモノガアルト考ヘマス、而シテ若シ原君ノ議論ニ依テ違警罪即決例ヲ廢止スルノ必要ガアルト云フコトデアルナラバ、略式手續ノ方ハモット廢止スルノ必要ガアルト考ヘマス、卽チ略式手續ハ御承知ノ如ク、區裁判所ノ管轄ニ屬スル刑事事件ノ裁判ヲスルノデアリマス、區裁判所ノ

管轄ニ屬スル刑事事件ハ拘留、罰金ハ勿論ノコト、有期ノ懲役ヲモ含ンデ居ルノデアリマス、斯ノ如キ重大ナル事案ヲ處理スル所ノ略式手續ノ規定ハ其儘抛擲致シテ置イテ、サウシテ三十年ノ永キ官民上下之ヲ憲法上ノ問題トシテ、疑ナキモノトシテ適用シ來ッタモノヲ、突如トシテ廢止セントスルハ、一體ドノ邊ニ原君ノ理由ガ在ルノデアリマスカ、此三點ヲ詳細ニ御答ヲ願ヒタイ、終リニ一言致シタイノハ、原君モ曾テハ裁判所ノ檢事ヲ奉職サレテ居ラレタコトヲ私記憶致シテ居リマス、多年司法官トシテ裁判所部内ニ在ッタ人デアリマス、司法官トシテ裁判所部内ニ在リシ當時ニ於テハ、此違警罪即決例ナルモノヲ平然トシテ適用シテ居ッタノデアル、今日ニナッテ司法官ヲ罷メテ野ニ降ッテ、而シテ是ガ違憲デアルトカ非立憲ダト云フヤウナ言辭ヲ弄スルト云フコトハ、甚ダ其心事ニ於テ透明ヲ缺クモノガアルト私ハ信ジマス、此數點ヲ御確メ致シマス

原夫次郎君ノ應答

只今、横山君ノ御質問ニ對シテ、私ハ答辯ノ機會ヲ得タルコトヲ同君ニ感謝スル者デアリマス、先ヅ此本案提出ノ理由ト致シテハ、何所マデモ違警罪即決例ナルモノハ、憲法違反ノモノデアルト云フ確信ヲ有シテ居ル、少クトモ横山君ト雖モ、此違警罪即決例ナルモノガ憲法ノ本旨ニ副ハナイモノデアルト云フコトハ、是ハ爭ヘナイコトダラウト思フ、デアルカラ私ハ本案提出ノ理由ト致シテハ、憲法ノ本旨ニ副ハナイモノデアルト云フコトヲ書イテ居ルノデアル、即チ現行刑事訴訟法ノ本義ニ悖リ、憲法ノ精神ニ副ハザルガ爲メ人權ヲ蹂躙スルコト甚シキモノアルヲ認ム、是ガ提案ノ理由デアル、ソコデ私ノ憲法ニ違反デアリマスト云フコトハ、是ハ憲法ノ條文ト照合シタナラバ洵ニ明ナコトデアルト思フノデアリマス、先ヅ違警罪即決例ニ於テ拘留處分ヲ言渡サレ、若クハ罰金ノ處分ヲ言渡サレタナラバ、是ハ何デアリマスカ、即チ警察官ノ一種ノ裁判デハナイカ、一種ノ裁判デアッテ、吾々ノ自由權ナリ財產權ナリヲ剝奪セラルヽノデアル、即チ憲法ノ規定スル所ニ依レバ「司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ」トアル、警察署ハ裁判所デハナイ、而シテ裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定メルト斯ウナッテ居ル、ソコデ裁判所構成法ニ於テ檢事ガ起訴スル、起訴官ハ檢事デアル、裁判官ハ裁判ヲ爲ス機關デアルト云フコトガ規定シテアル、又人民ノ側カラ申スナラバ、日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルコトノ權利ヲ剝奪セラルヽコトノナイト云フ自由ノ保障ガアルノデアル、ソコデ憲法違反デアルト云フコトハ、是ハ私ガ確信シテ疑ハナイ所デアル、少クトモ憲法ノ精神ニ悖ッテ居ル法律デアルト云フコトハ、誰人モ否ムコトハ出來ナイ、ソレカラ次ニ横山君ノ御質問ノ略式命令ノ點デアル、私ハ此略式命令ガ憲法違反デアルトカ、憲法ノ精神ニ副ハナイモノデアルト云フコトハ斷ジテ承知致シテ居ナイノデアル、略式命令ヲ認ムルナラバ、何故違警罪即決例ト云フモノガ憲法違反ニナルカト云フ御議論ノヤウデアッタヤウデアリマスガ、斷ジテサウ云フコトハナイ、略式命令ハ刑事訴訟法ノ本旨ニ從テ檢事ガ取調ヲ爲シ、檢事ガ起訴シナケレバ略式命令ハ出來ナイ、是ハ洵ニ略式命令ヲ見タナラバ一見明瞭デアル、尙ホ御參考マデニ申述ベタイノハ、裁判所ノ裁判ニ依ラズシテ吾々ノ財產權ガ剝奪セラルヽ場合ガ他ニ三件アル、私ノ知リ得ル所ニ依レバ、ソレハ此明治三十三年三月ノ法律デアリマスガ、間接國稅犯則者ノ處分法デアル、ソレカラ三十七年ノ法律ニ依テ煙草專賣法違犯事件ノ法律ガ出來テ居ル、又粗製樟腦油專賣法違犯事件ノ處分法ガ出テ居ル、ソレカラ鹽專賣法モ同樣デアル、所デ是等ノ違反者ヲ處罰スルト云フ法律ノ規定ハ斯ウ云フ風ニナッテ居ル、罰金ニ當ル者ハ稅務署長ニ於テ此犯則者ニ通告ヲ致スノデアル、デ通告ヲ致シタ場合ニ於テ違反者ガ其罰金ヲ納メナイト云フ場合ニ於テハ、稅務官ハ更ニ之ヲ檢事ノ所ヘ持ッテ行ッテ、サウシテ檢事ガ更メテ之ヲ起訴スルト云フ決律ニナッテ居ル、是ガ違警罪即決例トハ大變ナ相違ノアル點デアル、ソレカラ次ニ違警罪即決例ヲ只今廢止致シタナラバ、之ニ更ルベキ處置ヲ如何ニスルカト云フ御尋デアル、是ハドウモ横山君トモアル人ノ御問トハ思ハレナイ、先ノ本議場ニ於テ鈴木參與官ノ言ハレタヤウナ、既ニ年々此三十七萬餘ノ違反者ガ、變則ナル裁判ヲ受ケル所ノ憐ムベキ人間ガ多イノデアル、之ヲ正式ニ引戻シテ、正式ナ裁判ヲ爲サシムル爲ニ、本員ハ此廢止法案ヲ提案致シテ居ルノデアル、デアルガ故ニ司法省ハ宜シク此正則ナル刑事訴訟法ノ本旨ニ基イテ、是等ノ處置ヲ付ケルヤウニ能ク內務

省ト協定シテ、若シ判事ナリ檢事ナリノ人ヲ增サナケレバナラヌト云フナラバ、之ガ豫算ヲ組立テヽ議會ニ協贊ヲ求メレバ宜シイノデアル、現ニ陪審法ハ如何デアル、吾ゝガ協贊ヲ與ヘタル所ノ陪審法ノ費用ト云フモノハ年々實ニ澤山ナモノデアル、其澤山ナモノデアッテモ、是ガ苟モ立憲法治下ノドウシテモ執ラナケレバナライト云フ途ヲ講ズル場合ニ於テハ、豫算ノ此費用ノ支出方ニ付テハ、是ハ政府者ノ宜シク按排スベキ事柄デアル、私共ハ此所マデ立入ッテ彼此レ申スベキ事柄デナイト思フ、横山君ト雖モ、現ニ三十幾萬ノ無辜ヲ罰スルヤウナ、人權蹂躙ヲヤルヤウナ事ヲスルノデアルカラ、同君既ニ改正法律案ヲ出シテ居ルノデアル、吾ゝハ其所マデ立入ッテハ申サナイノデアル、是ハ宜シク政府者ノ責任ト謂ハナケレバナリマセヌ、以上ヲ以テ大體私ノ答辯ヲ終ルコト、致シマス

右終ルヤ横山勝太郎君ハ左ノ如ク政府ノ意見ヲ求メ熊谷政府委員及片岡政府委員ハ政府ノ意見ヲ述フ

横山勝太郎君ノ政府ノ意見希望

此場合政府殊ニ內務省、司法省、此方面ノ御意見ヲ承ッテ置キタイト考ヘマス

熊谷政府委員ノ意見陳述

原君御提出ニ相成リマシタ違警罪即決例廢止法律案ニ付キマシテハ、政府ニ於キマシテハ全然反對ノ意思ヲ表明シテ置キタイト思フノデアリマス、其理由ニ付キマシテハ、元來違警罪即決例ト云フモノハ憲法違反デアルカナイカ、斯ウ云フヤウナ議論ハ是マデ再々此議場ニ於テモ或ハ他ノ委員會ノ機會ニ於キマシテモ闘ハセラレタ所ノ議論デアリマシテ、今日ニ於テハ既ニ確定シテ居ルノデアリマス、而シテ横山君提出ノ違警罪即決例改正法律案ノ場合ニ於キマシテモ、政府ガ聲明シマシタ通リニ、此三十七萬三千件許リノ大ナル違警罪ノ件數ト云フモノヲ、如何ニ處理シテ行クカト云フコトニ付キマシテハ、原君ハ何等ノ案ヲ持ッテ居ラヌ、而シテ此三十七萬三千件許リノ中ニ正式裁判ヲ仰ギマシタ、由テ以テ無罪トナル所ノ件數ハ約五百件內外、正式裁判ヲ申立テル件數ト云フモノハ三十七萬三千件ノ中五百件內外デ、而シテ此中無罪ニナル所ノモノハドノ位アルカト云フト、百二十件內外デアリマス、是ハ四五年ノ統計ニ徵シテ明瞭ナ點デアリマス、故ニ政府ハ違警罪即決例ト云フモノハ、今日實際ニ於キマシテ之ヲ廢止スルコトハ出來ヌ所ノモノデアルト云フコトヲ玆ニ聲明致シマス、詳シイ事ハ委員會ニ於テ陳述スルコトニ致シマス

片岡政府委員ノ意見陳述

違警罪即決例廢止ニ付キマシテハ、最早相方ノ間ニ論旨ハ略明ニナッテ居ルヤウニ存ジマス、併ナガラ內務省トシテノ所見ヲ申上ゲテ置ク必要アリト申スコトデアリマスカラ、一應內務省トシテ此即決例ニ關スル意見ヲ申上ゲテ置キマス、即決例其者ハ現行刑事訴訟法ノ本義ニ悖リ、憲法ノ精神ニ副ハヌモノデアルガ爲ニ、人權ヲ蹂躙スル、是ガ原君ノ提案ノ要旨デアルヤウデアリマス、然ルニ裁判ニ關スル憲法ノ規定ハ、今原君ガ當席ニ於テ御述ニナリマシタ如ク、日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權利ヲ奪ハル、コトナシト云フ、是ダケハ既ニ御認メニナッテ居ルヤウデアリマス、然ラバ日本臣民ハ裁判ヲ受クル機會ヲ喪失スルコトガナイト云フ、此裁判ハ必ズ法律ニ定メタル裁判官ガ之ヲ爲ス、斯ウ云フコトノ二點ハ保障サレテ居ル、而シテ違警罪ノ即決ナルモノハ、性質上行政處分ニ屬スルモノデアリマス、裁判ト必ズ謂フモノデハナイ、故ニ法律ニ定メタル裁判官ガ、其任ニ當ラザルノ故ヲ以テ、憲法違反ナリト云フコトハ出來得ナイト思フノデアル、且ツ本處分ニ對シテ、不服ナル場合ハ、被告人ハ任意ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトガ出來ル、一タビ正式裁判ヲ求メマシタ以上ハ、其事柄ハ即チ裁判所ニ繫屬スルノデス、法律ニ定ムル裁判官ノ裁判ヲ受クルノデアリマス、即チ本處分ヲ以テ裁判ヲ受クルノデアリマスカラ、裁判ノ權ヲ奪ハレテ居ルト云フコトハ無イノデアル、ソレカラ本處分ト云フモノ

ハ、最モ事犯ノ極メテ輕微ナモノデアル、罰モ亦極メテ輕イモノデアル、ソコデ要ハ人民ノ利便ヲ考慮シ、規定セラレタル所ノ是ハ法律デアリマス、而モ罪狀ハ極メテ明白ニシテ、輕微ナル一一正式裁判ヲ求メルト云フ其手續ガ寧ロ煩ニ堪ヘナイ、斯ウ云フ事ヲ考慮シテ、是ハ出來テ居ル方法デアルノデアリマス、寧ロ極メテ簡單ニ、迅速ニ其處分ノ決定ヲ受ケテ、納ムベキ科料ヲ納メ、若クハ拘留ノ執行ヲ受ケルト云フコトハ寧ロ便宜デアル、斯ウ云フコトニナッテ居ル事ハ、モウ久シク十八年以來今日マデ、國民ガ一般ニ能ク是ハ認メテ居ル事柄デアルト思フノデアリマス、又斯ル處分ハ警察官ノミガヤルカト云フト、必ズサウデハナイノデアリマス、即チ稅務署長、稅法ノ犯則者ニ對シテ處分ヲ致スガ如キコトモ、是モ御承知デアリマス、單リ此即決例其モノガ違反ナリ、斯ウ仰セラレルト云フニ至ッテハ、私ハ甚ダ權衡ヲ失シタ御論デハナイカト思フノデアリマス、之ヲ又實際ノ今日ノ實情ニ徵シテ、能ク御考慮ヲ願ッテ見タイト思フノデス、今日警察若クハ分署ト云フモノハ、全國ニ一千二百六十八アリマス、一千二百六十八ノ警察署分署ニ於テ即決處分ヲシテ居ル、其即決ノ處分ノ數ハ今司法省ニ關スル政府委員ヨリモ御述ニナリマシタ通リ、二十七萬餘件ニナッテ居ル、サウシテ其三十七萬餘件ノ中デ正式裁判ヲ求メタ數ハ、先刻此所ニ說明セラレタ如ク僅ニ五百餘件デアリマス、サウスルト三千七百三十件中ニ一ッ位ノコトニシカ當ラヌ、其中ノ正式裁判ノ結果ニ依テ違警罪ノ處分ノ變ッタモノガ是ダケシカ無イノデアル、若モ今提案者ノ言ハレル如ク、之ヲ今廢止シテ正式裁判ヲ求メルトカ云フコトニナリマシタナラバ、今日ノ警察署竝ニ分署ノ數位ノモノヲ別ニ設ケナケレバ、實際國民ハ非常ニ不便ヲ被ルノデアリマス　然ラバ今日警察署ナリ分署ノ數位ノモノヲ、是ダケノ數ヲ此所ニ置クト云フコトデアレバ、其費用ヲ如何ニシテ出スカト云フコトモ、此本案ヲ提出ナサル方ハ御考慮ニナラナケレバナラヌト思フノデアリマス、若モ是ガ提案者ノ言フ如ク甚シク不當ナモノデアルト云フコトナラバ、費用ニ拘ラズ考慮シナケレバナリマセヌガ、事實ハ前段申上ゲルガ如キ次第デアリマスカラ、政府トシテハ斯ノ如キ提案ニ對シテハ、玆ニ同意ヲ表スル譯ニハ參リマセヌノデアリマス

次テ兩案ハ政府提出裁判所構成法中改正法律案(本項第一(一一))外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末各原案ヲ否決スヘキモノト決シ二月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

第一案ハ橫山勝太郎君提出違警罪即決例中改正法律案(二)第二案ハ政府提出裁判所構成法中改正法律案(本項第一(二))議決ノ結果兩案トモ消滅シタリ

一〇　齒科醫師法中改正法律案

齒科醫師法中左ノ通改正ス

第一條第一號中「文部大臣」ノ上ニ「大學令ニ依ル大學ニ於テ齒科醫學ヲ修メ齒科醫學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ官立若ハ」ヲ加ヘ(同條ニ左ノ一項ヲ加フ

齒科醫師試驗ハ中學校若ハ修業年限四年以上ノ高等女學校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ齒科醫學專門學校ヲ卒業シ若ハ外國齒科醫學校ニ於テ四年以上ノ齒科醫學ノ課程ヲ修業シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第二條第一號ヲ左ノ如ク改メ第二號ヲ第三號ヲ第二號ニ改ム

二　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

第三條中「禁錮」ノ上ニ「六年未滿ノ懲役若ハ」ヲ加フ

第四條ノ二　命令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外歯科醫師ニ非サレハ歯科治療ヲ爲ス場所ノ經營ヲ爲スコトヲ得ス

第六條中「歯科醫師」ノ下ニ「又ハ歯科診察所若ハ治療所ノ首長」ヲ加フ

第七條中「學位及稱號」ヲ「學位稱號及專門科名」ニ改ム

第八條　歯科醫師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ郡市歯科醫師會ヲ設立スヘシ

郡市歯科醫師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣歯科醫師會ヲ設立スヘシ

道府縣歯科醫師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ日本歯科醫師會ヲ設立スルコトヲ得

郡市歯科醫師會道府縣歯科醫師會及日本歯科醫師會ハ法人トシ勅令ノ定ムル所ニ依リ歯科醫事衞生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第九條　郡市歯科醫師會ハ命令ニ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外郡市ヲ區域トス

公私立ノ診察所若ハ治療所又ハ其ノ出張所ニ於テ診察及治療ニ從事スル歯科醫師ハ其ノ診察所治療所又ハ出張所ノ所在地ヲ區域トスル郡市歯科醫師會ノ會員トス

第九條ノ二　道府縣歯科醫師會ハ道府縣ヲ區域トス

道府縣內ニ在ル郡市歯科醫師會ハ其ノ道府縣歯科醫師會ノ會員トス

第九條ノ三　日本歯科醫師會ハ內地ヲ區域トス

日本歯科醫師會ハ道府縣歯科醫師會ヲ以テ會員トス

第九條ノ四　郡市歯科醫師會道府縣歯科醫師會若ハ日本歯科醫師會ハ會員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條ノ五　郡市歯科醫師會道府縣歯科醫師會及日本歯科醫師會ノ設立ノ手續機關ノ組織經費ノ負擔監督會員ノ懲戒其ノ他必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條第一項中「第一號又ハ第三號」ヲ「各號ノ一」ニ改メ同條第二項中「歯科醫師」ノ下ニ「六年未滿ノ懲役又ハ」ヲ加ヘ同條第三項中「第三號」ヲ「第二號」ニ改ム

第十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

左ニ揭クル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス

一　免許ヲ受ケスシテ歯科醫業ヲ爲シタル者

二　停止中歯科醫業ヲ爲シタル者

三　第四條ノ二第五條第六條若ハ第七條ニ違背シタル者

同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

歯科醫師又ハ歯科專門ヲ標榜シ若ハ金屬充塡鑲嵌義歯歯冠繼續及架工歯列矯正竝口蓋補綴等ノ技術ニ屬スル行爲ヲ爲ス醫師以外ノ者ニシテ歯科技工ニ關スル行爲ヲ業トシテ爲シタル者

亦第一項ニ同シ

第十一條ノ二　歯科専門ヲ標榜シ又ハ金屬充塡鑲嵌義歯歯冠繼續及架工歯列矯正竝口蓋補綴等技術ニ屬スル行爲ヲ爲ス醫師ニハ第八條及第九條ヲ準用シ第四條ノ二ヲ適用セス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ト看做ス

本法施行ノ際現ニ存スル歯科醫師會ハ本法施行ノ日ヨリ六月内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

本法施行前ノ歯科醫師試驗ニ關スル規定ハ本法施行ノ後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

右ハ十四年二月七日石塚三郎君外五名之ヲ提出ス二月十四日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者（石塚三郎君）ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

歯科醫師法中改正法律案ノ提出ニ付キマシテ、其理由ヲ簡單ニ御說明致シマス、歯科醫師法ノ制定セラレマシタノハ、明治三十九年デゴザイマシテ、今日マデ殆ド二十箇年ノ星霜ヲ閲シテ居リマスル其二十箇年ノ間ニ於キマシテ歯科醫事衞生ノ進步發達ハ誠ニ驚クベキモノデアリマシテ、殊ニ其當時ハ歯科醫ノ數ガ僅ニ九百名ニ過ギナカッタノデアリマス、現今デハ歯科醫ノ數ハ

一萬一千人ト云フ多數ニ上ッテ居ルノデアリマス、又學校ノ數ハ其當時ニ於キマシテハ歯科醫學校ナルモノガ僅カ一校デアリマシタモノガ、今日デハ歯科醫學專門學校ナルモノガ七個カ設ケラレテ居ルノデアリマシテ、其學校ノ數ヨリ言ッテ見マシテモ、其一斑ヲ窺フコトガ出來ルノデアリマス、故ニ歯科衞生ガ國民保健上ニ重大ナル關係ヲ有シマシテ、普ク之ガ一般ニ理解サレマシテ、而シテ民間ニハ種々ナル所ノ施設ガ盛ニ設ケラレテ居ルノデアリマス、然ルニ歯科醫師法ト同時ニ制定セラレマシタ普通ノ醫師法ハ、其後幾度カ改正ニ改正ヲ加ヘラレマシテ、益醫事衞生ニ貢獻セラレテ居リマスケレドモ、獨リ歯科醫師法ハ大正五年ニ於キマシテ僅カ其一少部分ガ改メラレタバカリデアリマシテ、全ク舊來ノ儘ニ放置サレタト云フモ過言デナイノデアリマス、日本聯合歯科醫師會ハ既ニ十箇年以來是ガ改正ニ向ッテ調査ヲ重ネテ居ルノデアリマスガ、殊ニ近來ハ目覺シキ所ノ歯科ノ發達進步ニ顧ミマシテ、一日モ此改正ノ速カナラムコトヲ希望スルニ至ッタノデアリマス、私等ハ又多年此方面ニ付キマシテ注意ヲ拂ッテ居リマシタ關係上、遂ニ一ツノ成案ヲ得マシテ、御審議ヲ煩スニ至ッタ次第デアリマス、何卒速ニ之ガ實施ヲ見、國民衞生上一ノ缺陷アルモノヲ、補足セラレンコトヲ偏ニ切望スルノデアリマス、本改正案ノ要旨ハ大體歯科醫師ナル者ノ資格及歯科醫師會ノ構成竝ニ其運用ヲ、醫師法ニ於ケルト同樣ナラシムルモノデアリマシテ、目前ニ迫リツヽアル所ノ要求ト、將來ノ趨勢ニ適應セシメントスルノデアリマス、又歯科ニ關シマシテ特別ナル事情アルモノハ、新ニ之ガ制度ヲ設ケント欲スルノデアリマス、歯科醫師法ハ制定當時、本院ヨリ提出セラレマシテ法律トナリマシタモノデアリマスガ、今日マデ國家社會ノ爲ニ容易ナラザル效力ヲ現シテ居リマス、隨テ之ガ大成ヲセシメマスル爲ニ、此度ノ改正案モ必ズヤ諸君ノ御同情アル御審議ヲ期待シ得ルモノト確信致シテ居リマス、詳細ノ事ハ委員會ニ於テ御說明致シマスルガ、願クバ滿場諸君ノ御同意ヲ得マシテ、本案ヲ無事通過セシメラレンコトヲ偏ニ希望致シマス次第デアリマス

次テ本案ハ議長指名（九名）ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ二月十六日委員會

ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ二月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書）

歯科醫師法中左ノ通改正ス

第一條第一號中「文部大臣」ノ上ニ「大學令ニ依ル大學ニ於テ歯科醫學ヲ修メ歯科醫學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ」ヲ加ヘ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

歯科醫師試驗ハ中學校若ハ修業年限四年以上ノ高等女學校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ歯科醫學專門學校ヲ卒業シ若ハ外國歯科醫學校ニ於テ四年以上ノ歯科醫學ノ課程ヲ修業シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第二條第一號ヲ左ノ如ク改メ第二號ヲ削リ第三號ヲ第二號ニ改ム

一　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

第三條中「禁錮」ノ上ニ「六年未滿ノ懲役若ハ」ヲ加フ

第四條ノ二　命令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外歯科醫師ニ非サレハ歯科○診察所治療所若ハ技工所ノ開設又ハ管理ヲ○治療ヲ爲ス場所ノ經營ヲ爲スコトヲ得ス

第六條中「歯科醫師」ノ下ニ「又ハ歯科診療所若ハ治療所ノ首長」ヲ加フ

（小字及――ハ委員會修正）

第七條中「學位及稱號」ヲ「學位稱號及專門科名」ニ改ム

第八條　歯科醫師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣（道府縣歯科醫師會ハ日本歯科醫師會ヲ設立スルコトヲ得）郡市歯科醫師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣歯科醫師會ヲ設立スヘシ

歯科醫師ハ土地ノ狀況ニ依リ郡市道府縣歯科醫師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ日本歯科醫師會ヲ設立スルコトヲ得

郡市歯科醫師會及日本歯科醫師會ハ法人トシ勅令ノ定ムル所ニ依リ歯科醫事衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第九條　道府縣歯科醫師會ハ道府縣郡市歯科醫師會ハ命令ニ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外郡市ヲ區域トス

公私立ノ診察所若ハ治療所又ハ其ノ出張所ニ於テ診察及治療ニ從事スル歯科醫師ハ其ノ診療所治療所又ハ出張所ノ所在地ヲ區域トスル郡市（道府縣）歯科醫師會ノ會員トス

第九條ノ二　道府縣歯科醫師會ハ道府縣ヲ區域トス

道府縣内ニ在ル郡市歯科醫師會ハ其ノ道府縣歯科醫師會ノ會員トス

第九條ノ三　日本歯科醫師會ハ内地ヲ區域トス

日本歯科醫師會ハ道府縣歯科醫師會ヲ以テ會員トス

第九條ノ三　郡市歯科醫師會ハ勅令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外郡市ヲ區域トス

第九條第二項ノ規定ハ郡市歯科醫師會ニ之ヲ準用ス

第九條ノ四　道府縣齒科醫師會日本齒科醫師會若ハ郡市
郡市齒科醫師會道府縣齒科醫師會若ハ日本齒科醫師會ハ會員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條ノ五　道府縣齒科醫師會日本齒科醫師會及郡市
郡市齒科醫師會道府縣齒科醫師會及日本齒科醫師會ノ設立ノ手續機關ノ組織經費ノ負擔監督會員ノ懲戒其ノ他必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條第一項中「第一號又ハ第三號」ヲ「各號ノ一」ニ改メ同條第二項中「齒科醫師」ノ下ニ「六年未滿ノ懲役又ハ」ヲ加ヘ同條第三項中「第三號」ヲ「第二號」ニ改ム

第十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

左ニ揭クル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス

一　免許ヲ受ケスシテ齒科醫業ヲ爲シタル者

二　停止中齒科醫業ヲ爲シタル者

三　第四條ノ二第五條第六條若ハ第七條ニ違背シタル者

同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

齒科醫又ハ齒科專門ヲ標榜シ若ハ金屬充塡鑲嵌義齒齒冠繼續及架工齒列矯正竝口蓋補綴等ノ技術ニ屬スル行爲ヲ爲ス醫師以外ノ者ニシテ齒科技工ニ關スル行爲ヲ業トシテ爲シタル者亦第一項ニ同シ

第十一條ノ二　醫師ニシテ特ニ內務大臣ノ許可ヲ受ケ齒科專門ヲ標榜シ又ハ齒科醫業中金屬充塡、鑲嵌、義齒、齒冠繼續及架工、齒列矯正、口蓋補綴ノ技術ニ屬スル行爲ヲ爲ス者ハ第四條ノ二第八條第一項第三項第九條第二項及第九條ノ三第二項ノ適用ニ付テハ之ヲ齒科醫師ト看做ス
齒科專門ヲ標榜シ又ハ金屬充塡鑲嵌義齒齒冠繼續及架工齒列矯正竝口蓋補綴等ノ技術ニ屬スル行爲ヲ爲ス醫師ニハ第八條及第九條ヲ準用シ第四條ノ二ヲ適用セス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ同法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ト看做ス

本法施行ノ際現ニ存スル齒科醫師會ハ本法施行ノ日ヨリ六月內仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

本法施行前ノ齒科醫師試驗ニ關スル規定ハ本法施行ノ後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

三月三日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長中原德太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

齒科醫師法中改正法律案ノ特別委員會ノ經過竝ニ結果ヲ簡單ニ御報告申上ゲマス、本案提出ノ趣旨ハ齒科醫學ノ進步發達、齒科醫師ノ業務上ノ確保、竝ニ其位置ヲ向上致スト云フコトヲ以テ目的トサレマシタル案デアリマス、隨テ本案ハ齒科醫師ニ取リマシテハ極メテ重要ナ法案デアリマスルシ、又齒科醫師ニ關係シテ居リマスル所ノ一般醫師、之ニモ關係ヲ持ッテ居リマスル法

案デアリマス、故ニ委員會ニ於キマシテハ極メテ愼重ナル態度ヲ以テ之ヲ綿密ニ審議致シタノデアリマス、卽チ文部省竝ニ內務省ニ屬シマスル政府委員及官憲當局者ノ出席ヲ求メマシテ、委員ト提案者竝ニ此政府委員トノ間ニ前後四回ニ亙リマスル委員會ヲ開催致シマシテ、最モ熱心ニ質問應答ヲ重ネタノデアリマス、其間ニ於キマシテ一回ノ協議會ヲ開キマシテ、特ニ全出席ノ委員、政府當局者ガ膝ヲ交ヘテ特別ニ懇談ヲ致シマシテ、遂ニ其結果ト致シマシテ此議員ヨリ提出サレマシタル本案ハ、主トシテ政府當局ノ意嚮ヲ尊重致シマシテ、次ノ如ク修正サレマシタ次第デアリマス、卽チ法案第一條、是ハ全部削除致シマシテ現行法ノ通リト致シマス、ソレカラ第四條ノ二ニ於テ「命令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外歯科醫師ニ非サレハ歯科治療ヲ爲ス場所ノ經營ヲ爲スコトヲ得ス」ト云フ原案ヲ修正致シマシテ「命令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外歯科醫師ニ非サレハ歯科診察所治療所若ハ技工所ノ開設又ハ管理ヲ爲スコトヲ得ス」斯ノ如ク修正ヲ致シマシタ、ソレカラ歯科醫師ト申シマスルモノハ、郡市歯科醫師會ヲ本位トスルト云フコトガ原案ノ趣旨デアリマシタガ、是ハ其地方ニ於ケル歯科醫師ノ數竝ニ分布ノ狀況ニ鑑ミマシテ、郡市ニ強制設立致シマスルコトガ困難デアルト云フコトガ政府ノ意見デアリマシタ、故ニ此政府ノ意見ニ贊成ヲ致シマシテ、道府縣歯科醫師會ト云フモノヲ以テ本位ト致シマシテ、卽チ第八條ニ於テ「歯科醫師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ郡市歯科醫師會ヲ設立スヘシ」ト斯様ニ致シマシタ、ソレカラ第十一條原案ニ代ヘマスルニ「道府縣歯科醫師會ヲ設立スヘシ」ト云フノ二ト申シマス項目デアリマス是ハ、「歯科專門ヲ標榜シ又ハ金屬充塡鑲嵌義歯歯冠繼續及架工竝ニ矯正竝口蓋補綴等技術ニ屬スル行爲ヲ爲ス醫師ニハ第八條第九條ヲ準用シ第四條ノ二ヲ適用セス」ト云フノガ原案デアリマスガ、之ヲ修正致シマシテ「醫師ニシテ特ニ內務大臣ノ許可ヲ受ケ歯科專門ヲ標榜シ又ハ歯科醫業中金屬充塡、鑲嵌、義歯、歯冠繼續及架工、歯列矯正、口蓋補綴ノ技術ニ屬スル行爲ヲ爲ス者ハ第四條ノ二第八條第一項第三項第九條第二項及第九條ノ三第二項ノ適用ニ付テハ之ヲ歯科醫師ト看做ス」斯ノ如ク修正ヲシタノデゴザイマシテ、此修正ハ唯今申上ゲマシタ如ク、此法律案ハ提出者ノ意見卽チ歯科醫學技術ノ進歩發展ト云フコトニ對シテハ、政府モ全ク同感デアル、其方面ニ於テハ政府ト雖モ將來ニ於テ飽迄モ努力致スト云フコトヲ明言サレ、又其他ノ箇條ニ於キマシテモ內務省ニ於テハ大體ニ於テ其修正ヲ認メル、唯此修正ヲ致シマシタ箇條ニ付テノミ、政府當局ノ意ヲ尊重致シマシテ、修正シタノデアリマス、唯其中第四條ノ二ト云フモノニ對シテハ、是ハ政府ニ於キマシテハ、之ヲ直ニ贊成ハ出來ナイガ、十分考慮スルト云フ話デアリマシタ、サウシテ委員會ハ最後ニ討論ヲシテ、更ニ採決ヲ致シマシタ結果、滿場一致ヲ以テ修正案ガ通過致シマシタ、以上御報告申上ゲマス

右ニ關シ土屋清三郎君ハ政府ニ對シ質疑ヲ爲シ河上政府委員及片岡政府委員之ニ應答ス

土屋清三郎君ノ質疑

私ハ只今ノ委員長ノ御報告ニ對シマシテ、政府ニ二ツノ點ニ於テ質問致シタイト思フノデアリマス、申上グルマデモナク、本案ハ我ガ歯科醫事衞生ノ上ニ極メテ重大ナル關係ヲ持ッテ居ルモノガアリマシテ、隨テ本案ニ對シマシテハ歯科醫學者ノ間、竝ニ歯科醫師ノ間ニ相當ノ議論ガアルノデアリマス、現ニ今朝ノ如キモ歯科醫見ヲ陳述セラレタ者ガアルノデアリマシテ、現ニ文部省歯科醫師開業試驗委員デアリ、又其附屬病院長デアル所ノ島峰徹博士ノ如キモ、始終之ニ對シテ意見ヲ述ベテ居ルノデアリマス、私ハ是等歯科醫學者、竝ニ歯科醫師間ニ於ケル意見ヲ綜合致シマシテ、其中ニ委員會ニ於ケル政府トノ質問應答ノ間ニ於テ、政府ノ答辯稍明白ヲ缺クモノニ付テ御尋ヲ致シタイト思フノデアリマス、第一ニ御尋ヲ致シタイノハ、文部當局者ニ向ッテデアリマス、文部當局者ハ委員會ニ於キマシテ、此第一條ノ改正ニ同意ヲセラレナイ理由トシテ、政府ハ今日歯科ノ單科大學ヲ認ムルノ意思ガナイト云フ御說明ガアリマシタ、然ラバ政府ハ歯科醫學教育ヲ今日ノ儘ニシテ宜イト云フ御考デアルカドウカ、現ニ歯科醫學ノ進歩發達ニ於テ、世界ノ中心デアル所ノ米國ニ於キマシテハ、十數年前マデハ歯科醫師ト普通醫師ト對立ヲシテ、各々獨立シテ

發達サセヤウト云フ考カラ、各所ニ歯科ノ醫學校ガ起ッタノデアリマス、然ルニ爾來醫學進歩ノ趨勢ハ、綜合的研究デナケレバナラヌト云フ見地カラ致シマシテ、最近ニ於キマシテハ漸次是等ノ歯科ノ醫學校ハ他ノ醫科大學ノ一分科トナリマシテ、綜合的ニ研究シテ、是ガ進歩發達ヲ圖ルト云フヤウナ趨勢ニ向ッテ居ルノデアリマス、政府ハ將來歯科醫學ヲ醫學ノ一分科ト認メ、歯科治療ニ從事スル者ニ向ッテ、一般ノ醫學的知識ヲ與ヘルト云フコトガ、世界ノ歯科醫學校教育ノ大勢デアル、又我國ニ於テモ斯クスルコトガ至當デアルト云フ御考デアルカドウカト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、第二ハ歯科醫師ノ死亡診斷書ヲ認ムル權利ニ關シマシテ、政府ノ答辯ハ明確ヲ缺イテ居ルノデアリマス、此點モ亦歯科醫學者ノ間ニ可ナリ論議ノアルコトデアリマシテ、即チ先程申上ゲマシタ文部省ノ島峰博士ノ如キハ、歯科醫師ノ死亡診斷書ヲ認ムルト云フコトハ絶對ニ誤ッテ居ルノデアル、其重要ナル根據ハ、死亡ノ原因ハ決シテ歯ニ依テ來ルモノデハナイ、國家試驗ノ科目ヲ見マシテモ、死亡ノ原因ヲ診斷スベキ科目ハ、歯科試驗ノ何レニモ之ヲ認ムルコトガ出來ナイノデアル、斯樣ニ申シテ居ルノデアリマス、又法律ノ解釋ト致シマシテモ、醫師法ノ第五條ト歯科醫師法ノ第五條ニハ、其二項ニ於テ「但シ診療中ノ患者死亡シタル場合ニ交付スル死亡診斷書ニ付テハ此ノ限ニ在ラス」斯樣ナ規定ガアルノデアリマスケレドモ、歯科醫師法ニ同ジ規定ヲシテ居ル、第五條ニハ全ク此規定ヲ缺イテ居ルノデアリマス、ノミナラズ墓地埋葬取締規則施行方法細目標準、內務省ノ訓令ニ依リマシテモ、其第一條ニ於テ「死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡屆書ヲ添ヘテ區長ノ認可證ヲ乞フヘシ醫師治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル時ハ醫師ノ檢案書ヲ差出シ區長ノ認許證ヲ乞フヘシ」斯樣ナ規定ガアルノデアリマシテ、假ニ歯科醫師ノ死亡診斷書ヲ認メルト云フコトニナリマシタ場合ニハ、此墓地埋葬取締規則ノ規定ヲ改メザル限リハ、義務者ハ其死屍ヲ埋葬スルコトガ出來ナイト云フ結果ニナルノデアリマス、此點ニ付テ內務當局者ハ如何ナル御考ヲ持ッテ居ラレルノデアリマスカ、第三ハ本法案第十一條ノ二ノ規定デアリマス、此規定ハ即チ普通醫師ニシテ歯科專門ヲ標榜シ、若クハ歯科技術ニ關スル

行爲ヲ爲スモノヲ、醫師會ニ加入ヲ強制スル所ノ規定デアリマス、此點ニ付テモ歯科醫學者ノ間ニハ可ナリ反對ノ意見ガアリマシテ、現ニ歯科醫師會ハ歯科醫師ノ會デアル、歯科醫デナイ所ノ普通醫師ノ加入ヲ強制シナケレバナラヌト云フ理由ガ何處ニ在ルカ、假ニ之ヲ便利ナリトスルモ、醫師法ニ依テ醫師會ニ加入ヲ強制セラレテ之ヲ脫スルコトガ出來ナイノデアル、而シテ歯科醫ニ非ズシテ歯科醫師會ニ加入ヲ強制セラレル、單ニ歯科醫師ノ治療ヲ行フガ爲ニ二ツノ異ッタル法人ノ會則ニ拘束セラルヽト云フコトハ、甚ダ不都合デハアリマセヌカ、其結果同ジク歯ノ治療ヲスル所ノモノガ、其行爲ニ對シテ、甲ノ會則ニ從ヘバ乙ノ會則ニ違反シ、乙ノ會則ニ從ハントスレバ甲ノ會則ニ違反スルガ如キ不都合ナル結果ヲ生ズルノデアル、政府ガドウシテモ歯科專門ヲ標榜シ、歯牙技術ニ關スル治療ヲ致ス所ノ醫師ヲ歯科醫師會ニ強制シテ加入セシムル必要ガアルナラバ、宜シク之ニ向ッテ歯科醫師ノ資格ヲ與ヘルノガ當然デハナイカ、此點ニ付テノ政府ノ明瞭ナル御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス

河上政府委員ノ應答

只今ノ土屋君ノ御質問ニ對シマシテ簡單ニ御答致シマス、此御質問ノ要點ニ付キマシテハ、委員會ニ於キマシテ私ヨリ再三申上ゲマシタコトヲ繰返スノガ、一番要領ヲ得テ居ルト思ヒマス、初メ此法律案ガ出マシタ時及提案者ノ御趣意ヲ伺ヒマスルト、根本ノ御趣意ハ日本ノ歯科醫師養成教員ヲ大學程度マデ向上セヨト云フコトガ根本ノ御趣意デアリマス、サウシテ其方法ト致シマシテ大學令ヲ變ヘテ、サウシテ一般醫學ニ對シマシテ歯科醫學ヲ對立スルヤウナ風ニ改正セヨト云フヤウナ御意嚮デアッタノデアリマス、即チ一方ニ於キマシテハ向上、一方ニ於テハ具體的方法ト致シマシテ、一般醫學ト歯科醫學トヲ對立ノ取扱ヲセヨト云フコトノ御趣意デアッタノデアリマス、茲ニ土屋君ノ御質問ノ點ガアルト思フノデアリマス、政府ハ根本ノ御趣意デアリマス所ノ歯科醫學ノ向上ヲ期シ、歯科醫師養成機關ヲ大學程度ニ向上セヨト云フ御趣意ニ對シテハ滿腔ノ贊意ヲ表スルノミナラズ、現在ニ於テモ大學ニ於キマシテ歯科醫學ニ對シマシテノ講

座ヲ設ケテ居ルヤウナ有樣デアリマスカラ、今後更ニ其精神ヲ以テ進ミタイト云フコトヲ申上ゲテ置イタノデアリマス、併ナガラ具體的ノ方法ト致シマシテ一般醫學ニ對シマシテ、歯科醫學ヲ對立サシテ、其結果ト致シマシテ大學令ヲ改正スル此御趣旨ニ對シマシテハ、政府今日ノ立場ト致シマシテハ歯科醫學モ基礎醫學ヲ中心ト致シマシタル一般醫學ノ一ツノ「ブランチ」、一ツノ分科ト云フ風ナ立前ニナッテ居リマスカラシテ、之ヲ對立サレテ取扱フコトニ付キマシテハ、學問上ノ基礎ヲモウ少シ確實ニ研究シナケレバナリマセヌカラシテ、此具體的方法ト致シマシテノ大學令ニ關係致シマスル所ノ條項ニ付キマシテハ、直ニ贊成ノ意思ヲ表スルコトガ出來マセヌト云フコトヲ申上ゲテ置イタノデアリマス、之ニ依テ政府今日ノ解釋ニ付キマシテハ十分御分リノコト、存ジマス

片岡政府委員ノ應答

土屋君ノ御質問ニ御答ヲ申上ゲマス、御尋ニ對シテ御答ヲ申上ゲマス前ニ、委員長ノ御報告ニ對シ尚ホ此本案ニ對照シテ一言ヲ辯ジテ置ク必要ガアルト思フノデアリマス、尤モ委員長ノ報告中ニモ第四條ノ二ノ點ニ對シテハ、政府ハ直ニ同意ヲ表シ難イガ考慮スルト云フ意味ニ御報告ニハナッタヤウデアリマス、是ガ徹底致シテ居リマスル以上ハ妨ゲハナイノデアリマスガ、實ハ歯科醫師ニ非ザレバ治療所ヲ經營スルコトヲ得ズト云フ、此點ニ對シテ政府ハ容易ニ同意シ難イモノガアルノデアリマス、ソレハ一般醫師ニ於キマシテ治療所ヲ設ケマスル場合ニ於テノ權衡上、同一ニ考慮シテ置カナケレバナラヌノデアリマスガ、近來癩病院ナドヲ拵ヘマスル場合ニハ、寧ロ其病院其モノハ株式或ハ大資本家ト云フヤウナモノヲ要スルヤウナコトハ實際ノ情況デアリマス、卽チ醫師ニ非ザレバ療養所ヲ設クルコトヲ得ズトシテ置キマシタラバ、却テ公衆ノ利便ヲ缺クヤウナコトガ出來ルノデアリマシテ、此歯科醫師ニ於キマシテモ其點ハ同一ニ考慮シテ置カナケレバナラヌト思フノデアリマス、ソレカラ大體ニ於キマシテハ本案ヲ御設ケニナリマスルコトハ、政府トシテ同意ヲ表シマスルガ、

此點ハ今尚ホ考慮中ニ在ルト云フコトヲ明ニシテ置キマス、ソレカラ土屋サンノ御尋ノ死亡診斷書ヲ書カセテ差支ナイト思ッテ居リマス、若シ歯ヲ惡クシテ居ル中ニ其歯科醫師ノ治療ヲ受ケテ居ラザル時ニ於テ、前ニハ受ケテ居ッテモ止メテ居ッタト云フガ如キ、一般的ノ病的カラ起ル場合ニ於テハ、一般ノ醫師ノ死亡診斷書ヲ要スルコトハ勿論デアリマスガ、歯科醫師ニ掛ッテ歯科ノ治療中ニ於テ、或ハ大ナル出血ヲ致シタト云フガ如キコトノ場合カラ起ル死亡モ無イトハ言ヘマスマイト思ヒマス、尤モ私ハ醫者ノ事ハ餘リ知リマセヌガ、斯ウ云フ場合ニ於テハ當然死亡證ヲ認メルコトヲ許サヾルヲ得ヌト思フノデアリマス、デスカラ是ハ政府トシテ差支ナイト云フ見解ヲ取ッテ居リマス、ソレカラ第十一條ノ二デアリマスガ、是ハ御質問ノ要旨ヲ私ハ十分ニ聽取乘ネタノデアリマスガ要スルニ歯科醫師ノ治療ヲ致シテ居リマスル者ハ、此會員ニ加入スルコトデゴザイマセウガ、苟モ歯科醫業ヲ要點ガソコデナカッタナラバモウ一度御繰返シヲ願ヒマス

土屋清三郎君ノ再質疑

只今片岡政府委員ヨリ御丁寧ナル御答辯ヲ戴キマシテ、若シ質問ノ趣旨ニ適ハナカッタナラバ、繰返セト云フ御命デアリマシタカラ、私ハ只今ノ御答辯ハ私ノ質問ノ趣旨ニ合ハザル故ニ、甚ダ缺禮デハアリマスルケレドモ、玆ニ之ヲ繰返スノデアリマス、強制加入ノコトニ付テハ大體其程度デ之ヲ繰返シマセヌ、死亡診斷書ノ事ニ至リマシテハ、非常ニ重大ナル影響ヲ持ツモノデアリマスカラ、殊ニ之ヲ明白ニ致シテ置カナケレバナラヌノデアリマス、歯科醫界ノ權威デアリ、歯科醫學教育ノ中心デアル所ノ、歯科醫師開業試驗委員デアル島峰博士ハ、絶對ニ之ヲ否認シテ居ルノデアル、歯科ノ教育ニ於テ歯科試驗科目ニ於テ人ノ死亡ヲ診斷スベキ科目ハ、何レノ所ニ於テモ之ヲ認メナイノデアル、如何ニシテ人ノ死亡ヲ診斷スルノデアリマスカ、歯ノミニ於テ死亡スルコトノ無イコトハ、是ハ醫學上ノ定論デアッテ、私ガ申スマデモナイコトデアリマス、假ニ

政府委員ノ御答辯ノ如ク、歯科醫師ノ死亡診斷書ヲ認メルト致シマシタナラバ、現行ノ墓地埋葬取締規則標準ノ醫師ノ死亡診斷書ヲ添付スルニ非ザレバ、埋葬ガ出來ナイト云フ、此規定ヲ如何ニナサルカト云フコトヲ更ニ御說明ヲ願ヒタイノデアリマス

片岡政府委員ノ應答

再質問ニ對シテ御答致シマスガ、專門的ノ御質問デアリマシテ、專門家ニ非ザル私ヨリ御答ヲスルコトハ、甚ダ要領ヲ得兼ネルカモ知レマセヌ、內務省ト致シマシテハ歯科ノ治療中、ソレガ原因トナッテ死亡致シマシタ場合ニ於テノ死亡證書ハ、差支ナイト認メテ居リマス、若シ是ガ爲ニ他ノ法規ニ差支ガ起ルト云フガ如キコトガゴザイマスト、此法規ガ兩院ヲ通過致シマシタ上ニ、相當ノ處置ヲ執ルマデノコトデゴザイマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ委員會報告ノ通修正議決ヲ爲シ引續キ第三讀會ヲ開キ第二讀會議決ノ通修正議決ヲ爲シ卽日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月十九日修正議決ヲ爲シ卽日之ヲ本院ニ回付ス

（回付案）

歯科醫師法中改正法律案中貴族院回付ノ箇所左ノ如シ

第四條ノ二　命令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外（ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムル者ノ所ノ開設又ハ管理ヲ爲スコトヲ得ス）歯科醫師ニ非サレハ歯科診察所治療所若ハ技工

（小字及――ハ貴族院修正）

本院ハ翌二十日之ヲ院議ニ付ス

石塚三郎君ハ質疑ヲ爲シ片岡政府委員之ニ應答ス

石塚三郎君ノ質疑

貴族院ニ於ケル修正案ハ、衆議院ノ本文ト其ノ趣旨ニ於キマシテハ更ニ異ナル所ガ無イト信ジマス、隨テ政府ハ命令ヲ規定セラルヽニ當リマシテ、其精神ニ基ク必要ナル條項ヲ具備セラレンコトヲ望ムノデアリマス、念ノ爲ニ政府當局ノ御意嚮ヲ伺ッテ置キタイノデアリマス

片岡政府委員ノ應答

只今ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、貴族院ノ修正ハ如何ニモ本案ノ精神ト變ッタコトハ無イノデアルト信ジテ居リマスシ、且ツ修正セラレマシタ所ノ命令ニ依ッテ規定致シマスル場合ニ於テ、本案ノ精神ニ基イテ規定ヲ致シマスル積リデアリマス、此段御答ヲ致シマス

小山松壽君、松田源治君ハ孰レモ本案ニ對シ同意ノ意見ヲ述フ

小山松壽君ノ意見陳述

歯科醫師法中改正法律案ハ貴族院ニ於テ修正セラレ、回付ヲ以テ茲ニ議題ニセラレタノデアリマスガ、只今政府ノ答辯ニ依リマスレバ、其精神ニ於テ原案ト異ナル所ガ無イト認メマス、仍テ回付案ニ同意ヲ表シマス

松田源治君ノ意見陳述

貴族院ヨリノ回付案ニ同意ヲ致シマス

院議異議ナク貴族院ノ修正ニ同意スルニ決シ卽日裁可ヲ奏請シ同時ニ其ノ旨ヲ貴族院ニ通知ス四

月十四日法律第四十五號ヲ以テ公布セラル

一一　商業會議所法中左ノ通改正ス

商業會議所法中改正法律案

第九條第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

六　營業稅ヲ納ムル旅館業者

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十三年二月十日山本厚三君外二名之ヲ提出ス二月十七日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者（山本厚三君）ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案提出ノ理由ヲ簡單ニ申述ベマス、本案ハ我國ニ於ケル旅館業者ニ商業會議所ノ選擧權、竝ニ被選擧權ヲ附與スルガ爲ニ、商業會議所法ヲ改正スルト云フノデゴザイマス、我國ノ商業會議所法第九條乃至第十四條ニ於キマシテ、商業會議所ノ權利——選擧權竝ニ被選擧權ニ關スル規定ヲ致シテアリマスルガ、其中ニ此吾々ガ平素普通ノ商工業者ト同一ニ取扱ッテ居リマスル旅館業者ニ對シテ、ソレ等ノ權利ヲ與ヘテ居ラヌノデアリマス、是ハ要スルニ、此事業ニ從事シテ居ル所ノ行爲ヲ商行爲ト認メテ居ラヌノニ依ルノデアルト思ヒマスガ、一面殆ド同ジヤウナ業體デアル所ノ飲食店業、卽チ料理業デアリマスガ、是等ノ非常ニ澤山ノ者ニ對シテハ權利ヲ與ヘテ居ルコトハ、商法規定ノ解釋ヨリ來テ居リマスルノデアリマセウガ、此兩者ノ業體ヲ比較シテ見マスルト、吾々ノ見ル所ニ於テハ殆ド變リガナイノミナラズ、一面此旅館業者ノ如キハ、其投下シテ居ル資本等ニ於キマシテモ、無論此料理業等ヨリハ十倍乃至數十倍ノ資本ヲ投下ヲ致シテ居リマスシ、又日本ノ商工業ノ關係カラ申シマシテ、餘程密接ナ關係ガアルト考ヘテ居リマス、斯樣ナ次第デアリマスカラ、會議所ノ選擧權竝ニ被選擧權ノ公正ヲ保ツ上カラ申シマシテモ、又從來ノ一般ノ同業者カラ非常ニ熱心ニ此希望ガ出テ居リマスルノデ、是等ノ一般ノ人ノ希望ヲ充ス點カラ申シマシテモ、是非是ハ均霑ヲ致シテ、同一ノ取扱ヲシナケレバナラヌモノト思ハレマス、加フルニ此改正ヲ致シマシテモ、何等一般ノ有ユル方面ニ支障ヲ生ズル事ガアリマセヌノデ、且ツ其改正タルヤ極メテ簡單ナモノデアリマシテ、複雜ナル法規ノ改正ヲ要セナイノデアリマス、大體斯樣ナ次第デアリマシテ、今日ニ於テ是ガ改正ヲ致スコトハ最モ適切ナ事ト考ヘマスルカラ、本案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上、滿場一致ヲ以テ御決定アランコトヲ希望シマス

次ヲ本案ハ增田義一君提出商業會議所法中改正法律案（七）委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末（七）案ト併合シテ修正スヘキモノト決シ二月二十日報告書ヲ議長ニ提出セリ二月二十六日（七）案ト一括シテ其ノ第一讀會ノ續會ヲ開ク（委員會竝議事ノ經過及結果ハ本項（七）參看）

一二　清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法廢止法律案

清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法ハ之ヲ廢止ス

右ハ十三年二月十日柏田忠一君外一名之ヲ提出ス二月十七日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者（柏田忠一君）ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

簡單ニ本案提出ノ理由ヲ申述ベマス、清國竝ニ朝鮮國在留ノ帝國臣民ヲ取締ルト云フ規定ガ明治二十九年ニ制定ヲサレタモノデアリマスガ、當時ハ日清戰爭ノ直後デアッタガ故ニ、在留邦人中ニモ其居留地ノ風紀ヲ紊亂シタリ、或ハ秩序ヲ紊ス者ガ多カッタガ爲ニ該法律ヲ制定シタノデアリマス、然ルニ其後明治三十二年ニ至リ七十號ヲ制定致シマシテ、領事官ニ裁判權ヲ與ヘ、同時ニ行政權ヲ與ヘ、立法權ヲ與ヘタノデアリマス、非常ナ廣汎ナル規定ヲ設ケマシテ、甚大ナル權利ヲ領事官ニ持タシタノデアリマス、之ト同時ニ朝鮮ハ其後ニ於キマシテ日本ノ領土ニナリ、清國及朝鮮國ト云フ、其朝鮮國ガ該法律カラ滅却スルコトニナリマシタ、隨テ最早該法ヲ存在シテ置ク云フ理由ノ一半ハ消滅シテシマッタノデアリマス、其後更ニ明治三十三年ニ至リマシテ、政府ハ領事官ノ職務規則ト云フモノヲ制定致シマシテ、在留邦人ヲ取締ル上ニ於テ、送還ヲスルコトノ出來ル規則ガ制定サレタノデアリマス、重ネテ在留邦人ヲ取締ル規定ガ發布セラレマシタガ爲ニ、今ヤ此法律ノ存在ノ理由ガ無クナッタノデアリマス、加之在支邦人ハ約二十一萬許リアリマスガ、此法律ノ內容ヲマルデ怨府ノ中心トスルヤウナ傾向ガ見エテ居ルノデアリマス、ト云フノハ此法律ノ內容ハ既ニ其在留地ノ風敎或ハ風紀ヲ紊亂シタル者ヲ束縛スルモノデハナクシテ、紊亂セントスル者、或ハ紊亂スルノ虞アル者ヲ取締ルト云フノデアリマスカラシテ、領事官ガ此法律ヲ以テオ前ハ將來——此後ニ於テ此地方ノ風紀ヲ紊ス虞ガアルカラト云フ名目ノ下ニ、隨分從來在留ノ禁止ヲシタノデアリマス、在留ノ禁止ヲサレタガ最後、是ガ救濟ノ途ハ容易ニ出來ナイノデアルカラシテ、從來ハ此支那ニ向ッテ商業上或ハ工業上發展スル場合ニ於テ、領事官ト在留民トハ仇敵ノ狀況ニ在リマシテ、色ミナ差障ガソコニ生ジテ居ッタノデアリマス、是ハ長イ間ノ輿論デアリマシテ、之ヲ廢止シテ官民一致支那方面ニ向ッテ——主トシテ大陸ニ向ッテ發展ヲスルト云フノハ、今日ノ急務ナリト信ズルノデアリマス、以上ノ理由ニ依リマシテ此既ニ死ンダ法律ヲソンナ名目デ存置シテ置ク必要ハナイト思ヒマス、ドウカ滿場諸君ノ御贊成ヲ得テ、該法律ヲ廢止シタイト思フノデアリマス

次ヲ本案ハ議長指名（九名）ノ委員ニ付託スルニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十八日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ否決スヘキモノト決シ三月十二日報告書ヲ議長ニ提出シタルモ院議ヲ經ルニ至ラサリキ

一三　鐵道敷設法中改正法律案

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

別表百十四中「肥前山口附近」ヲ「佐賀」ニ改ム

附　則

本法ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十三年二月十二日橋本喜造君外五名之ヲ提出ス二月十七日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者（福田五郎君）ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、只今議題トナリマシタ改正法律案ノ提出ノ理由ヲ極ク簡單ニ申上ゲマス、現時北九州ヲ橫斷致シマシテ、門司ト長崎トヲ連接致シテ居リマス所ノ鐵道ハ、我國ト支那トノ交通ニ於テ最モ重要ナル交通機關デゴザイマス、今日我國ヨリ支那ニ到リマスニハ、殊ニ支那東岸ノ各港ニ到リマスニ付テハ、長崎港ヨリスルノヲ最モ便利ト致シマス、而シテ支那東岸ノ諸港中、上海ハ東洋ニ於キマシテ政治上貿易上ニ重大且ツ樞要ナル地位ヲ有スルノデアリマスガ、此上海ニ到ルニ付テモ長崎ヨリスルノガ最モ便利デアリマス、斯ノ如キ關係ニ在リマスカラシテ、長崎港ハ我

國ト支那トノ交通關係ニ於キマシテ、非常ナル關門トナッテ居ルノデアリマス、加之長崎港ハ古來有名ナル外國貿易港デアリマシテ、今日諸外國トノ貿易關係、交通關係ニ於テモ重要ナル地點デアリマス、斯ル關係ニ於キマシテ長崎港ハ當ニ支那トノ交通機關ニ於テ關門タルノミナラズ、世界的交通上ノ關門ニナッテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ日本內地ヨリ長崎ニ到リマス鐵道、卽チ門司ヨリ長崎ニ到リマス鐵道ハ、內國的ニモ、外國的ニモ非常ニ必要ナル線路デアリマシテ、所謂國際幹線デアリマスルガ故ニ、此鐵道ノ改善ト距離ノ短縮ヲ圖ラネバナラヌト云フコトハ固ヨリ當然ノ事デアリマス、然ルニ現在敷設サレテ居リマス鐵道ハ、佐賀市以西長崎縣諫早驛ノ間ニ於キマシテ非常ニ迂廻シ彎曲シテ居リマス、鐵道當局茲ニ見ル所アリ、之ヲ不便ナリト致シマシテ、大正十一年ノ鐵道敷設法ニ依リマシテ新ニ改良線ヲ計畫致シマシタ、ソレガ卽チ肥前山口附近ヨリ長崎縣諫早驛ニ到リマス新線デゴザイマス、此新線敷設ノ結果長崎門司間ノ全線ニ渉リマシテ、短縮スル哩數ハ十六哩デアリマス、是ハ洵ニ時代ノ趨勢ニ適應シタル非常ニ結構ナル改良線デアルト信ジマス、果シテ然ラバ最早是デ十分デアルヤ、最早此線路ハ短縮改良ノ餘地ハ無イカト申シマスルト左樣デハゴザイマセヌ、尙ホ線路短縮ノ餘地ガアリマス、卽チ豫定ニ在ル起點山口附近ヲ變更致シマシテ、之ヲ佐賀市ニ持來シマシテ佐賀市ヲ起點ニ致シマスレバ、更ニ三哩ノ短縮ガ出來ルヤウニナリマス、其結果全線ニ渉リマシテ十九哩ノ短縮ヲ得ルコトニナリマス、是ハ最モ必要ナ事デアリ、殊ニ國際幹線ノ機能ヲ十分ナラシムルノデアリマシテ、是ガ卽チ吾々ガ本案ヲ提出シタル主要ナル理由デアリマス、次ニ附隨ノ理由ガゴザイマス、ソレハ佐賀ヲ起點ト致シマスル結果、其線路ハ自然ニ肥前ノ南方ニ位シテ居リマス所ノ輸出入港タル、住ノ江港ヲ通過スルコトニナリマス、住ノ江港ハ有明海ノ北方ニ位シテ居リマス所ノ輸出入港デアリマシテ、北九州ニ於テハ重要ナル港デゴザイマス、然ルニ此港ハ是マデ全ク鐵道ノ恩惠ヲ蒙ラナイ爲ニ、輸出入港タル其機能ヲ十分ニ發揮スルコトガ出來ズニ居リマス、尙又今回ノ豫定線ニナッテ居リマス線ニ依リマスルモ、此住ノ江港ハ何等ノ恩惠ヲ受ケズ、永久ニ鐵道ノ恩惠カラ取殘サレルヤウナ狀態ニナッテ居リマス、斯ノ如キハ鐵道政策トシテ洵ニ其當ヲ得ナイト

思ヒマス、ノミナラズ住ノ江港ニ付キマシテハ尙ホ一ツ注意ヲ喚起スベキ點ガゴザイマス、ソレハ近頃學者ノ發表シタル說ニ依リマスルト、住ノ江港附近ハ大炭田デアルト云フコトデアル、而シテ其炭田ハ三池炭田ト質ヲ同ジウシ、脈絡ヲ保ッテ居ルト云フコトデアリマス、果シテ然ラバ近キ將來ニ於キマシテ住ノ江港ハ石炭ノ大量輸出ニ依リマシテ、運輸交通ノ重要ナル線トナルト云フコトハ固ヨリ明白デアリマス、此故ニ吾々ハ今日住ノ江港ガ鐵道ノ恩惠ヲ被ラナイコトヲ非常ニ遺憾ニ思ヒマスト同時ニ、近キ將來ニ於テ非常ニ發展スベキ運命ヲ有スル此住ノ江港ヲ縫ウテ、鐵道ガ通過シテ行クト云フ必要ヲ痛切ニ感ズルノデゴザイマス、一タビ地圖ヲ開マシテ住ノ江港附近ノ模樣ヲ見マスルト、現在ノ豫定線ニ於テ、山口附近ヨリ起點ニスルノガ得策デアルカ、佐賀市ヲ起點ニスルノガ得策デアルカ云フ其得失ハ、一目瞭然デゴザイマス、山口附近ヲ起點ニ致シマスレバ、線路ハ三角形ノ兩邊トナリ、汽車ハ其二邊ヲ迂曲シテ走ルコトニナリマス、然ルニ佐賀市ヲ起點ニ致シマスレバ、汽車ハ三角形ノ一邊ヲ走ルト云フコトニナルノデアリマス、殊ニ又山口附近ヲ起點ト致シマスレバ、其南方鹿島町マデノ間ニ至リマス線ニ於テハ、何等貨物ノ集散ノ場所ガゴザイマセヌ、唯茫々タル夢ノ如キ原野ヲ汽車ガ走ルニ過ギナイノデアリマス、之ニ反シマシテ佐賀市ヲ起點ト致シマスレバ、今申上ゲマシタ住ノ江港ヲ當然通過スルコトニナルノデアリマス、斯樣ナ關係デアルノミナラズ、地方ノ人ノ交通ト運輸ヲ圓滑ニスルト云フ關係ガ地圖上一目瞭然デゴザイマスカラ何故ニ此佐賀市ヲ起點トセズシテ山口附近ヲ起點トシタカニ付テハ、誰人モ直ニ疑ヲ挿ムノデゴザイマス、然ラバ何故ニ佐賀ヲ顧ミナカッタコトニ付キマシテ、色々ノ事情モアッタト思ヒマスガ、ソレハ今日探究スル必要ハアリマセヌ、唯其色々ノ事情ト共ニ、經費ガ幾分增スノデアラウト云フコトモ勿論デアッタラウト思フノデアリマス、而シテ吾々ノ聞ク所ニ依リマスト、其增加スル經費モ格別ノコトハナイヤウデゴザイマス、財政緊縮ノ今日吾々ハ一圓ノ經費ノ增加ニ付テモ考慮シナケレバナリマセヌ、併ナガラ只今ノ起點ヲ豫定ノヤウニ致シマスレバ、汽車ニ徒

ニ三哩ヲ遠廻リ致シマス、最モ迅速ヲ要スベキ國際幹線タル所ノ汽車ガ理由ナク三哩ヲ無駄ニ走ルト云フコトハ、僅ニ三哩デアリマスガ、併シソレハ毎日三哩デアル、之ヲ永久ニ引延バシタラ、其時間ノ浪費、經濟上ノ損失ハ非常ニ莫大ナルモノデアルト云フコトハ明カデアリマス、要スルニ今日僅ノ經費ノ增加ヲ吝ミマシテ、永久ノ計畫ヲ忘レルノハ策ノ得タルモノデハナイト思ヒマス、又此住ノ江港ヲ通過致シマスレバ、輸出入港デアリマス結果、貨物ノ集散其他ニ依リ、運賃ノ增收ニ依リ、茲ニ增シタル經費ハ遠カラズ取返スコトガ出來ルト信ジマス、要スルニ本案起點變更ノ理由ト致シマスノハ、一方ニハ幹線ノ哩數ヲ短縮シ、而シテ一方ニハ輸出入港タル住ノ江港ヲ活カスト云フコトニナリマス、此輸出入港ヲ活カスト云フコトハ、該地方一部ノ利益ノミデハナク、內地全般ニ渉ル利益デアリマス、卽チ鐵道ガ第一ノ目的ト致シマス所ノ公益ヲ圖ルト云フ點ニ合致スルノデアリマス、斯ル理由ニ於キマシテ此起點變更ハ一擧兩得ノ策デゴザイマス、今後日支親善ハ益加リ、諸外國トノ關係ハ益複雜トナリ、一分時間ヲ爭フコトモ度ミアルダラウト存ジマス、デゴザイマスカラ國際幹線タル本線ニ於キマシテハ、假令一哩デモ出來得ルダケ之ヲ短縮致シマシテ、交通運輸ヲ敏活迅速ナラシムルト云フコトハ最モ必要ト思ヒマス、ソレガ卽チ國際幹線デアルト云フコトノ意義デモアルシ、尙又國際幹線デアルト云フコトノ目的ヲ完全ニ達スル所以デゴザイマス、今日僅ノ經費ヲ吝ミマシテ永遠ノ大計ヲ誤リ、永遠ノ幸福利益ヲ忘レルノハ決シテ賢明ナル策トハ思ヒマセヌ、重ネテ申シマスガ、今日一投足ノ勞ヲ吝ミマシテ、國際幹線ヲシテ其機能ヲ永久ニ發揮スルコトノ出來ナイヤウナ狀態ニ置キマスノト、尙ホ一方輸出入港タル住ノ江港ヲ鐵道ガ見遁スト云フコトハ、鐵道政策トシテ決シテ策ノ得タルモノデナイノミナラズ、恐クハ後世ニ嗤ヲ貽スコト大ナルモノデゴザイマス、卽チ吾ミハ如何ナル點カラ見マシテモ、本案起點ノ變更ハ國家百年ノ大計ナリト確信致シマス、斯ル際ニ於キマシテ本案ヲ提出致シマシタ、何卒皆樣ノ御贊成ヲ得マシテ、無事通過スルヤウ御取計ヲ願ヒマス

右ニ關シ田口文次君ハ提出者及加藤內閣總理大臣、若槻內務大臣ニ對シ質疑ヲ爲シ福田五郎君及俵政府委員之ニ應答ス

田口文次君ノ質疑

諸君、私ハ只今問題ニナッテ居リマスル、九州ノ一角ニ於ケル所謂平坦線ノ起點變更ニ付キマシテ、第一ニ提案者ニ御尋申上ゲ、次ニ加藤首相竝ニ若槻內相ニ御質問申上ゲタイト存ズルノデアリマス、此平坦線ノ起點ヲ變更スルト云フコトノ提案者ノ理由ヲ私ハ只今拜聽致シテ見マスルト、何等一旦決定シテ居ル法律ヲバ、動カスニ足ルベキ所ノ理由ヲ私ハ少シモ拜聽シナカッタ點ニ鑑ミマスルト云フト、是ハ福田君等ガ佐賀市ノ一部人士ニ對シマシテノ所謂人氣取政策デモアラウカト思フノデアリマス、然ラザレバ一種ノ人騷ガセニ過ギナイ問題デアラウト考ヘルノデアリマス、九州ノ事情ニ精通サレテ居リマスル所ノ仙石鐵道大臣ノ如キハ之ヲ聽カバ定メテ一笑ニ付シテ居ルデアラウト私共信ズルノデアリマス、提案者ノ唯一ノ例トシテアラル、モノハ、住ノ江港ト今度ノ改正ニ依レル所ノ佐賀市ヲ起點トスル鐵道ヲ敷イテ、海陸ノ聯絡ヲ執リ、大ニ公益增進ニ資セヤウト云フノガ、第一ノ主要點ニナッテ居ルヤウデゴザイマスルガ、私ハ是カラ住ノ江ノ眞價ヲ解剖シテ見ヤウト存ズル者デアリマシテ、住ノ江ト云フ港ハ天惠地利ニ乏シク、六角川ノ下流、彼ノ濁江ノ一小部分ニ過ギナイ港デアリマシテ、隨テ船舶ノ出入ト云フモノモ不便極マル場所デアリマスカラ、港トシテ何等價値モ無イ場所デアリマス、唯住ノ江ノ生命ト致シテ居リマスルモノハ石炭ノ輸出デアリマシテ、其關係スル炭坑ト致シマシテハ、高取氏ノ經營ニ係リマス所ノ杵島炭坑及朝鮮銀行ノ施設ニナッテ居リマス所ノ佐賀炭坑、此二ツノモノガ一番關係アル炭坑デアリマス、併ナガラ杵島炭坑ハ北八幡ノ驛デ、佐賀炭坑ハ大町ニテ、其出炭ノ大部分ハ之ヲ鐵道ニ託送シテ居ルモノデゴザイマスルト、殘ル所ノ一小部分ハ凡ソ一箇年ニ致シマスルト、五萬噸內外ノ石炭ガ六角川ヲ上荷船ニテ下ッテ參リマシテ、始メテ、住ノ江ニ輸出サレルノデア

リマスガ、ソレトテモ五萬噸位ノ石炭ニ致シマシテモ、最早鐵道ト云フモノハ無イノデアリマス、所謂鐵道ニ託送スベカラザルモノガ川ヲ下ッテ住ノ江ニ出ルノデアリマスカラ、再ビ之ヲ鐵道ニ託スル必要ガ無イカラデアリマス、又次ニ輸入ノ物ト致シマシテハ、鐵道兩岸ニ於ケル蘆刈村ヤ福富村ノ大部分ニ對シテ、農家ノ需要スル豆粕若クハ人造肥料ガ、一箇年約二三十萬圓ノ價ノ物ガ輸入サレルダケデアリマシテ、其他多クノ輸入サレル物ハ無イノデアリマス、是ハ輸入スルト同時ニ直ニ農家ノ手ニ依リ、馬ノ脊、若クハ荷車等ニ依ッテソレ〴〵各需要者ニ引取ラレルノデアリマスカラ、鐵道トハ何等輸入ニ付テノ關係ハ無イノデアリマス、斯ノ如キ狀態デゴザイマシテ、五六年前ニ於テハ長崎稅關ノ出張所モ、或ハ廢止セラレルデハナカラウカト云フヤウナ噂モ立ッタ位デゴザイマスルガ、大木伯爵ノ鐵相時代ニ於キマシテ、蘆刈村ノ一部ノ人士ニ依ッテ頻ニ住ノ江港ノ價値アルコトヲ大袈裟ニ吹聽セラレタコトガアリマス、世人ハ之ヲ以テ何故ニ斯ル吹聽ガ盛ニ行ハレルデアラウカト云フコトヲ奇怪ニ感ジテ居ッタ位デアリマシタガ、只今其起點變更ノ理由及海陸連絡ノ必要上ヨリ致シマシテ、恰モ住ノ江港ガ重大ナル意義アル如ク、福田君ハ申サレマシタケレドモ、事情ハ斯クノ通リデアリマス、何等鐵道ト連絡ヲ取リマシテモ、利害關係ヲ生ジナイ住ノ江港デアリマスカラ、之ヲ福田君ガ斯ノ如ク言ハレルノハ、私ハ失禮デゴザイマスルケレドモ、笑ヲ禁ズルコトガ出來ナイヤウナ狀態デアルノデアリマス、此平坦線ノ分岐點ヲバ、肥前山口ト既ニ法律デ決定セラレテ居リマスモノハ、大ニ理由アルコトデアルト私ハ思惟シテ居ルノデアリマス、第一平坦線敷設ニ付テノ最捷經路デアリ、且ツ古來ヨリノ順路デアルノデゴザイマス鍋島侯爵ナドガ幕府ノ命ニ依リマシテ、長崎ノ香燒島ニ往復セラル、場合ニ於キマシテハ、常ニ肥前山口ヲ經テ鹿島浦ニ入リ、長崎縣ノ小長井村ヲ往來セラレテ居ッタ由緒アル道路デアルノデアリマス、之ヲ佐賀市ニ變更致シマシタナラバ、延長ニ於テ七哩餘——七哩半位ノ敷設哩數ヲ增スサウデアリマス、其上ニ從來ノ鐵道ト、其間隔ニ於キマシテ僅カ一里內外シカ距リヲ有チマセヌ所ノ南ノ方ニ今一ツノ鐵道ヲ引張ラウト云フノデアリマスカラ、建設費ニ於テモ少カラズ增加ヲ要スルデアラウト私ハ存ズルノデアリマス、又彼ノ方面ハ有名ナル

有明海ノ潟地ヲ干拓埋立等ヲ致シタ所ノ場所デゴサイマスルガ爲ニ、地盤極メテ軟弱デゴザイマスル、是レ故ニ是等ニ鐵道ヲ敷設スルト云フコトハ、到底不可能ノコトデハナカラウカト云フ噂モアル位ノ方面ニ向ッテ、之ヲ架ケヤウト云フコトハ、及ビ其上ニ鹿島ニ一ツ橋梁ヲ餘計架ケナケレバナラヌ、ソレカラ又濁流滔々タル住ノ江ニ地盤軟弱ナル場所ニ於キマシテ、一大鐵橋ヲ又架ケナケレバナラヌト云フコトニナルノモ、凡ソ二百萬圓位ハ肥前山口ヲ分岐點ト致シマストデハ、差額ガ生ズルト云フコトハ素人計算デハゴザリマス、財政緊縮ノ折柄、何處カラ斯カル費額トヲ御尋ネ申ス、現內閣與黨ノ中堅ヲ以テ自任セラレテ居リマスル所ノ憲政會ノ一員タル福田五郎君ハ、此場合ニ於テ常ニ自ラ抑制シテ、政府ノ方針ニ副フベク努メラレルノガ當然デアルニモ拘ラズ、一方ニ於キマシテモ、餘リ格別ノ利益ヲ受ケル問題デハナイ、停車場方面ノ旅籠屋カ飮食店等ノ一部少數ノ人ニノミ利益シカナイト申シテ居ラレル問題ニ對シテ、而モ前ニハ中立トシテ御當選ニナッタノデアリマス、二度目ニハ實業同志會ニ入ラレタノデアリマス、今度ハ三轉シテ憲政會ニ入黨シテマデモ、斯ル一小部分ノ爲ニ努力サルヽトハ云フコトハ、苟モ一國ノ選良タル資格ヲ下落セシムルモノデナカラウカト云フ噂ガアルノデアリマス、兎ニ角ト致シマシテ、三百萬圓近クノ增加經費ヲ要シマスル所ハ、何レノ方面ヨリ之ヲ捻出セラルヽカト云フコトヲ御尋申上ゲタイト思フノデアリマス、第三ニハ門司長崎ノ間ニ於キマシテ三哩短縮スルト云フ御話デゴザイマスガ、私ノ調査シタ所ニ依リマスルト、二哩以內シカ短縮シナイト云フコトデアリマス、長崎及門司ノ間ニ於テ、凡二百哩ノ內デ一哩半ヤ二哩位ノ短縮デハ何等ノ效用モ爲スモノデゴザイマセヌ、要點ハ物資ノ集散、產業ノ開發、交通ノ便否等ニ於キマシテ、大ニ考慮スベキ必要ガアルノデアリマス、又殊ニ其工事費ノ多寡ト云フコトヲ重ク考ヘテ居ラナケレバナラヌニモ拘ラズ、唯ソレ等ノ點ニ少シモ考慮ヲ拂ハレズシテ、此國家財政ノ危急ニ際シテ、僅ニ二哩以內ヲ短縮シマシタカラト言ッテ、何等ノ用ヲ爲スモノデゴザイマ

セウカ、是等ノ點ヲモ併セテ御答辯ヲ御願ヒ致シタイト思フノデアリマス、次ニハ若槻内務大臣ニ私ハ御尋ヲ申上ゲタイ、豫テ運動好キ騒ギ好キトノ評判ガアリマスル所ノ佐賀ノ市長ハ、本年一月初ニ方リマシテ、市會議員其他ノ有志家ヲ招集シ、而シテ此平坦線起點ノ變更問題ニ付テハ自分ハ一種動カスベカラザル所ノ確信ヲ持ッテ居ル者デアル、必ズ此起點ヲ佐賀市ニ變更スルコトガ出來ルト云フ積リヲ持ッテ居ルカラ、諸君モ一ツ奮發ヲシテハドウデアラウカト云フヤウナ協議會ヲ開イタコトガアルノデアル、恰モ其口吻ヨリ見マスルト云フト、自分ガ鐵道大臣デモ兼務シテ居ルヤウナ權幕ヲ以テ、市會ニ臨ンデ答辯ヲシタノデアル、サウシテ一月早々上京ヲシマシテ、今ニ東京ニ滯在ヲシテ居ラレルサウデアリマスルガ、其入費ノ如キモ少カラザル經費ヲ要シテ居ルモノデアラウト考ヘマス、ヨモヤ彼ノ市長ガ自腹ヲ切ッテ居ルモノトハ私ハ思ッテ居ナイ、綱紀肅正ヲ以テ一大政綱ナリトシテ居ラレマスル所ノ……面白半分ニ、慰ミ半分ニ二箇月ニ亙ッテ市政ヲ拋擲シテ、斯樣ナ運動ニ浮身ヲ窶シ、慰ミ半分ニ東京ニ滯在シテ居リマスト云フコトハ、綱紀肅正ヲ唯一ノ看板トシテ居ラレルデアラウカ、監督者トシテ如何ナル注意戒告ヲ與ヘラレルデアラウカト云フコトヲ聽キタイノデアリマス、次ニ加藤總理大臣ニ御尋ネ申上ゲタイ、本問題ニ付キマシテハ多額ノ經費ヲ要スルコトヽ、修正後ニ於キマシテモ地盤ノ關係其他等ヨリ致シマシテ、維持費ニ少カラザル增加經費ヲ要スルコト、ハ、明白ナル事實デゴザリマスルガ、此財政緊縮ノ最中ニ於キマシテ、如何ニ總理大臣ハ之ヲ處理セラレルデアラウカ、又佐賀市ノ運動ヲ請託ニ依テ一旦決定セラレタ所ノ法律ガ輕々シク變更スルヤウナコトガ萬一ニデモアリマシタナラバ、國民ハ法律ナルモノハ何等ノ價値無キモノデアルトノ感ジヲ起スデアラウ、或ハ時ノ政情如何ニ依テ、朝夕變更シ得ルモノトノ感ジヲ持ツコトニナルモ亦致方ナイコトデアル、斯樣ニシテ朝夕法律ガ變更セラルヽモノデアリマシタナラバ、其弊害ハ遂ニ底止スル所ヲ知ラザルコトニ至ルノデアラウ、法律ノ確定ト云フモノハ何ノ義デアルト云フコトガ分ラナクナッテシマフノデアラウト云フコトヲ憂フルノデアリマス、所謂財政ノ點ヨリ申シマシテモ、綱紀肅正ト云フ點ヨリ申シマシテモ、今二ツノ私ガ今質問シテ居ル問題ニ付テ如何ニ考ヘラレルデアラウカ、斯カルコトガ此議場デ認容セラレルヤウナコトニナリマシタナラバ、現内閣ノ一枚看板トシテ居ラレル所ノ綱紀肅正、財政緊縮ノ八文字ハ、必ズヤ面ヲ蔽ウテ泣クデアラウト私ハ思フノデアリマス、此點ニ於テ加藤總理大臣ハ此問題ヲ如何ニ御取扱ヒニナルモノデアラウカト云フコトヲ御尋スルノデアリマス、之ヲ以テ私ハ質問ヲ打切リマシテ演壇ヲ降ルコトニ致シマス

福田五郎君ノ應答

**田口君ノ御質問ニ答辯ヲ致シマス、田口君ハ私ノ起點變更ノ理由トシテ申述ベマシタコトニ付キマシテ、何等ノ理由ガ無カッタト言ハレマシタガ、矢張アッタト云フコトヲ自覺シテ居ラレルト見エテ、二三ノ點ヲ提ゲテ質問ヲサレマシタ、私ハ質明ナル田口君ガ斯樣ナ矛盾シタコトヲ言ハレルノハ、田口君ノ爲ニ惜ムノデアリマス、私ノ演說ニ對スル御質問ノ中ニ、答辯スベキ價値アルモノト思フ分ダケ答辯致シマスヤウナ事デモ無カッタト思ヒマス、主要ナル點ニ付テ答辯シマス、要スルニ主要ナル點ハ――私ノ主要トシテ居リマスル起點變更ノ理由ハ三哩ノ短縮デアル、所ガ是ハ二哩半デアルカラドウトカ云フ御話デアリマシタケレドモ、此點ニ付キマシテハ、曩ニ詳細ニ論及シタ積リデゴザイマス、之ヲ長ク引延シテ永久ニ考ヘマシタラ非常ナ國家的ノ損デアル、若シ之ガ諸君ニ分ラヌナラバ、諸君ハ數學的觀念ガ薄イノデアル、デゴザイマスカラシテ二哩ト言ハウガ、三哩ト言ハウガ、曩ニ申シマシタヤウニ、私ハ一哩半デモ短縮スレバ結構デアリマス、二哩デアルカラ良クナイト云フノハ何等理由ニナラナイ、次ニ住ノ江港ノ附近ノ炭田ニ付テ言ハレタガ、私ハ是ハ何トモ申シテ居リマス、何モ今現在シテ居ル杵島炭坑、及其他ノ炭坑ヲ起點變更ノ理由ニシタノデモアリマセヌ、是ハ田口君ノ聽違ヒデアラウト思ヒマス、將來起ルベキ炭坑變更ノ理由ヲ提ゲテ來タノデアリマス、殊ニ此住ノ江港ヲ田口君ハ第一ノ理由ニシタヤウニ言ハレマシタガ、ソレハ間違ッテ居ル、最初ニ斷ッテ置キマシタヤ

ウニ、是ハ私ノ附隨ノ理由デアル、斯ウ云フ理由ハ實ハナクテモ宜イノデアリマス、次ニ此財源ハ何處カラ持ッテ來ルカト云フコトデアリマシタ、是ハ私トシテハ頗ル理由ニ乏シキ質問ト思フ、是ハ追加豫算モ出來マセウシ場合ニ依テハ今年ハ著手スル必要モナシ、次年ニ廻シテモ宜イノデゴザイマス、所デ私ハ田口君ニアベコベニ反問シタイノデアル、一體本黨ハ何ト言ッタ、鐵道ノ既定計畫ヲ遂行セヨト言ッテ居ル、此財源ヲドウスル、此財源ハ分テ居ル筈デアル、然ラバ田口君ハ斯樣ナ些細ナ問題ヲ捉ヘテ、財源ヲドウスルナド、云フコトハ問題ニナラヌ、尚ホ次ニ言ッテ置キマス、是ハ本案ニ關スル問題デハナカッタヤウデアリマス、私ノ提案ノ理由ヲ聽キマシテ理由ノ空疎ナル笑フニ堪ヘナイト云フ御批評ヲ受ケマシタ、寔ニ有難イ、私ハ田口君ノ質問ヲ聽イテ其內容ノ空疎ナルニ茫然自失シタノデアル、而シテ私ガ憲政會ニ這入ッタコトニ付テ質問ガアリマシタ、併シ斯樣ナ事ハ此壇上ニ於テ言フベキモノデナイ、苟モ私ハ一個ノ政治家デアル、政治家ノ進退ハ公明正大デナケレバナラヌノデアル、自分ハ自分ノ行クベキ道ヲ行ク、之ニ付テ田口君、僕ニ聽キタケレバ此處ニ於テヾナク願クハ私ノ自宅ニ來テ戴キタイノデアル、懇切ニ御話致シマス、要スルニデス田口君ノ爲ニ惜ムノハ、私ハ田口君カラ政友本黨中ノ年長者トシテ、モウ少シ眞面目ナ議論ヲ聽クコト、思ッテ居リマシタニ拘ラズ、堂々タル帝國議會ニ於テモウ少シ眞摯ナ眞面目ナ議論ヲ此壇上ニ於テ——市長ガ何デアルトカ、福田代議士ガ地理ヲ知ラヌトカ、何トカ云フヤウナコトヲ言ハレタノハ、田口君ノ爲ニ非常ニ惜ムノデアル、モウ少シ愼重ナル質問ヲシテ戴キタイト思フノデアリマス、是デ質問ニ對スル答辯ト致シマス

俵政府委員ノ應答

田口君ノ御問ハ、私ハハッキリ聽クコトガ出來得マセヌカッタガ、察スルニ敷設法デ決マッタ問題ニ付テ、若シ之ヲ改正ヲスレバ朝令暮改ニナルガ、ソレニ對シテハ政府ハドウカト云フ御問デアッタヤウニ思ハレタ、勿論是ハ既ニ御承知ノ通リニ、明年ヨリ此線路ニハ著手スルコトニ決マッテ居ルモノデアリマス、既ニ衆議院ニ於テハ豫算ノ決議ニナッテ居ルノデアリマス、之ニ付テ今問題ニナッテ居ルモノハ議員ヨリ提案サレタノデアル、政府ガ之ヲ變ヘヤウト云フノデハアリマセヌ、議員ノ提案デアル以上ハ、議員ノ權能ニ依ッテ議員ノ提案サルヽモノニ對シテハ、政府ハ之ニ對シテ如何トモスルコトガ出來ナイノデアリマス

次テ本案ハ議長指名（十八名）ノ委員ニ付託スルニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十八日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ三月三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書）

（——ハ委員會修正）

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

別表百十四中「肥前山口附近」ヲ「佐賀」ニ改ム

附則

本法ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

卽日議事日程ヲ變更シ本案及後ニ付託セラレタル（一七）案ノ兩案ヲ一括シテ其ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長田中善立君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今議題ニナリマシタル鐵道敷設法中改正法律案ノ委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、第一ハ橋本喜造君外五名ノ提案ニ係リマス案デアリマス、卽チ別表第百十四ノ中「肥前山口附近」トアリマスノヲ「佐賀」ト改ムルト云フ改正案デアリマス、此經過ハ過日本議場ニ於キマシテ

提案者福田君ヨリ詳細ナル說明ガアリマシタ、之ニ對シテ田口君ヨリ質疑ガアリマシタ、其意見ガ三日ニ亙ッテ反覆丁寧ニ質問、應答、討論ヲ重ネタ次第デアリマス、此故ニ其顚末ハ委員會ノ速記錄ニ讓リマシテ、唯玆ニハ結果ノミヲ御報告致シマス、委員會ハ提案者ノ說明ハドノ方面カラ考ヘマシテモ洵ニ正シキモノデアルト認メマシタ、卽チ「附則、本法ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス」ト之ニ依リマシテ修正ガ行ハレマシタ、全會一致ヲ以テ之ヲ認メマシタ、第二ハ西方ヲ全部削除スルト云フ提案者ノ意見ガアリマシテ、全會一致ヲ以テ之ヲ認メマシタ、第二ハ西方利馬君外六名ノ提案ニ係リマシタ所ノ改正法案「附則、第二項ニ左ノ但書ヲ加フ」ト云フ改正案デアリマス、「但シ新潟縣下坂町ヨリ山形縣下今泉ニ至ル鐵道ハ今泉ヲ長井ニ變更ス」是ダケデアリマス、提案者ノ說明ガアリ、一二質問應答ヲ重ネマシタガ、別段大シタル討論ハナク、是亦提案說明ノ理由ヲ是ナリト大多數ヲ以テ可決致シマシタ次第デアリマス、ドウゾ御協贊アランコトヲ希望致シマス

次テ討論ニ入リ田口文次君ハ本案ニ反對、福田五郎君ハ贊成、伊坂秀五郎君ハ（一七）案ニ對シ反對ノ演說ヲ爲ス

田口文次君ノ本案反對演說

諸君、只今委員長ヨリ御報告ニナリマシタ二ツノ議案ノ中ノ第一、橋本喜造君外五名ヨリ御提出ニナッテ居リマスル所ノ案ニ付キマシテハ、私ハ第一ハ國家經濟上ノ見地ヨリ致シマシテ、第二ニハ此改正法律案提出ノ動機ガ極メテ不純、不潔ニ依レルモノデアリト云フ二ツノ點ヨリ致シマシテ、絕對ニ反對ヲ表スル者デアリマス、此反對ノ理由ヲ表明致シマスル爲ニハ、提案者ノ主ナル理由トシテ述ベテアラレル所ノモノニ對シマシテ評論ヲ加ヘマスルト云フト、自然反對ノ理由ハ現ハレテ來ルノデゴザイマスルカラ、別段之ヲ爲サズシテ、其提案者ノ理由ニ付キマシテ私ハ反駁ヲ加ヘテ見タイト思ヒマス、提案者ノ主ナル理由ト爲サレテ居リマスル所ノモノハ、

第一ニハ哩數ノ短縮ト云フコトデアリマス、是ハ過日本會議ニ於キマシテモ申上ゲマシタ通リ、福田君ハ三哩位ハ短縮スルト申サレテ居リマスケレドモ、私ノ調査ト致シマスルト云フト、一哩半內外ト思フノデアリマス、然ルニ此一哩半內外ノモノモ短縮致シマスル爲ニハ益南ノ方、所謂海岸ノ方ニ鐵道ヲ引張ラナケレバ此距離ノ短縮ガ出來ナイモノデアリマス、北ノ方、現在鐵路ノ在リマスル方面ニ寄セマスレバ、人家モ稍稠密ニナッテ來マスルシ、物資ノ集散、產業ノ開發、交通ノ便利ヨリ致シマシテモ相當ノ利益ヲ增進スルコトガ出來ルカモ知レマセヌケレドモ唯單純ニ之ヲ南ノ方ニノミ引張ッテ、一哩半ノ短縮ヲ企劃致シマスルト、人家ハ益稀薄ニナリマス、殆ド民家ハ無イヤウナ方面ニナッテ行クノデアリマス、何ガ爲ニ交通ノ便利ヲ增進スルコトガ出來ルノデゴザイマセウカ、產業ノ開發、物資ノ集散等ニ資スルコトガ出來ルモノデゴザイマセウカ、ソレデ之ヲ北ノ方ニ引張ラナケレバナラヌ、現在ノ鐵道ト接近サセナケレバナラヌノデゴザイマスルカラ、接近サセレバサセル程、現在ノ鐵道ヨリ哩ハ短縮スルコトガ出來ナイ、所謂二重ノ無益ナル幷行線ヲ敷設スルト云フコトニ相成ッテ來ルノデアリマス、而シテ一哩半、二哩以內ノモノヲ假ニ短縮シ得タト致シマシテモ、僅ニ門司長崎ノ間ニ於キマシテ、時間ニ於テ四分間位ノ短縮ニシカナラナイノデアリマス、ソレガ爲ニ國家ノ經費ヲ增額致シマスルモノハ、素人計算デハゴザイマスルケレドモ、凡ソ三百萬圓內外ニ上ルデアラウト私ハ信ズル者デアリマス、二百萬圓モ增額シマシテ、僅ニ一哩半、時間ニ於テ四分間位ノ短縮トハ、國家經濟ヲ顧慮シナイ所ノ暴狀デアラウト私ハ信ズル者デアリマス、第二ニハ、住ノ江港ヲ活カシテ、然ル後ニ海陸連絡ノ便宜ニ資セヤウト云フノガ、主ナル理由デアルヤウデアリマス、此住ノ江港ノ價値ナキ事ハ此間ノ本會議ニ於テ申上ゲタイ事ハ、住ノ江港ノ生命ト致シテ居リマスルモノハ石炭デゴザイマスルガ、石炭ノ輸出ノ數量ニ於テ福田君ノ御實驗ト、私ノ調査トハ多少違ッテ居リマスルガ、假ニ是ガ五萬噸カ七萬噸、若クハ十萬噸ト云フガ如キ、福田君ノ御說ニ近イモノガ住ノ江ヨリ輸出致シマスルニ致シマシテモ、何等此私ノ反對主張ニ對シマシテハ利害關係ニ影響ヲ及ボサナイモノデアリマス、如何トナレバ此間モ御耳ニ達シマシタル如

ク、杵嶋炭鑛ノ物ハ大町デ、總テ悉ク鐵道ニ託送セラレテ居ルモノデゴザイマスルカラ、唯其一部分ノ鐵道ニ託送スベカラザル物ガ六角川ヲ上荷船ニテ下シマシテ、住ノ江ニ輸出スルモノデアリマス、其石炭ハ主ニ上海方面ニ行クノデゴザイマセウ、是ハ到底何時ニナリマシテモ鐵道ニ託スベカラザルモノガ、住ノ江ニ來ルモノデアリマスカラ、鐵道ヲ住ノ江ニ引張リマシテ、海陸連絡ノ便ニ資スルト申シマシテモ、再ビアノ石炭ト云フモノハ鐵道ニ託送スベカラザル炭デアリマスルカラ、此問題ニ付キマシテハ住ノ江港ニ於ケル石炭ノ數量ノ高ハ、何等影響關係ヲ持タナイモノデゴザイマス、第二ニハ、南部ノ産業ノ開發、是ハ佐賀カラ見ラレタモノデゴザイマセウ、福田君ノ御說ノ通リニ致シマスルト、南ノ方ニアル現在ノ鐵道ヨリモ南ノ方ニナルノデゴザイマスガ、産業ノ開發――成程鐵道ヲ引張リマスト全ク無益ニハナリマスマイ、若干ノ利益ハゴザイマセウケレドモ、アノ方面ハ比較的民家ガ少ウアリマス、隨テ交通ノ便ニ資スルト云フ點ニ付キマシテモ利益ヲ享有スルノガ少イノハ勿論ノコトデアリマスガ、之ヲ肥前山口ヲ南下致シマシテ、所謂沃野千里トモ申スベキ此方面ニ鐵道ガ敷カレルノト比較致シマスルト、到底同日ノ論デハナイノデアリマス、十分ノ一位ニシカ當ッテ居ナイ、產業ノ開發、交通ノ便ニ資スルコトハ、此改正案デハ出來ナイト云フコトヲ御承知下サイ、ソレト今一ツ云フ論デアル、所謂佐賀ト肥前山口附近トヲ比較致シマスト、佐賀ヨリカモ肥前山口ノ方ガ寒村僻地デアル、數百戸ヲ超ユルニ過ギナイ位ノ小部落ト謂ハナケレバナラヌカラ、斯樣ナ寒村僻地ニ鐵道ヲ設クルト云フコトハ、到底將來ノ公益ニ資スル所以デハナイ、是非佐賀ノ方ニ變更シナケレバナラヌト云フ御說明モアリマス、佐賀ノ一部分ノ人ニハ稍同情シナイデモゴザイマセヌガ、其利益ヲ享有スル方面ハ停車場ノ附近ニ當リマスル所ノ旅籠屋、飮食店ノ一部分ニ止マルノデアッテ、決シテ公益ヲ增大スルト云フコトニハ佐賀方面ニ付キマシテハ相成ラヌノデアリマス、是ハ私ノ申上方ガ御分リ惡ウゴザイマスルカラ、私ハ東京市附近ノ一例ヲ茲デ引證致シマシテ御參考ニ供シマス、例ヘバ私共ガ東京方面ヨリ鎌倉、橫須賀ニ參リマス場合ニ、現在ハ大船驛デ乘換ヘルノデアル、所謂橫須賀線ハ大船驛ガ分岐點トナッテ居ルモノデアリマス、然ルニ佐賀ト肥前山口トヲ較ブレバ、都市ト寒村僻地ノ差異ガアルカラ、是非都市タル佐賀市ニ變更サレナケレバナラヌト云フ理由ガ何處ニ在ルノデゴザイマスルカ、是ハ所謂一番近道ハ何處デアルカ、最小徑路ハ何處デアルカ、是ハ工費ノ經濟ヲ圖ル點デアリマス、是ハ交通ノ便否、產業ノ開發ニ大ニ考慮ヲ拂ッテ決メラルベキ問題デアリマシテモ顧ミナイト云フ說ハ何處ニ成リ立ツモノデゴザイマセウカ、之ヲ今一層詳シク申上ゲマスルト云フト、所謂鎌倉、橫須賀ニ行クニハ少クトモ之ヲ橫濱ヨリ分岐シナケレバナラヌノデアリマス、大船驛ハ寒村デアル、僻阪ナ土地デアルカラ、大船驛ヨリ分岐シテハイケナイト云フ議論ト一向變リハナイノデアリマス、唯鎌倉、橫須賀ニ行キマスニハ、大船驛ハ一番近道デアッテ、工費ノ金モ僅少デ濟ムカラ大船ニシタノデアル、之ヲ寒村デアルカラ是非橫濱ニ分岐點ヲ設ケテ、二重ニ線ヲ引張ラナケレバナラヌト云フモ好適例デアッテ、之ヲ御參照シテ下サルト明スルモノデアラウト思フノデリマス、一方面ハ過日モ申上ゲマシタ如ク、地盤ノ極メテ軟弱ナル方面デアリマス、所謂有名ナル有明海ノ風波ヲ受クル潟地ヲ干拓致シマシテ、新田ヲ造リ立テタ爲ニ地盤ハ軟弱デアリマス、此方面ニ鐵道ヲ引張ルト云フコトハ到底不可能ノ事デアルトマデ評判ノアル位ノ所ニ、此改正案ハ鐵道ヲ引張ッテ見ヤウト云フノデアリマス、ソレデ第一ニ嘉瀨川ニ一ツノ橋、次ニハ本庄川ノ上流ニ今一ツノ橋ヲ餘計ニ架ケナケレバナラヌ、次ニ濁流滔々タル地盤ノ極メテ軟弱ナル住ノ江ニ、比較的大ナル鐵橋ヲ架ケナケレバナラヌノデアリマス、一方ニハ地盤軟弱、又橋梁ノ多數トソレカラ哩數ハ七八哩ニ、二重ニ線ヲ引張ル、延長シナケレバナラヌト云フ不利益ガアリマス爲ニ、其增加哩數等ノ工費ヲ合計シテ見マスルト、約三百萬圓近クノモノガ改正案ニ依ッテ殖エルト云フコトニ相成ルノデアリマス、斯樣ナ僅ノ方面ニ於ケルモノヲ、財政困難ノ折柄、何處カラ之ヲ捻出シテ往クノデアルカ、唯追加豫算ヲ提出スレバ宜イト云フヤウナ無責任ナ答辯デハ私共ガ出來

ナイノデアル、斯ウ云フ計畫ニナッテ居リマスモノヲ、諸君ガ囂々言ハレルノハ私ナドハ片腹痛イト思フノデアリマス、次ニハ不純ノ動機ニ因ル、不潔ノ動機ニ因ルト私ハ申上ゲマシタ理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、是ハ福田君ニハ御氣ノ毒デアリマスガ、初メ福田君ハ中立デ御當選ニナッタ御方デアリマスガ、佐賀ニ自滅ニ瀕シテ居ル紡績會社ガアルノデアリマス、其救濟ヲ企ツルガ爲ニ、武藤山治君ニ依テ復活ヲ圖ラウト云フ精神ヨリシテ、二度目ニ實業同志會ニ入ラレタモノデアリマス、其計畫ガ成ラザルヲ知ルヤ、今度ハ三度目ガ憲政會ニ入黨シテ、此起點變更ヲ計畫セラルヽト云フコトハ、何タル淺間シイ根性デアリマセウカ、是ガ不純ノ動機ニ原因スルモノト言ハズシテ何デアリマセウカ、憲政會ハ苦節多年、萬年野黨デハナカラウカト世間デハ評判シテ居ッタノデアリマス、漸ク圖ラズモ今回多數ヲ得ラレマシタナラバ、多年ノ主張ニ考慮ヲ拂ハレテ、一國ノ政治ヲ議スル場合ニハ、極メテ公正嚴格ニ爲サラナケレバナラヌ、ソレニモ拘ラズ理義明白ナル本案ノ如キニ、突如トシテ改正法律案ヲ出サル、ガ如キコトハ、是ハ橫紙破リト謂ハズシテ何デアリマセウ、憲政會ノ爲ニ、憲政會諸君ニ私ハ警告ヲ與ヘテ置クノデアリマス、之ヲ以テ反對ノ理由トシテ此壇ヲ降ル者デアリマス

福田五郎君ノ本案贊成演說

簡單ニ贊成ノ意見ヲ申上ゲ、竝ニ田口君ノ演說ニ對シテ一二御答ヲ致シマス、本案ノ利害得失ニ付キマシテハ、委員會ニ於キマシテ數回質問及討論ヲ重ネマシテ、是ハ明瞭ニナッテ居リマス、之ヲ今更喋々スル必要ハゴザイマセヌカラ、是ハ省略致シマス、只今田口君ハ縷々申述ベラレマシタガ、ソレハ總テ委員會ニ於テ討論ヲ盡シテ居リマスノデ、省略ヲ致シマス、唯一ッ私ガ心外ニ思ヒマスルノハ、此提案ノ理由ノ本文ガ不純デアル、不潔デアルト云フコトデアリマス、ドウ云フ爲ニ不純デアルカ、不潔デアルカ、其具體的ラシイ事實ト致シマシテ、私ガ最初無所屬ニ居リ、次ニ同志會ニ這入リ、其次ニ憲政會ニ移ッタコトニ付テ、ソレガ動機デアルト云フ、是ハ人ヲ誣ルモ餘リ甚シウゴザイマス、最初提案ノ理由ノ際、田口君ノ質問ニ對シテ御答シマシタヤウニ、政治家ノ出處進退ト云フコトハ公明正大デアル、私ハ自分ノ進ムベキ道ヲ進ンデ決シテ內心疚シイコトハナイ、ソンジョソコラノヤウニ腹黑イ人間デハナイ、私ハ決シテ左樣ナ下劣ナ人間デハナイ、尙又代議士トシテ、國民ノ代表者トシテ此帝國議會ヲ弄ブヤウナソンナ人間デハゴザイマセヌ、何等一點ノ私心ナク國政ヲ審議シツヽアルノデアリマス、而シテ本案ハ我國ノ鐵道政策ノ本義ニ副フモノデアルト確信シテ審議シ、而シテ皆樣ノ御協贊ヲ仰イデ居ル次第デアリマス、燕雀何ゾ鴻鵠ノ志ヲ知ランヤト云フコトガアル、徒ニ人ノ心ヲ忖度スルガ如キハ、君子ノ爲サヾル所デアリマス、君子ノ恥ル所デアリマス、私ハ是ダケヲ以テ答辯ト致シ、茲ニ諸君ノ御贊同ヲ仰グ次第デアリマス

（一七）案ニ對スル伊坂秀五郎君ノ反對演說

本員ハ極メテ簡單ニ、先刻委員長ノ御報告ニナリマシタル、新潟縣下坂町ヨリ、山形縣下今泉ニ至ル鐵道ハ、今泉ヲ長井ニ變更スルト云フ、此改正案ニ對シマシテハ遺憾ナガラ反對ノ意思ヲ表スル者デアリマス、本線ハ既ニ權威アル鐵道敷設法ニ依テ、議會ニ於テ吾ゝガ滿場一致ヲ以テ協贊ヲ與ヘタル線デアリマス、然ルニ此度此變更セントスル線路ハ、未ダ鐵道省ノ方ニ於テモ十分ニ調査ガ出來テ居ナイト云フ事柄ハ、鐵道省ノ官吏ノ既ニ聲明致シテ居ル所デアル、斯樣ナ既ニ十分ナル經濟調査モ出來、此線路ヲ以テ最モ完全ナル線路デアルト決定致シタル敷設法ヲ、輕々ニ之ヲ變更セントスルガ如キハ、餘リニ敷設法ノ權威ヲ無視スルモノデアル、ノミナラズ吾ゝガ議會ニ於テ決定ヲ致シマシタ此決定權ヲ輕々ニ無視スルガ如キハ、議會ノ決定權ナルモノヲ非常ニ輕侮スル事柄デアリマス、吾ゝハ此意味ニ於テ既ニ鐵道法ニ依テ決定シタル此線路ヲ、完全ナルモノトシテ委員長ノ報告ニハ反對ヲ致スモノデアリマス

他ニ通告者ナク討論ハ茲ニ終局ス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通リ確定ス

ノ通修正議決ヲ爲シ卽日之ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ハ議決ヲ爲スニ至ラサリキ

一四　法律事務取扱ニ關スル法律案

第一條　辯護士ニ非サル者ハ辯護士事務所法律事務所法律相談所其ノ他之ニ類似スル名稱ヲ使用シ又ハ以上ノ名稱ヲ使用スル事務所ヲ設クルコトヲ得ス

第二條　辯護士ニ非サル者ハ親族關係ナキ他人ノ訴訟事件非訟事件執行事件ニ付之カ代理鑑定和解仲裁紹介ヲ爲シテ利ヲ得ルコトヲ得ス但シ法令又ハ裁判所ノ命令ニ據リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ行爲ヲ數回爲シタル者ハ利ヲ得タル者ト看做ス

第三條　法令ニ據リ認許セラレタル者ニ非スシテ債權ノ取立ヲ業トシ又ハ之カ讓渡ヲ受ケテ取立ヲ業トスルコトヲ得ス

第四條　前三條ニ該當スル行爲ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條　本法第一條乃至第三條ニ該當スル行爲ヲ爲シタル者法人ナルトキハ其ノ代表者及現ニ其ノ行爲ニ關與シタル者ヲ處罰ス

右ハ十四年二月十七日關直彥君外四名之ヲ提出ス二月二十四日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者（砂田重政君）ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ濫訴ノ弊ヲ矯メ、裁判事務ノ迅速公正ヲ期スルト共ニ、法律運用ノ效果ヲ大ナラシムル目的ヲ以テ司法事務ノ進捗ヲ妨害スル者、竝ニ暴力團體ノ橫行濶歩ヲ排除シ、民衆權利ノ伸張ト自由ヲ與ヘントスル趣旨ニ於テ提案ヲ致シタ次第デアリマス、條項ハ五箇條ニ亙ル極メテ簡單ナモノデアリマスカラ、願クハ諸君ノ御贊成ヲ得タイト思ヒマス、幸ニ此際政府委員ガ御出席ニナッテ居リマスカラ、本案ニ對シテ政府委員ノ意見ヲ承ル機會ヲ與ヘラレマスルナラバ、洵ニ仕合ト考ヘマス

右ニ對シ岩崎政府委員ハ政府ノ所見ヲ述ヘ原夫次郎君ハ質疑ヲ爲シ砂田君之ニ應答ス

岩崎政府委員ノ政府ノ所見陳述

本案ニ付テ政府ノ見ル所ヲ申上ゲマスガ、大體ニ於キマシテ政府モ本案ノ必要ヲ認メテ居ルノデアリマス、唯一二ノ點ニ付キマシテ本案ノ規定中ノモノト所見ヲ異ニスル所ガアリマスケレドモ、是等ハ委員會ニ於テ申上ゲタイト存ズルノデアリマス

原夫次郎君ノ質疑

只今上程セラレタル本案ヲ一讀致シタノデアリマス、但シ此第二條ヲ見マスルト云フト、第二項ニ「前項ノ行爲ヲ數回爲シタル者ハ利ヲ得タル者ト看做ス」而シテ其利ヲ得タル者ト看做ス者ハ、第四條ノ罰則ニ於テ六月以下ノ懲役又ハ罰金ニ處セラルヽト云フ規定ニナッテ居ル、是ハドウモ提案者諸君ガ法律家デ居ラセラルヽノニ拘ラズ、餘リ是ハドウモ獨斷專行ノ甚シキモノト思フノデアリマスガ、第二條ノ此三百ヲ取締ヲスルノニハ利ヲ得ルコトガ出來ナイト云フ規定ヲ爲シテ、第二項ヲ持テ行ッテ前項ノ行爲ヲ二回以上爲シタナラバ、直ニ如何ナル事デアッテモ之ヲ六月以下ニ罰スルト云フ規定デアッ

テ、如何ニモ此獵師ガ鹿ヲ逐フノニ山ヲ見ナイト云フ嫌ガアルノデアリマス、此點ハ私共委員ニナルカドウカ分リマセヌノデスカラ一ツ提案者ニ伺ッテ置キ、注意ヲ喚起シテ置キタイノデアリマス

砂田重政君ノ應答

原君ヨリ極メテ簡單ト言ハレマシタガ、可ナリ長イ御質問ガアッタノデアリマスガ、條項ノ細カイコトハ悉ク委員會ニ於テ御說明申上ゲマス

次テ本案ハ横山勝太郎君外四名提出違警罪卽決例中改正法律案(本項第二(三))外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ニ著手シタルモ報告ヲ爲スニ至ラサリキ

一五　會計士法案

會計士法

第一章　會計士ノ職務

第一條　會計士ハ當事者其ノ他ノ關係人又ハ公務所ノ囑託ニ依リ會計ニ關スル職務ヲ行フモノトス

第二條　會計士ハ農商務大臣ノ監督ヲ受ク

第二章　會計士ノ資格

第三條　會計士タラムトスル者ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　帝國臣民ニシテ民法上ノ能力ヲ有スル者

二　會計士試驗ニ合格シタル者

三　會計士銓衡委員會ノ銓衡ヲ經タル者

第四條　會計士試驗及銓衡ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　左ニ揭クル者ハ會計士タルコトヲ得ス

一　無期若ハ六年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　刑法第二編第一章乃至第三章第五章第七章乃至第十三章第十六章乃至第二十三章第二十五章第二十六章第三十二章第三十三章第三十五章乃至第四十章ノ規定ニ依リ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

三　破產者ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ヲ辨償セサル者

四　懲戒ノ處分ニ依リ免官免職又ハ除名セラレタル者

五　禁治產又ハ準禁治產ノ宣告ヲ受ケタル者

第六條　會計士ハ他ノ職業ニ從事シ法人ノ取締役理事無限責任社員若ハ法人其ノ他ノ使用人トナリ又ハ報酬アル公務ヲ兼ヌルコトヲ得ス但シ法令ニ依リ議員若ハ委員トナリ公務所ヨリ特ニ囑託ヲ受ケタル職務ヲ行ヒ民法第三十四條ノ法人ノ理事トナリ又ハ學校ノ教職ヲ兼ヌルハ此ノ限ニ在ラス

第三章　會計士名簿

第七條　會計士ハ會計士名簿ニ登錄セラルルコトヲ要ス

第八條　會計士名簿ニ關スル規定ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四章　會計士ノ權利及義務

第九條　會計士ハ其ノ職務ニ關シ報酬及旅費ヲ受ク

第十條　會計士ハ左ニ揭クル事項ニ付其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

一　官公吏又ハ監査役監事若ハ檢査役トシテ其ノ職務上關與シタル會計事項

二　取締役無限責任社員理事清算人管理人仲裁人又ハ辯護士トシテ其ノ職務上關與シタル會計事項ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　會計士ハ左ニ揭クル事項ヲ爲スコトヲ得ス

一　會計士ニ非サル者ト共同シテ職務ヲ行ヒ又ハ會計士ニ非サル者ヲシテ自己ノ名ヲ以テ職務ヲ行ハシムルコト但シ豫メ農商務大臣ニ屆出アル事務員ヲシテ個個ノ事務ヲ代理セシムルハ此ノ限ニ在ラス

二　直接間接ニ他人ヲシテ自己ノ職務ヨリ生スル利益ノ分配ニ與ラシメ若ハ與ラシムルコトヲ約束シ又ハ職務受託ニ關シ他人ニ對シテ手數料若ハ報酬ヲ與ヘ若ハ受クル約束ヲ爲スコト

三　他人ノ職務ヨリ生スル利益ニ付其ノ分配手數料若ハ報酬ヲ受ケ又ハ受クルコトヲ約束スルコト

四　債權取立ノ受託又ハ之ニ類スル行爲ヲ爲スコト

第五章　會計士會

第十二條　會計士ハ會計士會ヲ設立シ其ノ規約ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ其ノ規約ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十三條　會計士ハ會計士會ニ加入シタル後ニ非サレハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第六章　罰　則

第十四條　會計士又ハ會計士タリシ者故ナク其ノ職務上取扱ヒタル事項ニ付祕密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　刑法第百九十七條及第百九十八條ノ規定ハ會計士ノ職務執行ニ付之ヲ準用ス

第十六條　第七條ノ登錄ヲ受ケサル者會計士會ニ加入セサル者又ハ職務停止中ノ者會計士ノ稱號ヲ用ヰ又ハ其ノ職務ヲ行ヒタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七章　懲戒

第十七條　會計士此ノ法律又ハ會計士會ノ規約ニ違反シタルトキハ懲戒ニ付ス

第十八條　懲戒ハ左ノ四種トス

一　譴責

二　千圓以下ノ過料

三　三年以下ノ職務停止

四　除名

第十九條　懲戒ハ農商務大臣之ヲ行フ但シ會計士會ハ其ノ決議ニ依リ之ヲ申告スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

會計士銓衡委員會ノ銓衡ヲ經タル者ハ當分ノ內第三條第二號ノ規定ニ拘ラス會計士タルコトヲ得

外國人カ帝國內ニ於テ第一條規定ノ職務ヲ行フコトニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ十四年二月十七日高木益太郎君外二名之ヲ提出ス二月二十四日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者（高木益太郎君）ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ一般經濟界ニ付テ內外投資家ノ不安ヲ除キ、產業ノ發達ヲ增進スルノ目的ヲ以テ提出ヲ致シマシタ、從來銀行、會社ニシテ失態ヲ演ズル者甚ダ多ク、是ガ爲ニ我ガ國民經濟ニ惡影響ヲ生ジ、我ガ實業ノ發達ヲ阻害スルコトノ甚シキハ、甚ダ顯著ナル事實デアリマス、然ルニ素人ガ銀行會社ノ財政狀態ヲ調査スルノハ、甚ダ困難ノ事ニ屬シマス、仍テ玆ニ嚴重ナル監督及責任規定ノ下ニ會計士ヲ設ケ、政府ニ於テ專門ノ知識經驗ヲ有シ、獨立不羈ノ人格アル者ヲ公認シテ、銀行、會社ノ會計狀態ヲ調查監查セシメ、且ツ之ヲ整頓證明セシムルノ必要ヲ感ジマス、若シ一時ニ一般ノ商事會社ニ之ヲ實行スルノガ困難デアリマスルナレバ、少クトモ預金銀行、政府ノ補助會社、又ハ大藏省預金部ノ低利資金ヲ運用スル方面ニ向ッテ之ヲ實行シタイノデアリマス、又追ミニハ商事會社ニ止メズ赤十字社、濟生會、愛國婦人會、本願寺慈善團體ノ如キニ及ボシタイ、卽チ此慈善事業ノ財團、又ハ社團法人デス、往々廣ク寄附ヲ募集シテ、之ニ對シテ篤志者ガ金ヲ寄附シタ切リデアッテ、其後ノ成行ガ明確デナイモノモ隨分アルノデアリマスルカラ、此方面ニモ實行致シタイ精神デアリマス、而シテ之ニハ地方官廳ニ於テ寄附募集許可ノ條件中ニ加ヘテ、必ズ會計士ノ調查報告ヲ要スルコトヲ命令スルナラバ、容易ニ是ガ實行ヲ爲シ得ルコト、存ジマス、尤モ本案ハ大正三年以來既ニ衆議院ニ於テ全會一致、三回御可決下スッタノデアリマス、尙ホ今回審議ヲ煩シマシテ、速ニ法律トシテ成立ヲシ、以テ我ガ產業ヲシテ牢固タル地盤ニ立タシムルヤウ御盡力アランコトヲ願ヒタイノデアリマス

次テ本案ハ議長指名（九名）ノ委員ニ付託スルニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二十五日委員會

ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ三月十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書）

會計士法案中左ノ通修正ス

第十六條中「會計士ノ稱號ヲ用キ」ノ下「又ハ」ヲ削ル

三月十二日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長清水留三郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

會計士法案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ極ク簡單ニ御報告致シマス、本案ハ數次衆議院ヲ通過致シタ案デゴザイマシテ、大正九年時ノ農商務大臣仲小路廉君ガ委員會ニ於キマシテ、此次ノ議會ニハ政府ハ必ズ本案ヲ提出スルト云フ風ナ聲明ヲ與ヘテ居ッタノデアリマス、此案ノ要旨ハ、即チ銀行會社ノ會計事務ヲ監査シ、財産狀態ノ調査書類ヲ證明スルコトガ主ナル目的ナノデアリマス、委員會ニ於キマシテハ幾多ノ質疑應答ガゴザイマシテ、詳細ハ速記錄ニ於テ御覽ヲ願ヒタイノデアリマス、唯其中ノ一二ノ主ナル點ダケヲ申シマスルト、或ル委員ヨリ何故ニ此法案ハ農商務大臣ノ監督ノ下ニ置クカト云フ質問ニ對シマシテ、提案者竝ニ政府委員ヨリ、農商務省ガ一番密接ノ關係ヲ持ッテ居ルカラ、農商務省ノ方ノ監督ガ密接デアルト云フコトヲ答辯セラレタノデアリマス、而シテ司法當局モ居リマシタガ、別ニ反對ノ意見ヲ申出ナカッタノデアリマス、又他ノ質問ニ於キマシテ會計士ハ會社ノ監査役ト牴觸スルノ心配ハナイカト云フ風ナ質問ニ對シマシテ、監査役ハ會社ノ機關デアル、會計士ハ會社ノ囑託ニ依リ會計ニ關スル監査、調査、承認、報告等ヲ爲スノデアルカラ其間何等ノ牴觸ハナイト云フコトヲ提案者ハ說明シテ居ッタノデアリマスル、之ニ對スル政府ノ意見ハ會計士法制定ノ必要ハ夙ニ認ムル所デアル、然レドモ同法ノ關係スル所ハ頗ル廣ク、大藏、司法、兩省トモ十分評議スル必要アリ、又現在經濟界ノ狀況ニ鑑ミテ、最モ愼重ナル考慮ヲ要スルモノアリ、隨テ政府ハ本法律案ニ對シテハ銳意調査ヲ致シ、且ツ經濟界ノ狀況ニ鑑ミ、其時期ヲ得テ——成案ヲ得テ諸君ノ協贊ヲ求メントシテ居ルノデアリマス、何卒御承知ヲ願ヒマスト云フノガ政府當局ノ答辯デアリマス、委員會ニ於キマシテハ此案ノ第十六條ニアリマスル——第十六條ヲ讀ミマスルト「第七條ノ登錄ヲ受ケサル者會計士會ニ加入セサル者又ハ職務停止中ノ者會計士ノ稱號ヲ用キ又ハ」此「又ハ」ト云フ一字ヲ削除致シマシテ、次ニ「其ノ職務ヲ行ヒタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス」ト云フコトニ修正シタノデアリマス、卽チ「又ハ」ト云フ二字ヲ削除スルコトニ全員一致ヲ以テ修正シタノデアリマス、是非委員會ニ於テ修正致シマシタ通リ御承認セラレンコトヲ希望スルノデアリマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通リ修正議決ヲ爲シ卽日之ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ニ於テ議決ヲ爲スニ至ラサリキ

十六　公娼制度制限ニ關スル法律案

何人ト雖新ニ娼妓トナリ又ハ娼妓稼ノ爲ニスル貸座敷營業ヲ爲スコトヲ得ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十四年二月十八日松山常次郎君之ヲ提出ス二月二十四日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

只今上程ニナリマシタル公娼制度制限ニ關スル法律案ニ付テ說明ヲ致シマス、此問題ハ多年、又有ユル階級ノ人ミカラ論議セラレテ來タモノデアリマス、元來國民道德ノ標準ト云フモノハ嚴正ニ確立セラレナケレバナラヌト思ヒマス、實際生活ニ於テ道德ト云フモノハ必ズシモ嚴格ニ遵守セラレテ居ルモノデハアリマセヌ、併ナガラ其標準ヲ確立スルト云フコトハ極メテ大切デアルト思ヒマス、國民ノ一部ニ如何ナル要求ガアルト致シマシテモ、其同胞ノ一部分ノ者ヲ或ル特殊部ノ階級ニ突込ンデ、强制的ニ貞操ノ蹂躙ニ甘ンジサセルト云フコトハ許スベカラザルコトデアルト考ヘマス、今日ノ我國ノ此公娼制度ト云フモノハ如何ナル方面カラ考ヘテモ、是ハ非難スベキモノデアルト吾ミハ考ヘルノデアリマスルガ、特ニ之ヲ國家ガ公許致シテ置クト云フ所ニ吾ミガ茲ニ問題トシテ持出ス所ガアルノデアリマス、公娼存置論者ノ常ニ理由ト致シマスル所ハ、此制度ニ依テ花柳病ノ蔓延ガ抑止セラレルト云フコトヲ常ニ擧ゲルノデアリマスルガ、是ハ多年ノ研究ノ結果、學問上カラモ決シテサウデハナイ、之ニ依テ花柳病ノ蔓延ガ抑止セラレザルノミナラズ、却テ之ニ依テ助長セラルヽモノデアルト云フコトガ明ニナッテ居ルノデアリマス、風紀上ノ問題ト致シマシテ、公娼制度ヲ撤廢スルナラバ、私娼ガ增加シテ、跋扈シテ困ルト云フコトガ又常ニ理由トセラルヽ、所デアリマス、併ナガラ群馬縣及和歌山縣ニ於ケル實例ニ依リマシテ、公娼制度ヲ廢止スルコトハ私娼ノ增加ヲ來スモノデハナイ、或ハ又公娼制度ヲ設置スルコトニ依テ、却テ私娼ノ增加ガ助長セラルヽモノデアルト云フコトガ明ニナッテ居ルモノデアリマス、茲ニモウ一ツノ理由ハ警察ノ取締リノ上カラ是ガ洵ニ困ル、私娼ノ方ハ取締リト云フコトヲ能ク言フノデアリマスルガ、元來警察ナルモノハ正當ナル國民ノ要求、國家ノ體面、國民道德ノ維持ト云フコトヲ標準ト致シマシテ、其職務ニ服スベキ者デアリマス、警察ノ都合ノ爲ニ國家ノ體面ヲ汚シテモ、國民道德ヲ墮落ニ陷レテモ、サウ云フ制度ヲ設ケナケレバナラヌト云フコトハ、是ハ本末ヲ顚倒シタルモノト考ヘマス、昨年ノ暮十二月二日ノ東京日日新聞ニ或ル記事ガ出タ、ソレニハ「皮肉、廢娼縣ガ日本一ノ花柳病國」斯ウ云フ見出シデ麗々シク其事ガ書イテアッタノデアリマシタ、或ハ攻擊ノ意味ニ於テ或ハ冷評ノ意味ニ於テ斯ウ云ウ記事ガ載ッテ居ルト言ッテ送ッテ來タノデアリマス、私ハ甚ダ驚イタノデアリマシタ、ソレハ其時高崎ニ於テ、或ル所デ巡査ガ三人寄ッテ、例ナル記事デアルトノコガ明ニナリマシタ、ソレハ十二月四日ノ上毛新聞ニ、群馬縣警察部長ノ谷ト云フ人ノ話ガ載ッテ居ルノ群馬縣ハ全國平均ヨリ花柳病患者數ノ率ガ低イケレドモ、今年ダケハ多イ、是ハドウカ致シタノカト言ッテ話ヲシタ、ソレヲ東京日々ニ知ラスト、東京日々ハ珍ラシイ記事デアリ惹イタモノト見エテ、全國ノ方々ノ新聞ノ事デアリマス、所ガ十二月四日ノ上毛新聞ニソレガ記載セラレタノデアリマス、ソレハ十二月二日ノデアリマス、ソレヲ讀ンデ見マスト「日本デ筆頭一番ノ花柳病國ハ本縣ト決定」ト題シテ、縣下ノ花柳病患者ノ如キモ、群馬縣ハ全國平均率ヨリ遙ニ多イ等ノ記事ガ、或ル一二ノ新聞ニ揭載サレテアッタガ、アレハ全然事實ニ相違シ、最近警察署長ヨリ公娼設置ヲ希望スル意見ヲ具申シタル等ハ無イノミデナク、每年壯丁檢査ニ於ケル花柳病患者數モ、大正十二年ヲ除クノ外全國ノ平均以下デアリ、而モ大正十二年壯丁ノ花柳病患者ノ多クハ縣外出寄留者ニシテ、却テ縣內在住ノ壯丁ハ花柳病患者少キコトヲ證明サレタモノデ、本縣ハ寧ロ花柳病ノ安全地帶トモ云フベク、廢娼縣タルコトハ依然本縣ノ誇リタルコトヲ失ハヌト思フ云々トナッテ居リマス、之ニ依テ此東京日々ノ記事ガ無責任ノ記事デアルト云フコトガ明ニナッタノデアリマス、更ニ此警察部長ノ言ニ對シテ、之ヲ立證スル詳細ナル統計モ持ッテ居リマス、併シソレハ委員會デ述ベルコトニシテ此所デハ述ベマセヌ、偖テ以上ノコトニ依テ私共ハ我國ニ於ケル現在ノ公娼制度ノ撤廢ヲ期スル者デアリマス、併ナガラ是マデアッタ制度ヲ直ニ撤廢スルト云フト、又色々ノ困難ガ生ズルト云フコトヲ考ヘマシテ、此度出シマシタル法案ニ於キマシテハ、新ニ娼妓トナリ、又新ニ貸座敷營

業ヲ爲スコトガ出來ナイ、斯ウ云フコトニ致シテアルノデアリマス、現在我國ノ娼妓ノ數ハ五萬人アリマス、サウシテ年々八千人ヅヽノ新シイ娼妓ガ遊廓ニ向ッテ入ッテ來ルノデアリマス、故ニ平均致シマスレバ一日ニ二十二人ノ娼妓ガ新ニ遊廓ニ入ッテ來ルノデアル、故ニ私ハ此制度ガ惡イトシテ之ヲ廢メル以上、之ニ制限ヲ加ヘル以上ハ一日モ早ク之ヲ實現致シタイ、斯ウ云フ考デ附則ト致シマシテ、本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス、斯ウ云フコトニ致シテ居ルノデアリマス、兎モ角私共ハ以上ノ理由ニ依リマシテ、此法律案ヲ提出シタ次第デアリマス、願クハ國民道德ノ標準ヲ確立スル爲ニ、斯ノ如キ問題ハ本院一人ノ反對者ナク之ヲ通過致シタイト考ヘマス、ドウカ諸君ノ御贊成ヲ願ヒマス

右ニ關シ吉良元夫君、三善清之君ハ提出者ニ、牧山耕藏君ハ政府ニ對シ其ノ所見ヲ求メ松山常次郎君及片岡政府委員之ニ應答ス

吉良元夫君ノ質疑

私ハ只今日程ニ上リマシタル此公娼制度ニ關スル法律案ハ、提出者タル松山常次郎君ノ人格ヲ尊重スルト同時ニ極メテ是ハ眞面目ニ考フベキ問題デアリマスルカラシテ、私ハ實ハ質問ヲ致スコトヲ衷心ヨリ宜イトハ思ヒマセヌノデアリマス、卽チ「我ガ國ニ現存スル公娼制度ハ事實上ノ奴隷制度ニシテ人道上風紀上、衞生上有害無益ナル惡制度ナリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ」簡明ニ御書キニナッテ居リマスガ、如何ニモ私モ見ヲ同ジウスル者デアリマス、願クハ文明國ニハ斯樣ナ醜業ハ一日モ無カランヤウニ希望シタイノデアリマス、併ナガラ是ハ人間ガ神デモナク、佛デモナイカラシテ、致方ガ無イノデアル、何レ松山君ハ歐米先進國ニ於テハ公娼制度ガ無イ、我ガ帝國ハ東洋ノ君子國ト言フケレドモガ、古來娼妓ト云フヤウナモノガ社會ノ表面ニ現存シテ居ルノハ、甚ダ文明國ニ對シテ恥辱デアルト云フヤウナ意味モ含マレテ居ルト思フノデアリ

マスルガ、吾ミハ之ヲ實際的ノ方面カラ考ヘテ見マスルト云フト、我國ニ公娼制度ガアルト云フコトハ、如何ニモ歐米ニ對シテ氣ノ毒ニ感ズルケレドモガ、何ゾ知ラン、歐米先進國ト言ッテ誇ッテ居リマスケレドモガ、其社會ノ「ダーク、サイド」暗黑面ノ方面ニ於テハ、我ガ帝國ヨリカ非常ニ惡イヽヽコトガアッテ、殆ド畜生道ニ墮落シテ居ルノデアル、彼ハ口ニハ基督敎國ト言ッテ居ルケレドモ、何ゾ知ラン、彼等ハ殆ド畜生同然ノ所業ヲシテ居ル國デアル、彼ノ國ニハ貞操問題ナドト云フモノハ絕對ニ無イ、彼等ノ良心ノ中ニハ今日無イ、刹那主義、享樂主義ノ氣分ニ滿サレテ居ッテ、殆ド禽獸界ニ墮落シテ居ルノデアル、我國ニハ此公娼制度ト云フモノガアリマスルケレドモガ、是ハ已ムヲ得ズ情慾ヲ自制シ得ナイ人方ガ已ムヲ得ズ此魔道ニ入ッテ居ルノデアッテ、何ゾ知ラン一般的カラ申セバ、歐米ヨリカ餘程風俗ノ上ニ善良ナル今日ハ嚴肅ナル國ノ體裁ヲ爲シテ居ルノデアル、私ハ能ク此事ハ知ッテ居ルノデアル、吾ミハ公娼ナドヲ買ヒニ行クヤウナ者デモナシ、又之ヲ存置シナケレバナラヌト云フコトヲ此所デ大膽ニ唱ヘルヤウナコトハシタクナイケレドモ、是ハ已ムヲ得ナイ事情ガアルノデアル、松山君ノ此御精神ニハ洵ニ同感デハアリマスルガ、現在ニ於テ、只今衆議院デ決シテ法律トシテ是ガ我國ニ若シ行ハレタ時ニハ、歐米各國ノ如キ裏面ニ於ケル極メテ宜シクナイ所ノ事ガ直ニ實現スルノデアル、私ハ、表面上穩クトモ、裏面ニ於テ立派ナルコトヲ欲望スル者デアリマスル、私ハ決シテ戲ニ斯ウ云フコトヲ申上ゲルノデハナイノデアル、是ニ於テ簡單ニ伺ヒマスルガ「何人ト雖モ新ニ娼妓ト爲リ又ハ娼妓稼ノ爲ニスル貸座敷營業ヲ爲スコトヲ得ズ」迄ニ結構デアル表面上レマスルガ、此法律ヲ卽時ニ我國ニ行ヘバ果シテ松山君ガ期待セラルヽガ如キ立派ナル事ニナッテ、其裏面ニハ少シモ私娼ト云フモノガ跋扈セズ、又弊害ノ無イト云フコトヲ能ク心ヨリ御信用ニナルノデアリマスカ、裏面ノ部分ハ姑ク問フ所ニ非ズ、唯歐羅巴先進國デハ斯樣ナモノハ無イノデアルカラシテ、我ガ帝國モ斯樣ニシタイト云フ思召ガアルノデアリマスカ、或ハ又彼等基督敎徒ガ色ヽノ事ヲ言ヒマシテ、我ガ帝國ナドハ佛敎國デアルガ、佛敎國ノ裏面ガドウトカ斯ウトカ言ウテ、基徒敎信者ハ頻ニ斯ウ云フヤウナコトヲ申シテ

居ルガ、吾々ノ眼ヲ以テ見ルト、今日ノ基督教國ハ實ニ禽獸ノ國デアル、我國ハ幸ニシテ禽獸道ニマデ落チヌケレドモ、近來追々落チテ來リツヽアルコトヲ私ハ甚ダ悲ムノデアル、表面ニ色餓鬼ガアッテ畜生道ニ落チル者ガアッテモ、ソレハ僅カナ部分デアル、是ハ先ヅ大目ニ見テ、斯樣ナ事ヲ、實際ノ上ニ於テ效果ガナイナラバ、此所デ時間ヲ取ッテハ濟ミマセヌカラ、ドウゾ委ト思フノデアリマス、簡明ニ御答辯ヲ願ヒタイ

松山常次郎君ノ應答

吉良君ノ只今ノ御意見ハ極メテ主觀的デアッテ、相當ナル客觀的ノ根據ヲ以ッテ講ジテ居ラレマセヌカラ、極メテ眞面目ナル吉良君トハ致シマシテハソレハ本當ニサウ感ジテ居ラレルノデアリマセウケレドモ、私ノ考ヘル所デハ少シ御研究ガ足ラヌヤウニ思ヒマス、若シ數字上ノコトニ付キマシテ御研究ニナル御考デアリマスナラバ、此所デ時間ヲ取ッテハ濟ミマセヌカラ、ドウゾ委員會ニ御出下スッテ十分御研究ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、唯特ニ、然ラバ先程申上ゲタコトニ付テ少シク註釋ヲ加ヘマス、公娼制度ヲ撤廢シテモ私娼ハ殖エナイト私ヲシテ信ゼシムル理由ハ、私ハ和歌山縣ノ新宮ニ於テ十數年前ニ公娼制度ヲ新ニ作ッタノデアリマス、和歌山縣ノ新宮ニ於テ十數年前ニ公娼制度ヲ新ニ作ッタノデアリマス、其以前——公娼制度ヲ置ク前ニ私娼ガ約四十人アッタ、サウシテ其當時ニ於テ——公娼制度ヲ置イタ後ニ、娼妓ガ約百名ニ達シテ、而モ私娼ガ又百名以上ニ上ッテ居ルノデアリマス、之ニ依テ公娼制度ヲ設置シタカラ私娼ガ少クナルモノデヤナイ、却テ公娼制度ヲ置クト、私娼ノ增加ヲ助長スルモノデアルト信ジテ居ルノデアリマス、公娼アルガ故ニ私娼ガ出來ナイモノナラバ、吉原ノヤウナ淺草區ニハ私娼ガ無イ筈デアル、所ガ吉原ノ裏ニハ千束町ト云フ日本一ノ私娼窟ガ出來テ居ル、群馬縣ニ於キマシテ伊香保ニ公娼制度ガアッタ時分ニ、尙ホ私娼ガアッタ、伊香保デ公娼制度ヲ撤廢シテモ、私娼ノ數ガ殖エナカッタト云フ事實ガアル、是等ノ事ニ依リマシテ、私ハ公娼制度ヲ撤廢シタカラト云ウテ私娼ハ殖エルモノデハナイト信ジテ居リマス、併シ假令是ガ增加シタト致シマシテモ、假令公娼制度ヲ撤廢スルコトニ因ッテ私娼ノ數ガ增加シタト致シマシテモ、國民道德ノ標準ヲ確立スル爲ニ此事ヲ國家カ公許スルト云フコトガイケナイ、即チ石川五右衞門ガ言ッタ通リ泥棒ハ絕エナイ、併シ絕エナイカト云ッテ此盜ヲスルノハイケナイト云フ道德ノ標準ヲ變ヘルコトハイケナイ、泥棒ハ矢張イケナイ、イケナイ事ハイケナイ、此道德ノ標準ダケハ確立シナケレバナラヌノコトデアリマスレバ、委員會ニ於テ論議ヲ致シタイト思ヒマス

牧山耕藏君ノ政府ノ所見要求

只今松山君ヨリ本案ニ對スル提出ノ理由ヲ伺ヒマシテ、大體了承ヲ致シマシタガ、本案ハ影響スル所極メテ重大デアルト思ヒマスカラ、此際本案ニ對スル政府ノ御所見ヲ伺ヒタイト思ヒマス

片岡政府委員ノ所見陳述

牧山君ノ御質疑ニ對シテ御答致シマス、日本ニ於ケル今日ノ娼妓其者ハ道德上カラ申シマシテハ甚ダ宜シキモノデハナイト私ハ思フ、斯樣ナモノヲ今設ケルト云フコトデアリマシタラバ、設ケナイ方ガ宜イト申サネルヲ得ヌノデアリマス、併ナガラ是ハ大分長イ間ノ習慣モアリマスルシ、殊ニ今日ノ我國ニ於ケル衞生狀態カラ考ヘマシテモ、之ヲ今大ニ制限ヲ加ヘ廢止スルマデニ至ルト云フコトガ、果シテ適當デアルカドウカ、餘程是ハ考慮スベキモノデアラウト思ヒマス、成程國際聯盟等ニ於キマシテモ、人道問題トシテ本問題ニ對シテ意見ガアルノデアリマスカラ、是ハサウ長キ間持續スベキモノトモ思ヒマセヌガ、之ヲ廢スルニハ相當衞生上ノ施設モ考ヘナクチヤナリマスマイシ、其他道義上——人心ノ道義上ノ進歩モ亦考ヘナケレバナラヌノデアリマス、ソレガ故ニ今俄ニ之ヲ廢止スルトカ、大ニ制限ヲ加ヘルト云フコトニ於テハ、政府トシテハ直ニ同意ヲ表シ兼ネルノデアリマス、現ニ佛蘭西ノ如キ國ニ於キマシテモ、此公娼ハアルノデアリマス、諸君ガ行ッテ御覽ナサッタノデアリマセウガ、ソレハアルノデアリマス、日本程ニ公ニナイダケノ話デアリマス、又獨逸ニ於キマシテモアルノデアリマス、理窟ニハ立派ニ言ヘマス

ガ、實際上カラ考慮シテ餘程ノ研究ヲ要スル問題デアラウト存ジマス、他ハ委員會ニ於テ又御意見ヲ承ッテ御答スルコトニ致シマス

三善清之君ノ質疑

本案提出者ノ提出ノ趣意ハ將來我國ニ於ケル公娼ヲ廢シ、而シテ貸座敷營業ノ如キモノモ廢スル、斯ウ云フ希望ノ下ニ提案ヲサレタモノデアリマシテ、本案ニ付キマシテハ吾ゝ同僚ノ中ニ於テモ多大ノ反對ノ意見ヲ有シテ居ル者モアリマス、提案者ノ趣旨ハ、公娼ハ風紀上ノ道上ニ於テ許スベカラザルモノデアル、併ナガラ私娼ハ之ヲ許シテモ宜シイ、斯様ナ案ニ歸著スルノデアリマス、而シテ本案提出者ノ同志者ニ依リマシテ、過日來斯様ナ「廓清」ト稱スル雜誌ヲ諸君ニ御配付ニナッテ居ル、御覽ニナリマシタダラウト考ヘマスガ、此宣傳配付ノ趣意ヲ見マスルト、我國ノ公娼ハ人格モ否定サレテ居ルモノデアル、斯様ナ者ガ我ガ國内ニ於テ何千何萬ト云フ多數居ルノデアル、然ルニ政府或ハ政治家ガ仁義道德ヲ說キマシテモ、斯様ナ同胞ガ何千何萬國内ニ居ルト云フコトハ、如何ニモ我國ノ政治、道德、法律、總テノ奪シ、斯様ナ者ヲ許シテアルノデアリマス、此趣意ガ抑誤ッテ居ルノデアリマス、此文句、此趣意ハ破產デアル、斯様ニ申ス趣旨デアリマシテ、法律ノ上カラ申シマスルコト、或ハ人身ヲ誘拐スルガ如キハ、刑法ノ上我ガ帝國政府竝ニ吾ゝノ此立法府ヲ讒侮罵詈致スモノデアルト斯様ニ私斷言シテ憚ラナイノデアリマス、我國ノ此公娼制度ハ決シテ人身賣買ニアラズ、自由ノ拘束ニアラズ、人格ノ否定ニアラズデアリマス、ソレハ大正元年ノ内務省令ニ於テ明ニ規定サレテ居リマス、元來公娼ナルモノハ其本人自ラ警察官署ニ出テ、具體的九箇條ヲ提供シテ諒解ヲ得テ、而モソレニ最近尊屬ノ保證ヲ得マシテ、而シテ官廳ガ始メ許ス、而シテ許シタ翌日デモ本人ガ嫌デ罷メルト云フナラバ、直ニ官廳ハ之ヲ許ス、若シ此廢業ニ對シ妨害ヲ致ス者ガアリマシタナラバ、ソレハ刑法ヲ以テ處分サレルノデアリマス、左樣ナ條項ガ澤山ニ規定ノ上ニ備ッテ居リマシテ、決シテ自由ヲ束縛致シタモノデハアリマセヌ、又彼ノ人身賣買ト申シマスルコト、或ハ人身ヲ誘拐スルガ如キハ、刑法ノ上ニ於キマシテ規定ガアリマスノデ、決シテ左樣ナモノデハアリマセヌ、其點ハ發案者ノ誤解デアラウト考ヘマス、而シテ歐米ニ於ケル私娼ノ狀況ハ、最近ニ至ッテ甚シキ弊害ガアル、其大都市ニ於キマシテハ夜間ニ於テハ良家ノ子女ガ外出通行スルコトハ出來ナイ、而シテ官憲ガ之ヲ取締ルニ於テ非常ニ困難ヲ感ジテ居ルト云フ狀況デアリマス、而シテ我國ノ公娼制度ハ三百年ノ以前カラアル制度デアリマス、而シテ是ガ爲ニ我ガ國ノ政治道德風紀ヲ多大ニ妨害サレ、破壞サレタト云フ實例ハ未ダ決シテ存シマセヌ、而シテ明治初年ニ於キマシテハ歐米ノ私娼制度ニ倣ッテ一旦ハ之ヲ廢止致シマシタ、然ルニ私娼跋扈甚シキニ鑑ミテ、明治五年ニ一旦廢止致シマシタ、明治五年ニ於テ再ビ之ヲ公認ノ已ムヲ得ザルニ至ッタノデアリマス、左樣ナ次第デアリマシテ、公娼制度ハ法規ノ上ニ於テ取締ガアリマス、而シテ私娼ニ於テハ取締ガ無イノデアリマスカラ、其病毒ノ如キモ從ッテ多大デアルト云フコトハ事實デアリマシテ、嘗テ此雜誌ノ中ニモアリマスルガ、警視廳ガ嘗テ淺草公園ノ私娼ノ身體ヲ檢査致シマシタノト同時ニ、吉原ノ公娼ヲ檢査致シマシタ例ガアリマス、ソレヲ見マスト、私娼ノ方ハ七十五%ノ病毒デアリマス、公娼ノ方ハ僅ニ九%デアリマス、是ハ松山君ナドノ同志諸君カラ言ヒマスト、病毒ノ檢査ハ顯微鏡ニ依ラナケレバナラヌ、肉眼ヲ以テ見テハ分ラヌト言ヒマスガ、此多數ノ斯樣ナ者ニ對シテ顯微鏡デ檢微スルガ如キハ空論デアリマスガ、是ハ大正十二年ニ全國ノ四十八縣ノ壯丁ニ就テ花柳病ヲ調ベマシタ比較デアリマス、群馬縣ハ千人ニ付テ十九人、其病毒ノ順番ガアル、全國デノ十二番ニ當ルト云フノデアル、之ヲ以テ即チ群馬縣ノ私娼ノ害毒ハ明ニ分ッテ居リマス、之ヲ要スルニ御承知ノ如ク壯丁ノ兵役ノ如キハ約二十萬デアリマスガ、其日曜日ニ至ッテ多ク ハ遊廓ニ遊ブ、此遊廓ニ遊ブ壯丁ハ——明治初年以來徵兵制度デアリマスガ、兵役ヲ終ッテ鄉里ニ歸ル者ハ寧ロ體格ガ强壯ニシテ兵役ニ參ッテ病毒ニ困ルト云フ者ハ未ダ曾テ聞カナイノデアル、寧ロ健全ナル身體ヲ持テ歸ッテ居リマス、其病毒ノ蔓延等ハ見マセヌノデアリマス、若シソレ風俗ノ紊亂、人倫ノ蹂躪ヲ叫ブナラバ、彼ノ紳士淑女ガ、他人ノ男女ト相擁シテ深夜燈影ノ下ニ相舞踏シテ居ルガ如キ

ハ所謂人倫ノ蹂躙道德ノ廢頽デアル、宗教家ノ松山君ノ如キハ斯ノ如キ事ニ御氣ガ付カレヌカ——尙ホ詳細ハ委員會ニ於テ申上ゲマス、ドウカ本案ノ如キハ直ニ葬ラレンコトヲ希望致シマス

次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二十五日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ否決スヘキモノト決シ二月二十七日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月五日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長嶋居哲君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

公娼制度制限ニ關スル法律案ニ付キマシテ、委員會ノ經過竝ニ結果ヲ簡潔ニ御報告申上ゲタイト存ジマス、本案ハ重大ナル法律案デアリマスカラ、委員會ノ初メニ當リマシテ、十分ナル審議ヲ盡クサレンコトヲ委員長トシテ特ニ委員會ニ望ンデ置イタ次第デアリマス、本案提出ノ理由ハ公娼ヲ廢止スルト云フノデアリマシテ、直ニ之ヲ廢止スルニ付キマシテハ、ソコニ多クノ困難ガ横ッテ居リマスガ爲ニ、一ツノ制限ヲ設ケ又ハ貸座敷營業ヲ爲サントスル者ヲ禁止スルト云フ所ノ法律ナノデアルノデアリマス、本案ヲ審議スルニ付キマシテハ、其質疑應答ガ約三時間ニ亙ッテ盡サレタノデアリマスガ、之ヲ包括的ニ要點ヲ述ベタイト存ズルノデアリマス、第一ニ是ハ人道上ノ見地カラ見ラレタ觀察ト、第二ニハ風紀上ノ見地カラ、此三點ニ要約スルコトガ出來ルト信ズルノデアリマス、此三點ニ付テ簡明ニ論旨ヲ述ベテ見タイト思フノデアリマス、第一人道上ノ問題カラ、卽チ人權問題トシテ、或ハ國家ガ此公娼ヲ認ムルト云フコトガ甚ダ宜シクナイト云フコトヲ論ゼラレタノデアリマス、之ニ對シテ政府委員ハ、公認ト云フコトハ道德上ノ觀念カラ言ウテモ餘リ芳バシイ事デハナイノデアル、若モ是ガ健康保險ノ上ニ何等ノ支障ヲ來サナイ以上ハ、政府ト

雖モ直ニ是ハ廢メタイノデアル、併ナガラ奈何セン現在ノ我國ノ實狀ヲ見ルトキハ、却テ之ヲ廢止スルト云フコトニ依テ、害毒ガ彌漫スル虞ガアルト云フコトヲ强ク危惧スルノデアルト云フノデアリマス、人權問題ト致シマシテモ既ニ法規ニ於テ出來ル限リノ自由ト、出來ル限リノ保護トヲ與ヘテ居ル、決シテ人身賣買或ハ奴隷制度ノ如キモノデハナイノデアッテ、却テ私娼窟ト云フ風ナモノガ出來マスルト、當局ノ監督ハ其點ニハ及バナイト云フ虞ガアルノデアリマス、ソレデアリマスカラ、御互ニ各人ガ自省シテ性ノ抑制ヲ爲シテ、立派ナル人ガ出來テ、茲ニ私娼ノ橫行スルト云フガ如キ事モ無クスレバ、此公娼ト云フガ如キモノハ當然滅スベキモノデアッテ、卽チ私娼窟ト云フ風ナモノスベキモノデアルノデアルト云フ質疑應答ガ交換セラレマシタ、第二ノ風紀上ノ見地カラ質疑應答ガアッタノデアリマス、公娼ヲ認メルト云フコトハ卽チ賣淫行爲ヲ認メル、賣ルト云フコトヲ認メル以上ハ、之ヲ買フト云フコトモ國家ガ認許シテ居ルノデアル、斯ル觀念ハ甚ダ德義ノ上カラ見テモ面白クナイ、又一般ノ貞操觀念ノ上カラ言ッテモ甚ダ是ハ面白クナクシテ、善良ナル風俗ニ反スルト云フノデアリマス、之ニ對スル議論ハ直ニ此公娼ヲ廢止スルトシタナラバ、茲ニ私娼ハ立ロニ橫行シテ、サウシテ却テ社會ノ善良ナル風敎ヲ紊スト云フ虞ガアルノデアル、之ニ依テ花柳病ト云フコトヲ見テモ明デアルト云フガ如キハ不可能デアルト云フコトニ在ルノデアリマスルト考慮ヲ拂ハズシテ、直ニ廢止スルト云フコトハ、花柳病ノ傳播ニ關スル問題デアリマス、第三ニ論ゼラレタノハ衞生上ノ見地カラデアリマス、花柳病ノ傳播ガ益甚シイト云フノガ、此案ニ贊成論者ノ意見デアリマス、又反對論者ハ公娼ノ設置シタガ爲ニ花柳病ノ傳播ガ益甚シイト云フノデアリマス、之ニ對シテハ却テ花柳病ヲ傳播セシメナイト云フ議論デアリマス、之ニ就テハ雙方共統計ニ依テ論ゼラレタノデアリマス、殊ニ日本デ唯一ノ廢娼縣デアリマスル群馬縣ノ例ハ、雙方カラ是ガ引用セラレタノデアリマス、其統計ノ主タルモノヲ御紹介申上ゲマスレバ、大正十年度ニ於テ、全國ノ壯丁ノ檢査ニ於テ、千人ノ中ニ全國平均一八・七二人デアリマス、所ガ其

年ニ群馬縣ハ一一・一三人デアルノデアリマス、ソレカラ大正十一年度ニハ一七・四七人ノ平均數ニ對シテ、群馬縣ニ於テハ一〇・六七人デアルノデアリマス、ソレカラ大正十二年度ニハ平均數ハ一五・二三人デアリマス、群馬縣ニ於テハ、一八・〇六人デアルノデアリマス、大正十二年度ニ於テハ群馬縣ハ非常ナ增加ニナッテ居リマス、尙ホ準廢娼縣トシテ和歌山縣ヲモ引證サレタノデアリマス、斯クテ質疑應答ヲ終リマシテ討論ニ入ル譯デアリマスガ、委員ノ中カラ直ニ討論終結ノ動議ガアリマシタカラ、採決致シマシテ、遂ニ決議ニ入ッテ本案ハ少數ヲ以テ否決サレタノデアリマス、之ヲ以テ報告ト致シマス

右ニ關シ古川淸君ハ政府ニ對シ質疑ヲ爲シ片岡政府委員及三井政府委員之ニ應答ス

古川淸君ノ質疑

本案ハ國民道德ノ上カラ申シマシテ重大ナ問題デアリマスガ、隨テ國民健康ノ上カラ、卽チ衞生上カラ考ヘマシテモ亦重大ナ問題デアリマスカラ、此際內務當局及陸海軍當局ノ所見ヲ御伺シタイト思ヒマス

片岡政府委員ノ應答

只今ノ御質疑ニ御答ヲ致シマス、公娼制限ノ問題ハ人道上カラ之ヲ論ジマスレバ、公娼ノ如キ者ハ餘リ芳シキ事柄デハナイト思ヒマス、併ナガラ此公娼ナル者ノ沿革ヲ考ヘマスレバ、中ニ經歷ヲ有シ、中途ニ於テ廢止致シマシタ經驗モアルノデアリマス、廢止シテ見タ所ガ非常ナ私娼トモ申スベキ者ガ蔓ッテ、保健衞生ノ上ニ甚シキ惡影響ヲ促ス所ヨリシテ、又之ヲ公認スルコトニナッテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ次第ノモノデゴザイマシテ、之ヲ廢スルト云フコトガ國民一般ノ自覺上ヨリシテ、保健衞生上顧慮スル所ノモノガ甚ダ少イト云フトキニ至ルコトヲ希望スル譯デアリマス、固ヨリ斯ノ如キコトハ世界ヲ通ジテサウ誇リトスルモノデハナイノデ、併ナガラ他ノ文明國ニ於テ絕無カト云ヘバサウデハナイ、先日當席ニ於テ述ベマシタ如ク、巴里ニ於テモアルノデアル、伯林ニ於テモアルノデアル、又之ヲ風敎ノ上カラ論ジマスレバ、風敎ノ上カラモ餘リ嘉スベキ問題デハゴザイマセヌ、サリナガラ是等ハ風敎ヲ害セヌヤウニ取締ヲ付ケテ居リマス、事柄ハ諸君ノ能ク御承知ノ通リ、從前ハ店先ヲ飾ッテ多ク客ヲ引タモノデアリマスガ、左樣ナ行動ハ今ハ禁止シテ居ル、又公娼ヲ認メテ貰ハウト云フコトニ對シテハ、其人ノ境遇ヲ能ク調査シ、眞ニ已ムル得ザル者ヲ許シテ居ッテ、決シテ自由ヲ妨害シ、人權ヲ侵害スルト云フガ如キコトハ致シテ居ラヌノデアリマス、故ニ純理論カラ言ヘバ相當理窟ハ立ツト思ヒマスガ、實際上ノ上カラ申シマスレバ、風敎ヲ害スルコト獨リ公娼ノミナランヤデアリマシテ、是ハ檢擧致シマシタ約半數ニ當ッテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ狀態ノ下ニ今直ニ之ヲ廢スルト云フガ如キコトハ寧ロ害ガ多クシテ、理窟ニハ適フカモ知レマセヌガ實際上當局トシテハ同意シ難イノデアル、是デ大要盡シタト思ヒマス

三井政府委員ノ應答

陸軍當局ノ意見ト致シマシテハ、只今內務次官ノ御答辯ニナリマシタ趣旨ト同樣デゴザイマス、陸軍ト致シマシテハ此性病ノ傳播ハ非常ニ軍隊ノ戰鬪力ニ影響ヲ致シマス、成ベク此影響ヲ受ケナイヤウニ各自ノ自覺ヲ喚起スルコトニ努力致シテ居ル次第デアリマス、併シ御承知ノ如ク兵營附近ノ有樣ハ洵ニ吾ミノ希望ニ反スル狀況ヲ呈シマス、故ニ軍隊ノ衞生ノ見地カラシテ、只今片岡內務次官ノ御述ベニナッタ趣旨ニ同意スル次第デアリマス

討論ニ入リ松山常次郎君ハ委員會報告ニ反對中原德太郎君ハ贊成ノ演說ヲ爲ス

松山常次郎君ノ反對演說

只今委員長ノ報告ヲ承リマシタガ、委員長ハ此問題ニ付テ、委員會ニ於テ三時間質問應答ヲ致シ

タト云フコトヲ述ベテ居ラレマシタガ、實際ハモウ少シ詳細ニ申上ゲマスレバ二時間ト三十五分質問ヲ致シタノデアリマス、私ハ之ニ就テ初ニ特ニ質問ヲ許シテ貰ヒタイト云フコトノ許可ヲ仰イダノデアリマス、委員會ノ承認ヲ得マシテ私ハ最後ニ質問ヲ致スコトニシテ居タンデアリマス、然ルニ忽チニシテ質問打切ノ動議ガ出マシテ、多數ニ依ッテソレガ決セラレ、直ニ討論終結ノ動議ガ出マシテ、直ニ又採決ノ動議ガ出タノデアリマス、委員長モ此不穩ナル行動ニハ少シク意外ヲ感ジラレタヤウデ、一旦休憩ノ宣告ヲ致シタノデアリマス、然ルニ土屋興君ノ逆捻ヲ喰ッテ遂ニソレニ引摺ラレテ、直ニ此法案ヲ否決シ去ッタノデアリマス、斯ウ云フ事情デ、私ハ只今委員長ノ報告ニ向ッテ反對演說ノ通告ヲ致シテ置イタ次第デアリマス、元來此委員會ハ其組織ノ初ニ於テ缺陷ガアルノデアリマス、此法律案ニ贊成者ハ政友會カラ十一名、本黨カラ十一名、憲政會カラ二十四名、革新俱樂部カラ八名、中正俱樂部カラ二名、實業同志會カラ三名、合計五十九名ト云フコトニナッテ居リマス、サウシテ是ハ自由問題トシテ取扱ハレルト云フコトニ一般ニ承認ヲ得テ居ッタノデアリマス、然ルニ愈此委員ガ選定セラレルヤウニナッテ、政友會カラハ二名ノ中二人ハ贊成、二人ハ反對、憲政會デハ四人ノ中二人ハ贊成、二人ハ反對、是ハ自由問題ノ性質ト致シマシテハ當然ノ事ダト思ヒマス、然ルニ政友本黨カラハ二人共反對ノ人ガ出テ來タノデアリマス、而モ其一人ハ品川ヲ選擧區トスル箇井民次郎君ガ最モ有力ナル反對デアリマス、選擧區ノ關係上反對セザルヲ得ザル位置ニ居ル人デアリマス、是ハ自由問題トシテノ性質ヲ無視スルモノデアルト考ヘマシタルガ故ニ、私ハ二十六日ノ朝政友本黨ノ總裁床次君ヲ御訪問致シタノデアリマス、サウシテドウカ自由問題トシテ一人ハ贊成、一人ハ反對ト云フコトニシテ委員ヲ出シテ貰ヒタイト云フコトヲ御願致シタノデアリマス、床次サンハ同意ヲ致シマシテ、是ハ自由問題ト爲スベキ性質ノモノデアル、故ニ松田源治君ニ其事ヲ話ヨシテ置ケ、自分モ話ヲシテ置クカラト云フ御話デアタノデアリマス、私ハ同ジ贊成者ノ一人デアル牧野良三君ニ向ッテ電話ヲ掛ケタ所ガ、大阪ニ向テ居ルト云フノデコンナニ早ク之ガ決ッテシマウト思ヒマセヌカラ、長文ノ電報ヲ打ッテ委員ニナッテ貰ヒタイト云フコトヲ願ッタノデアリマス、牧野君カラ返事ガ參リマシテ、高見君ニ相談ヲシテ呉レ、自分ハナレナイカラト云フコトデアッタノデ同委員會ニナリマシテ、直ニ其一回ノ委員會ノ人間デアル所ノ松山ガ一人提案者トナッテ居ルト云フコトニ付テ少シク申上ゲナケレバナリマセヌ、是ハ自由問題デアリマスルガ故ニ、各黨派ノ人ヲ網羅シテ提案者ニナルト云フコトガ當然デアリマス、所ガデス、此問題ニハ危險ガ伴フノデアリマス、身邊ニ危險ガ伴フノデアリマス、斯ウ云フ譯デ私一人ガ提案者ニナリマシテ、實ハ是ガ上程ニナル數日前ヨリ宅ヘハ歸ラヌノデアリマス、自分ノ身體ヲ保護致シテ居ルノデアリマス、此問題ハ解決シテシマヘバ、ドウ云フ事ガアッテモ宜シイガ、此問題ノ解決スルマデハ、身ニ危險ヲ受ケテハ困リマスルカラ私ハ歸ラヌノデアリマス、サウ云フヤウナ理由デ私一人提案者トナッタト云フコトヲ御了承ヲ願ヒタイノデアリマス、ソレカラ元來此問題ヲ初メ私ガ提ゲテ立ツコトニナリマシタ動機ヲ申上ゲマスレバ、過ル第四十七議會ニ於テ、此問題ガ院内ニ於テ非常ナ人氣ニナッテ——問題ニナッタ時ニハ是ハ私ガ主唱者デハナカッタ、多クノ人ガ此問題ニ付テ熱心ニナッテ、皆ノ相談ノ結果松山ニ之ヲヤラセロト言ウテ私ニ持ッテ來タ、私ハ其時元來是ニ贊成デアリマスカラ、之ヲ提ゲテ起ッタ譯デアリマス、所ガ此前ノ選擧ノ時ニ贊成者ガ非常ニ壓迫ヲ受ケタノデアリマス、殆ンド氣ノ毒ナ地位ニ立ッタ人モアルノデアリマス、所ガ私ハ幸ナコトニハ前ノ選擧區デアル兵庫縣ノ第十二區、今度ノ選擧區デアル和歌山縣ノ第三區ニハ共ニ遊廓ガ無イノデアリマス、是ガ此問題ヲ私ニヤラセロト云フコトヲ決メタ主ナ理由デアリマス、私モ其意味ニ於テ之ヲ引受ケタ譯デアリマス、他ノ人ハ選擧區ノ關係上已ムヲ得ズ、再ビ立ツコトガ出來ナイヤウニナッテモ之ヲ一旦引受ケタ以上ハ自分ノ使命ト致シマシテ、他ノ人ト一緒ニヘコタレルト云フコトハ出來ナイコトデアリマス、此意味ニ於キマシテ私ハ本案ヲ提ゲテ本期議會ニ於テ自分デ決心シテ立ッタ譯デアリマス、幸ニシテ先ニ申シマスル通リニ五十九名ノ贊成者ヲ得テ、是ガ此議會ノ問題トナッタ次第デアリマス、斯ウ云フヤウナ理由ニ依リマシテ、元來此問題ハ

自由問題トシテ取扱ハルベキ性質ヲ十分ニ備ヘテ居ルモノデアルト私ハ信ズルノデアリマス、是ヨリ委員會ニ於ケル質問應答及此所ニ於テ政府委員ノ御述ベニナッタ事ニ準據致シマシテ、私ノ論旨ヲ進メタイト考ヘマス、只今此所デモ片岡政務次官ガ御述ベニナリマシタガ、公娼制度ハ徳川時代ヨリ何百年來アルモノデアルカラ、今更之ヲドウシナケレバナラヌト云フヤウナ譯ノモノデハナイ、又ドウセ提案者ハ之ニ付テ事實上奴隷制度ニ於テ云々ノコトガアルケレドモ、事實ハ今日自由ヲ與ヘテ居ル、決シテ奴隷制度ト云フヤウナ狀態ニ在ルモノデハナイ、斯ウ云フ事ヲ片岡政務次官ハ御述ベニナッテ居ルノデアリマス、今日ノ遊廓ハ徳川時代ノ遊廓トハ性質ガ違ヒマス、徳川時代ニ於キマシテハ所謂花魁ナル者ニハ相當ナ見識ガ與ヘラレテ居ッタ、自分ガ厭ナ男ハ寄付ケナイダケノ自由ガ與ヘラレテ居ッテ、相當ノ教養アル者ガアッタノデアリマス、其當時ニ於ケル社會文化ノ一面ガ此所ニ代表セラレテ居ッテ、今日ノヤウニ新聞トカ雜誌トカ、倶樂部トカト云フヤウナ互ニ知見ヲ廣メル機關ガナイ、其當時ニ於キマシテ社會ノ實際ヲ擧ゲ一ノ機關トシテ是ガ利用セラレテ居ッタノデアリマス、然ルニ今日ニ於ケル遊廓ナルモノハ全ク賣淫專門ノ魔窟ト變化致シテ居ルノデアリマス、徳川時代ノ文學、或ハ劇等ヲ見マスルト、此ノ身賣ヲスルト云フコトヲ極メテ手輕ニ取扱ッテ居リマス、自分ノ親ノ爲メ、或ハ愛人ノ爲ニ一時辛イ務メニ服スルト云フコトガ書イテアルノデアリマス、遊廓ニ身ヲ墮スコトヲ非常ナ恐ルベキ所ノ事トシテ、一旦身ヲ沈メレバ再ビ滿足ナ身體デ出テ來ラレナイ危險ナ所デアルトハ書イテ居ラナイノデアリマス、ソレモ其筈デアル、徳川時代ニ於キマシテハ娼妓ニナル者ハ二十六歳マデハ何ニ借金ガ殘ッテ居ッテモ身ハ自由ニ放任サレテ居ルノデアリマス、サウ云フ危險ナ所デハナッカタ、是ガ今日ニ於キマシテハ身賣ト云フ言葉ヲ避ケルガ爲ニ、唯通例上ノ民法上ノ解釋ノ貸借關係ニナッテ居ル故ニ、貸借關係ガ決濟致サナイ間ハ二十六歳ニナッテモ三十六歳ニナッテモ身ハ自由ニナルコトガ出來ナイノデアリマス、一旦此所ニ身ヲ墮シマスト云フト、其所カラ容易ニ離レルコトガ出來ナイノデアリマス、實際ニ於テ此遊廓内ニ於ケル勘定ハ前借金ト云フモノハドウシテモ返スコトガ出來ナイヤウニナッテ居ル、故ニ樓主ニ於テ其人間ヲ必要トシナイ時ニ至ルマデハドウシテモ其所ヲ出ルコトガ出來ナイノデアリマス、身體ガ老衰シテシマッテ或ハ病氣ニナッテ働クコトガ出來ナクナルト云フコトノ外ハ解放セラレナイノデアリマス、是ハ事實デアリマス、其他ノ場合ニ於キマシテハ身受ヲセラレルカ、或ハ心中ヲシテ死ヌカヨリ此苦境ヲ脫スルコトガ出來ナイ、今日段々社會ノ秩序ガ整ウテ參リマシテ、一旦斯ウ云フ所ニ這ッタ者ハ人ノ妻トナリ、或ハ母トナッテ一般人ト伍シテ行クト云フコトガ滊ニ身受ヲセラレルト云フ機會モ少クナッタノデアリマス、サウスルト此苦界ヲ遁レルニハ唯心中ニアルノミ、是ガ今日遊廓ニ於テ心中沙汰ノ多イ理由デアリマス、斯ウ云フヤウナ譯デ昔ハ身賣リト云ウテ、是ハ一種ノ奴隷生活デアル、今日ハ唯金錢上ノ貸借デアルト云フノデ、決シテサウ云フ奴隷生活デハナイト申シマスケレドモ、其實際ノ內容カラ申シマスナラバ昔ノ此身賣時代ヨリモ、遙ニ殘酷ナ實際ノ制度ニナッテ居ルノデアリマス、斯ウ云フヤウナ事實ニ基キマシテ私ハ事實上ノ奴隷制度ト云フコトヲ書イタノデアリマス、此事ニ付キマシテハ中原君カラモ反駁ヲ受ケマシタケレドモ、私ハ受ケマシタ、又片岡政務次官カラモ反駁ヲ受ケマシタケレドモ、私ハ今日ト雖モ今デモ其理由ヲ改メル必要ヲ認メナイノデアリマス、片岡政務次官ハ今日ノ娼妓ニハ自由ヲ與ヘテアル、自由廢業ノ途モ開イテアルト云フコトヲ申シテ居ラレマスガ、此自由廢業ノ內容ニ付テ少シク實際ノ狀況ヲ御話申上ゲナケレバナリマセヌ、本當ニ政府ガ此娼妓ニ對シテ自由廢業ヲサセルト云フ親切ナル心ガアルナラバ、手紙デモ或ハ他人ノ申告デモ、自由廢業ヲシタイト云フ意思ガ警察ニ届クトシテ行ク道マデモ世話ヲシテヤルト云フ事マデ手ガ行届イテコソ、初メテ自由廢業ノ此精神ガ徹底スルノデアリマス、然ルニ今日ノ實際ニ於キマシテハ、本人ガ警察ニ自分デ届出ナケレバナラヌ、サウシテ樓主ト親トガ立會ノ上デ皆ガ自由廢業ヲスルコトヲ承認スルト云フコトニナッテ居ルノデアル、元來此親ハ娘ヲ賣ッテ金ヲ握ッタ所ノ親デアル、此樓主ハ其者ヲ虐使シテ金儲ヲシヤウト云フ所ノ樓主デアリマス、而モ現在大金ヲ之ニ貸シテ居ル所ノ債權者デアル、一方ハ弱イ娘デアリマシテ、是等ノ親或ハ樓主ノ前ニ於テ自己ノ要求モ權利モ主張スルコトノ出來ナイ所

ノ弱者デアリマス、斯ウ云フ人ヲ寄セテ玆ニ自由廢業ノ事ヲ相談シテ、ドウシテ此娼妓ノ爲ニ有利ナ解決ヲ望ムコトガ出來マセウカ、斯ウ云フヤウナ譯デ自由廢業ト云フノハ中々實現スルコトガ出來ナイノデアリマス、委員會ニ於ケル質問應答ヲ聽イテ居リマスルト時ニ、ドナタモ異口同音ニ此制度ハ宜シクナイ、廢シ得ルナラバ廢シタイト云フコトヲ言ウテ居リマス、併ナガラ實際其說明ヲ段々聽イテ居リマスト本當ニ之ヲ廢サウト云フ誠意ガアルナラバ、實際研究シテ見テ廢スナラバ斯ウ云フ困ル事ガアル、然ラバドウシタラ之ヲ解決スルコトガ出來ルカト云フコトノ努力ガ之ニ伴ハナケレバナラヌ筈デアリマス殆ド研究シテ參リマセヌ、何モ知ラナイト言ウテ宜シイ實情デアリマス、今日警察官吏ニ於テ此娼妓ニ對スル本當ニ親切ナ心ガアルナラバ、法律上今日認メラレテ居リマス所ノ此自由廢業及娼妓取締規則ノ勵行ト云フ事ヲヤリマスルナラバ、今日ノ遊廓ハ皆潰レテシマヒマス、中原君ハ斯ウ云フ問題ハ法律ヲ以テ之ヲ解決スルト云フコトヲ申シテ居ルノデアリマスガ、之ニ付キマシテハ私ハ此教育ノ問題ガ非常ニ大切ナ問題トナッテ來ルト思フ、今日國民教育ガ段々進歩シテ來タト云フコトハ、此遊廓ニ對スル非常ナ脅威トナッテ居リマス、少シク教育ヲ受ケテ世間ノ事ノ分ッタ者ハ今日娼妓ニナルト云フヤウナコトヲ欲スル者ハ殆ドナイ、女工ニナッテモ良イモノハ月百圓ヤソコラノ收入ガアル、ソレガ娼妓ニナルト云フヤウナ者ガ段々減ッテ來ル譯デアリマス、斯ウ云フヤウナ譯デ遊廓ト云フモノハ新シイ分子ヲ供給スルコトニ非常ニ苦心ヲ致シテ居ル、ソレガ爲ニハ誘拐モ行ハレル、脅迫モ行ハレル、强制モ行ハレル、今日統計ヲ見マシテモ此娼妓ト云フモノハ藝妓或ハ酌婦ニ壓倒セラレツヽアルコトガ明ニ分ッテ居リマス、是ハ國民教育ガ進歩シ、段々教育熱ノ盛ニナッテ來ル今日ト致シマシテ、將來ハ拋ッテ置イテモ是ハ倒レルモノデアル、殊ニ義務教育ヲ八年ニスル、二箇年延長ノ問題ガ何レ近キ將來ニ於テ解決スルコトデアリマセウガ、斯ウ云フコトガ實現セラレルコトニナレバ、愈此遊廓ト云フモノハ脅威ヲ受ケルモノデアルト云フコトヲ私ハ信ズルノデアリマス、今日ノ遊廓ハ全ク此若イ娘ノ無自覺無智ト云フモノヽ、基礎ノ上ニ立ッテ、漸ク其命運ヲ保ッテ居ルト云フ實狀デアリマスルト思フノデアリマス、之ニ國民教育ヲ十分ニ施ス以上ハ、ドウシテモ此國民教育ヲ受ケル途中ニ於テ、若イ娘ニ自分ノ身體ヲ保護スルダケノコトヲ教ヘナケレバナラヌ、自分ノ權利トシテ決シテ他ノ者ノ誘惑ニ依ッテ、或ハ因緣ニ絡ダ所ノ話ニ依テ、斯ウ云フ娼妓ニナルト云フヤウナコトハ、此絶娼論ト私共ノ唱ヘテ居ル廢娼論トヲゴチャ〳〵ニシテ居ル人ガアル、只今ノ片岡政務次官ノ御議論モ確ニ之ヲマゼコゼニシテ居ラレルノデアリマス、是デハ洵ニ吾々ハ困ル、此事ニ付テハ十分諸君ノ御諒解ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、私共ハ廢娼論ヲ唱ヘテ居ルノデハナイ、能ク需要供給ノ關係、經濟界ニ於ケル需要供給ノ關係ヲ以テ此問題ヲ說去ラウトスル人ガアリマス、需要ガアルカラ供給ガアルノダカラ仕方ガナイデヤナイカ、吾々ノ主張スル所デハ縱令如何ニ國民ガ一方カラ需要ガアッテモ、ソレガ爲ニ特殊ノ犧牲階級ヲ拵ヘルト云フコトハ宜シクナイ、而モソレヲ國家ガ公許シテサウ云フ制度ニ依テサウ云フ犧牲階級ヲ拵ヘルト云フコトハ宜シクナイト言フノデアリマス、或人ハ斯ウ云フコトヲ申シマス、今日ノ藝妓ハ「プルジョア」階級ノ相手ニスルモノデアル、娼妓ハ勞働階級ノ相手ニスルモノデアル、其藝妓ヲ其儘ニシテ置イテ、娼妓ダケヲ廢止シテシマハフト云フコトハ片手落デアル、斯ウ言フノデアリマス、今日ノ藝者ト雖モ是ハ性慾關係ノ對象トシテハ國家ガ之ヲ承認シテ居ルノデハナイ、縱令娼妓ヲ廢止シマシテモ今日アル所ノ私娼ト云フモノハ殘リマス、其私娼ハ勞働階級ノ相手ニナルノデアリマス、私娼ニナルト娼妓ニ對スルヤウニ手輕ニ簡單ニ用ヲ足スコトガ出來ナイト云フコトヲ言フ

人ガアル、併シ其種ノコトハ手輕ニ簡單ニ其用ヲ足サナイ方ガ宜シイ、少シ手間取レル方ガ宜シイノデアリマス、元來少シノ金ヲ以テ極メテ手輕ニ其目的ヲ達シ得ルト云フコトハ、男子トシテハ、好都合デアルカモ知レナイ、併シソレハ女子トシテハ都合ノ惡イコトデアル、卽チ今日ノ公娼制度ト云フモノハ之ヲ露骨ニ言フナラバ、女子ヲ縛ッテ置イテ之ヲ强姦サセル制度デアル、茲ニ人道上怨スベカラザルモノガアルノデアリマス、公娼ガ廢止セラレテ私娼ガ殘ル、吾ミハ此私娼ノ問題ヲ今論議シヤウト致シテ居ルノデハアリマセヌ、是ハ只今ハ問題外ナノデアリマス、吾吾ノ言フノデアリマス、國家ガ公許シテ、制度ヲ以テ斯ノ如キ事ヲヤラセルト云フコトハ宜シクナイト共ノ唱ヘテ居リマスル所ノ此廢娼論ハ正當ナラザル性慾關係ヲ認メルカ認メナイカト云フ問題デハナイ、ソレヲ實現スル所ノ手段方法ヲ如何ニスルカ、卽チ之ヲ國家ガ公認スルト云フコトハ宜シクナイ、非公認的ニヤラセヨト云フノデアリマス、此關係ヲ十分ニ御諒解ヲ願ヒタイノデアリマスル、私ガ此問題ヲ論ジテ居リマス時ニ、或ル友人カラ斯ウ云フ議論ヲ持ッテ來タ、娼妓ダケヲ廢メタッテ君駄目ダ、藝者モ私娼モ皆之ヲ廢メテシマハナケレバ徹底シナイデヤナイカ、斯ウ云フ議論ヲ吐イテ來ル人ガアルノデアリマス、一切ノ淫賣行爲ガ此社會カラ絕滅セラルヽコトハ、是ハ人類社會ノ「ユートピヤ」トシテ、サウ云フ事ガ來ルトスレバ私ハ之ヲ讃美シタイト思ヒマス、併ナガラ之ヲ實際問題トシテ――實際ノ政治問題トシテ此議會ニ於テ論議シヤウトハ私ハ考ヘテ居ラナイノデアリマス、サウカト申シマシテ憲政會ノ中原君ノ御主張ナサルヤウナ、私娼モ公娼モ同ジコトダ、賣淫ヲ爲スト云フコトニ於テ社會ノ落伍者デアッテ、虐ゲラレタル階級デアルト云フコトニ於テハ同ジコトデアル、サウ云フコトハ放任シテ置イテ宜シイト云フ此議論ニ加擔スルコトモ私ハ出來ナイノデアリマス、已ムヲ得ズシテ斯ノ如キ虐ゲラレタル階級ガ出來ルト云フコトハ是ハ致方ガナイ、併シ國家ガ公許シテ國家ノ許シタル制度ニ於テ斯ノ如キ犧牲階級ヲ作ルト云フコトニハ、斷然反對セザルヲ得ナイノデアリマス、孟子ヲ讀ミマスルト斯ウ云フコトガ書イテアリマスル、齊ノ宣王ガ孟子ト對話ヲシタ事ガ載ッテ居ルノデアリマス、宣

王ガ曰ク、昔周ノ文王ハ方七十里四方ノ狩場ヲ有ッテ居ッタ――狩場ト云フノハ其當時ニ於ケル軍隊ノ演習地デアリマス――然ルニ人民ハ別ニ之ヲ廣過ギルト言ッテ、零サナカッタト云フコトデアルガ、自分ハ此齊ノ國ニ於テ方四十里、卽チ方七十里カラ云ヘバ三分ノ一以下デアル、其狩場ヲ有ッテ居ルニ拘ラズ、人民ガ之ヲ廣過ギテ困ルト言ッテ零ストト云フコトヲ聞イテ居ルガ、是ハドウ云フ譯デアラウカト、孟子ガ之ニ答ヘテ曰ク、文王ノ時ニハ草ヲ刈ル者モ、薪ヲ取ル者モ、自由ニ其狩場ニ入ルコトガ出來タ、或ハ雉子ヲ獲リ、兎ヲ捕フル者モ自由ニ其狩場ニ入ルコトガ出來タ、サウデアルカラ人民ハ方七十里アッテモ別ニ之ヲ不便トハ致サナカッタノデアル、私ハ齊ノ國境ニ入ッテ人民カラ聞ク所ニ依レバ、此國ニ於テハ王ノ狩場ニ於テ鹿ヲ捕フル者モ、殺人罪ト同罪ヲ以テ處分セラルヽト云フコトデアル、是デハ方四十里ノ陷穽ヲ齊ノ國ニ掊ヘテ置クト同ジデアル、故ニ人民ガ方四十里ノ狩場ヲ廣過ギルト言ッテ零スノハ當然デハアリマセヌカ、斯ウ云フ答ヲ孟子ガ致シタト云フコトガ書イテアリマシタ、我國ノ三百箇所ノ遊廓、一萬軒ノ貸座敷ガアルト云フコトハ、日本ノ國中ニ婦女子ノ爲ニ三百箇所、一萬箇ノ陷穽ヲ掊ヘテ居ルト同ジコトダト、私ハ考ヘルノデアリマス、委員會ニ於キマシテ、中原德太郎君ヨリ私ニ二ツノ質問ガ出マシタ、ソレハ公娼制度ヲ廢止スレバ花柳病ガ減ズルト云フガ、其理由ハ如何、私娼ガ減少スルト云フガ其理由ハ如何、此二ツノ問題デアッタノデアリマス、此花柳病ノ事ニ付キマシテ私ハソレニ對シテ答ヘタ、ソレハ先程委員長ノ御報告ニナッタ計數デアリマス、卽チ我國ニ於ケル唯一ノ廢娼縣デアル群馬縣ニ於テハ、年々ノ壯丁檢査ノ結果、今日我國ニ於ケル花柳病ノ狀態ヲ調ベルノニ、本當ニ最モ正確ナモノハ此壯丁檢査ヨリ外ハナイ、是ハ同ジ年齡ノ者ヲ、同ジ時ニ同ジ標準デ之ヲ調ベルノデアリマスカラ、是ガ一番確デアル、ソレデハ十分ニ分ラナイト言フ人ガアルカモ知レヌガ、實際トシテハ是ヨリ仕方ガナイ、故ニ吾ミハ此壯丁檢査ニ依テ之ヲ尺度トシテ量リタイト思フノデアリマスルガ、其壯丁檢査ノ結果ハ群馬縣ハ年々成績ガ宜シイ、唯大正十二年ダケガイケナカッタ、是ハ委員長ノ報告セラル、通リデアリマス、所ガ更ニ此十二年ノ事ヲ內容ヲ詳シク調査ヲ致シマスルト、驚クベキ結果ガ現ハレテ居ル、卽チ群馬縣ニ於ケル此

縣外寄留者、群馬縣カラ縣外ヘ寄留シテ居ル者、ソレハ多ク東京、横濱地方ニ丁稚奉公ニ行ク者デアリマス、ソレガ歸ッテ徵兵檢査ヲ受ケタ者ニ非常ニ花柳病患者ガ多カッタノデアリマス、ソレハ此所ニ明ナ詳シイ數字モ出テ居リマスガ、唯其千分ノ比ダケヲ申シマスガ、千八ニ對シテ百七十四人ト二三ト云フモノニナッテ居ルノデアリマス、是アルガ爲ニ群馬縣ノ大正十二年ノ統計ガ非常ニ惡クナッタ、群馬縣内ニ居ル者ダケカラ申シマスト、ソレハ矢張一〇‰一ト云フ非常ナ好イ數字ヲ示シテ居ルノデアリマス、尚ホ他ニ之ヲ立證スベキ多クノ統計ガアリマスガ、ソレハ此所デ申シマセヌ、斯ウ云フヤウナ譯デ我國ノ群馬縣ニ於ケル此花柳病ノ狀態ハ甚ダ宜シイ、群馬縣ハ他府縣カラ入ッテ來ル者デ病毒ヲ貰ッテ居ル者ガアリマスルガ爲ニ、相當ニ其成績ハ汚サレテ居リマスケレドモ、若シ全國的ニ公娼ヲ廢止スルナラバ、花柳病ノ狀態ハ一層良クナルモノト私ハ信ズルト答ヘテ置イタノデアリマス、先程モ御述ベニナリマシタガ、片岡政務次官ニ、若シ公娼ヲ廢止スルナラバ花柳病ガ非常ニ殖エルト云フ、其論據ハ何ダト申シマスルト、只今モソレハ御述ベニナリマシタガ、大正十二年ニ於テ私娼ノ檢徵ヲヤッタ所ガ、半數ニ近イ花柳病ノ患者ガ居ッタ、故ニ私娼ハ花柳病ニ付テハ非常ニ危險デアルト斯ウ斷定セラレタノデアリマス、是ハ片岡政務次官ハ實業家ノ出身デアラセラレルニモ拘ラズ、實ニ此數字ノ取扱ノ疎漏ナコトニ私共ハ驚クノデアリマス、若シ之ヲ比較シヤウト思フナラバ、私娼ヲ檢査シタ所ガ斯ウデアッタ、公娼ヲ檢査シタ所ガ斯ウデアッタ、故ニ私娼ノ方ガ宜シイト云フナラバ此數字ノ取扱ガ纏マル、唯私娼ノ方ダケノ數字ヲ擧ゲテアル、是ダカラ私娼ノ統計ガ宜クナイ、ソレダカラ花柳病ノ傳染率ガ多カラウ、隨分委員會ニ於キマシテモ多ク述ベラレタ、此所ニ於テモ述ベラレタ、片岡政務次官ガ公娼ヲ廢止スレバ花柳病ノ傳播ガ多クナルト云フ其論據ハ今申シマシタ通リノ譯デアリマス、是ハ委員會ノ速記錄ヲ御覽ニナレバ能ク分リマス、今ソレダケノコトヲ根據ニ致シマシテ、アトハ皆斷定デアリマス、是デハ洵ニ私ハ無責任ナ、數字ノ御取扱ヲ知ラナイ方ト申シテ宜シイノデアリマス次ニ此中原君ノ御問ノモウ一ッ此私娼ノ問題デアリマス、私娼ガ公娼ヲ廢止スレバ增加シ

ナイト私ノ言ウタ理由ヲ說明シロ、斯ウ云フコトニ對シテ私ノ鄕里デアル和歌山縣ノ實例ヲ申上ゲタノデアリマス、ソレハ少シク此所ニ詳細ニ申上ゲマス、和歌山縣ニ新宮ト云フ町ガ熊野ニアリマスルガ、其新宮ニ於キマシテハ彼所ニ熊野川ト云フ川ガアル、筏流シガ澤山集マッテ來ル、賣淫ニ對スル要求ガアル、殆ド賣淫專門ノ私娼ガ彼所ニ居ルノデアリマス、是ハ御笑ニナルカ知リマセヌガ、アノ邊デ「タコ」ト言ヒマス、「タコ」ト云フ賣淫、私娼專門ガ居ッタ、ソレデ或ル人ニカラシテ新宮ニ遊廓ヲ置カウト云フ說ガ常ニアル、所ガ和歌山縣ノ輿論ハ之ヲ許サナイ、政友會ノ先輩デアル岡崎サンナドハ餘程有力ナ力ニナッテ居リマス、所ガ或ル知事ガ參リマシタ、其知事ガ實際ノ事情ガ分ラヌデ、地方ノ所謂運動屋ニ擔ガレテ、新宮ト大島、東牟婁郡ニ二ツノ遊廓ヲ許シタノデアリマス、其結果ガ非常ニ成績ガ惡イノデアリマス、遊廓ヲ置ク前ニ新宮ニハ約四十人ノ殆ド賣淫專門ノ私娼ガ居ッタノデアリマス、其外ニ藝妓ガ約五十名、仲居ガ約三十名、合セテ百二十名ノ曖昧女ガ新宮ニ居ッタ、然ルニ遊廓ヲ置イタ後ニ於テ、娼妓ノ數ガ段々殖エテ百名ニナリ百名ヲ超過シテ景氣ノ好イ時分ニハ百四十名ニモ達シタノデアリマス、今日ハ百餘名ニ減少シテ居リマス、而シテ藝妓ノ數ガ五十名デアッタノガ、ソレガ百二十五名ニ殖エ、仲居——今ハ名ガ變ッテ酌婦ト申シマスガ、ソレガ三十名デアッタノガ七十名ニ殖エタ、合計三百名ノ曖昧女ガ今日新宮ニ居リマス、總數ニ於キマシテ百二十名カラ三百名ニ殖エタ、卽チ私娼ト云フモノガ殖エタノデアリマス、斯ウ云フヤウナ譯デ、新宮ニ於キマシテハ遊廓ヲ置イタガ爲ニ私娼ノ數ガ非常ニ增加ヲ致シタノデアリマス、之ニ就キマシテ、此中原君ノ御意見デハ、若シ公娼ヲ廢止スレバ私娼ガ殖エテ跋扈シテ困ル、ソレハ自分ハ群馬縣ニ演說ニ行ッタ所ガ、群馬縣ノ或寺デ「ダルマ」ガ居ッテ、自分ガ歸ル時ニ外套ヲ著セニ來タ、是ダカラ群馬縣ハ公娼ヲ廢止シタノデ私娼ガ跋扈シテ來ル、斯ウ斷定セラレタ、是ハドウモ普通ノ人ナラバ宜シイガ、學者トシテノ中原君トシテ少シク輕卒デアラウト思ヒマス、斯ウ云フヤウニ「ダルマ」ニ遭遇シタカラ、群馬縣ハ定メシ私娼ノ跋扈ガ甚シイダラウト言フ、其事ニ付テノ著想ヲ爲サルハ

宜シイ併シ之ヲ斷定スルノハ數字上ノ色ミノ方面カラ研究ヲ爲サナケレバナラヌ、玆ニ私共ハ研究シタモノガアリマス、群馬縣ト栃木縣ト栃木縣ニ於キマシテハ娼妓ガ六百〇一人、藝妓ガ千百七十四人、酌婦ガ六百三十二人、居リマス、栃木縣ニ於キマシテハ娼妓ガ無イ、藝妓合計二千四百〇七人ト云フ曖昧女ノ數デアリマス、所ガ群馬縣ニ於キマシテハ娼妓ガ無イ、藝妓ガ千二百三十七人、酌婦ガ八百五十八人、兩方共栃木縣ヨリ多イ、併シ總數ニ於キマシテハ、娼妓ガ無イダケニ二千九十五人、總數ニ於キマシテ栃木縣ヨリモ三百十二人ダケ曖昧女ノ數ガ少イ、之ヲ千分比例ニ付テ申シマスレバ、栃木縣ハ千人ニ付テ二、二ニナッテ居ル、群馬縣ハ一、九ニナッテ居ル、是カラ申シマシテモ群馬縣ノ娼妓ガ公娼ヲ廢シタ患者ノ數ニ付テ中原君ノ御說明ニ對シテ申上ゲマスガ、大正八年カラ大正十一年ニ至ル五箇年ノ平均——曩ニ申上ゲタ壯丁檢査ノ結果花柳病ノ數、五箇年ノ平均ハ群馬縣ハ十三人ト六分、栃木縣ハ十八人ト一分ト云フコトニナッテ居リマス、是カラ申シマシテモ、群馬縣ガ公娼ヲ廢シタガ故ニ非常ニ群馬縣ニ私娼ガ跋扈シテ困ッテ居ルト云フ數字ハ出テ參リマセヌ、玆ニ同ジ縣デアル所ノ和歌山縣ニ於テ新宮ト和歌山市トヲ比較シテ考ヘテ見タイト思ヒマス、曩ニ申上ゲマシタ通リニ、新宮ニ於キマシテハ、約三百名ノ曖昧女ガ居ル、和歌山ニ於テモ藝妓ガ二百人、娼婦ガ百人、併セテ三百人、殆ド新宮ト曖昧女ノ數ガ同ジデアリマス、而シテ和歌山ノ人口ハ新宮ノ五倍デアリマス、和歌山ニ於キマシテハ先度聯隊ヲ置クトキニ陸軍ノ方デ遊廓ヲ置イテ貰ヒタイト云フコトノ要求ガアッタ、所ガ地方ノ者ガ之ニ反對ヲ致シマシテ、之ヲ置カセナカッタ、所ガ今日ニ於キマシテ、今申上ゲマシタ通リニ和歌山ノ狀態ハ甚ダ宜シイノデアリマス、中原君ガ私ノ此法律案ニ反對シテ御立チニナルト云フコトヲ聞キマシテ、私ハ一方ニ於テハ喜ビ、又一方ニ於テハ恐レタノデアリマス、何トナレバ私ハ廢娼論者デアルト中原君ノ如キ醫學博士ト云フ肩書ヲ持ッタ學者ガ向ッテ來ラレルト云フコトハ、定メシ學問上ノ私共ノ知ラナイ御研究ノ結果ヲ發表セラレルダラウ、之ヲ私ハ非常ニ樂ンデ居ッタ、又一方ニ於テ恐レタト申シマスルノハ、吾ミノ知ラナイヤウナ學問ノ根據ニ依テ突イテ來ラレルト、吾ミガ受止メルコトガ出來マセヌ、是ハ私ハ負ケルコトハ差支ガアリマセヌケレドモ、此大事ナ天下ノ問題デアル所ノ廢娼法律案ガ、ソレガ爲ニ敗レルト云フヤウナコトガアッテハ申譯ガナイト考ヘマシテ、私ハ直ニ京都ニ於ケル松浦有志太郎博士、此人ハ以前ニ京都大學ノ皮膚科長ヲシテ居ッタ人デアリマス、學問上ノ根據カラ廢娼ノ必要ナル所以ヲ大ニ說イテ居ル人デアリマス、其人ニ電報ヲ打チマシテ上京ヲ願ッタノデアリマス、又同時ニ長ク此所ニ議席ヲ有シテ居ラレマシテ、前回ノ時マデ衆議院ニ居ラレタ所ノ齋藤壽雄、此人ハ御醫者サンデアッテ、自分カラ檢徵ニ從事シテ、檢徵ノ無效ニシテ有害デアルト云フコトヲ論ジテ、廢娼論ニ加擔シテ居ラレル所ノ方デアリマス、此御兩人ノ上京ヲ請ヒマシテ、委員會ノ許可ヲ得マシテ參考人トシテ委員會ニ立會ッテ貰ヒ、以テ中原君ニ對抗スル考デアッタノデアリマスガ、然ルニ委員會ハ曩ニ申上ゲマシタヤウニ一瀉千里ノ勢デ之ヲ否決シ終ッタノデアリマシテ、私ハ洵ニ此事ヲ遺憾ニ考ヘテ居ルノデアリマス、併シ中原君ノ御議論ノ中ニハ別ニ斬新ナ事モナク、私ニ於テ答辯ノ出來ナイヤウナ新シイ學問上ノ御根據モ無カッタト云フコトヲ玆ニ申上ゲテ置クノデアリマス、ソレカラ中原君ノ御議論ニ付テ、モウ一ツ私ノ承服シ難イ點ガアル、中原君ノ御議論ハ斯ウデアル、斯ウ云フ問題ハ法律問題トシテヤカマシク言フベキ問題デハナイ、各人ノ自覺ト衞生思想ノ發達ニ依テ之ヲ解決シタイト云フ御議論デアリマス、其點ハ私共モ同ジ意見ヲ持ッテ居ラレル、所ガ其結論ガソレデアルガ故ニ、吾ミハ廢娼ヲシナケレバナラヌト言フ、中原君ハソレデアルガ故ニ、廢娼シテハイカヌト言フ、是ハ洵ニ不思議ナル結果デアリマス、私共近頃聞イテ居リマスコトニ——是ハ恐ラク諸君ガ皆御存知ノコト、思ヒマスガ、例ヘバ新橋邊ノ藝妓、是ガ近頃衞生思想ガ發達シテ、段々自覺ガ生ジテ來テ、若シ病氣デモ受ケルナラバ少々ノ金ヲ貰ッタ所ガ勘定ニ合ハヌ、ソレデアルカラ中ミ其男ヲ見ナケレバ、容易ニ寄セ附ケナイト云フコトヲ聞イテ居リマス、是ハ洵ニ中原君ノ御議論ニ接近シテ來テ居ル、是ハ洵ニ結構ナ事ト思ヒマス、所ガ是ハ藝妓デアルガ故ニソレガ出來ル、公娼デアッテハソレガ出來ナイ、公娼デアッタナラバ、檢徵ト云フ有名無實ノ事ヲヤルコトニ依

テ、ソレカラ先ハ強制セラレル、自分デ身體ヲ保護シヤウト思ッテモ保護スルコトガ出來ナイ、衞生思想ノ發達ニ依テ、防止シヤウト思ッテモ防止スルコトガ出來ナイ、此事實ヲ中原君ハ如何ニ見ラルヽノデアリマスカ、私ハ甚ダ此點ニ付テ不審ニ存ズル次第デアリマス、現在婦人「ホーム」等ニ於キマシテ遊廓カラ娼妓トシテ、自由廢業ヲシテ這入ッテ來タ者ハ身體ガ壞レテシマッテ、之ヲ正業ニ就カセヤウト思ッテモ、中々就カスコトガ出來ナイ、之ニ反シテ私娼カラ來タ者ハ比較的身體ガ壞レテ居ラナイ、是カラ申シマシテモ吾々ハ中原君ト同ジ理由ニ依テ、異ナル結論ニ到達スルノデアリマス、今度ノ委員會ニ於ケル質問應答ノ中ニ、私共ノ感謝致シマスコトハ政府委員ノ御答辯ノ中ニハ、吾々ヲシテ滿足セシムルモノガナイ、何等研究ガ出來テ居ラナイ、又之ヲ防止シヤウト云フ所ノ何等精神上ノ作用ヲ認ムルコトガ出來ナイ、殊ニ片岡政務次官ノ御議論ノ如キハ是ハ甚シイモノガアルト思フノデアリマス、茲ニ委員會——是ハモウ此所デ片岡政務次官ガ意見ヲ御述ベニナッタカラ私ハ朗讀ヲ言ッテ居ラレル、皆ノ道德心ガ發達シ、皆ガ聖人君子ノヤウニナッタナラバ廢止スルト云フ御論ヲ爲サッタ、實ニ是ハ無責任ナルコトヽ、吾々ハ信ズルノデアリマス、我ガ同胞ノ中ニ不幸ナル一ツノ階級ガアル、之ヲ救濟スルガ爲ニ如何ナル經綸ヲ持ッカト云フコトニ付テノ、何等精神上ノ作用ヲ致シテ居ラヌト云フコトヲ私共ハ認ムルノデアリマス、茲ニ國際聯盟ニ於ケル——千九百二十一年ノ「ゼネバ」ニ於ケル國際聯盟綿會ニ、婦人人身賣買ニ關スル決議ガアリマス、之ヲ茲ニ朗讀致シマス、短イカラ一寸御聽キヲ願ヒマス「本人ノ承認ヲ得タルト否トヲ問ハス他人ノ情慾ヲ滿足セシムル爲ニ醜業ノ目的ヲ以テ未成年ノ婦女ヲ誘拐シタル者ハ罰ス他人ノ情慾ヲ滿足セシムル爲醜業ノ目的ヲ以テ詐欺、暴行、强迫、權力ノ濫用、其他一切ノ强制手段ヲ以テ成年ノ婦女ヲ誘拐シタル者ハ罰ス、條約國ノ法制ガ前二條ニ定ムル犯罪ヲ防遏スルニ充分ナラサルトキハ犯罪ヲ所罰スル爲ニ必要ナル措置ヲ執リ又ハ各自ノ立法機關ニ提出スヘキコトヲ約ス」斯ウ云フコトヲ國際聯盟ニ於テ決議ヲ致シテ居ルノデアリマス、之ニ關シテ政府當局ハ何等責任ヲ感ジナイノデアリマスカ、決議ノ趣旨ニ付キマシテ何等責任ヲ御感ジニナッテ居ラナイノデアリマスカ、是ハ私共ガ不思議ニ感ズル所デアリマス、此院內ニ席ヲ有セラルヽ人デアリマシテ、相當ニ遊廓ニ利害關係ヲ有シ、微妙ナル其利害關係ヲ理解シテ居ラルヽ所ノ或人ノ話ダト云フコトデ、私ハ人ヲ以テ之ヲ傳ヘ聞イタノデアリマスガ、若シ政府ガ此遊廓ノ善後處置ヲ爲スニ付テ相當ノ方法ヲ講ズルナラバ、公娼制度ヲ廢止シテ宜イト思フ、斯ウ云フ御意見デ先ヅ相談ト申シマスルカ、サウ云フ意味ニ於テ私ニ申傳ヘテ來タ人ガアルノデアリマス、隨分サウ云フ人ガアルカ知リマセヌ、此故ニ玆ニ私ハ申上ゲマスガ、實ハ私ハ此法律案ヲ起草致シマシタ時ニハ、三箇條カラ成ッテ居ッテ、其第二ハ六箇年後ニ於テ日本ノ娼妓、貸座敷ハ一切禁止スル、サウシテ第三條ニ於テハ其時ニハ善後處理ヲ爲スガ爲ニ、其時ニハ娼妓一人ニ付テ四百圓ノ金ヲ政府ガ支出スル、斯ウ云フ案デアッタノデアリマス、ソレハ私ノ考ヘマスル所ニ依リマスレバ、今日五萬ノ娼妓ガアル、是ガ六年ノ間ニハ半分ニ減ズルトシテ二萬五千人ニナル、一人四百圓トシテ一千萬人ノ金ヲ政府ガ支出シテ、善後ノ處理ヲシヤウト云フ、斯ウ云フ初ノ案ガアッタノデアリマス、所ガ今日ハ財政緊縮ノ時デアリ、政府當局モ氣ガ小サクナッテ居リマスカラ、今日一千萬圓出サネバナラヌト云フノデハアリマセヌ、金ヲ出スコトノ相談ヲスルト此問題ガ遲クナル、併シ今日年々八千人ノ若イ婦人ガ遊廓ニ這入ッテ行ク、日ニ二十二人宛ノ若イ婦人ガ遊廓ニ這入ッテ行ッテ、再ビ滿足ノ身體デ出テ來ラレナイ遊廓ニ這入ッテ行クノデアル、之ヲ一日モ早ク救濟シナケレバナラヌト云フ意味カラ、此面倒ナル二條三條ヲ除イテ、新ナル者ヲ許サヌト云フ一本槍デ進ムコトニ方針ヲ極メタノデアリマス、故ニ若シ今申シマシタヤウナ御意見ヲ持ッテ居ラル、方ガアリマスナラバ、今年ハ此法律案ニ御贊成下サイ、私ハ今申シマシタ二條三條ノヤウナ事ヲ實行スルガ爲ニ相當努力致シマス、若シ又必要デアルナラバ提案者トナッテ正面ニ立ッテ努力ヲ致シテ宜シウゴザイマス、サウ云フ考ヲ持ッテ居リマスカラ、今年ハドウカ一日モ早ク此遊廓ニ送リ込マレル若イ娘達ヲ助ケル爲ニ、此法律案ニ御贊成下サルコトヲ希望致スノデアリマス——今度ノ經驗ニ依リマシテ、私ハ此種ノ法律案ハ委員會ニ於テハ決シテ通過ヲスルモノデナイト云フ堅イ諒解ヲ持ッタノデアリマス、ソレハドウシテモ是ハ黨議トシテ之ヲ決定スベキ問題デハナイ、今日

聞キマシタガ政友本黨ハ黨議トシテ否決シ去ルコトニ御極メニナッタサウデアリマスガ、是ハ少々無理ナ事デアルト思ヒマス、是ハ性質トシテ自由問題トスベキモノデアル、サウスレバ委員ハ半分ハ贊成、半分ハ反對ヲスルト云フコトニナル、所ガ之ニ反對シテ向ッテ來ル人ハ選擧區關係トカ何トカ云フ廣イ意味ニ於ケル利害關係ヲ持ッテ居ル人デアル、之ニ贊成スル人ハ篤志家デアル、如何ナル問題ニ於キマシテモ篤志家ト利害關係ヲ持ツ人トデハ、ドウシテモ是ハ利害關係ヲ持ツ人ガ熱心デアル、デ此種ノ問題ハ何年出シマシテモ委員會ハ通過シナイモノト私ハ定メタノデアリマス、ソレデ玆ニ無記名投票ニ依テ本會議ニ於テ決シテ貰フヨリ外ハナイト云フ決心ヲ致シタノデアリマス、偖テ亞米利加合衆國ト云フ國ハ近頃ハ隨分怪シカヌ法律ヲ作リマス、併ナガラ私ノ友人デ亞米利加ノ事ニ詳シイ人間ガ、私ニ斯ウ云フコトヲ話シタ、亞米利加ノ議會ガ決議ヲ致シタル「ヒユーマニチーロー」人道ニ關スル法律、サウ云フ問題ヲ研究スルコトハ非常ニ興味ノアルモノデアルト云フコトヲ申シマシタ、私ハ淺學ニシテ未ダ之ヲ研究ハ致シテ居リマセヌ、併シ私ノ知ッテ居ルダケデモ「リンコルン」ノ奴隷解放令ヲ初メトシテ幾多ノ人道的法律ガアルノデアリマス、人間ガ實生活ヲ爲ス上ニ於テ利害關係ノ問題ト云フモノハ是ハ洵ニ大切デアリマス、併ナガラ是ガ總テデハアリマセヌ、吾々ニハ測隱ノ心ガアル、氣ノ毒ナト云フ心ガアル、其心ガ法律トナッテ現ハレルト云フコトハ當然デアル、若シ議會ガ利害關係ノ問題、經濟關係ノ問題ヨリ取扱フコトガ出來ナイト云フナラバ、是ハ不完全ノモノト思ヒマス、私ハ吾々ノ帝國議會ハ此種ノ人道ニ關スル事ガ少キニ過ギハシナイカト不斷ニ考ヘテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ意味ニ於キマシテ私ハ玆ニ此問題ヲ提起シタノデアリマスガ、今申シマシタヤウナ意味ニ於テ、委員會ニ於テハ殆ド通過スル望ミガナイ、サレバ本會議ニ於ケル、無記名投票、之ニ依ル外ハアリマセヌ、故ニ今度ハソレニ依テ決シテ戴キタイト思フ、若シ是ガ此所デ破レルヤウナラバ、私ハ少クトモ諸君ノ任期ノ間ハ斯ノ如キ問題ハ此議會ニハ持ッテ參リマセヌ、私ガ此問題ヲ提ゲテ起ッテ以來友人カラ色々ナ手紙ガ參リマス、併シ書イテアルコトハ大抵迚モ議會ガ通過シヤシナイ、ソレガ通過スル位ナラバ吾々ニハ此樣ニ苦勞ハシヤシナイ、併シ先ヅ此問題ヲ提ゲテ起ッタバケデモ惡イコトデハナイト云フコトヲ申シテ居ルノデアリマス、私ハ斯ウ云フ手紙ヲ受取ル度ニ、實ニ我ガ議院ヲ侮蔑セラレタヤウナ感ジガ致シマシテ憤慨ニ堪ヘナイノデアリマス、諸君玆ニ諸君ノ御投票ヲ願ヒタイノデアリマス、政府委員モ先刻カラ是ハ三百年以來ノ問題デアルカラ容易ニ出來ナイト云フコトヲ申シマスガ、五箇條ノ御誓文ノ中ニ「舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ」トアル、此精神ガアッテ初テ三百年ノ德川幕府モ倒レ、王政維新ノ事ガ成シ遂ゲラレタノデアル、此精神ガアッテ普通選擧モ衆議院ヲ通過シタモノト確信致スノデアリマス、ドウカ諸君、此人道上ノ問題ヲ、諸君ガ此舊來ノ陋習ヲ破リテ天地ノ公道ニ歸ルト云フ御意思ヲ以テ、此問題ノ爲ニ御投票ヲ下サルコトヲ切ニ玆ニ御願致シテ此壇ヲ降ルノデアリマス

中原德太郎君ノ贊成演說

私ハ只今上程サレテ居リマス所ノ公娼制限案ニ對シマシテ、委員長ノ報告ニ贊成ヲスル者デアリマス、先刻來松山君、卽チ本案ノ提案者ノ一人デアリマス松山君ハ極メテ熱心ニ其趣旨ヲ御辯明ニナリ、又先般ノ委員會ニ於キマシテモ詳細ナル御說明ガアッタノデアリマス、私ハ同君ガ人道ノ爲メ國家ノ爲メ、非常ナル決心ヲ以テ御盡力ニナリマスコトニ對シテハ、深キ敬意ヲ表スル者デアリマス、併ナガラ先刻ノ御演說中、或ハ委員會ノ狀況ヲ批評シテ、殊ニ委員ノ中ニハ選擧區ノ關係ニ依テ之ニ贊成ヲシテ居ル者ガアル、或ハ委員ハ何所其所ノ女郎屋ヲ選擧區ニ有シテ居ル、又誰ニハドウ云フ關係ガアル、ソレ故ニ此委員會ト云フモノハ初カラ負ケルモノト思ッテ居ッタト云フヤウナ意味ノ御說モアリマシタ、又先刻ノ御演說中、甚シキニ至リマシテハ、此問題ノ背後ニハ何等カ醜關係ガアッタヤウニ申サレ、大分議場ガ騷然トシタノデアリマスガ、何カ不

都合ナル問題ガアルカノ如キ口吻デ述ベラレタ、斯ノ如キコトハ松山君ノ人格ニ對シテ頗ル遺憾トスル所デアリマス、私ハ不幸デアリマスカ、幸デアリマスカ、私ノ選擧區ニハ公娼ハ一人モ居リマセヌ、隨テ私ハサウ云フ方面ノ[illegible]等運動モ受ケテ居リマセヌ、今朝初テ一人ノ娼妓商賣トカ云ヒマスカ、女郎屋ノ人ガ來テ成ベク一ツ宜シク願ヒマスト初メテ來タ、是ハ初メテデアリマス、タッタ一回デス、前後一度モアリマセヌ、然ルニ只今ノ熱心ナル御演說中、サウ云フヤウナ不穩ノ言辭ヲ弄セラレマシタコトハ、私ハ重ネ重ネ遺憾ニ思ヒマス、偖テ私ガ委員長報告ニ贊成ヲ致シマスル理由、先ヅ本案ノ趣旨ハ、公娼制度ナルモノハ奴隷制度デアル、人權ヲ蹂躙スルモノデアルト云フコトガ第一箇條、第二箇條ハ風紀ノ上ニ於テ有害デアル、第三箇條ハ衞生ノ上ニ有害デアル、故ニ公娼ヲ廢シ、若クハ、今回ノ案ハ制限デアリマス——制限スベキモノデアルト云フヤウナ御主張デアル如ク承知致シテ居リマス、私ハ其趣旨ニ於キマシテ松山君ト全然同感デアリマス、松山君モ御演說中御話ガアリマシタ如ク、私ハ現今ノ公娼制度ヲ以テ、我國ニ於ケル最モ適當ナル制度トハ思ッテ居リマセヌ、併ナガラ公娼ガ奴隷デアル、公娼ヲ廢止シテ私娼ト云ヲ者ニ向ッテハ何等ノ制限ヲ加ヘナクトモ宜イ、法律ガ公娼ヲ認メテ居ルカラ法律ノ改正ヲスレバ、人道上ノ問題或ハ人權蹂躙ノ問題モ共ニ解決スルト云フガ如キ御議論デアルヤウニ拜聽致シテ居リマス、併シ私ノ見マスル所デハ若シモ公娼ナルモノガ奴隷制度デアリ、或ハ人權ヲ蹂躙サレテ居ルト申シマスルナレバ、今日ノ私娼モ矢張奴隷制度デアリ人權ヲ蹂躙サレテ居ルト思ヒマス、其點ニ於キマシテ、公娼ト私娼トニ何等區別ガナイト私ハ思ヒマス、又法律ニ依テ公娼ガ認メラレテ居ルカラ、此法律ヲ改正シテ結局ハ公娼廢止マデ行カウト云フ御議論デアリマスケレドモ、私ハ松山君ノ御紹介ニ依リマシテ皆樣方モ既ニ御承知デアリマスル如ク、斯ノ如キ問題ヲ帝國議會ノ議場ニ於テ提案シ、之ヲ論議スルト云フヤウナコトハ、我帝國ノ恥辱ト思ッテ居リマス、又斯ノ如キ問題ハ法律ノ改正ニ依テ直ニ解決シ得ベキモノデナイト私ハ思ッテ居リマス、殊ニ我國ハ申スマデモナク法治國デアリマシテ、法律萬能ノ國ト云フコトニナッテ居リマスルケレドモ諸君御承知ノ如ク、今日ノ文化

ハ益進歩シテ參リマシテ、所謂從來理想的ノ國家デアルト思ッテ居リマシタ所ノ法治國、所謂獨逸語デ申ス「レヒツスタート」、是ハ決シテ理想的ノ國家ニ非ズ致シマシテ、將來ノ國家ハ更ニ一歩進ンダル所ノ「クルツール、スタート」ニ向ッテ進マナケレバナラヌト云フコトハ、一般人類ノ要求デアルト私ハ確信スル者デアリマス、然ルニ徒ニ法律ニ依リマシテ總テノ問題ヲ解決スルト云フ思想ハ、寧ロ私ハ舊イ思想デアリマシテ、提案者諸君ノ如ク所謂我國政界總テノ方面ニ於キマシテ、新シイ人ト云フヤウナ言葉ヲ以テ迎ヘラレテ居リマスル所ノ最モ新智識ヲ有シ、最モ英氣潑溂タル吾ミガ最モ平素カラ尊敬シテ居リマス方ミガ、斯ノ如キ問題ヲ法律ノ改廢ニ依テ解決スルト云フコトハ、眞ニ時代錯誤デアルト私ハ確信スル者デアリマス、私ハ此意味ニ於キマシテ、此法律ヲ改正シテ公娼制限ヲスルト云フコトハ、適當ニ非ズ、先以テ公娼ノ絶滅ヲ圖ルノニハ、ドウ致シマシテモ、公娼ト云フモノニナル事ガ善クナイ事デアルト云フコトヲ一般ノ國民ニ周知セシメルト云フコトガ最モ大切デアルト思ヒマス、而シテ斯ノ如キ事柄ハ、卽チ諸君ノ如キ敎育家デアリマスルトカ、或ハ宗敎家デアリマスルトカ、或ハ思想家デアリマスルトカ、又諸君ノ背後ニ居ラレマスル婦人ノ團體デアリマスルトカ、宗敎團體デアリマスルトカ、悉ク國家ノ公益社會ノ公益ヲ圖ッテ居リマスル團體若クハ人ミノ力ヲ待ッニ非ザレバ、斷ジテ出來ナイ事ト、深クソレ等ノ人ミニ向ッテ期待ヲ有シテ居ル次第デアリマス、然ルニ諸君ガ其途ニ出デズ致シマシテ、法律ノ改廢ニ依テ此問題ヲ解決セント欲スルガ如キハ、私ハ所謂新人諸君ニ向ッテ遺憾ノ意思ヲ表明スル次第デアリマス、此意味ニ於キマシテハ此法律案改正ニ向ッテハ贊成ハ出來マセヌ、又風紀ノ問題、之ニ付キマシテ前刻群馬縣云ミト云フ問題ガアリマシタ、此機會ニ於キマシテ其事ヲ御紹介致シマス、群馬縣ハ松山君ノ御演說ノ通リ、所謂公娼ノ無イ土地デアリマス、私ガ昨年十一月同僚木檜、飯塚兩君ト共ニ、高崎ヲ距リマスルコト二里、名前ハ一寸忘レマシタガ、伊香保鐵道ノ線路ガ敷イテアリマス所、其處ニ演說會ガアリマシテ之ニ臨ンダノデアリマス、丁度正午デアリマシテ晝食ヲ致シマシタ、所ガ、私ハ何氣ナク食事ヲシタ、其處ニ配膳致シマシタ人ミハ、立派ナ羽織

ヲ著テ、顔ニ化粧ヲシタ婦人、斯ノ如キ婦人ガ數名集マリマシテ、吾ゝ同行者ニ對シテ其處デ給仕ヲ致シマシタ、私ハ是ハ土地ノ風俗デアルカト思フテ居ッタ、食事ヲ終リマシテ、ソレカラ十町バカリ離レテ居リマスル演說會場ヘ臨ミマシタ、其演說會場ハ寺院ノ內ニアルノデアリマシテ、其寺院ノ門ヲ入リマスト、右側ニ一ツ建物ガアリマス、其建物ノ內デ息ンデ呉レト云フコトデアリマスカラ、其處デ一服致シマシタ、所ガ隣ノ部屋デハ泥醉者ガアリマシテ、三味線ヲ彈キマスル音ガ聞エマスシ、種ゝナル大聲ヲ放ッテ歌ヲ唄ッテ居ルノデアリマス、大變ナ騷ギヲシテ居ル、兎モ角モソレガ寺ノ中デス、私ハ初メ妙ナ感ジガ致シマシタガ、能ク理解ヲセズシテ直ニ演說ノ時間ガ參リマシタカラ會場ニ臨ミマシタ、演說ヲ濟マシテ再ビ休憩所ニ參リマシタ、所ガ私ノ背カラ外套ヲ著セテ呉レル人ガアリマシテ、顧ミマスレバ所謂顏ニゴテ〳〵ニ化粧ヲ致シタ婦人デ、ソレガ私ニ外套ヲ著セテ呉レタ、妙ナ者ガ居ル、ソレト同時ニ私ヲ土地ノ靑年ノ人ガ停車場ニ送ッテ呉レタ、其土地ノ靑年ニ聞イタ、アレハ此土地ハ公娼ガアリマセヌカラ、此村ハ僅カ一時間カ二時間ノ間ニ、其五軒ノ中二軒ノ私娼デアリマスト云フコトヲ其靑年ガ說明シタ、成程私ハ僅カ一時間カ二時間ノ間ニ、其五軒ノ中二軒ノ私娼家屋ト云ヒマスカ、私娼窟ヲ訪問シタコトニナッテ居リマス、非常ニ不快ナ感ジヲ持ッテ歸ッタコトガアリマシタ、之ガ卽チ公娼廢止地、理想地ト云ハレテ居リマスル群馬縣ニ於ケル公娼廢止後ノ實狀ノ一例ニ過ギナイ、固ヨリ之ヲ以テ全部トハ申シマセヌ、私ハサウ云フコトモ實見シタノデアリマス、斯ノ如キコトハ風敎上極メテ有害デアリマス、苟モ寺院ノ門內ニソンナ私娼ガ居ッタ、若シ然ルニ寺院ノ中ニ私娼ガ居ッテ、而モ其處デ大騷ギヲシテ居ル、斯ノ如キハ實ニ住民ニ對シマシテモ大ナル影響ヲ與ヘルモノデアルト思想上ニモ大ナル影響ヲ與ヘ、又兒童ノ敎養ノ上ニ於キマシテモ大ナル影響ヲ與ヘルモノデアリマス、斯ノ如キ理由カラ致シマシテ、此公娼廢止後ニ於ケル一般社會ノ狀態ハ、甚ダ憂慮ニ堪ヘナイモノガアルト私ハ思ウタノデアリマス、第三番目ニ衞生上ノ問題デアリマス、之ニ就キマシテハ此前ニ委員會ニ於キマシテモ私ノ所見ヲ申シテ置キマシタカラ、速記錄ニ依リマシテ御承知ヲ願ヒタイ、極ク大體ダケヲ申述ベマス、今日此接客業者、客ニ接シマス商賣、娼妓、藝妓、竝ニ酌婦、斯ウ云フ者ガドウ云フ工合ニ發達シテ居ルカト申シマスト、一番盛ニ殖エテ參リマスノハ藝妓デアリマス、ソレカラ其次ハ酌婦デス、ソレカラ其次ハ娼妓、是ハ內地、朝鮮、臺灣、關東廳、樺太、是等ニ於ケル所ノ大正四年ヨリ大正十二年迄ノ表ヲ見マスト、只今モ申シマシタ如ク藝者ノ數ガ一番殖エテ居ル、ソレカラ其次ハ酌婦、其次ハ娼妓デス、娼妓ノ數モ殖エテ居ルガ、內地ニ於ケル娼妓、藝者、酌婦ノ表ヲ見マシテモ、此通リ、是ガ藝者デス、是ガ娼妓、是ガ酌婦ト云フ工合デアリマス、サウ云フ工合デアリマシテ、先ヅ斯ウ云フ表カラ見マシテモ、娼妓ハソンナニ御心配ニナル程殖エテ行カナイ、多少ハ殖エテ居リマス、併シ殖エ方ガ割合ニ少ナイ、大正四年內地ニ於ケル娼妓ノ全數ガ四萬六千百二十二名、大正十二年ニハ四萬九千五百五十六名デアリマシテ、卽チ七分四厘ノ增率デアリマス、藝者ハ總數ガ四萬三千六百一名ソレカラ大正十三年ニ參リマシテ七萬二千六百十三名デス、卽チ六割六分五厘ト云フ工合ニ藝者ハ增シテ居リマス、酌婦ノ方モ矢張同ジヤウデアリマシテ、大正四年ニ於キマシテハ其總數ガ三萬五千五百十二名、大正十年ニ至リマシテ四萬七千九百三十二名、是ハ三割五分增シテ居ル、斯ノ如キ狀態デアリマスルノデ、藝者竝ニ酌婦ト云フモノハ非常ナル率ヲ以テ增シテ參リマスケレドモ、娼妓ノ增加ハ比較的少イト云フ實例ヲ現ハシテ居リマス、ソレカラ又此公娼ト云フモノト花柳病ノ關係デアリマス、先刻松山君ノ御紹介ニ從ヒマスルト云フト、公娼ト云フモノガ花柳病ノ最モ激シイ媒介者デアル、却テ私娼ノ方ハ餘リ酷イ媒介者デナイト云フ意味ノ御說明ガアリマシタ、此事ニ付キマシテハ色ゝ說ガアリマス、現ニ花柳病豫防協會、所謂性病豫防協會ニ於キマシテモ、松山君ノ御說ノ如キ統計竝ニ意見ヲ持ッテ居ル御方モアリマス、只今御引例ニナリマシタ松浦君ノ如キハ矢張其意味ノ論者デアリマス、是ハ勿論滿場一致トカ何トカ云フ數デ決メルモノデハアリマセヌガ、大體ニ於テハ矢張公娼ガアル方ガ花柳病ガ比較的少イト云フ意見ガ多イヤウニ私ハ思ヒマス、絕對的ノモノデハアリマセヌ、又今日ノ公娼制度ト云フモノガ、極メテ完全ナモノデアルトハ私ハ思ヒマセヌ、殊ニ其檢徹法ノ如キモノニ至リマスル

ト、極メテ杜撰ナモノデアリマス、私ハ屢檢徹所ト申シマスルカ、例ヘバ遊廓地ニ於ケル病院ヲ視察致シマシタ、其狀況ヲ見マスルト云フト、自分ノ身體デアリナガラ、自分ノ病毒ヲ隱蔽シテ、カラシテ病毒ガナイト認メラレ今檢査ヲ受ケル直前ニ當リマシテ、巧ニ隱蔽ヲ致シマス、サウシテ診察室ニ登ッテ、其若イ醫者度ノ極メテ不徹底ナ所以デアルト私ハ思ッテ居リマス、デアルカラ此公娼制度ガアルト同時ニ、花柳病ノ豫防ノ意味ニ於キマシテ、現在ノ檢徹制度ガ決シテ完全ナモノトハ思ッテ居リマセヌ、併ナガラ此私娼ト云フモノニ至リマシテハ、斯ノ如キ制度ガアリマセヌ、唯府縣ノ警察官憲等ニ於キマシテ適當ナル方法デ偶檢査ヲスル、檢徹ヲスルト云フヤウナ所ハアリマスケレドモ、未ダ是ハ嚴格ナル規定ノ下ニ檢査スル途ハナイノデアリマス、斯ノ如キ事情デアリマスカラ、私娼ガ病毒ヲ蔓延致シマスルコトハ、風俗ノ上カラ考ヘマシテモ、片方カラハ嚴重ナル――不完全デハアリマスケレドモ嚴重ナル監督ノ下ニ檢査ヲ受ケル者ニ比較致シマスルナラバ、全ク自由放任デアリマシテ、自ラ衞生ノ何モノタルヲ解セザル此私娼ト比較シマスルナラバ、比較的公娼ノ方ガ完全デアルト思ヒマス、私ハ斯ノ如キ見地カラ致シマシテ、此今日ノ賣淫制度、殊ニ歐米各國ニ於テハ種々ナル制度ガ行ハレテ居リマス、今松山君ノ御話ニナリマシタ如キ絶娼制度ノ國モアリマスシ、又ハ制限制度ノ國モアリマス、種々ニ制度ガ變ッテ居リマスケレドモ、何レモ缺點ハアルノデアリマス、殊ニ私ハ獨逸ニ長ク居ッタノデアリマスガ、獨逸ニハ矢張公認制度ト、ソレカラ所謂公娼竝ニ私娼、二ツナガラアリマス、而シテ獨逸ハ御承知ノ如ク衞生思想ハ遙ニ我ガ日本ト比較シテ進ンデ居リマス國デアリマスカラ、娼妓其者ニ對シテモ自ラ病毒ヲ防グト云フコトヲ豫メ承知サセ、又病氣ニ罹ッタナラバ、所謂民間療法ニ依リマシテ病氣ヲ成ベク早ク治サシメルト云フヤウナコトヲヤッテ居リマス、又客ニ對シマシテモ、チヤント札ヲ貼リマシテ、客ノ消毒法ト云フモノガ設ケテアリマス、斯ノ如ク致シマシテ、所謂人類ノ三大强敵ト認メラレテ居リマス所ノ花柳病、結核竝ニ酒ノ毒、此三ツノ病氣ガ人類ノ三大强敵ト云フコトニナッテ居リマス此ノ人類ノ三大强敵ノ一ツノ花

柳病ハ、卽チ國民ノ衞生思想ノ發達ト又各人ノ自覺ニ依ッテ、初メテ之ヲ防遏シ之ヲ豫防シ得ルモノデアルト私ハ信ズルモノデアリマス、區々タル法律規則ニ依リマシテ花柳病ヲ退治スルト云フコトハ、中々困難ナ事デモアリマスノミナラズ、ムヅカシイ事デアルト私ハ考ヘテ居ル、又今日ノ此我國ニ於ケル現在ノ群馬縣ノ花柳病ノ御話ガ先刻松山君カラ出マシタガ、大正十二年度ノ壯丁檢查ノ結果ガ、大正十三年度ニ於キマシテ初メテ發表サレルノデアリマスカラ、私ハ最近ノ表ヲ見タノガ偶々十二年度ノ統計表デアッタ、松山君ハ十二年度ハ是ハ群馬縣ニ於テモ一番多カッタ年デアルト云フコトヲ御說明ニナリマスルカラ、私ハソレナラバソレデ宜シイ、必シモ群馬縣ヲ非難シヤウト思フノデアリマセヌカラ、私ノ事實ガ間違ッテ居リマスルナラバ、ソレデモ宜シイ、併シ此統計表ヲ見マスルト、何ト申シマシテモ群馬縣ハ非常ニ卓越シテ居ル、千人ニ對シマシテ、壯丁檢查ノ結果十九・〇一、栃木縣ハ十一・二二、埼玉縣ハ七・九三、新潟縣ハ七・一四、和歌山縣ハ十・八九、東京府ハ十二・三〇ト云フコトニナッテ居リマス、斯ウ云フヤウナ統計カラ見マスルト、群馬縣ハ最モ多カッタ年デアルト仰シヤイマスケレドモ、兎モ角モ餘リニ卓越シテ居ルト云フコトハ爭フベカラザル事實デアルト私ハ思ヒマス、ノミナラズ單リ十三年度ニ於ケル花柳病――壯丁花柳病檢查ノ結果ガ斯ノ如クアリマスルノミナラズ、最モ恐ルベキ徹毒ニ依テ死亡致シマシタ所ノ人間、是ハ明治四十二年カラ致シマシテ大正九年マデノ表ガ出來テ居リマス、之ニ依リマシテモ、明治四十二年ニ於キマシテ、東京ハ一萬ニ對シマシテ一二九、群馬縣ハ二一〇、ソレカラ四十三年ハ東京ガ一三二、群馬縣ガ二〇二、四十四年ハ東京ガ一五六、群馬縣二〇一、飛ビマシテ大正九年ハ東京ガ一三〇、群馬縣ガ一三六、是ハ人口一萬ニ對シマスル徹毒ノ死亡者、殊ニ遺傳徹毒モ含ンデ居リマス、恐シイ所ノ數ヲ群馬縣ハ示シテ居リマス、群馬縣ハ明治二十八年デシタカ、以來廢娼サレテ居リマスケレドモ、此明治四十二年カラ大正九年マデノ間ニハ、然ラバ遺傳徹毒デアリマストカ、或ハ徹毒患者ノ死亡數ハモット減ゼンケレバナラヌ筈デアリマスニモ拘ラズ、少シモ減ジテ居ラナイト云フ所カラ見マシテモ、群馬縣ニ於ケル公娼廢止ノ結果ガ、花柳病ト云フ問題ニ對シテ餘リ好成績ヲ現シテ居ラナイト云フ

コトハ爭フベカラザル事實デアルト私ハ信ズル、私ハ保健衞生ノ上カラ考ヘマシテ、先ヅ花柳病ヲ豫防シ、花柳病ノ蔓延ヲ防ギマスルコトハ、公娼廢止ニ依テ望ムコトハ出來ナイト私ハ思フノデアリマス、寧ロ公娼廢止ヲ致シマスナレバ、私娼ノ跋扈、是モ御議論ガアリマス、例ヘバ東京ノ如キ吉原ノ近傍ノ千束町ニハ多數ノ魔窟ガアル、公娼ノ在ル所ニハ私娼窟ガアルト云フ御議論ガアリマスケレドモ、又洲崎ニハ公娼ガアリマスケレドモ、アノ近傍ニハ私娼窟ハアリマセヌ、吉原ノ如キ、淺草觀音ノ如キ、天下何十萬ト云フ人ガ集リマス場所ニハ、特殊ノ例トシテ其近傍ニ私娼窟ガアルノデアリマシテ、必シモ公娼所在地ニ魔窟、卽チ私娼窟ガ相伴フモノデアルト云フ議論ハ私ハ立タナイト思フノデアリマス、斯樣ナ意味カラ致シマシテ私ハ人道上カラ、又殊ニ今最後ニ一言申シマスト、公娼ト云フモノハ非常ニ人道上人權ガ蹂躙サレテ居ルト言ハレマスケレドモ、私娼ニ於テモ同樣デアリマス、何等ノ區別ハナイ、最近ノ新聞紙ヲ見マシテモ、此東京府下某所ニ於ケル慘事、斯ノ如キモノガ盛ニ現ハレマスルノハ、一ツノ例デアリマス、群馬縣ニ於テ高崎ヲ初メト致シマシテ、其縣下ニ於テ八百何十人ト云フ私娼ガアリマス此私娼ハ百圓乃至千圓ノ價格ヲ以テ買ハレルノデアリマス、平均致シマスト三百圓乃至四百圓デアル、斯ノ如キ價格ニ依テ矢張賣買サレテ居リマス、卽チ人身ノ賣買ト云フ點ニ於テハ、法律ガ認メテ居ルカ認メテ居ラヌカト云フダケノ差デアリマシテ、事實ニ於テハ何等擇ブ所ノナイノミナラズ、却テ公娼ノ方ガ場合ニ依リマスト幾分カノ自由ヲ與ヘラレ、幾分カ壓迫モ少クサレテ居ル所モアルノデアリマシテ、私娼ハソレニ反シテ非常ナ虐待ヲ受ケテ居リマス、土地モ盛ニアルノデアリマスカラ、此人權上ノ問題カラハ、ドウシマシテモ公娼ヲ廢止スルト云フ事ニ向ッテハ贊成スルコトハ出來ナイノデアリマス、先ヅ私ハ大體以上ノ理由ニ依リマシテ、洵ニ遺憾デアリマスケレドモ、此委員長ノ報告ニ贊成シ、松山君ノ御提出ノ議案ニハ反對スル者デアリマス

右終ルヤ作間耕逸君ハ討論終局ノ動議ヲ提出シ院議之ヲ採用スルニ決シ討論ハ玆ニ終局ス

次テ第二讀會ヲ開クヤ否ニ對スル採決ニ關シテハ松山常次郎君外二十九名ヨリ無名投票ヲ以テ表決ノ結果百五十七ニ對スル五十三ノ少數ニテ本案ハ第二讀會ヲ開カリシニ依リ無名投票ヲ以テ表決ノ結果百五十七ニ對スル五十三ノ少數ニテ本案ハ第二讀會ヲ開カサルニ決セリ

一七　鐵道敷設法中改正法律案

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

附則第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ新潟縣下坂町ヨリ山形縣下今泉ニ至ル鐵道ハ今泉ヲ長井ニ變更ス

右ハ十四年二月十九日西方利馬君外六名之ヲ提出ス二月二十四日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者（西方利馬君）ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ノ說明ヲ簡單ニ致シマス、本鐵道ハ新潟縣下坂町ヨリ山形縣下今泉ニ至ル鐵道デアリマス、此鐵道ハ大正九年ニ明治二十五年ニ於テ定メラレマシタル所ノ鐵道法中改正案ニ依テ敷設サレルコトニナッタノデアリマス、此鐵道敷設ノ目的ハ是ハ申上ゲル マデモナク、新潟縣ト山形縣米澤トヲ連絡スルコトニ出デタノデアリマス、而シテ山形縣下ニ於ケル所ノ接續點タル今泉ト云フ所ハ、戶數僅ニ八十戶ニ過ギナイノデアリマシテ、小ナル一部落ニ過ギナイノデアリマス、而シテ此土地ヨリ僅ニ二三哩ヲ隔ツル所ノ長井町ト申ス所ハ人口約一千五百、此地方ニ於ケル所ノ唯一ノ商工業地デアリマス、然ルニ何ガ故ニ此繁華ナル所ノ都會ヲ避ケテ、接續地點ヲ邊鄙ナル今泉ニ置カレタノデアリマスカ、是ハ此運輸系統ノ關係カラ、又ハ鐵道技術ノ關係カラ、已ムヲ得ズ斯ノ如クニサレタモノデアルト信ズルノデアリマス、故ニ此新潟方面——村上方面ト米

澤ヲ連絡スル所ノ運輸系統ヲ依然トシテ採ラルヽニ於テハ、此本案ノ提出理由ガ存セヌノデアリマス、起點變更ノ問題ハ起ラヌノデアルノデアリマス、然ルニ今日ハ其當時ト多少事情ヲ異ニスル點ガ下ニ於ケル所ノ左澤荒砥間ノ鐵道、此兩線ガ是ガ大正十一年ノ法律ニ依テ敷設サレルコトニ相成ッタノデアリマス、ソレデ今日ニ於キマシテハ、此新潟村上方面ト、山形ト仙臺、所謂三縣横斷ノ運輸系統ヲ採ルベキカ、或ハ考ヲ新ニ致シマシテ、此新潟ト米澤ト連絡スル所ノ運輸系統ヲ採ルベキデアルカ、是ハ最モ國家ノ上カラ申シマシテモ重要ナル問題デアルノデアリマス、ソレデ何人ガ御考ニナッテモ今日ハ新潟縣、山形縣、宮城縣、三縣横斷ノ運輸系統ニ改メナケレバナラナイコトハ、是ハ當然ノ事デ、敢テ說明ヲ要スルノ必要ガ無イノデアリマス、斯ノ如ク運輸系統ヲ改メマスルコトニ致シマスレバ、ドウシテモ左澤ノ線ヲ經由シナケレバナラヌノデアリマス、此左澤ノ線ヲ經由セヌケレバ、此新潟方面ト仙臺方面ヲ往來スル場合ニハ、ドウシテモ山形ト赤湯ニ於テ乘換或ハ積換等ノ非常ナ不便ガ生ズルノデアリマス、ソレデ此左澤ノ線ヲ經由セントスルナラバ、此今泉ヲ改メテ長井町ニ變更致サナケレバナラナイト云フコトハ、是ハ運輸上ノ關係ニ於テモ、又雙方ノ土地ヲ比較對照致シマシテモ、是ハ當然過ル程當然ナ問題デアリマシテ、少シモ反對スル餘地ハ無イノデアリマス、斯ノ如キ理由ニ依リマシテ本案ヲ提出致シマシタト思ヒマス

次テ本案ハ橋本喜造君外五名提出鐵道敷設法中改正法律案（本項第二（一三））外十一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月三日報告書ヲ議長ニ提出セリ卽日議事日程ヲ變更シテ（一三）案ト一括シテ其ノ第一讀會ノ續會ヲ開ク（委員會ノ經過ハ本項（一三）參看）

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決確定シ卽日之ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ハ議決ヲ爲スニ至ラサリキ

一八　震災被害地ノ營業稅免除ニ關スル法律案

第一條　大正十二年九月一日ノ震災（之ニ伴フ火災又ハ海嘯ヲ含ム）ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル營業稅納付者ニ對シ大正十三年ヨリ四年間其ノ營業稅ヲ免除ス

第二條　前條ノ規定ハ會社ノ納付スヘキ營業稅ニハ之ヲ適用セス

第三條　第一條ノ震災被害者及震災地域ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十四年二月二十三日關直彥君外十六名之ヲ提出ス三月三日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者（横山勝太郎君）ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案ハ極メテ簡單ナ法律案デアリマス、其要點ハ一昨年ノ震火災ニ因リマシテ、著シク損害ヲ受ケマシタ所ノ營業稅ノ納付者ニ對シマシテ、大正十三年度ヨリ四年間營業稅ヲ免除スルト云フ意味ノ法案デアリマス、併ナガラ是ハ單ニ個人ノ營業ニ限リマシテ、法人ノ營業ニ關シマシテハ、之ヲ適用シナイ、斯樣ナ意味ニ相成ッテ居リマス、要スルニ個人ノ商工業者ニ對シテ、或ル年

限ノ間營業稅ヲ免除スルト云フ意味ニ歸著スルノデアリマス、法案ノ意味ハ詳シク申上ゲナイデモ御分リデアラウト思ヒマスガ、或ル一派ノ人ノ議論ニ依リマスト、如何ニモ震災地ノ住民ガ、餘リニ政府ニ對シテ救濟ヲ要求スル所ノモノガ過大デアル、既ニ復興豫算ニ於テ莫大ナル支出ヲ爲シテ居ル、地租ノ免除ヲ爲シテ居ルシ、今又營業稅ノ免除ヲ受ケントスルガ如キハ、甚ダ宜シキヲ得ナイト云フ意味ノ攻撃ガアリマス、此點ニ付テ其疑ヲ解ク爲ニ極メテ簡單ニ提案者ノ趣旨ノアル所ヲ述ベテ置キタイト思フ、御承知ノ如ク大正十二年九月一日ノ震火災ハ、關東地方ニ於ケル未曾有ノ天災デアリマシテ、是ガ爲ニ關東六百萬人ノ住民ガ非常ニ困難ヲシテ居ルト云フ事實ハ、此席ニ於テ辯明スル必要ハ無イノデアリマス、當時人心ハ極度ノ不安ニ陷リマシテ甚シキニ至ッテハ帝都ハ東京ヲ去ッテ他ノ地方ニ移轉ヲスルノデハアルマイカト云フ程ニ、非常ニ不安ヲ感ジタノデアリマスルガ、御詔勅ノ趣旨モアリマシテ、帝都罹災民ハ僅ニ其安定ヲ得ルニ至ッタノデアリマスケレドモ、其後ノ狀態ハ御覽ノ通リニ帝都ハ復舊シタリト申シマスケレドモ、實際ニ於テハ貧弱見ルニ堪ヘザル狀態デアリマス、是ガ爲ニ連日御承知ノ如ク五軒、十軒、數十軒ト云フ火災ガ起ルノデアリマス、又建設物ガ甚ダ不完全ナルガ爲ニ、罹災民ノ健康衞生ノ上ニ非常ナ障害ヲ來シマシテ、震災直後ニ於テハ感冒性ノ惡疫ガ流行致シ、今日ハ未ダ惡性ノ窒扶斯ノ流行ガ絕タナイト云フ狀態ニ相成ッテ居リマス、又生活ノ方面カラ申シマスレバ、橫暴ナル地主ガ不當ナル地代ヲ貪ルガ爲ニ、借地人、借家人ノ不安其極ニ達シテ居ルト云フコトモ多クニ、借地人、借家人ノ不安定ノ爲ニ、今日銀行業者ニシテ其店舖ヲ閉シテ居申スマデモナイノデアリマス、又經濟上ノ不安定ノ爲ニ、今日銀行業者ニシテ其店舖ヲ閉シテ居ルモノガ、確カ五十幾ツアルト考ヘテ居リマス、是ガ爲ニ一般經濟界ニ非常ナ困難ヲ來シテ居リマス、又個人ノ財政カラ申シマスレバ、大正十三年ノ一月以來、法律ノ改正ノ事柄モ多少原因ハ致シテ居リマスケレドモ、破產者ガ續出致シテ居ルト云フコトモ、是モ數字ノ上ニ於テ明瞭デアリマス、而シテ是等ノ原因ノ爲ニ東京、橫濱ノ如キハ暴力團ナルモノ、橫行跋扈、住民ハ其身體、生命、自由、財產ノ上ニ於テモ非常ナ不安ヲ感ジテ居リマス、是等ノ爲ニ震災後今日ニ至ルマデ、關東地方ニ於ケル犯罪人ノ增加致シタト云フコトモ、是モ數字ノ示ス所デアリマス、斯ノ如キ次

第デアリマシテ、有形、無形ノ方面カラ觀察致シマシテ、我ガ帝都、殊ニ橫濱、東京ノ如キハ非常ナル人心ノ動搖ヲ來シテ居ルト云フコトハ、此席ニ於テ詳シク論ズルノ必要ハナイト考ヘマス、此故ニ地方カラ帝都ニ來リシ者ガ東京市中ヲ散步致シマスナラバ、外形ノ上ニ於テハ相當ナ建設物モ出來テ居リマス、相當ニ營業モ致シテ居リマス、或ル程度迄ハ復舊ヲ致シ、或ハ復興ヲ致シタト云フヤウナ觀察ヲ爲サレル御方モ居ラウト存ジマスガ、併シ是ハ外觀ノ觀察ニ止ルノデアリマス、一度表通ノ路街ヲ離レテ裏ノ方ノ路次デアルトカ、其他ノ私道ヲ通過致シテ見マスレバ、其建設物ノ貧弱ニシテ、又罹災民ノ生活ノ內容ノ貧弱ナル驚クニ堪ヘタルモノガアルノデアリマス、今日ハ外觀上多少ノ美觀ヲ添ヘタル建設物ガ出來テ居リマスケレドモ、震災直後ニ於テ建設シタルモノハ、眞ニ馬小屋デアルカ、豚小屋デアルカ、ソレト同樣ナ物デアッタノデアリマス、ソレスラ莫大ナル借金ヲ致シテ建設ヲ致シタモノデアルトカ、或ハ日本橋、彼ノ方面ニ於キマシテハ二階建、三階建ノ家屋モ多少ゴザイマスケレドモ、是等ハ震災直後ニ於テ建設シタルモノハ甚ダ粗末デアルト云フノデ、一度壞ハシテ二度目ニ建設シタモノデアル、是ガ爲ニ二重ノ借金ヲ負擔致シテ居ルノデアル、而シテ震災當時ニ於キマシテ、各區ノ住民ハ僅ニ一枚ノ著物ヲ著テ、纔ニ身ヲ以テ免カレタノデアリマスカラ、其大部分ノ者ト云フモノハ財產ハ悉ク灰燼ニ歸シタノデアリマス、此故ニ「バラック」ノ建設ヲ致シマスニモ、秋來リ冬來ツテ、著物ヲ作リマスノニモ、下駄ヲ買フノニモ傘ヲ買フノニモ、悉ク借金ヲ致シテ身ノ廻リヲ調ヘタト云フノガ實際ノ狀況デアリマス、此故ニ震災後ニ於テ一年、二年ノ間多少ノ營業ガアッタト致シテモ、震災ニ因ッテ失ッタル個人ノ財產ト云フモノハ、到底回復スルコトハ今日ノ場合出來ナイ狀態ニナッテ居ルノデアリマス、此故ニ平素ノ如キ營業ガアルト致シマシテモ、政府當局ハ震災地ノ商工業者ニ對シテ、多少ノ惠澤ヲ加フルノ必要ハアルト云フコトヲ私ハ確信スル者デアル、之ニ鑑ミル所アッテ現政府ハ昨年ノ議會ニ於テ地租ノ免除ヲ致シテ居リマス、或ハ相續稅、或ハ第一種ノ所得稅ノ猶豫ヲ致シテ居リマス、此趣旨ハ是等ノ稅金ヲ免除シ、若クハ猶豫スルコトニ依テ、罹災民デアル所ノ借地人、或ハ借家人、商工業者ヲ保護スルノ

意味ヲ以テ斯ノ如キ法制ヲ制定致シタモノデアリマス、所ガ制定ノ結果ハ全ク政府ノ見解ハ裏切ラレマシテ、地租ノ免除ニ依テ利益ヲ得タル者ハ地主一人デアル、地所ノ上ニ在ル家屋ガ燒ケ、其他ノ定著物ガ滅失致シマシタケレドモ、是ガ爲ニ地主ノ地面ハ一坪モ一合モ減ッタノデハナイノデアリマス、却テ震災ヲ動機トシテ、火災ヲ動機トシテ地代ノ値上ヲ爲ス者アリ、敷金ヲ強要スル者アリ、甚シキニ至ッテハ明渡シヲ強要致シテ居ルト云フヤウナ狀況デアル、是ガ爲ニ地租ノ免除ト云フコトハ地主ノ負擔ヲ免除シタルニ過ギズシテ、政府及法律ノ豫期致シテ居ッタ所ノ借地人及借家人ヲ保護スルト云フ法ノ目的ト云フモノハ、全然達スルコトガ出來ナカッタト云フ狀態ニ陷ッテ居ルノデアリマス、此意味カラ申シマシテモ、今日ノ震災地ノ商工業者ニ對シテ政府ガ或ル程度ノ恩澤ヲ加ヘテ、或ル年限ノ間營業稅ノ免除ヲシテヤルト云フコトハ、私ハ當然ノ處置デアルト考ヘマス、御承知ノ如ク山本內閣ノ當時、政府ハ保險會社ノ貸付金トシテ一億八千萬圓ノ貸付ニ關スル法律案ヲ提出致シタノデアリマスガ、是モ御承知ノ通リ或ル原因ニ依テ廢案ニ歸シタノデアリマス、此提案ノ趣旨モ固ヨリ罹災地ニ於ケル罹災民ヲ救助スルト云フ意味デアッタノデアリマスガ、此目的モ達スルト云フコトニナッテ居リマスガ、其實際上ノ計算ハマダ承ッテ居リマセヌ、之ニ依テ帝都ノ罹災民ノ受ケタル保險金ト云フモノハ、眞ニ言フニ足ラザルモノデアリマス、無論建設ノ資金ニモナラズ、商賣ノ資本ニナルト云フ程ノモノデハナカッタノデアリマス、斯ノ如キ次第デアリマスルカラシテ、既ニ政府ガ罹災民ノ經濟狀態ニ對シテ、多少ノ考慮ヲ爲シテ地租ヲ免除致シタト云フコトガアリマスナラバ、其權衡上カラ申シマシテモ、或ル程度ノ年限、限ラレタル間多少ノ營業稅ノ免除ヲ爲スト云フコトハ、私ハ當然ノ處置デアルト考ヘマス、而シテ之ニ依テ政府ガ失フ所ノ金額ハ、正確ニハ分リマセヌケレドモ、僅ニ百五十萬圓カ、二百萬圓見當ノモノデアリマス、眞ニ國家ノ上カラ申シマスレバ言フニ足ラザル金額デアリマス、諸君モ御承知ノ通リ罹災民ハ過日貴衆兩院ニ對シテ三萬五千ノ者ガ調印ヲ致シテ、此請願ヲ致シテ居ルト云フ點カラ御考慮ニナリマシテモ、此法案ニ對シテハ諸君ノ多大ナル同情ヲ與ヘラルベキ根據アリト云フコトヲ私ハ確信スルノデアリマス、是ダケヲ申上ゲテ提案ノ趣旨ト致シマス

次テ本案ハ議長指名（十八名）ノ委員ニ付託スルニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ翌四日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月十八日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長小池仁郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今議題ニナリマシタル震災被害地ノ營業稅免除ニ關スル法律案ノ委員會ノ經過、竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ關直彥君外十六名ノ提案デゴザイマシテ、委員會ヲ開クコト二回、提案者ノ趣旨辯明ガアリマシタ、之ニ對シテ委員ノ質問ガアリ、政府當局ノ俄ニ同意シ難キ言明モゴザイマシタ、併ナガラ極メテ簡單ナル案デゴザイマスカラ、討論ヲ省キマシテ採決ニ入ッタノデアリマス、委員ノ中ニハ反對ノ御意見モアルヤウデアリマシタガ、意見ノ陳述ハゴザイマセヌ、委員會ハ大多數ヲ以テ原案通リ可決致シマシタ、願クハ諸君ニ於カレマシテモ震災被害地ニ御同情アル御決議ヲ望ム次第デアリマス

早速政府委員ハ本案ニ對シ左ノ如ク政府ノ所見ヲ述フ

本案ニ對シテ政府ノ所見ヲ簡單ニ申述ベタイト思フノデアリマス、政府ハ此案ニ對シテ同意ヲ致ス譯ニ參ラヌノデアリマス、震災地ノ住民ニ對シテ同情ヲ持ッテ居ルト云フコトハ政府ト雖モ少シモ人後ニ落チナイ、此故ニ御承知ノ如ク大正十二年ニ於キマシテハ、緊急勅令ヲ以テ營業稅

ノ減免ヲ行ッテ居ル、卽チ震災當時直チニ營業稅ノ減免ヲ行ッタノデアリマス、又大正十三年分ハ豫算ヲ以テ實際ニ適應スル徵稅ヲ爲スコトヲ得ル特例ヲ設ケ、普通ナラバ十二年度ノ實蹟ニ依テ震災前ノ事實ヲ含ム、此事實ニ準據シテ課稅ヲシナケレバナラヌノデアルニ拘ラズ、政府ハ其特例ニ依テ大正十三年分ノ徵稅ヲ致シマシタノデアリマス、又十三年以後ノ分ニ當リマシテハ、是ハ明ニ營業ガ縮小セラレタト云フ此狀態ヲ根據ト致シテ、其營業ノ現況ニ應ジテ徵稅ヲスルト云フ方針ヲ取ッテ居ルノデアリマスカラ、卽チ負擔力相當ナル課稅ヲシテ居ルト云フニ止マルノデアッテ、斷ジテ納稅者ニ對シテ苛酷ノ扱ヲ爲シテ居ラヌノミナラズ、納稅者ノ苦痛ヲ減ズルト云フ點ニ於テハ、政府ハ十分ノ努力ヲ拂ッテ參ッテ居ルノデアリマス、先日提案者ガ御說明ニナリマシテ、地租ヲ免ジテ居ルノデハナイカト云フコトヲ御引キニナッテ、地租ハ免除シテ居ルガ營業稅ノ免稅ヲシナイノハ不權衡デアルト云フ御說デアッタノデアル、併ナガラ御承知ノ如ク地租ハ法定地價ヲ標準トシテ課稅ヲ致シテ居ルノデアリマスカラ、土地ニシテ非常ニ利用ヲ害セラレタルモノガアリマス場合、其權衡ヲ得ルガ爲ニハ其甚シク利用ヲ害セラレタルモノニ對シテハ、免除ヲスルヨリ外ニ取扱ノ仕方ガナイノデアリマス、然ルニ營業稅ニ於キマシテハ、營業ノ狀態ヲ根據トシテ課稅ヲ致スノデアリマスカラ、伸縮自在決シテ之ヲ地租ト比較シテ論ズルコトハ出來マセヌカラ、地租ト權衡ヲ得ナイト云フ御說ハ、此營業稅ノ免除ヲ御論ジニナルニ對シテハ、決シテ當ラナイ說デアルト思フノデアリマス、此故ニ政府ハ十三年以後ニ於キマシテモ、營業稅ノ納稅者ニ對シテハ相當ノ斟酌ヲ施シ、苦痛ヲ減ズル程度ニ於テ、此納稅者ノ負擔力ヲ考ヘテ、相當ノ處置ヲスルト云フコトヲ言明ヲ致シテ居ルノデアリマスカラ、事實ニ於テ負擔力ヲ輕減セラレテ居ル、此以上營業稅ノ免稅ヲ行ハナケレバナラヌト云フコトニ付キマシテハ、政府ハ其理由ヲ發見スルニ苦シムノデアリマス、殊ニ諸君、此法案ハ十三年度カラ四年間免稅ヲスルト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、御承知ノ如ク十三年分ノ營業稅ハ既ニ徵收濟ニナッテ居ル、又大正十四年度ノ營業稅收入ノ豫算ハ既ニ本院ノ議決ヲ經テ、只今ハ此豫算ハ貴族院ニ廻ッテ居ルノデアル、此御提案ニナッタ法律ヲ如何ニシテ實行スルカト云フコトヲ、諸君ニ於テ十分御考慮ヲ願ヒタイ、又此法律ハ唯個人ノ營業稅ヲ免ゼヨト云フ御提案ノ趣意ニナッテ居ルノデアリマス、營業稅ガ苛酷デアルト云フ議論ヲ根據トシテ立案セラレタモノト致シマスレバ、法人ノ營業稅ヲ度外スルト云フコトハナイノデアリマス、之ガアルト申サナケレバナラヌ、斯ウ云フ點カラ考ヘマシテモ、本法ノ施行ハ將來ニ好キ影響ヲ齎スモノニアラズシテ、財政計畫ノ上カラ申シテモ亦一般ノ權衡論ノ問題カラ申シテモ、政府ト致シマシテハ此法律案ニ向ッテハ、如何ニシテモ一同意ヲスルコトハ出來ナイノデアリマス、簡單ニ不同意ノ點ヲ玆ニ表明致シテ置キマス

討論ニ入リ安藤正純君、平沼亮三君、川口義久君、横山勝太郎君、本田義成君ハ孰レモ贊成ノ演說ヲ爲ス

安藤正純君ノ贊成演說

一昨年ノ東京横濱ヲ中心ト致シマスル所ノ大震火災ハ、殆ド我國前古未曾有ノ大慘禍デアルコトハ言フマデモアリマセヌ、從來外國ニ於キマシテ隨分大キナ慘害ハアリマシタガ、其損害高ニ至リマスルト、未ダ一昨年ノ我國ノ大震火災程ノ損害高ニ上ッタコトハナイノデアリマス、之ガ爲ニ九月半バニ復興ノ御詔書ガ出マシテ、更ニ十一月ニハ精神復興ノ御詔書ヲラ御發布ニナッテ居ルノデアリマス、今日此大震火災ガアッテ既ニ一年半ニナリマシタガ、東京横濱邊リノ表通リノ家ハ大抵建チマシタ、併ナガラ其材料、其內容ハ實ニ貧弱極マルモノデアリマス、是等ノ店頭ニ陳列スル所ノ商品、表カラハ綺羅ビヤカニ見エマスケレドモ、是又震災前ニ比シマスルト、其商品ガ頗ル貧弱ナモノデアリマスル、而モ是等ハ皆借金ヲシテ、震災前ノ借金ハ拂ハナイデ、後カラハ非常ナ遣繰算段ヲシテ、漸ク玆ニ至ッテ居ルモノデアリマスカラ、東京横濱ヲ中心トスル所ノ此罹災地方ノ住民ノ窮狀ト云フモノハ、實ニ想像以上ニ達シテ居ルノデゴザイマス、而モ尙ホ東京、横濱ニハ、此際特別都市計畫、區劃整理ノ大事業ヲ行フ爲ニ、目下汲々トシテ居リマス、

特別都市計畫、區劃整理事業、是ハ帝都百年ノ大計デアリマスルカラ、私共ハ大ニ其速成ヲ望ムノデアリマスケレドモ、而モ其方法ガ甚ダ不完全デアリマシテ、活キタル市民ニ對スル遣方デハアリマセヌ、此ニ於テ今日マデ非常ニ問題ガ出テ居ルノデアッテ、而シテ此經濟復興ニ惱ンデ居ル所ノ住民ハ、建築スラ出來ナイ、本建築スラ出來ナイ、永久ノ計ヲ樹ツルコトガ出來ナイ、洵ニ人心ガ不安ニナッテ復興ノ志ハ之ガ爲ニモ沮喪セラレテ居ルヤウナ次第デアリマス、要スルニ今日ノ大震火災ノ罹災民ト云フモノハ、非常ナ窮迫、窮狀見ルニ堪ヘナイモノガアルノデアリマス、此非常ナル施設ヲ行フト云フコトハ、民情ヲ基礎トシ國民政治ヲ行ハントスル所ノ現內閣ノ如キ內閣ニ於テハ、最モ斯ウ云フ點ニ付テハ施設ヲ早ク行ハナケレバナラヌト思フノデアル、然ルニ之ニ對シマシテ政府ハ第四十九議會ニ於キマシテ、震災被害地ノ地租免除ニ關スル法律案ト云フモノヲ出シテ、議會ヲ通過シテ居リマス、地租ハ之ガ爲ニ五年間免稅サレテ居ル、營業稅ニ至ッテハ何等ノ恩典ヲ是ハ浴シテ居ナイノデアリマス、然ルニ言フ迄モナク地租ト營業稅トヲ比較致シマスレバ、地租ハ比較的國民ノ有產階級ノ納メル稅デアル、營業稅モ大キイモノハ有產階級デアリマセウガ、小サイモノニ至リマスト無產階級、若クハ無產階級ニ近イ階級ノ人ノ納メル稅デアリマスカラ、地租ダケニ免稅ヲシテ營業稅ヲ此儘ニシテ置クト云フコトハ、一方ノ上ノ階級ニ厚クシテ下ノ階級ニ薄イト云フ現內閣ノヤウナ國民內閣ノ取ルベキ仕事デハナカラウカト思フノデアル、此ニ於テ私共ハ屢政府ニ交涉モ致シマシタガ、遂ニ相談ガ纏ラズシテ、吾ゝ議員トシテ此法律案ヲ提出致シマシタヤウナ次第デゴザイマスガ、幸ニ委員會ニ於キマシテハ、委員長タル小池君一人ノ反對ダケデアリマシテ、當時出席ノ委員全會一致ヲ以テ非常ナル御同情アル贊成ヲ蒙ッタ次第デアリマス、然ルニ只今茲ニ早速大藏次官ガ御出ニナリマシテ、縷々之ニ對スル反對意見ヲ御述ニナリマシタ、能クスッカリ聽取レマセンデシタガ、地租ハ法定ノ地價ニ依テ課稅スルモノデアルカラ、地所ガ荒レテ居ルトキモ矢張法定ノ地價デ課稅ヲサレルカラ、之ニハ減免稅ト云フヤウナ事ヲ行ハナケレバナラヌ、營業稅ガ惡ケレバ惡イ所ノ其標準ニ從ッテヤルノデアルト云フヤウナ御話モアッタヤウデアリマス、併シ地租ハ既ニ

手加減デハナイノデアル、地租ノ方ハ今免稅ニナッテ居ルノデアルカラ、是ト權衡ヲ保ッ爲ニ營業稅モ亦免稅スルト云フコトガ當然デアルモノデハナイ、此間委員會ニ於キマシテモ、政府委員ハ斯ウ云フコトガ屢アッタ場合ニハ、又此法律ノヤウナ恩典ヲ蒙ラセナケレバナラヌ、サウ致シマスト國家ノ收入ニ非常ナル減收ヲ受ケルカラ困ルト云フヤウナ御話ガアッタノデアリマスガ、私共ハ一昨年ノ大震火災ノ如キ大キナ慘害ガ、又最近行ハレ來ッテ、之ガ爲ニ特別ノ施設ヲナサナケレバナラヌト云フヤウナコトハ、近イ內ニハナカラウト信ジテ居ルノデアリマス、併シ人間ノ世界ノ事デアルカラ、ドウ云フ事ガアルカモ知レナイ、アッタ場合ニハ是ハ又非常ナ場合デアルカラシテ、已ムヲ得ナイ事ト思フノデゴザイマス、一ッ茲ニ申上ゲタイ事ハ、地租ハ其儘免稅ヲシテ營業稅ノ方ハ斟酌ヲ行ッテ居ルト云フヤウナ政府委員ノ御話デアリマスルガ、斟酌ヲ行ッテ下サルコトハ、此政府ガ民情ヲ御察シニナッテ、斟酌手心ヲ行ッテ下サルコトニハ感激ヲ致スノデアリマスルガ、併シ中央政府ノ命令必ズシモ地方官憲ニ徹底ヲ致サナイノデアリマス、之ガ爲ニ從來中央政府ノ殊ニ納稅ナドノ關係ニ付キマシテハ、地方ノ收稅吏ガ中央政府ノ命令ニ反シテ、隨分苛斂誅求ヲ行ヒ、又行ヒツヽアルコトハ今日其例ニ甚ダ乏シクナイノデアリマスルカラ、茲ニ斯カル斟酌手心ト云フコトモ是ハ有難イ事デアルガ、左樣ナ斟酌手心デナク、確然ト法律ニ之ヲ決メテ戴イテ、此罹災民ニ安心ヲ與ヘテ、一日モ早ク其復興ヲ圖ラシメルト云フコトガ、寧ロ今日ノ政府ノ施設スベキ事デアラウト私ハ存ズル次第デアリマス、殊ニ大正十二年ノアノ大震火災ガアリマシタトキニ、時ノ山本內閣ハ大正十二年度ノ上半期ノ營業稅ヲ免除ヲ致シタノデアリマス、官僚內閣デアル超然內閣デアルト云フ所ノ其山本內閣デスラ、此恩典ヲ國民ニ施シタノデアル、今ノ內閣ハ吾ゝガ支持シテ居ル所ノ國民的ノ內閣デアル、官僚內閣デスラ是ダケナ事ヲヤッタノデアリマスルカラ、此內閣ガ益國民的ノ本分ヲ發揮セシメンガ爲ニ、私ハ斯ウ云フ政治ヲ行ッテ貰ヒタイト云フコトヲ茲ニ思フノデアリマス、此法律案ハ斯ノ如クニシテ、委員會ヲ通過致シテ居ルノデアリマスルカラ、政府ハ宜シク御再考ヲ下サイマシテ、政府ノ御考ニナル所モ色ゝ理由ガアルト云フコトハ勿論御察

シヲシテ居リマス、又之ガ爲ニ減收ニナルト云ヒマスルガ、其減收ノ額ハ百八十萬乃至二百萬圓デアリマス、今日二百萬圓ト雖モ今日ノ國家ノ財政ノ上デハ、勘カラヌ金デアルト政府ハ御解釋ニナルノデアル、又私共モサウ一面カラハ感ジマスルガ、併シ今日此二百萬圓ヲ失フ所ハ、他日之ガ倍ニナリ三倍ニナリ、返ッテ來ル所ノ源ヲ涵養スル爲デアリマスルカラ、願ハクハ政府ハ此御斟酌ヲ爲サル手加減ヲシテ下サルト云フ、十分罹災民ニ今日御同情ノアル仕事ヲ爲スッテ御在ニナルノデアリマスルカラ、此御同情ヲモウ一歩進メテ、吾々ノ主張ノヤウニ之ヲ法律的ニシテ、モウ一歩嚴格ニ明ニ表現ヲシテ戴キタイト云フノガ私共ノ意見デアリ、且ツ御願デアルノデアリマス、茲ニ此法律案ノ委員長ノ報告ニ對シマシテ贊成ノ意見ヲ陳述致シタ次第デアリマス

平沼亮三君ノ贊成演說

私モ只今ノ法律案ニ贊成致シマスル一人デアリマス、實ハ此法律案ハ、先程ノ委員長ノ報告ニモゴザイマシタ通リ、又安藤君ノ御說明ヲ聽キマシテモ、委員長ノ小池君ヲ除イテ滿場一致デ決ッタト云フコトデゴザイマシタ、其委員長ノ報告ニ同情アル報告ニ依テ見マスルト、殆ド此案ハ一人ノ反對ナク此所ヲ通過スルト私ハ信ジテ居ッタノデアリマス、隨ヒマシテ此ニ於キマシテ私共ガ贊成意見ナドヲ述ベル必要ハナイト思ッテ居マシタガ、只今政府委員カラ反對ノ意見ガゴザイマシタ、勿論是ハ政府ト致シマシテハ一通リノ反對意見ヲ御述ベニナルノハ是ハ當リ前ノ事ト思フノデゴザイマス、丁度卑近ナ例デ恐入リマスガ、子供ガ外ヘ出テ或ル怪我ヲシテ、ソレガ家ヘ歸ッテ、サウシテ其父ハ怪我ヲシタノヲ叱ッタガオ前ハ强イト言ッタノヲ、慈母ガ之ヲ大事ニシタノト同ジヤウナ事デ、父ハソレヲ見マシテ却テ慈母ノ扱ッタコトヲ喜ンデ居ルダラウト思フノデアリマス、是ハ問題ハ非常ニ小サイノデゴザイマスルガ、之ヲ受ケマス者ハ殆ド關東ノ數百萬人ノ者ガ之ニ依テ助カルノデアリマス、單ニ是ガ京濱間バカリノ問題デハアリマセヌ、東ハ千葉縣方面ヨリ、神奈川縣ハ横須賀、小田原方面ニ至ルマデ、此問題ヲ以テ助カルモノハ非常ナモノデゴザイマス、ドウゾ滿場ノ諸君ニ於カレマシテモ御一致此法律案ニ御贊成アランコトヲ希望致シマス

川口義久君ノ贊成演說

私ハ只今上程致サレマシタル震災被害地ノ營業稅免除ニ關スル法律案ハ、震災地營業者幾百萬ノ浮沈消長ニ關スル重大ナル問題ト信ジマスルガ故ニ、本案ノ趣旨ニ贊成ノ意見ヲ表示シテ見タイト思ヒマス、贊成意見ヲ述ブル前ニ、本案ノ遺憾ナ點ハ個人營業者ノミニ限ッテ、小資本デアッテモ法人ヲ除外シテ居ル事デアリマス、此點ハ痛快ニモ政府當局早速次官ノ遺憾トシテ居ラル、所デアリマス、不徹底ナリト大藏次官ハ今此壇上ヨリ申サレマシタ、若シ不徹底デアルナラバ何故徹底スルヤウニ、法人ヲ入レルヤウニ考慮ヲナサラヌノデアリマスルカ、震災被害地ノ慘狀竝ニ之ニ伴フ所ノ經濟上ノ窮狀等ニ付キマシテハ、茲ニ改メテ私ガ述ブル必要ガナイホド明白又激甚ノモノデアリマス、震災被害者ニ對シテハ滿腔ノ同情ヲ表スル者デアリマス、是ヨリ二三贊成ノ理由ヲ極ク簡單ニ述ベテ見マス、營業稅法第二十一條ニ依リマスルト、新規開業等ニ付テハ、マダ營業上ノ收益ヲ得ルコトノ出來ナイ者ニ對シテハ、或ル期間ヲ定メ稅金徵收ヲ爲サヌノデアリマス、卽チ新タニ營業ヲ開始シタ者ハ開業ノ翌年カラ徵收ヲ致ス、又或種ノ營業ニ付テハ、開業ノ翌年ヨリ三箇年間ハ營業稅ハ徵收ヲシナイノデアリマス、是ハ新規開業者ニ收益ノ少イコトヲ豫想シ、營業ノ基礎ヲ確立セシムル爲ニ、營業ヲ開始シタル其年、或ハ三箇年間徵收シナイノデアリマスル、罹災者タル營業者ハ是等通常ノ場合ニ於ケル所ノ新規開業者ヨリモ、尙ホ幾多ノ經濟上ノ困難アルコトハ想像ニ難クナイノデアリマス、卽チ彼等營業ノ基礎ハ今日ニ於テハ此震災ニ依テ根柢ヨリ破壞サレテ居ルモノデアリマス、震災地營業者ニ根柢ヨリ破壞サレテ居ルモノデアリマス、震災地營業者ニ本案ノ如ク五年間營業稅ヲ免除スルト云フコトハ、營業稅法第二十一條ノ趣旨カラ之ヲ見マシテモ條理ニ適ッタ事デアルト信ズルノデアリマス、第二ニ營業稅ハ御承知ノ通リ營業行爲其物ニ關スル所ノ所謂行爲稅デアリマシテ、營業カラ生ズル利益ノ有無ニ關シナイモノデアリマス、是ガ故ニ此點ガ營業稅ヲ稱シテ惡稅ナリト云フ所以デアリマス、是ガ爲ニ憲政會ニ於

テハ多年營業稅ハ惡稅ナリ、之ヲ廢止セザルベカラズト唱ヘテ居ッタノデアリマス、殊ニ早速大藏次官ノ如キハ曾テ此壇上ヨリ營業稅廢止ヲ論ゼラレマシタ事モアル人デアリマス、既ニ通常ノ場合ニ於テ惡稅デアル、此營業稅ハ罹災者ニ取ッテハ惡稅ヲ超エテ極惡ノ稅トナッテ居ルノデアリマス、既ニ惡稅デアッテ之ヲ廢スベキモノデアルト云フ極惡ノ稅、「ウオーストタックス」トナッタ場合ニ、之ヲ何故ニ免除シテヤラナイノデアリマスルカ、現内閣ハ在野當時ニ唱ヘタ政策、一タビ朝ニ立ッテ之ヲ行フコトガ出來ナイ場合ニ於テハ、常ニ無キ袖ハ振ラレヌト言フ、無イノハ袖デナクテ誠意ガ無イカラデアル、併ナガラ羊頭ヲ掲ゲテ狗肉ヲ賣ルト云フ、世間ニハ羊頭ヲ掲ゲテ狗肉スラ賣ラナイ憲政會ノ今ノ内閣ハ、何デアルカ、大藏大臣、大藏次官、在野當時ニ掲ゲタ所ノ此羊頭ヲ――狗肉サヘモ賣ッテ買ッテ居ラヌデハナイカ、大震災ニ對シテハ曾テ國際的、世界的ノ同情ヲ吾吾ハ受ケタノデアリマス、本案ニ對シテハ願クハ政黨政派ヲ超越シテ滿場一致ヲ以テ御贊成ヲ乞ヒタイノデアリマス、是レ諸君ノ有スル人類愛、同胞愛ノ發露デアルトシテ、ドウゾ御贊成ヲ乞フ次第デアリマス

横山勝太郎君ノ贊成演說

時間モ切迫致シテ居リマスル場合、吾ゝガ贊成ノ演說ヲセネバナラヌト云フコトハ洵ニ遺憾至極ノ事デアリマス、洵ニ諸君ニ對シテハ恐縮ノ次第デアリマスルガ、ドウカ關東ニ於ケル罹災民ノ聲ヲ暫時ノ間聽イテ戴キタイト考ヘマス、政府ハ此壇上ニ立タレテ反對ノ意思ヲ聲明セラレマシタガ、其事柄ハ委員會ニ於テ御述ベニナッタ事柄ト同樣デアリマス、此政府ノ反對ヲセラレマスル理由ハ、今後ニ於テ斯ノ如キ災害ノ起リシ場合ニ、災害地カラ國稅ノ減免ナドト云フヤウナコトヲ申出ル者ガアッテハ其煩ニ堪ヘザルガ故ニ、本案ノ如キモノニハ贊成ヲスルコトガ出來ナイト云フコトヲ述ベラレテ居リマス、此點ハ安藤君カラモ今駁論ガアリマシタガ、今回ノ震火災ノ如キ前古未曾有ノ災害ハ、今後ニ於テ有ルカ無イカハ吾ゝハ想像スルコトハ出來ナイト考ヘルノデアリマスルカ、五十年ニシテアルカ、想像ノ付カナイヤウナ災害ノアルコトヲ豫想シテ、本案ニ政府ガ反對ヲセラルヽト云フ事柄ハ、如何ニモ不人情千萬デアルト私ハ考ヘル、諸君、試ミニ一昨年ノ震火災ノ損害ノ程度及其ノ範圍ヲ御一瞥ヲ願ヒタイト思ヒマス、人命ヲ失フコト十有餘萬、財產ヲ失フコト實ニ百億ニ達シテ居ルノデアリマス、而シテ其範圍ハ東京、橫濱ヲ中心トシテ、橫須賀、小田原、箱根方面ノ慘害ニ至ッテハ、洵ニ吾ゝハ正視スルコトガ出來ナイ、全ク涙ヲ以テ之ヲ見テ居ルノデアリマス、而シテ東京、橫濱、橫須賀、小田原、箱根方面ノ被害ガ、ドノ程度迄復舊シテ居ルカト云フコトハ、安藤君カラモ詳細ニ御述ベニナリマシタガ、吾ゝノ見ル所ヲ以テスレバ全然復舊シテ居リマセヌ、全然復興致シテ居リマセヌ、僅ニ粗惡ナル材料ヲ以テ、親戚、故舊ヨリ借金ヲ致シテ、殆ド原始時代ノヤウナ生活ヲ致シテ居ルト云フコトハ、滿堂ノ諸君御承知ノ通リデアリマス、而シテ震災害地――殊ニ帝都ノ不安ト云フコトハ今日其極ニ達シテ居ルト考ヘマス、連日五十軒、六十軒、ト云フヤウナ「バラック」ノ火災ガアルト云フコトハ、新聞紙ニ依テ連日報道セラレテアリマス、惡疫ハ依然トシテ流行シテ居リマス、犯罪者ハ非常ニ增加シテ居リマス、殊ニ震災地――殊ニ帝都ニ於ケル失業者ノ數ニ至ッテハ、正確ナル事ハ分リマセヌケレドモ、恐ラク十萬、十五萬人ニ達シテ居ルト思ヒマス、斯ノ如ク火災ガ起リ、惡疫ガ流行シ、失業者ガ增加シ、犯罪ガ增加スルト云フコトハ、取モ直サズ帝都ノ不安デアルト云フコトヲ私ハ斷言シマス、其不安ヲ除カントスレバ、有形的ノ設備ト致シテハ警察或ハ軍隊ノ力ヲ藉リルノ必要ガアルデアリマセウ、一面ニ於テハ經濟的ノ復興ヲ爲サナケレバ、此ノ帝都ノ不安ト云フモノヲ除クコトハ斷ジテ出來ナイノデアリマス、諸君、吾ゝハ正確ナル數字ヲ持チマセヌガ、東京ノミニシテモ「バラック」ノ所謂假設建設物ノ坪數ハ約三百五十萬坪ニ達シテ居ルト考ヘマス、是ガ爲ニ罹災民ノ費シテ居ル金額ハ三億乃至三億五千萬圓ニ達シテ居ルコトハ、大體想像ガ出來ルノデアリマス、此三億乃至三億五千萬ト云フ莫大ナル金錢ハ、悉ク是レ「バラック」ノ爲ニ商工業者ノ資本ガ固定ヲ致シテ居ルノデアル、財產ノ乏シキ者ハ借金ヲ致シ、多少餘裕ノ有ル者ハ流動資本ヲ家屋ノ爲ニ固定セシメテ居ルト云フ目下ノ現狀デアリマス、假設建設物ノ爲ニ固定シタル數億圓ノ財產ト云フモノガ、コヽ二年ヤ五年デ

收ガ出來ルト云フコトハ吾々ハ到底之ヲ想像スルコトガ出來ナイノデアリマス、此故ニ政府ハ第四十九議會ニ於テ地租ノ免稅案ヲ出シテ居リマス、此法律ノ精神ハ委員會ニ於キマシテモ多少議論ガアッタノデアリマスガ、地租ヲ免除スルコトニ依テ借地ヲ致シテ居ル者、借家ヲ致シテ居ル者ヲ救濟スルト云フ事柄デアッタノデアリマス、然ルニ此地租免除ニ關スル法律實行ノ結果ハドウデアルカト申シマスルト、地主ハ震災當時其善良ナル者ニアッテ僅ニ一箇月カ二箇月ノ地代ヲ免除致シマシタ、而シテ大部分ノ地主ト云フ者ハ震災前ヨリモ地代ヲ引上ゲテ居ルノデアリマス、或ハ權利金ヲ取ッテ居ルノデアリマス、或ハ敷金ヲ取ッテ居ルノデアリマス、此前古未曾有ノ震災ハ單ニ關東六百萬人ノ住民ノ被害ニアラズシテ、實ニ我ガ大日本帝國ノ大損害デアッタノデアリマス、而シテ此大ナル損害ヲ受ケル者ガ澤山アル今日ニ於テ、有產階級ニ屬スル地主ハ此震災ニ依テ却テ其財產ヲ增加スルト云フ狀態ニナッテ居ルノデアル、此故ニ吾々震災地ノ住民ガ有產階級ノ側ノ地租ヲ免除スルナラバ、吾々小資本ヲ以テ營業ヲ致シテ居ル所ノ商工業者ノ營業ノ稅ヲモ何トカ緩和ヲシテ貰ヒタイト云フノハ、最モ道理ノアル要求デアルト私ハ考ヘマス、然ルニ政府ガ謂ハレナキ理由ヲ根據ト致シマシテ、此正義ノ要求デアル、人道ノ要求デアル所ノ此法律案ニ向ッテ反對ヲセラレルト云フ事柄ハ、如何ニモ薄情、無情、冷酷デアルト私ハ斷言シテ憚リマセヌ、今罹災民ニ媚ビルナト云フヤウナ甚ダ面白カラザル批評ヲ爲サル人ガアリマシタガ、吾々ハ罹災民ヲ救フコトガ出來ナイノデアルズンバ罹災民ヲ救フコトガ出來ナイノデアル、吾々ノ側カラ申シマスレバ、有產階級ノ側ニ寧ロ媚ビルモノデアルト思ヒマス、吾々ハ此場合多クノ議論ヲ致シマセヌ、諸君夕刻ニ僅カノ時間ノ餘裕ガアリマシタナラバ、電車ヲ利用スルナリ、或ハ自動車ヲ利用シテ東京市全體ノ狀態ヲ一ツ御觀察ヲ願ヒタイノデアリマス、銀座或ハ其他目拔ノ場所ニ於キマシテハ、外觀上甚ダ美麗ナルガ如キ建造物ガ出來テ居リマスケレドモ、足一タビ裏通リニ及ビ、路次ニ及ビマシタナラバ、其生活ノ貧弱ナル、內容ノ貧弱ナル、洵ニ憐ムベキ狀態ニ在ルノデアリマス、斯ノ如キ次第デアリマスルカラシテ、政府ガ帝都ノ不安ヲ除キ、帝都ヲ復舊セシメ、帝都ヲ復興セシムルノ意思ガアルナラバ、此僅ニ百五十萬圓カ百六十萬圓ノ收入ヲ忍耐ヲセラレテ、此案ニ御同意ニナルコトハ至當ノ事デアルト思ヒマス、吾々ハ諸君ノ面前ニ議論ヲ致シマセヌ、私ハ寧ロ哀願ヲスルノデアリマス、吾々ハ帝都ノ罹災民ガ此國稅ノ免除ニ付テ如何ナル運動ヲ致シテ居ルカト云フ事柄ハ、新聞紙等ニ依テ諸君ハ御承知デアリマセウガ、今回ノ議會ニ罹災民ヨリシテ國稅減免ノ請願ヲ致シタル者ガ、實ニ殆ド三萬六千人ノ多キニ達シテ居ルト云フ事柄ハ、是ハ政治家トシテ願ミネバナラヌト私ハ考ヘマス、三萬六千人ノ多數ノ者ガ帝國議會ニ向ッテ此國稅ヲ減免セヨト叫ブ此要求、此聲ヲ諸君ハ何ト御覽ニナッタカ、而シテ是等罹災民ノ委員トシテ働イテ居リマス數千人ノ人ハ、去ヌル三月一日明治神宮ニ至ッテ國稅減免ノ目的ヲ達スルヤウニ致シタイト云フ祈願ヲ籠メテ居ル事實ヲ、諸君ハ之ヲ何ト御觀察ニナリマスカ、實ニ帝都罹災民ハ明治神宮ニ至ッテ此衷情ヲ訴ヘルト云フ、其窮情ニ對シテ同情ヲセザル者ハ天下一人モ居ナイト云フコトヲ斷言シテ憚リマセヌ、政府ハ委員會ニ於キマシテモ、本會ニ於キマシテモ反對ニナリマスルガ、ドウカ罹災地ノ現狀ヲ仔細ニ御點檢ニ相成リマシテ、罹災民ガ如何ナル生活ヲ致シテ居ルカ、如何ナル營業ノ狀態デアルカト云フ コトヲ御調査ニナリマシタナラバ、恐ラク此案ニ雙手ヲ擧ゲテ御贊成ニナルデアラウト私ハ信ズル者デアリマス、吾々ハ賢明ナル帝國議會ノ選良諸君ニ對シテ、諸君ニ此窮狀ヲ愬ヘテ此難局ヲ救ウテ戴キタイト云フノガ、吾々ノ希望デアルコトヲ述ベマシテ、此壇ヲ降ル次第デアリマス、本員ハ是非皆樣ニ御願ヲシタイト申上ゲタイ者デアリマス、此東京ノ震災ニ關シテ日本全國ノ御同情ハ、東京市民トシテ衷心カラ感謝シテ居ルノデアリマス、然レドモ未ダ東京ノ此恢復ハ緖ニ著カナイノデアリマス、各營業者ハ塗炭ノ苦ミヲシテ居ルノデアリマス、ドウゾ此機會ニ於キマシテ東京ノ市民、否ナ關東ノ罹災民ニ、十分ノ御同情ヲ願ッテ、本案ノ滿場一致ヲ以テ通過アランコトヲ願フ次第デアリマス、ドウゾ國民ノ代表者トサレタ所ノ皆樣ニ於キマシテハ、隨分利害關係モゴザイマセウガ、實際東京ノ現狀ニ鑑ミテ十分御同情アランコトヲ願ヒマス

他ニ通告者ナク討論ハ茲ニ終局ス次テ採決ノ方法ニ付木檜三四郎君ヨリ定規ノ贊成ヲ得テ無名投票ノ要求アリ之ニ對シ他ヨリ記名投票ノ要求アリタルニ依リ議長ハ其ノ何レニ依ルヘキカヲ記名投票ヲ以テ表決ノ結果四十九ニ對スル二百二十ノ多數ヲ以テ記名投票ヲ以テ爲スコトニ決ス仍テ記名投票ニ依リ表決ノ結果五十六ニ對スル二百十ノ多數ヲ以テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決確定シ卽日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十九日否決シ卽日其ノ旨ヲ本院ニ通知セリ

一九　議院法中改正法律案

議院法中左ノ通改正ス

第十九條ノ二　各議院ノ議長副議長及議員ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ無賃ニテ國有鐵道ニ乘車スルコトヲ得

附則

本法ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十四年二月二十三日平野光雄君外十一名之ヲ提出ス二月二十六日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者（平野光雄君）ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、私ハ只今議題ニナリマシタ案件ニ付キマシテ、聊カ提案ノ理由ヲ申述ベタイト思ヒマス、議案ノ內容ニ付キマシテハ、既ニ諸君ノ御手許ニ配付サレタル文書ニ依テ明デアリマス、縱シ此文書ガ無クトモ、既ニ諸君ニ於テ御承知ノ所、今更申述ベル必要モアリマセヌガ、事苟モ議院法ノ改正デアリマス、鄭重ニ取扱フ必要カラ物ノ順序トシテ、一應改正ノ要點ダケヲ申上ゲテ置キマス、現行ノ議院法中ノ第十九條ノ次ニ其第二トシマシテ、卽チ「第十九條ノ二、各議院ノ議長副議長及議員ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ無賃ニテ國有鐵道ニ乘車スルコトヲ得」「附則、本法ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス」ト云フノデアリマス、議院法ノ如キ憲法附屬ノ重要ナル法律ニハ、手ヲ著ケルト云フコトハ餘リ望マシイ事デハアリマセヌ、相成ベクハ之ヲ避ケタカッタノデアリマスルガ、併シ貴衆兩院ヲ通ズル、所謂立法府ノ此組織スル所ノ吾ミ兩院議員ノ權能及職責、而シテ之ニ伴フ所吾ミノ特殊ノ地位及待遇ト云フモノヲ明確ニスルモノハ、憲法以外ニハ此議院法ヨリ外ニ無イノデアリマス、世間或ハ今回ノ改正ヲ以テ、吾ミ議員ノ得手勝手ナ改正デアル、又徒ニ己ノ爲ニノミ圖ル所ノ所謂御手盛案ダト難ゼラレル方ガアルカモ知レヌ、併シ是ハ爾カ思フ人ノ誤リデアリ、爾カ難ズル人ノ間違ヒデアリマス、何トナレバ今日吾ミガ持ッテ居ル所ノ乘車券ナル物ハ、決シテ政府ノ恩惠的ノモノデハアリマセヌ、寧ロ吾ミノ職責上當然必要ナル物トシテ彼ノ國有鐵道以來、而モ當初吾ミ議員ニ附與サレタル所ノ一ツノ既得權デアリマス、當時國有鐵道ノ當議場ヲ通過シタ際、是ガ前後ニ於テ當衆議院ト政府トノ間ニ往復サレタル所ノ書面、及只今當時ノソレ〴〵所屬黨派ノ院內幹事トシテ其衝ニ當ラレタル所ノ野田、安達、兩先輩ノ言ニ依リマシテモ、今申述ベタ通リ吾ミノ特殊ノ地位ヲ認メテ政府ガ優遇ヲスルト云フコトハ明デアリマス、私ハ參考ノ爲ニ當時ノ往復文書ノ一部ヲ朗讀シマス「拜啓陳ハ帝國議會議員優待ノ趣旨ヲ以テ官設鐵道無賃乘車證別封御手許迄差出候間御配付方可然御取計被下度御依賴仕候敬具、明治三十九年三月三十一日、鐵道作業局長官平井晴二郎、衆議院書記官長林田龜太郎殿」斯ウ云フ書類ガ參ッテ居リマス、此文書ニ依リマシテモ、帝國議會議員優待ノ趣旨ト云フコトハモウ明確デアリマス、尙ホ此外ニ此アトデ當時ハ貴衆兩院議員ト共ニ兩書記官長ヘモ「パッ

ス」ヲ吳レタノデアリマス、其時ニ衆議院ノ事務局カラシテ、更ニ書記官ニモ與ヘテ吳レロト云フノ要求ヲシマシタ、之ニ對スル政府ノ回答ガアリマス「本月二十三日衆庶第一〇號ヲ以テ御申越ノ趣了承今回鐵道乘車證ヲ交付致シタルハ如御承知特ニ貴衆兩院議員及兩院書記官長ニノミ限リタル次第ニ有之候條乍遺憾難應御來意右御諒知相成度此段御答申上候、明治三十九年四月二十四日、遞信次官仲小路廉、衆議院書記官長林田龜太郎殿」トアリマス、之ヲ以テ見テモ今日交付サレテ居ル所ノ乘車券ナルモノハ、吾ミ貴衆兩院議員ノ特殊ノ地位ヲ認メテ之ニノミ與ヘラレ、外ニハ與ヘナイ、唯兩院書記官長ハアレハヘタモノデアル、當時ハ貴衆兩院議員以外ニハ斷ジテ出シテナカッタノデアリマス、是ハ畢竟ルニ政府モ亦貴衆兩院ヲ尊重シ、敬意ヲ拂フ、此意味ニ於テ所謂必要缺クベカラザルモノト云フ折紙附デ以テ渡サレタノデアリマス、私ハ之ヲ敢テ立憲治下ノ御璽付ト言ハフト思フ、吾ミノ既得權デアル、特權デアル、然ルニ其後內閣ノ更ハル毎ニ情實ニ情實、因緣又因緣、濫發ニ濫發ヲ重ネテ來タト云フコトハ、皆樣既ニ御承知ノ通リデアリマス、最初ハ貴衆兩院議員ダケ、僅ニ兩院ノ書記官長ヲ之ニ附シテ限ラレテ居ッタ、ソレガ內閣ノ更ハルト共ニ濫發ヲ重ネテ、或ハ親任官、或ハ地方官、或ハ顧問官、中ニハ是ハ尤モ鐵道ノ業務上ノ所謂商略カラ出タノデアリマセウガ、全國多數ノ運送業者ニモ與ヘテアル、マダ其運送業者ハ宜イガ、或ハ政黨ノ出入者ト云フ緣故、中ニハ其省ノ長官ノ單ナル緣故ノ爲ニ渡サレタモノガアル、斯ノ如ク鐵道從業員ノミナラズ、洵ニ單ナル些々タル緣故情實ヲ以テ濫發シタルモノガ夥シイ數ニ上ッテ居ル、一時ハ其數四萬カラニ上ッテ居ル、此內閣ノ成立當時、卽チ昨年ノ七月頃ニ於ケル所ノ「パッス」發行數ト云フモノハ、實ニ三萬一千ノ多キニ上ッテ居リマス、最初限ラレタル範圍ニ於テ渡サレタルモノガ情實ノ爲ニ三萬何千枚、是デハ何トシテモ整理ヲセザルヲ得ナイ、特ニ行政整理ヲ現內閣ガ標榜スル以上、ドウシテモ此「パッス」ノ整理ト云フコトハ已ムヲ得ザル所、流石ニ我ガ仙石鐵相之ヲ英斷サレタト云フコトハ、吾ミハ賞シテ餘リアルコト、思フノデアリマス、併シ此斧持ッ手ニ狂ッタ譯デモアルマイガ、枝葉ヲ枯スト共ニ、吾ミノ既得權タル其根幹ニマデ及ンダト云フコトハ、

私ハ甚ダ之ヲ遺憾トシマス、併シ是ハ仙石鐵相ノ考カラ云ヘバ、苟モ運送店ナリ或ハ從來ノ緣故者ニ與ヘテ居ッタ「パッス」ヲ取上ゲル以上ハ、比較的吾ミト親ミノアリ、吾ミト接近シテ居ル貴衆兩院議員ノ「パッス」ヲ取上ゲレバ、自然他ノ運送店其他モ苦情ガ起ルマイ、斯ウ云フ整理上ノ都合カラシテ、已ムヲ得ザル吾ミノ「パッス」ニマデ及ンダ、所謂泣イテ馬稷ヲ斬ル仙石鐵相ノ心事、亦諒トスベキ點モアラウト思フ、若シ嚴密ニ申シマスレバ、行政權ノ行使ト云フコトハ、例ヘバ特定人ニ對シテ或ル權利ヲ與ヘ、或ル特權ヲ設定シ、又ハ之ヲ免除スルト云フコトハ、法律ノ明文ニ依ラザルヲ得ナイノデアリマス、從來ノ鐵道省ガ其行政權ノ範圍ヲ超越シテ、濫リニ「パッス」ヲ發行シテ居ッタト云フコトハ、是ハ嚴密ニ言ヘバ私ハ違法ダト思フ、唯從來ノ仕來リニ依テ鐵道大臣、其長官ノ自由裁量ニ依テ行ハレテ來タノデアル、斯ウ云フ行政整理ノ際ニハ願クハ法規ニ依テ、嚴密ニ之ヲ規定シ制限スルト云フコトガ、私ハ將來ニ亙ル一番ノ良イ一ノ方法デアルト思フ、勿論吾ミノ間ニモ此點ニ付テハ色ミ議論ガアッタ、或ハ列擧シテ「パッス」發行ノ數ヲ——範圍ヲ限定シテ置カウ、斯ウ云フ議論モアリマシタガ、併シソレハ果シテ立法府トシテ今日ヤルベキ事デアルカドウカ、唯一番初メノ生立チガ、貴衆兩院議員ニノミ乘車券ヲ與ヘルト云フコトガ初メデアッタノデアルカラ、其元ニ還ッテ吾ミ貴衆兩院議員ノ當時ノ既得權、當時ノ優待ノ意味ヲ明ニシテ置クコトガ一番宜クハナイカ、斯ウ云フ見解カラシテ、吾ミハ今回ハ特ニ貴衆兩院議員ニダケ限ッテ、乘車券ヲ從來ノ如ク發行セシメル、アトノ或ハ新聞通信社、其他鐵道ノ必要ニ應ジ、鐵道當局自ラ法規ヲ作リ、而シテ吾ミノ協贊ヲ經ルト云フコトガ一番安全ノ途デハナイカ、是ガ、鐵道當局ノ當然執ルベキ途デハナイカ、此意味ニ於テ鐵道吾ミハ今日貴衆兩院議員ダケニ乘車券ヲ交付セヨ、吾ミノ既得權ヲ尊重セヨ、此意味ニ於テ敢テ議院法ニ手ヲ著ケ、議院法ノ一部ニ改正ヲ加ヘテ、吾ミノ共同ノ面目ノ爲ニ私ハ此案ヲ提出シタ所以デアリマス、各國憲法ニ於テモ——先進各國ノ事例ヲ調ベマスノニ、獨逸及普魯西ノ如キ、若クハ波蘭ノ如キハ憲法ニマデ規定シテアリマス、尙ホ佛蘭西ト云ハズ、英國ト云ハズ、丁抹、其

院ノ諸君モ、大多數ヲ以テ本案ニ御贊成アランコトヲ希望致シマス

右ニ對シ武藤山治君ハ質疑ヲ爲シ平野光雄君之ニ應答ス

武藤山治君ノ質疑

只今本案提出ニ付テ御說明ニナリマシタ理由ニ付キマシテハ、私ハ一應御尤ト考ヘル者デアリマス、併ナガラ玆ニ本案ニ對シ私ノ見ル所ヲ申上ゲ、提出者諸君ノ御考慮ヲ仰ギ、且ツ御說明ヲ願ヒタイト考ヘマスルノハ他ノ點ニ在ルノデアリマス、本案ノ目的タル無賃乘車券ノ廢止ハ、財政行政整理ノ結果デアリマシテ、單リ議員ノ人ニ向ッテ之ヲ廢止サレタノミナラズ、總テノ人ニ向ッテ之ヲ廢止サレタノデアリマス、然ルニ玆ニ議員タル者ハ國家ヨリ優遇ヲ受ケル所ノ特權ガアリ、理由ガアルトシテ、政府ガ財政行政整理ノ結果廢止サレタモノヲ、玆ニ其特權ヲ利用シテ其乘車券ヲ得ンコトヲ吾ニハ企ルヨリモ暫ク忍ンデ他日財政行政整理ノ完成ヲ待ッコト、シテ、吾ニハ斯ル權利ヲ有スルニモ拘ラズ、忍ンデ此行政財政整理ノ結果廢止サレタ所ノ無賃乘車券ヲ受ケヌヤウニ、模範的ノ行動ヲ天下ニ示シテ、尙ホ一層政府ニ向ッテ財政ノ緊縮ヲ求メルト云フコトガ、議員當然ノ私ハ義務デナイカト思フノデアリマス、諸君、先頃米國ノ大統領ハ議會ヘ敎書ヲ送ッテ、尙ホ一層國費緊縮ノ必要ヲ說キ、自ラ大統領ハ旅行ヲスル時ニハ特別列車ヲ發スル所ノ特權ヲ有スルニ拘ラズ、普通列車ニ乘ルト云フコトニ定メラレタト、先頃市俄古マデ往復サレタ時ニ、普通ノ「プールマンカー」デ往復サレタノデアリマス、斯ノ如ク特權アル者ガ特權ヲ利用セズシテ、自ラ忍ンデコソ始メテ私ハ特權ヲ有スル者ガ社會ヨリ尊敬ヲ受ケルコトガ出來ヤウト思フノデアリマス、故ニ私ガ諸君ニ御考慮ヲ願ヒ、且ツ私ハ提案者ニ御說明ヲ願ヒタイノハ、今日吾ニハ政府ニ向ッテ財政緊縮ヲ求メ、政府ハ吾ニノ希望ヲ容レテ、孜々トシテ之ニ盡力セラレテ居ル際デアリマスルガ故ニ、此提案ヲ暫ク御遠慮ニナルト云フコトハ如何デアリマセウカ、私ハ伺ヒタイノデアリマス、昨年七月十二日ニ私ガ議院法中改正法律案ヲ提出シマシタ時ニ、繼續委員ノ手當ガ明治二十三年ニ定メラ

他各國共ニ、其會期ノ長短其他ニ制限等ハアリマスルガ、各國共ニ皆議員ヲ優待スル意味ニ於テ、乘車券ヲ發行シ、自由乘車ヲ許スト云フコトハ皆其軌ヲ一ニシテ居リマス、唯米國ダケハ御承知ノ通リ國有鐵道ガ無イ、隨テ此規定ハ無イガ、併シ實際上米國ノ私設會社ト云フモノハ——鐵道會社ト云フモノハ、或ハ優待ノ意味ヲ以テ自由乘車ヲ許シテ居ル、吾ニハ己ヲ論ズルニ必シモ他ヲ引用スル必要ハナイガ、併シ各國ノ法規ハ立法府ノ權限ノ上カラ、立法府ノ特殊ノ地位ヲ認メテ之ヲ優待シ、之ニ對シテ特殊ノ待遇ヲ與ヘテ居ルト云フコトハ認メザルヲ得ナイト思ヒマス、尙ホ此四十九條中ニハ「別ニ定ムル所ノ規定ニ依リ」ト云フ一句ヲ加ヘテアリマス、是ハ勅令ノ範圍タル所ノ貴衆兩院議員ノ歲費及支給規則ニ讓ッテ、例ヘバ只今マデハ吾ニニ乘車券ヲ交付サレルト共ニ、一方旅費ノ中ノ汽車賃ヲ矢張支給サレテ居リマス、是ハ行政整理ノ折柄デモアルカラシテ、此點ハ吾ニトシテ考ヘナケレバナラヌ、一方ニ乘車券ヲ貰ッテ居ル以上ハ、一方ノ汽車賃ト云フコトニ付テハ遠慮シナケレバナラヌ、辭退シナケレバナラヌ、是レ私ガ提案者ノ一人トシテ、此點ダケハ尙ホ明ニシテ置キタイト思フノデアリマス、故ニ勅令ノ範圍ニ於テ政府ハ是等ノ點ヲ別ニ定メテ、吾ニニ旅費ノ二重拂ト云フコトニ付テハ制限ヲ加ヘテ宜シイ、尙ホ其他ノ條件ニ付キマシテハ現行ノ通リ、只今吾ニガ得テ居ル權利ノ程度ニ於テ乘車券ヲ發行シテ貰ヒタイ、尙ホ一言附加ヘテ置キタイコトハ、今日ノ狀勢、特ニ此提案者及贊成者ハ殆ド各派ヲ網羅シ、殊ニ從來兎角ノ御意見ノアッタ實業同志會ノ諸君モ之ニ御署名ニナッテ居リマス、實業同志會モ今ハ交涉團體トシテハ當議場ニ於テ一團ヲ成シテ居リマセヌケレドモ、併シ苟モ之ニ賢明ナル武藤山治君アリ、主義政綱ヲ揭ゲテ政治團體トシテ存スル以上ハ、此團體ノ方ニノ御署名ニナルモノニ對シテハ、其頭領トシテ矢張之ニ潔ク御贊成ニナルモノト私ハ信ジテ居リマス、武藤君果シテ如何ナル考ヲ持ッテ居ラレマスカ伺ヒタイノデアリマス、尙ホ今一言政府ガ果シテ之ニ同意スルヤ否ヤ、私ハ政府ハ俄ニ之ニ同意セラレマイト思フ、併ナガラ兩院ノ權能ニ依テ貴衆兩院ヲ通過シタ以上ハ、サウシテ樞密院ニ御諮詢セラレ、樞密院デ無事ニ之ヲ通過サレタ以上ハ、政府ト雖モ之ニ善處スルニ吝ナルマイト思フ、願クハ貴衆兩院ノ諸君、私ハ本院ト言ハズ、貴族

レタノミデ、其後一度モ改正ガナイカラシテ、私ハ之ヲ増額スルノ案ヲ附加ヘテ置イタノデアリマス、然ルニ當時作間耕逸君ヨリ即決否決ノ動議ヲ出サレマシテ、其中ニ斯ウ云フコトヲ仰セラレテ居ルノデアリマス、「殊ニ議員ノ手當ノ増加ニ至リマシテハ、今日適當ノ時期デハアリマセヌ、政費ノ節減ヲ旨トスベキ折柄遠慮スベキヲ至當ナリト信ジマス」ト仰セラレテ、即決否決ヲサレタノデアリマス、此同樣ノ意味、同樣ノ遠慮ハ、私ハ無賃乘車券ニ向ッテ吾ミ議員タル者ハ加ヘナケレバナラヌモノデハナイカト斯ウ思フノデアリマス、故ニ私ハ此點ニ付テ提出者ニ御說明ヲ御願スル次第デアリマス、更ニ私ガ提出者ノ御考慮ヲ願ヒタイノハ、今日無賃乘車券ヲ希望シテ居ルノハ、民間ニ於キマシテモ各方面ニ於テ其運動ガアリマシテ、先頃癈兵ガ大會ヲ催シタ時ニ、癈兵ニハ宜シク無賃乘車券ヲ給與セラレンコトヲ望ムト云フ決議ヲシテ居リマス、故ニ今日ノ如キ世ノ中ニ於キマシテハ、吾ミ議員タル者ハ只今御說明サレタ如ク、當然無賃乘車券ヲ受ケル權利ガアリ理由ガアルト致シマシテモ、私ハ世ノ中ノ爲ニ之ヲ遠慮シテ置クト云フコトノ非常ニ效果ガアルト云フコトヲ御伺シタイノデアリマス、最後ニ私ガ提出者ニ御伺ヲシタイノハ、若シ本案ガ當議會ヲ通過シテ貴族院ヘ參リマシタトキニ、貴族院デ否決サレタトキニ、私ハ衆議院ト云フモノガ非常ニ苦シイ立場ニ至リハセヌカト思フ、又貴族院ニ於テ之ヲ可決サレマシタ場合ニ於テハ、吾ミハ貴族院ノ特權ヲ成ベク制シタイト云フコトヲ考ヘテ居リマスノニ、貴族院ニ向ッテ更ニ特權ヲ加ヘル行動ヲ衆議院自ラ爲スモノデハナイカト思フノデアリマス、是等ノ點ニ付テドウカ提出者ノ御說明ヲ私ハ願フノデアリマス

平野光雄君ノ應答

私ノ先程ノ提案ノ理由ニ御贊成デアリカラ延期シヤウト云フ御贊成ナラバ、特ニ私ガ先程申述ベタ通リ、議員ノ既ニ面目ノ爲ニ是ハ今日政府ニ要求シテ置イタガ宜イ、尙ホ行政整理ノ將來ノ爲ニ、今日議院法ヲ改正シテモ宜イト申スノデアリマス、故ニ今日ハ延期、否、ト云フコトヨリモ、吾ミノ面目上當然ノ事ト御承知ヲ願ヒタイ、ソレカラ第二ノ貴族院ノ方デ否決シタラドウカト云フコトヲ御セラレタ、苟モ衆議院ガ全院一致ヲ以テ通過シタルモノヲ、之ヲ貴族院ガ無視スルナラバ、吾ミハ猛然トシテ進ムノデアリマス、サウ云フ虞ハ萬無カラウト思フ、又之ヲヤッタカラト云ッテ別ニ貴族院ニ特權ヲ附與スルト云フコトハナイ、事理明デアリマス、是ダケ申上ゲテ置キマス

右終ルヤ田淵豊吉君ハ左ノ如ク贊成ノ演說ヲ爲ス

提出者ハ本案ヲ形式上大變重要ナルモノト言ハレタ、形式上ハ大變重要カ知ラヌガ、其内容ニ於テハ大シテ重要デナイ、大シタモノデナイ、第一私ハ武藤君ト少シ考ガ違ッテ居ル、諸君ト考ハドウカ知ラヌケレドモ、歸結ヲ同ウスル、私ハ鐵道ノ事ナンカ能ク知リマセヌガ、私モ議員トシテノ意見ヲ述ベテ見タイト思ヒマス、ソレデ贊成致シタイト思ヒマス、先ヅ此理論ト實際ト、理論ト云ッテモ無論十分ニ知ッテ居ル譯デモゴザイマセヌケレドモ、先ヅ理論的ト實際的ニ分ケマシテ述ベテ見タイト思フ、私ハ此國家ガ非常ニ進ミマスレバ、或ハ鐵道ノ賃銀ノヤウナモノハ道路ト同ジヤウニ支拂ハナクテモ宜イノデアリマス、又無賃デ——移動道路デアリマスカラ道路ヲ使用スルガ如ク鐵道モ使用シテモ宜シイ、交通政策カラ云ッテモ鐵道ノ乘車無償主義——無賃主義ト云フノモ書イテ居ル位デアル、所ガサウデアルト云フト、山ノ方ノ者モ停車場近クノ者モ同ジニ乘ラナイカラ不公平ニ陷ル、ソレデハ迚モ立行カヌカラ乘車賃ヲ取ッテ居ルノデアル、ソレデ十九世紀マデハ英吉利ハ道路稅ヲ取ッテ居ッタ所モアッタ、大ク居ッタ、近年モ獨逸ヤ、墺太利ニ橋梁料ヲ取ッテ居ッタ體、今ハ取ッテ居ラヌガ、ソレハ何億圓モ金ノ掛ッタモノヲ只デ使ッテ居ルノハドウ云フ譯デアル、詰リ今ハ道路ナドハ取ラズニ鐵道ダケヲ取ッテ居ルノハ、鐵道ヲ造ルニハ澤山ノ金ガ掛ル、其澤山ノ金ノ掛ッタモノニ只乘ラウト云フノハ宜シクナイ、只乘セナイノハ勿論ダ、ソコデ諸君、國家的活動カラ私設會社ノ航路ニ補助ヲ何故與ヘルカ、新聞記者、通信記者ニハ「パッス」ヲ與ヘテ只乘

セテ居ル、新聞、通信記者ハ一面カラ云ヘバ私的經濟ノ活動デハナイカ、然ルニ之ニ何故與ヘタカ今デハ電信、電話料デモ半額トカ、何カ知ラヌガ便宜ヲ與ヘルノハドウ云フ譯カ、是ハ一般公衆ノ爲ニ便利デアルカラダト云フ、理由カラデアラウ、總理大臣ニハ金ヲ澤山與ヘテ、勞働者ニハ何故一圓カ二圓シカ與ヘナイカ、何故軍艦或ハ大砲ヲ澤山造ルカ、是ハ日本國家活動ノ現在ノ生活ニ必要ナル所カラ必要デアルカラダ、國家ト云フモノハ武藤君ガ言フヤウニ個人主義デハイカナイヤウニナッテ來タンデアル、ソレハ喜ブベキ事カドウカ知ラヌケレドモ——大局カラ論ズレバドウカ知ラヌケレドモ——段々サウ云フヤウニ行カナケレバ、此分業ノ世ノ中ナンカ立行カヌト云フコトニナル、殊ニ此立法府ニ活動スル議員ハ勿論國家ノ立法ノ源泉デアル、ソレカラ政治ガ出テ來ルノデアル、然ルニ之ニ對シテ最モ有效ニ、最モ敏速ニ、最モ便宜ニ之ヲ移動セシメテ、惡イ事ヲ止メシメ、善キ事ヲナサシムルコトヲ要求スルト云フ所ノ働ヲスルト云フコトハ、日本帝國ノ大ナル務デナケレバナラヌ、又私ハソレヲ固ク信ジテ居ル、サウ云フ意味カラシテ警察官ニモ與ヘタラ宜カラウ、然ルニ之ヲ與ヘナイノハドウ云フ譯デアル、私經濟的立場カラ見テ活動スル、公的ノ經濟カラ見、又國家組織カラ見タナラバ斯ウ云フコトハ私ガ言ハナクテモ分ッテ居ルダラウト思フ、ソレカラ第二ニ私ハ理論的ニ——半分ハ理論的ニ、半分ハ實際的ノ問題デアルガ、第一ニ聽キタイノハ提案者ガ言ウタ優待退トカ、特權デアルトカ云フ文字デアル、是ガ間違ヤシナイカ、前ニハ優待デアッタカ知ラヌケレドモ、吾々ハ餘リ優待サレルヤウナ身分デモナイガ、優待サレタトテ惡イト云フ譯デハナイケレドモ——昨年ノ夏ニ私ガ國ニ居リマシタ時ニ、早ク取リニ來イ、鐵道大臣ノ寄贈ニ係ル「パス」ト書イテ居ッタ、是デ不思議ニ思ヒマシタ、鐵道ニ議員ガ乘ルノハ吾々ノ權利ダト思ッテ居ッタ、所ガ寄贈ニ係ル御情デアルト云フコトガ分ッタノデアル、之ヲ見テ私ハ妙ナ事ダナト思ッテ居ッタ所ニ、モウ「パス」ハヤラヌト云フコトニソレカラ後決メラレマシタ、ドウモ私ハ優待ト云フ文字ガ氣ニ食ハヌ、斯ウ云フコトハ面白クナイ、ソレカラ特權ト云フコトデアル、此意味ニハ解釋ガ一ツモ二ツモアルダラウト思フ、私ハ此特權ト云フコトヲ使フヨリモ、寧ロ職務ヲ遂行スルニ便利ナルガ爲ニ之ヲ與ヘルト云フケレドモ、新聞通信記者ハ一面カラ云ヘバ私的經濟ノ活動デハナイカ、然ルニ何故與ヘタカ今デハ電信、電話料デモ半額トカ、何カ知ラヌガ便宜ヲ與ヘルノハドウ云フ譯カ、是ハ一般公衆ノ爲ニ便利デアルカラダト云フ、理由カラデアラウ、總理大臣ニハ金ヲ澤山與ヘテ、勞働者ニハ何故一圓カ二圓シカ與ヘナイカ、何故軍艦或ハ大砲ヲ澤山造ルカ、是ハ日本國家活動ノ現在ノ生活ニ必要ナル所カラ必要デアルカラダ、國家ト云フモノハ武藤君ガ言フヤウニ個人主義デハイカナイヤウニナッテ來タンデアル、ソレハ喜ブベキ事カドウカ知ラヌケレドモ——段々サウ云フヤウニ行カナケレバ、此分業ノ世ノ中ナンカ立行カヌト云フコトニナル、殊ニ此立法府ニ活動スル議員ハ勿論國家ノ立法ノ源泉デアル、ソレカラ政治ガ出テ來ルノデアル、然ルニ之ニ對シテ最モ有效ニ、最モ敏速ニ、最モ便宜ニ之ヲ移動セシメテ、惡イ事ヲ止メシメ、善キ事ヲナサシムルコトヲ要求スルト云フ所ノ働ヲスルト云フコトハ、日本帝國ノ大ナル務デナケレバナラヌ、又私ハソレヲ固ク信ジテ居ル、サウ云フ意味カラシテ警察官ニモ與ヘタラ宜カラウ、然ルニ之ヲ與ヘナイノハドウ云フ譯デアル、私經濟的立場カラ見、又國家組織カラ見タナラバ斯ウ云フコトハ私ガ言ハナクテモ分ッテ居ルダラウト思フ、ソレカラ第二ニ私ハ理論的ニ——半分ハ理論的ニ、半分ハ實際的ノ問題デアルガ、第一ニ聽キタイノハ提案者ガ言ウタ優待退トカ、特權デアルトカ云フ文字デアル、是ガ間違ヤシナイカ、前ニハ優待デアッタカ知ラヌケレドモ、吾々ハ餘リ優待サレルヤウナ身分デモナイガ、優待サレタトテ惡イト云フ譯デハナイケレドモ——昨年ノ夏ニ私ガ國ニ居リマシタ時ニ、早ク取リニ來イ、鐵道大臣ノ寄贈ニ係ル「パス」ト書イテ居ッタ、是デ不思議ニ思ヒマシタ、鐵道ニ議員ガ乘ルノハ吾々ノ權利ダト思ッテ居ッタ、所ガ寄贈ニ係ル御情デアルト云フコトガ分ッタノデアル、之ヲ見テ私ハ妙ナ事ダナト思ッテ居ッタ所ニ、モウ「パス」ハヤラヌト云フコトニソレカラ後決メラレマシタ、ドウモ私ハ優待ト云フ文字ガ氣ニ食ハヌ、斯ウ云フコトハ面白クナイ、ソレカラ特權ト云フコトデアル、此意味ニハ解釋ガ一ツモ二ツモアルダラウト思フ、私ハ此特權ト云フコトヲ使フヨリモ、寧ロ職務ヲ遂行スルニ便利ナ

ルガ爲ニ之ヲ與ヘルト言ッタ方ガ宜イト思フ、ソコニ二ツノ議論ガアル、能ク新聞デ攻擊シテ居ル、是ハ諸君怒ッチヤイケヌ、今ノ議員ニハ碌ナ議員ハナイ、斯ウ云フヤウナ議員ニ與ヘレバ惡イ事ヲスルバカリデアル、チットモ爲ニナラヌ、唯威張腐ッテ居ルト、斯ウ云フノデアル、ソレハ良イ議員ヲ選ビ出スノガ國民ノ大ナル義務デアル、良イ議員ヲ出セバ宜イノデアル、善イ議員惡イ議員トハ「パス」ニ何等ノ關係ガナイデヤナイカト云フコトニナル、又「デモクラシー」民本主義トノ議員ノ「パス」デアル、此所ハ一寸ハッキリ分ラヌケレドモ、玆ニ一ツノ「デエラシー」即チ嫉妬ガ含ム、同ジ國民デアリナガラ、議員ハ旅費ヲ貰ヒ、且ツ一等ノ汽車ニ只デ乘ッテ居ル、然ルニ吾々ハ三等ニ乘ラナケレバナラヌト云フコトデハ不公平デアル、サウスルト國民ノ間ニハ何等カ特權アル者ガアッテ癪ニ障ルト云フコトニナル、同ジ辯護士デアリナガラ、片方ハ「パス」ヲ振廻シテ只乘ヲシタ上ニ、旅費マデ取ッテ居ル、是ハ怪シカラヌト云フコトガアル、玆ニ一ツノ「デエラシー」ガアッテ、議員ダカラヤルト云フコトモ「デモクラシー」ニハ反スルノデハナイカト云フコトニナル、私ハダ、一寸言フト女的ノ考カラ見レバソレハ起ルケレドモ、眞ニ國家ニ所謂身命ヲ賭シテ働イテ居ル所ノ議員ガ、或ハ一等、二等——本線デハ一等デアルガ、支線ヘ行クト二等ニ乘ッテ居ル、ソレデ幾ラ敏活ニ働イタ所ガ、今日ノ日本ニ於テハマダ其所マデ行ッテ居ナイト思フ、又サウシナイ方ガ適當デアルカト思フ、色々ノ點カラ見テ議員ノ此時間ト云フモノハ非常ニ大切デアル、故ニ切符ヲ買ハヌノダカラ早ク行ケル、危ナイ時ニ逃ゲルニモ都合ガ宜イ、何處ヘデモ下車スルコトガ出來ル、自由自在ニ活動セシムル方ガドレダケ得デアルカ分ラヌ、若シ議員ガ惡ケレバソレハ各自ノ考ヲ以テ良イ代表者ヲ擧ゲル、サウシテ何處ヘデモ行ケル便宜ヲ與ヘ、善イ事ヲサセルヤウニ鞭韃スルト云フコトハ、即チ「デモクラシー」デ、決シテ之ニ反對スベキモノデナイ、贊成デアルト云フコトヲ固ク信ズルモノデアル、然ラバ實際ニハドウカト云フ問題ニナッテ來ル、實際問題モ相當ニ必要デアル、私ハソレヲ一ッ逃ベタイ、ソレハ一人ニ付テ——私ノ一寸頭ノ計算デゴザイマスケレドモ、一人ニ付テ一箇年平均約二三百圓デアルト思フ、サウシテ貴衆兩院デ約一千名ト見マスレバ——是ガ增減モアリマセウケレドモ、先ヅ一千名ト見マス、サウスレバ一箇年ニ三十萬圓ヲ出ナイカモ知レ

ヌト思フ、鐵道省デ之ヲ取上ゲタ所デ、議員ノ中ニハ乘ル者モアリ乘ラヌ者モアルカラ、半額ノ十五萬圓ノ收入シカナイ、這入ラナイト思フ、又「パス」ヲ持ッテ居ル爲ニ寢臺モ買ヒ、食堂ニモ入ル、辨當モ鐵道デ賣出シテ居ルト云フコトモアル、故ニ鐵道ノ收入ガ減ルト云フコトハ僅ニ十五萬圓カ二十萬圓許リニ過ギナイカト思フ——私ハ思フ、餘リ大シテ減ルマイト思フ、ソコデ幹線ダケハ一等ダガ、他ノ支線ハ皆二等ヘ乘ッテ居ル、一等バカリデ惡ケレバ二等ニシテモ宜シイノデアル、今日ハサウ云フ必要モ無イカラ、一等ガ宜シイコトニナッテ居ル、ソレカラ鐵道部内ノ人ニ大分與ヘテ居ルト云フ非難モアッタノデアル、私モソレヲ知ッテ居ル、サウ云フヤウナ事モ統一的ニナッテ居ナイ、ソレカラ英國アタリハドウデアルカト云フコトヲ、三四年前デシタカ新聞デ見マスルト、國カラロンドンニ來タリ歸ッタリ何遍モスルト非常ニ金ガ多クナルカラ貰ヒタイ、ソレニハ細君ノ關係モアッタノデセウ、金ガ要ッテ叶ハヌト云フノデ、鐵道ノ乘車賃ヲ大分貰フコトニナリマシタ、又其上ニ或者ハ鐵道ノ停車場ト議院トヲ繋グ所ノ自動車代ヲ呉レト言ッタガ、是ハ否決サレタ、是ハ近年ノ事デアルガ、又上院議員ニハ與ヘヌガ下院議員ニハ歳費ヲ與ヘルコトニナッタノハ代議士ニ勞働者ノヤウナ人ガ出テ來タカラ、勞働者ノ議員ニハ金ガナイカラサウ云フ風ニシナケレバナラヌヤウニナッテ來タノデアリマス、獨逸ナドモ之ハ與ヘナカッタガ、今度ハ與ヘルヘルト云フ所ノ必要ガ生ジテ來タノト云フ話ヲ聽イタ、國有鐵道ニナッテ居ル、サウ云フヤウナ點ニ於テ英國デモ、獨逸デモ、餘程「デモクラシー」ノ國デアルカラ、サウ云フヤウニナッテ居ル狀態デアルカラ、必シモ日本ノ議員ガ乘車券ヲ取ッタカラト云ッテ、新聞ハ何ダカ引奪ルヤウナコトヲ云ッテ居ルガ、ソレハ間違デアルト思フ、サウシテ貧シキ議員ガ普選ト共ニ段々出テ來ルト思フ、吾々ハ貧シキ時ニハ十圓ノ金モ無イカラ、此間大阪デ一寸「パス」ヲ一ル、富裕ナ議員ハ一等ニ乘ルガ、吾々貧シキ議員ハ時ニハ三等ニ乘ラナケレバナラヌト云フヤウナ場合モ出來ルト考ヘル、故ニ加藤高明君トカ、若尾君トカ、武藤君ノヤウナ金持ハ、金モ澤山アルシ、從者モ伴レテ居リマセウカラ早ク乘レルダラウガ、必シモ金持バカリガ國家ニ貢獻スルノデハナイ、貧乏人ノ吾々デモ國家ニ貢獻スルコトガ出來ルノデアル、ソレデ歳費ハドウカト云フト三千圓シカ呉レナイ、歳費ヲモット增サナケレバナラヌト云フコトハ、私ノ選擧區ナドデハ皆賛成デアッテ、反對ハ少シモナイ、亞米利加ノ如キハ一萬二千圓モ貰ッテ居ルト云フコトデアルカラ、相當ニ食ヘテ行クガ、日本デハ歳費モ增サナイ、二十萬ヤ三十萬ノ金ヲ儉約シテ行政整理ダト言フガ、行政整理ト云フモノハソンナ小サナ所カラ來ルモノデハナイ、モット大局カラ來ナケレバナラヌ、仙石大臣ハ確ニ英斷デアル、帝政時代ノ露國ノ鐵道ノ收入ガ擧ラナイノハ無法ニ只乘ガ多カッタカラデアルサウデアル、滿鐵ノ如キモ私ガ行ッテ見ルト、旅順大連ノ間ノ一等客ハ只ダ、是等ハ宜クナイガ、仙石大臣ノ英斷ハ宜イ事ト思フガ、併ナガラ彼ハ英斷ガ過ギテ暴斷ニナッタノデアル、善イモノマデ斷切ッテシマフト言フコトハ宜シクナイ、諸君ハ仙石大臣カラ「パス」ヲ取ルノハ吐イタモノヲ又呑ムト云フノハ、惡イト云フ所カラ此法律案ヲ出シタモノデアラウト思フガ、其動議ハ私ハ尋ネマスケレドモ、此「パス」案ガ復活シタラバ、仙石鐵道大臣ハ與黨カラモ部分的不信任案ヲ突付ケラレタモノト私ハ認メルノデアリマス、私ハ是等ノ意味カラシテ、モット時代ガウント進ンデ、皆ガ同ジヤウニナッタナラバ、賃銀ハ拂ッテモ宜カラウ、又時代ガウント進ンダナラバ、鐵道無賃乘車デ何人モ只デ乘レルト云フヤウナ、極樂淨土ガ出來ルカ知ラヌケレドモ、今日ノ場合ニ於テハ、議員ニ「パス」ヲヤルト云フコトハ、國民ハ反對デハナイト私ハ固ク信ジテ居ル、軍艦一艘造レバ三千萬圓モ四千萬圓モ掛ル、三千萬圓アレバ年三十萬圓トシテ百年間モ議員ガ無賃乘車ガ出來ル、此大キナモノヲ時々作ッタリ沈メタリシテ居ル、軍艦一艘アレバ百年モ無賃乘車ガ出來ルノデアル、斯樣ニ理論カラ見、實際カラ考ヘテモ、此法律案ハ吾々ガネダルモノデモナイ、公明正大ニ吾々ハ日本國民ノ前ニ呼號シテ、決シテ差支ナイト思フノデアリマス、今後ハ或ハ五十年續クカ、百年續クカ分ラヌケレドモ、當分ノ間議員ニ「パス」ヲ與ヘルト云フコトハ、決シテ不當デナイト私ハ信ジテ居ルト云フコトヲ申シテ、此壇ヲ降ル者デアリマス

次ヲ本案ハ議長指名(十八名)ノ委員ニ付託スルニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二十七日委員

會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ卽日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月三日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長淺賀長兵衞君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

議院法中改正法律案ハ殆ド全員一致ノ署名ノ下ニ提案セラレタル案デアリマシテ、委員會ノ如キモ僅ニ一回ニシテ之ヲ終ッタノデアリマス、而シテ提案者ノ一人タル平野光雄君竝ニ委員各位ヨリ政府委員ニ對スル質問竝ニ其答辯ハ、全部委員會ノ速記錄ニ之ヲ讓リマシテ、其經過ノ報告ハ此所デ省キマス、討論ニ移リマシテ、一名ノ異議者モ無ク、本案、卽チ世ニ所謂「パス」案ハ全會一致ノ下ニ「パス」、卽チ通過致シマシタ、此段御報告致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通可決確定シ卽日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月十五日可決奏上シ三月三十一日法律三十二號ヲ以テ公布セラル

二〇 社寺現境內地無償下付ニ關スル法律案

第一條　社寺境內地ニシテ現ニ國有ニ屬スル現境內地ハ申請ニ依リ之ヲ其ノ社寺ニ下付スヘシ

第二條　本法ニ依ル下付ノ申請ハ大正十七年四月三十日迄ニ之ヲ主務大臣ニ差出スヘシ

第三條　此ノ申請ニ對スル處分ニ付不服アル者ハ其ノ指令ヲ受ケタル日ヨリ三月內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四條　第一條ニ依リ下付ヲ受ケタル者ハ其ノ境內地及立木竹ノ所有權ヲ取得ス

前項ニ依リ所有權ヲ取得シタル者ハ其ノ土地及立木竹ニ付第三者ノ現ニ有スル權利ヲ害スルコトヲ得ス

第五條　本法ニ依リ下付ヲ受ケタル境內地及立木竹ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ地上權抵當權若ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第六條　本法施行前行政處分又ハ裁判所ノ判決ヲ受ケタル者ト雖本法ニ依リ下付ノ申請ヲ爲スコトヲ妨ケス

附則

本法ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十四年二月二十五日安藤正純君外五名之ヲ提出ス三月五日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者(安藤正純君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

只今議題ニ供セラレテ居リマスル社寺現境內地無償下付ニ關スル法律案ニ付キマシテ、簡單ニ說明致シマス、神社寺院ノ境內地ト云フモノハ、昔ハ高僧明德ガ靈地ヲ相シマシテ之ヲ開拓シタモノカ、或ハ王侯豪族ガ信仰ニ依リマシテ城地ヲ寄附シタモノカ、若クハ神社寺院自ラ資金ヲ投ジテ開墾ヲシタモノカデアリマシテ、極メテ少數ノ外ハ本來神社若クハ寺院ノ所有デアリマ

ス、故ニ境内地ハ其寺院ノ住職個人ノ所有デナイト共ニ、又官有地デモナイノデアリマス、然ルニ往々ニシテ神社寺院ノ境内地ト、境内地以外ノ元ノ神社寺院ノ領地トヲ混淆致シマシテ、境内地ヲモ亦公領地ト看做シテ居ルコトガアリマスノハ、是ハ甚シキ誤謬デアリマス、此事ハ現ニ明治四十三年以後ノ行政裁判所ノ判決例ニ依テモ明ニ之ヲ證スルコトガ出來ルノデアリマス、然ルニ明治四年社寺領上地ノ制令ガアリマシテ、神社寺院ノ領地ト云フモノハ上地トナリマシタ、但シ是ハ境内地トハ何等ノ關係ガ無イノデアリマス、此上地ヲ命ゼラレタノハ至當ノ事ト存ズルノデアリマスルカラ、其後明治八年ニナリマシテ、今度ハ神社寺院ノ境内地ノ分割上地ノ命令ガアリマシタ、是ハ境内地ノ中デ不用ナ所ダケヲ區劃シテ、上地ヲセシメタ所ノ趣意ナノデアリマス、斯樣ナ譯デアリマスカラ此前後二回ノ上地命令ガアリマシテモ、神社寺院ノ境内地デナクテハナラナイニ拘ラズ明治初年ニ廢佛毀釋ガ行ハレマシテ、當時此ノ佛敎排撃ノ政治ノ方針ニ累セラレマシテ、寺院ガ非常ナ迫害ヲ被ッタ、悉ク其後寺院ト云フモノハ上地ヲ命ゼラレテ皆官有地ニナッテ居ルノデアリマス、併シ其後政府ハ此法律ノ適用ヲ誤ッテ居ルト云フコトヲ認メマシテ、政府自ラ是ガ救濟策ト致シマシテ、自分ノ費用デ開墾ヲスルト云フ確證ノアルモノニ限ッテ、無代デ下付スルト云フ達ヲ出シタノデアリマス、此結果自費デ開墾ヲシタリ、無代デ下渡シヲ受ケタ神社モアリマス、然ルニ又寺院モ多數アリマシテ、其神社ノ坪數ガ千六百八十餘萬坪ニナッテ居ルノデアリマス、然ルニ明治二十二年ニ會計法ガ實施セラレマスト共ニ、此自費開墾ノ確證アルモノハ無代デ下付スルト云フ所ノ達ガ自然廢止ノ狀況ニナリ、今日ニ及ンダノデアリマス、而シテ神社寺院トアリマスガ、是ハ寺院ノ方ガ無論非常ニ多イ、其寺院ノ方カラモ云ヒマスト現在全國ニ七萬ノ寺院ガアリマスガ、其中約五萬ノ寺院ハマダ下戻ニナッテ居ラナイノデアリマス、同ジ性質ノモノガ一方ハ私有地デアリ、一方ハ官有地ニナッテ今日殘ッテ居ルノハ、頗ル不公平デアリマスカラ、此不公平ノ地勢ヲ直スト共ニ、一面政府ガ常ニ唱ヘラレル所ノ、宗敎尊重ト云フ意味カラ致シマシテモ、今日廢頽ヲ致シテ其維持ノ困難ニナッテ居ル所ノ神社若クハ寺院ニ此官有地ヲ——當然下ゲベキ性質ノ官有地ヲ下付シテ、而シテ社會感化ノ本務ヲ盡サスルノガ當然デアルト存ズルノデアリマス、卽チ本案提出ノ趣意ハ此精神ニ基キマシテ、社寺ノ境内地ニシテ現ニ國有ニ屬スル現境内地ハ、申請ニ依テ之ヲ其社寺ニ下付スベシト斯ウ云フノガ此法案ノ精神デアリマス、附加ヘテ申上ゲテ置キマスガ、此法律案ハ頗ル簡明デアリマシテ、當然社寺ニ交付スベキモノデアリマスカラ、明治四十四年ニ貴衆兩院ニ請願ヲ致シタ際ニ、直ニ採擇トナッテ居リマス、爾來衆議院デハ法律案トシテ最近マデニ六回通過シテ居ルノデアリマス、唯衆議院デ通過致シマシタガ、不幸ナ事ニハ何時モ會期ガ無イ爲ニ貴族院ノ方ガ是ガ審議未了トナッテ今日ニ延ビテ居ルヤウナ次第デゴザイマスガ、大正十二年ノ通常議會ニ於キマシテ、衆議院ハ卽チ六回目ノ衆議院デ、此法律案ヲ可決シテ貴族院ニ送リマシテ、貴族院ハ委員會ニ於テ、委員長カラ既ニ此法律案ハ衆議院ヲ六回モ通過シテ居ル、政府モ何トカ考慮シタラドウカト云フ委員長カラ話ガアリマシタ、之ニ對シテ當時ノ政府委員モ其意ヲ諒トシテ、次ノ議會ニハ政府ニ於テ之ヲ提出スベシト云フヤウナ返答ガアッタ次第デアリマス、斯ノ如キ經過ヲ以テ年々議會ニ提出セラレ、而モ衆議院ヲ常ニ通過シテ居ルノデゴザイマスカラ、何卒愼重ニ御審議ノ上ニ此法案ノ可決セラレンコトヲ希望スル次第デアリマス

次テ本案ハ關直彥君外十六名提出震災被害地ノ營業稅免除ニ關スル法律案（一八）委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ三月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

（委員會報告書）

社寺現境内地無償下付ニ關スル法律案中左ノ通修正ス

第六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七條　本法ニ依リ下付ヲ受ケタル土地及本法施行前下戻ヲ受ケタル社寺ノ土地ヨリ生スル收

益ハ現ニ公用ニ供スルモノト雖凡テ其ノ社寺ニ歸屬ス

三月二十日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長小池仁郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

社寺現境内地無償下付ニ關スル法律案委員會ノ經過結果ヲ御報告申上グマス、委員會ハ昨日開會シテ、即日終了ヲ告ゲタノデアリマス、此法律案ハ屢本議院ノ問題トナリマシテ、其度毎ニ可決セラレタル案デアリマスカラ、提案者ノ趣旨辯明ヲ省略シテ、直ニ質問ニ移ッタノデアリマス、農商務省ノ政府委員、大藏省ノ政府委員ハ本案ノ趣旨ニハ贊成デアルガ、俄ニ同意シ難イ、御同意シ難イ理由ト致シマシテハ、社寺ノ財産管理ノ方法ガマダ出來テ居ラナイカラ、直ニ無償下付ヲスルコトハ出來ナイ、斯ウ云フヤウナ意見デゴザイマシタ、併ナガラ議員ノ質問ノ趣意ハ、此社寺ノ財産管理ノ方法ハソレ程ムヅカシイモノデハナイ、政府ノ位置トシテハ一擧手一投足ノ勞ヲ爲セバ、直ニ其管理法ノ如キモノハ出來ルデハナイカ、殊ニ此法ノ第五條ノ「本法ニ依リ下付ヲ受ケタル境内地及立木竹ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ地上權抵當若ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス」斯樣ニ制裁ガゴザイマスカラ、是デ宜イデハナイカト云フ問答ガアリマシタ、政府ハ宗教法ノ成立ヲ俟ッテ然ル後ニ其處分ヲシタイト云フヤウナ御意見デゴザイマシタ、質問應答ヲ終リ討論ニ入リマシテ、何等ノ討論モアリマセヌデシタガ、第六條ノ次ニ第七條ヲ追加スルト云フ動議ガ出テ成立ヲ致シマシタ、即チ第七條ニ「本法ニ依リ下付ヲ受ケタル社寺ノ土地ヨリ生スル收益ハ現ニ公用ニ供スルモノト雖凡テ其ノ社寺ニ歸屬ス」斯樣ナ修正動議ガ安藤正純君ヨリ追加提案サレマシテ、全會一致ヲ以テ此第七條ノ追加ヲ認メ、又第一條ヨリ第六條マデ、總テ原案ノ通リ可決確定致シマシタト、此段御報告ヲ申上ゲマス、何卒諸君ノ御贊成ヲ希望致シマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通修正議決ヲ爲シ卽日之ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ハ議決ヲ爲スニ至ラサリキ

二一　治安警察法中改正法律案

治安警察法中左ノ通改正ス

第五條第五號ヲ削リ第六號ヲ第五號ニ第七號ヲ第六號ニ改ム

右ハ十四年二月二十五日山口政二君外二名之ヲ提出ス三月十日本案ノ第一讀會ヲ開キ提出者（山口政二君）ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

只今議題トナッテ居リマスル治安警察法中改正法律案ニ付キマシテ、是ガ提案ノ趣旨ヲ辯明致シマス、提案ノ要旨ハ極メテ簡單デアリマス、治安警察法第五條第一項、卽チ政治上ノ結社ニ加入スルコトノ出來ナイ者ノ中カラ女子ヲ除キマシテ、女子ニ對シ政治結社加入ノ自由ヲ得セシメタイト云フノデアリマス、抑モ治安警察法中特ニ女子ニ關スル規定ノ改正法律案ハ、屢本院ニ提出セラレタノデアリマス、卽チ同法第五條第二項中、女子ノ部ヲ削リマシテ、女子ニ對シテ公衆ヲ會同スル政談集合ニ會同シ、若クハ其發起人タルコトヲ得セシメタイト云フ趣旨ノ改正案ハ、遠ク第二十三議會ニ提案セラレ、而モ本院ヲ通過致シテ居ルノデアリマス、其後同趣旨ノ改正案ハ、第四十五議會ニ於キマシテ遂ニ兩院ヲ通過シタノデアリマス、試ニ第四十四議會ノ同案特別委員長ノ報告ノ一節ヲ朗讀致シテ見マスルト云フト、「治安警察法第五條第二項ノ一部ヲ削除シテ、女子ヲシテ政談集會ニ會同シ、若クハ其發起人タルコトヲ得セシムルハ、要スルニ今日女子ノ教育ガ大ニ進歩發達ヲ致シマシテ、男子ト敢テ大ナル差異ガナイヤウニ至ッタノデアル、隨テ又女子ニ對シテモ政治上ノ諒解ヲ得セシメルト云フコトハ立憲治下ノ國民トシテ必要デアル、

斯樣ナ趣旨カラシテ此「女子及」ト云フ文字ヲ削ッテ、女子ニ對シテ開放ヲシヤウト云フ趣旨デアルノデアリマス、卽チ此解禁ト申シマスノハ、女子ニ對シマシテ政治的ノ一進歩ナリト云フコトヲ明ニ申スコトガ出來ルノデゴザイマシテ、玆テ是ガ女子ニ對シテ參政權ヲ認メマスル所ノ出發點ト相成ルモノデアリマス」ト斯ウ言ウテ居ルノデアリマス、而シテ本案ト同一内容ヲ有スル議案ノ本院ニ初メテ出マシタノハ第四十二議會ト心得テ居リマス、爾來舊國民黨ノ諸君ハ、殆ド毎議會ニ同一内容ノ議案ヲ本院ニ提出シテ居ルノデアリマスルガ、不幸ニシテ未ダ一回モ通過致サナカッタノデアリマス、其理由トスル所ハ只今引用シマシタ、第四十四議會ノ委員長ノ報告ニ依テ見マスルト、大略斯ウ云フコトニナッテ居リマス、卽チ「成程女子ノ教育ハ今日大ニ進歩發達ヲシテ居ルニハ相違ナイ、併ナガラ未ダ男子ト同一ノ取扱ヲ受クルマデニ進歩シテ居ルト認メルコトガ出來ナイ、加之女子ニ對シテハ女子ノ本分ガソレ〳〵有ルノデアル、良妻賢母ト致シマシテ、家事ヲ料理シテ男子ヲシテ後顧ノ憂ナカラシムベキ天職ト云フモノガ女子ニハ有ルノデアリマス、政治上ニ狂奔スルト云フコトハ國家ノ幸福デモナイ、又一家ノ利益ト云フコトモ出來ナイノデアル、隨テ女子ガ今日政治上ノ結社ニ加入スルコトハマダ其時機デナカラウ」ト言ウテ居ルノデアリマス、併ナガラ諸君、本案提案ノ趣旨ハ女子ヲシテ政治上男子ト角逐セシメルトカ、又ハ轡ヲ竝ベテ男子ト狂奔セシムルト云フヤウナモノデハアリマセヌ、苟モ政治卽チ國民生活デアル以上、議會ノ豫算案デアルトカ、又法律案デアルトカハ、總テ是レ國民ノ竈ト密接ナル關係ガアルノデアリマスカラ、眞ニ賢母タリ良妻タルガ爲ニハ、徒ニ夫ヲ天ト仰ギ、返スミミモ背クベカラズト云フダケデハ宜シクナイ、宜シク進ンデ男子ト共ニ政治上ノ理解ヲ十分ニ持ツト云フコトデナケレバナラヌト信ジマス、尙ホ之ヲ女子本來ノ立場カラ考ヘテ見マシテモ、或ハ女子ノ社會上ノ地位ヲ高メルトカ、法律制度上ノ地位ヲ改善スルトカ、或ハ又女子特有ノ社會問題、別シテ女子ノ勞働問題、職業問題ヲ解決スルトカ、一轉シテ女子教育問題ヲ攻究スル等、女子自カラ眞劍ニ考ヘナケレバナラヌ幾多ノ問題ガ山積シテ居ルノデアリマス、固ヨリ是等ノ問題ハ國家ノ施設ト男子ノ協力トニ依テ解決スベキコトハ申スマデモナイノデアリマスケレドモ、併ナガラ同時ニ女子自ラノ政治的自覺ニ俟ッベキモノ甚ダ多シト信ズルノデアリマスカラ、女子ニ對シテ政治結社加入ノ自由ヲ認メシムルト云フコトハ、女子ヲシテ濫ニ空理政談ニ耽ラシメルトカ、或ハ家事ヲ忘レテ政界ニ狂奔セシムルト云フ爲デハナクテ、寧ロ家庭ニ入ッテハ眞ニ賢母タリ良妻タルガ爲ニ、又社會ニ出マシテハ堅實ナ教養アル婦人タル爲ニ、專ラ政治上ノ理解ヲ得セシメヤウト云フ趣旨デアリマス、今ヤ國民ノ多年望ンデ止マナカッタ普通選擧法ノ實現モ近ク眼ノ前ニ在リマス、又既ニ申上ゲマシタ通リ女子ニ對スル第一ノ門戸ハ、第四十五議會ニ於テ開カレタノデアリマス、此時ニ方リマシテ女子ニ對シ、右樣ノ趣旨ヲ以テマシテ第二ノ門戸ヲ解放スルト云フコトハ、恐ラクハ賢明ナル諸君ノ御贊成ヲ吝マレザル所デアリマセウ、願クハ諸君愼重御審議ヲ賜ハリマシテ、本案ヲシテ是非トモ成立セシメマスヤウ御協贊ヲ仰グ次第デアリマス

次テ本案ハ議長指名(九名)ノ委員ニ付託スルニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ翌十一日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スベキモノト決シ三月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

三月二十五日本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ理事吉田眞策君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

治安警察法中改正ノ委員會ハ主トシテ二回ニ亙リマシテ、審議ヲ致シタノデアリマス、最初ニ於キマシテ議案提出者ノ說明ヲ求メマシテ、次デ之ニ對シテ質問ガアッタノデアリマス、此質問ノ要旨ハ尙ホ早イデハナイカト云フ議論ガアッタノデアリマスガ、然レドモ提出者ニ於キマシテハ、既ニ參政權ヲ與ヘヨト云フ叫ビノアル際デアルガ故ニ、女子ノ能力モ亦非常ニ發達シタル今日デアルガ故ニ、是ガ前提タル女子ノ結社ヲ許ス位ハ當然デアラネバナラヌト云フ御答デアッタ